CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

GA036-037n0037

金山龍游禪寺志略

清 釋行海撰

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 卷首
    - 序
    - 目錄
    - 山圖
    - 緣起
  - 形勝
    - 序
    - 金山
    - 浮玉山
    - 獲符山
    - 伏牛山
    - 龍游山
    - 石簰山
    - 妙高峰
    - 金鰲峰
    - 日照巖
    - 妙空巖
    - 裴公洞
    - 郭璞墓
    - 善財石
    - 磐陀石
    - 臥龍石
    - 龍洞
    - 龍井
    - 覺岸
    - 信磯
    - 竹逕
    - 龍門
    - 鶻嶺
  - 建置
    - 序
    - 澤心寺

- 龍游寺
- 大雄寶殿
- 天王殿
- 祖師殿
- 伽藍殿
- 大悲殿
- 彌勒殿
- 大徹堂
- 三禁堂
- 永安堂
- 泳思堂
- 淨居堂
- 玉鑑堂
- 浮金堂
- 悟心堂
- 至遊堂
- 雄跨堂
- 觀瀾堂
- 海月堂
- 黃鶴樓
- 海嶽樓
- 華藏樓
- 待月樓
- 水陸樓
- 善財樓
- 涵虛樓
- 枕江樓
- 聽江樓
- 散玉樓
- 拱都樓
- 寶光樓
- 漱玉樓
- 毘盧閣
- 藏經閣
- 江天閣
- 聖玉閣
- 慈雲閣
- 化城閣

- 無邊閣
- 奎文閣
- 萬壽閣
- 西來閣
- 環虛閣
- 司祿閣
- 關聖閣
- 三聖閣
- 真武閣
- 回瀾亭
- 觀瀾亭
- 吞海亭
- 皛雲亭
- 妙高臺
- 楞伽臺
- 湧翠軒
- 聽潮軒
- 養素軒
- 涵清軒
- 鎮濤軒
- 雪月軒
- 笑傲軒
- 龍王廟
- 薦慈塔
- 方丈
- 庫司
- 香積厨
- 一漚菴
- 信菴
- 淨業菴
- 北菴
- 玉帶橋
- 永安橋
- 三忠祠

- 祖堂法系
  - 祖堂法系淵源叙
  - 祖堂歷代淵源法次位
  - 東土初祖達磨大師

- 唐南嶽下三世百丈懷海禪師
- 唐大鑑下第三世開山廣陵靈坦禪師
- 宋瑞新禪師
- 宋達觀頴禪師
- 宋佛印了元禪師
- 宋懷賢圓通禪師
- 宋寶覺禪師
- 宋善寧印禪師
- 宋法慧禪師
- 宋慧滿禪師
- 宋佛日禪師
- 宋惟仲禪師
- 宋枯木成禪師
- 宋金山堅禪師
- 宋曉常禪師
- 宋金山一禪師
- 宋圜悟勤禪師
- 宋了心禪師
- 宋退菴道奇禪師
- 宋蓬菴自聞永聰禪師
- 宋掩室善開禪師
- 宋虛舟普度禪師
- 元訥堂辯禪師
- 元性原慧朗禪師
- 元金山心海禪師
- 元惠明禪師
- 明慈舟濟禪師
- 明箬菴問禪師
- 明頂目徹禪師
- 明問石乘禪師
- 清鐵舟海禪師
- 清天笠珍禪師
- 清香林淨禪師
- 清法乳樂禪師
- 清河達杰禪師
- 清量聞銓禪師

- 記
  - 重建水陸堂記

        - 重建佛殿記
        - 萬壽閣記
        - 勅賜大藏經記
        - 妙空岩記
        - 金山遊記
        - 遊金山記
        - 金山遊記
        - 金焦兩山記
        - 遊金焦兩山記
        - 遊金焦兩山記
        - 留雲亭記
        - 重建靈觀閣記
        - 重建觀音殿記
        - 重濬龍池記
        - 宋韓蘄王廟記
        - 康熙皇上登覽金山集
    - 紀遊
    - 碑
        - 重建吞海亭碑記
        - 建水陸大會碑
        - 復建水陸大會碑
    - 賦
        - 金山賦
        - 金山賦
        - 泉石生涯賦
    - 勅書賜田附
        - 本山歷代相傳勅書
        - 本山所賜田地舊額
        - 書京口三山存恤碑後
        - 書京口三山存恤碑後
        - 附存恤下帖
    - 高僧
        - 目錄
        - 梁
            - 寶誌
            - 僧祐
        - 唐
            - 頭陀

- 宋
  - 道月
  - 幼聰
- 元
  - 長溪
  - 元叟
  - 月江
- 明
  - 旅泊
  - 縉雲
  - 空滿
  - 若氷

- 題贈
  - 序
  - 題贈
- 記蹟
  - 水陸齋
  - 金山水陸儀文
  - 異獸
  - 輿間奇絕處
  - 金山之勝
  - 楊子橋
  - 澤心寺
  - 玉帶換衲衣
  - 薦慈塔
  - 東坡集
    - 其一
    - 其二
    - 其三
    - 其四
  - 頭陀岩
  - 吞海亭
  - 塔上鈴語
  - 楞伽室
  - 筆端三昧
  - 詩讖
  - 中泠泉
  - 鄭夷甫

- 東坡遊金山
- 題陳圖南小像
- 龍游寺
- 萬壽閣
- 江中要衝
- 金山灘
- 一佛萬佛
- 日記
  - 其一
  - 其二
  - 其三
  - 其四
  - 其五
  - 其六
- 浮玉山
- 郭璞墓
- 溥無際
- 吞海中泠二亭
- 石頭城下水
- 梅聖俞
- 王陽明
- 別峰禪師
- 留雲亭
- 顗叔在後
- 山寺建置
- 順濟龍王
- 名賢題咏
- 中泠井

◦ 記異

- 靈坦禪師
- 夜宿采石
- 妙高臺
- 五色霞光
- 僧安議
- 僧雪堂
- 黑蛇
- 金山水銀
- 金山塔放光

- 神龍呵護
- 異人
- 念佛除疾
- 鰻愈勞疾
- 僧弘霪
- 僧無碍
- 僧與黿
- 金山伽藍
- 龍神巡山
- 觀音金身
- 青臉大人
- 僧江樓
- 前馬頭二僧
- 異獸
- 山頂將軍
- 伽藍使者
- 箬菴和尚
- 寶塔放光
- 鬼神朝山
- 關聖帝

◦ 彙紀

- 重建大殿上梁文
- 祭順濟廟文
- 與寶覺禪師書
- 寶覺禪師真贊
- 與佛印禪師書
- 與佛印禪師離黃州
- 復金山雪仞首座
- 復金山鐵舟海監寺
- 與鐵舟禪師
- 復鐵公方丈
- 與鐵舟禪師
- 又
- 復鐵舟禪師書
- 又
- 再與鐵舟和尚書
- 又
- 與鐵舟法兄和尚

- 天目玉琳老人手復鐵公老侄覽
- 與鐵舟法兄和尚
- 與金山鐵公禪師書
- 與鐵舟法兄和尚
- 請鐵舟和尚書
- 募修大徹堂疏
- 與鐵舟法兄和尚
- 寄鐵舟和尚啟
- 寄謝鐵舟和尚

◦ 詞
- 登金山次蘇韻作大江東去詞
- 一漚菴偈
- 贈淨談說
- 道瀾大師半身喜照
- 金山半字歌
- 戊午九月渡江懷古
- 感懷次韻
- 奉答趙天羽護法金山遙江調寫懷原韻

◦ 序
- 泉石生涯詩序
- 泉石生涯說
- 泉石生涯解
- 泉石生涯銘
- 泉石生涯辨
- 贈文海瀾禪師還金山序
- 送文海禪師住金山序
- 金山志序
- 金山志後序
- 金山新志後序

◦ 僧詩
- 重遊金山
- 次唐韻
- 金山
- 石[簿-尃+卑]山
- 前題
- 金山
- 金山
- 金山

- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 登妙高臺
- 次韻
- 喜准疾缺漫作
- 寄贈金山霆都綱
- 金鰲峰
- 善財石
- 烟雨奇觀亭
- 金山
- 金山
- 金山
- 題慈雲閣
- 金山
- 金山
- 寄題金山
- 寄贈金山賢大愚
- 贈欽上人號野閑
- 次王世賞韻
- 金山
  - 其一
  - 其二
- 金山
- 次王翰林韻
- 次韻楊黃門宿山
- 登金山
- 金山
- 金山
- 登金山
- 金山
- 酬杜湘草有聲閣坐雨之作
- 登海岳樓次戴士章韻

- 次唐韻
- 月夜登涵虛樓聞笛
- 送鐵舟和尚住金山
- 贈金山鐵舟和尚
  - 其一
  - 其二
- 金山
- 壬寅春寄懷金山鐵舟法兄
- 金山
- 金山賦呈鐵舟法兄
- 呈鐵翁老法兄和尚
- 奉祝鐵舟和尚并正
- 和南澗老人韻
- 謝孔明府
- 山居
  - 其一
  - 其二
- 重建大徹堂
- 玉帶橋
- 開堂日擬宋端明學士韻
- 裴公洞
- 蘄王廟
- 金山
- 晚眺金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 金山
- 妙高峰
- 戊午冬日恭祝鐵翁法兄七旬

◦ 聯對
◦ 詠江唐句
◦ 選詩
- 小引
- 唐五言律詩
  - 金山

    - 送僧歸金山寺
    - 金山寺
    - 題金山寺
    - 金山詩
    - 題金山
    - 送僧歸金山寺
    - 題江心寺
    - 題金山寺
    - 憶萬歲樓望金山
    - 宿金山寺
- 唐七言絕句
    - 金山
    - 題金山僧房
    - 金山寺石堂
    - 望金山寺
- 宋五言古詩
    - 贈寶覺禪師
    - 金山寺
    - 送金山鄉僧
    - 暇日侍法曹叔父遊得往字
    - 遊金山寺作
    - 游金山
    - 無題
    - 化城閣集句
    - 寄佛印禪師妙高臺詩
    - 金山寺
    - 金山寺
    - 和遊金山
    - 遊金山分得微字
- 宋七言古詩
    - 金山
    - 金山
    - 金山行
    - 遊金山
    - 題金山妙高堂
    - 宿金山
    - 遊金山
    - 曉登金山

- 次梁必大金焦行
- 金山
- 遊金山
- 登金山
- 金山行次梁必大韻
- 次前韻

- 宋五言律詩
  - 登金山
  - 金山寺
  - 金山寺
  - 登金山
  - 登金山
  - 過金山
  - 金山
  - 金山
  - 登金山
  - 登金山

- 宋七言律詩
  - 金山
  - 金山懷古
  - 題金山
  - 金山夕望
  - 與荊公會宿
  - 會宿次平甫韻寄親友
  - 別寶覺圓通二禪師
  - 登金山
  - 遊金山
  - 金山述懷
  - 金山
  - 題金山
  - 金山
  - 同大覺遊金山寄介甫兄
  - 無題
  - 金山寺
  - 遊浮玉三首(　其一)
  - 贈寶覺禪師
  - 題金山寺
  - 平甫遊金山見寄次韻

- 登金山
- 金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 無題
- 無題
- 吞海亭
- 寄即休禪師
- 無題
- 送長溪禪師還金山

- 宋五言絕句
  - 金山
  - 善財石
- 宋七言絕句
  - 題金山
  - 題金山寺
    - 其一
    - 其二
    - 其三
  - 金山晚眺
  - 登金山
    - 其一
    - 其二
  - 登金山
  - 金山
  - 次韻荅寶覺禪師
  - 解玉帶鎮山門
    - 其一
    - 其二
  - 金山夢中作
  - 將遊金山寄元禪師
  - 元禪師見訪晝坐具而去戲作一絕調之
  - 金山書懷
  - 夜登金山
  - 金山晚眺
  - 贈金山寺僧
  - 贈金山石牛上人

- 元七言絕句
  - 金山
  - 晚過金山
  - 金山
  - 浮玉山
  - 題金山
  - 宿金山
- 明五言古詩
  - 宿金山聽潮軒
  - 遊金山
  - 登金山
  - 遊金山
  - 遊金山
  - 題妙空岩
  - 金山
  - 贈野閒上人
  - 遊金山
  - 月夜泊舟金山寺
- 明七言古詩
  - 登金山
  - 再登金山
  - 聽潮軒
  - 贈別味上人還金山
  - 長江行
  - 砥柱行
  - 留雲亭
- 明五言律詩
  - 金山寺
  - 無題
  - 無題
  - 無題
  - 無題
  - 無題
  - 無題
  - 次唐韻
  - 無題
  - 無題
  - 登金山寺

- 金山
- 游金山
- 無題
- 題金山寺付僧惠杰
- 金山寺
- 次張祜韻
- 次孫魴韻
- 無題
- 無題
- 金山
  - 其一
  - 其二
- 無題
- 金山寺
- 送僧還金山
- 金山寺
- 無題
- 無題
- 金山寺
- 無題
- 留雲亭
  - 其一
  - 其二
- 與顧華玉登金山
- 登金山
- 無題
- 夜渡金山
- 金山寺
- 遊金山
- 登金山
- 金山寺
- 金山即事
- 無題
- 朝陽洞
- 韓蘄王廟
  - 其一
  - 其二
- 金山

- 無題
- 登金山多寶塔
- 無題
- 無題
- 無題
- 同江進之登金山
- 無題
- 無題
- 無題
- 無題
- 無題
- 呈黎惟敬
- 無題
- 無題
- 登金山寺
- 登金山寺二首
  - 其一
  - 其三
- 遊金山寺二首
  - 其一
  - 其二
- 宿金山禪室
- 無題
- 無題
- 同淨談夜坐
- 無題
- 無題
- 海嶽樓翫月
- 無題
- 次鍾陵張韻
- 中泠泉
- 中冷泉
- 無題
- 金山
- 題金山
- 右次唐韻
- 登金山
- 遊金山

- 金山
- 登金山
- 次唐韻
- 次韻
- 遊金山
- 遊金山
- 除夕登山
- 金山寺壽蔣南泠
- 登金山
- 次唐韻
- 遊金山
- 登金山
- 次王守溪韻
- 次前韻
- 次許樊川韻
- 登金山
- 遊金山
- 次許御史韻
- 登妙高臺
- 次唐韻
- 次前韻
- 登金山
- 遊金山
- 題金山
- 金山
- 登金山
- 遊金山
- 次唐韻
- 登金山
- 楞伽臺

- 明五言排律詩
  - 登金山
  - 金山
  - 偕陳郡伯實齋先生同登金山用東坡韻
  - 遊金山
  - 金山寺
  - 登金山
- 明七言律詩

- 遊金山寺
  - 其一
  - 其二
- 登金山妙高峰
- 登留雲亭
  - 其一
  - 其二
- 登金山
- 宿山
- 金山
- 平寧藩過金山
- 登金山
- 無題
- 金山述古
- 無題
- 春日與客遊金山
- 遊金山
- 秋日與茂秦登金山
- 登金山
- 金山紀遊三律
  - 其一
  - 其二
  - 其三
- 登金山
- 與客重遊金山
- 遊金山
- 秋日登金山二律
  - 其一
  - 其二
- 遊金山
- 金山二首
  - 其一
  - 其二
- 登金山
- 登金山
- 雨登金山
- 題中泠泉
- 同中丞吳悟齋遊金山得秋字

- 登金山
- 登金山
- 登金山
- 遊金山寺
- 登金山
- 遊金山
- 次李西涯韻
- 遊金山
- 秋雨晚霽登金山
- 金山
- 遊金山
- 登金山
- 同張虛菴枕江樓望月二首
  - 其一
  - 其二
- 登金山
- 與沈劍南登枕江樓次韻
- 遊金山
- 金山
- 題金山
- 登金山
- 和吳郡守金山二律
  - 其一
  - 其二
- 金山別林文學
- 登金山飲中泠泉
- 金山待月
- 秋日金山阻雨
- 遊金山
- 秋日金山晚眺
- 登金山
- 金山懷古
- 遊金山
- 飲中泠泉
- 登金山
- 遊金山
  - 其一
  - 其二

- 登金山
- 題金山
- 登一覽亭
- 登金山
- 秋夕登金山
- 遊金山
- 遊金山
- 登金山
- 金山紀遊
- 登金山
- 遊金山
- 金山懷古二首
  - 其一
  - 其二
- 送僧取經歸金山
- 登妙高臺
- 早春登金山
- 弔郭璞墓
- 登金山
- 遊金山
- 晚渡金山
- 登金山
- 登金山
- 弔郭璞墓
- 再登金山
- 登金山
- 遊金山
- 題金山
- 登金山
- 秋日與荊州宿金山寺
- 遊金山
- 金山
- 金山追賦
- 登金山
- 伏日登金山
- 竺延叟載酒金山寺因訪隱者閔壽卿
- 送君釣遊金焦二山
- 入賀同高郡博登金山

- 登金山
- 登一覽亭
- 遊金山
- 登金山
- 題金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
  - 其一
  - 其二
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 無題
- 無題
- 無題
- 冬夜偕唐濟軒白堯山二年兄宿海嶽樓
- 登金山
- 無題
- 贈月齋上人
- 是日再陪鶴皐蕭道長留宿山房
- 無題
- 柬淨談主人
- 無題
- 登金山
  - 其一
  - 其二
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 次明山姚太史韻
- 同黃德文集海嶽樓
- 登金山
- 登金山
- 無題
- 次繩武太史
- 無題
- 次邃翁夫子

- 南歸舟過金山
- 和錢學士望都門
- 春日與趙叔鳴周子賢二觀察遊
- 與錢屋舟自焦山放舟登金山
- 無題
- 登金山
  - 其一
  - 其二
- 遊金山
- 海嶽樓別黃德文楊子靜
- 登金山
- 遊金山
- 贈淨談都綱
- 登金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 金山
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山
- 金山
- 遊金山
- 登金山
- 金山寺吞海亭
- 遊金山
- 金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 金山
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 月夜登妙高臺

- 金山龍游寺
- 金山四首
  - 其一
  - 其二
  - 其三
  - 其四
- 遊金山
- 金山二首
  - 其一
  - 其二
- 登金山
- 金山
- 郭璞墓
- 元日郡公金山修佛事和韻
- 郭璞墓
- 登金山寺
- 登金山寺呂 仙閣
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山
- 金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 再登金山
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山
- 登金山
- 遊金山

- 明七言排律詩
  - 甲申北上登金山兼謝邃翁
- 明六言詩
  - 金山漫興
- 明七言絕句
  - 登金山

- 題金山
- 遊金山
- 贈濟上人一絕
- 登北固山奉別鶴皐介堂二公
- 登金山有作
- 絕頂遠眺贈湯沂東總戎
- 題淨談上人卷
- 登金山
- 題金山圖
- 金山
- 登金山
- 贈金山寺半江和尚王問
- 金山
- 送閔壽卿遊金山
- 送太虛上人南歸
- 太虛上人玉京造藏歸贈
- 夏日同王元美憲使登金山
  - 其一
  - 其二
- 妙高臺戲柬果公
- 贈味泉上人
- 寓金山藏殿
- 寓浮玉庭中一杏盛開
- 寓浮玉後君邀集平江閣
- 卧江天閣聽李善甫吹笛
- 送閔壽卿遊金山
- 前題
- 冬夜宿太虛上人紫衣閣却贈
- 金山竹枝詞
  - 其一
  - 其二
- 贈味泉上人
- 登金山
- 金山阻雪與若氷法師
- 金山城成
- 訪鐵舟和尚時輯山志
  - 其一
  - 其二

        - 其三
    - 清五言古詩
        - 大徹堂訪若氷禪丈用東坡妙高臺寄佛印韻
        - 偈呈鐵舟老禪師
        - 過金山
    - 清五言律詩
        - 登金山步唐韻
        - 無題
        - 登金山
        - 金山純陽閣
        - 題留玉閣
            - 其一
            - 其二
        - 次前韻
            - 其一
            - 其二
        - 金山
        - 慈雲閣作
        - 宿山中夜雨
        - 聽潮
        - 別金山
        - 登妙高臺
        - 坐慈雲閣
    - 清七言律詩
        - 庚子秋宿山翌日留別之作
        - 壬寅再訪鐵翁大和尚
        - 韓蘄王廟
        - 無題
        - 登妙高臺
        - 飲泳思堂
        - 夜泊金山登峰頂
        - 奉祝鐵舟老和尚
        - 戊午初秋訪金山鐵翁和尚
            - 其一
            - 其二
        - 冬杪日奉祝鐵公大和尚
        - 丙辰仲夏再至金山西來閣有感
- 附錄

    - 金山鐵舟海禪師行繇
    - 金山江天寺鐵舟海和尚塔銘
  - 跋
  - 校勘記
- 卷目次
  - 1
  - 2
  - 2
  - 3
  - 4
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「 CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示(黑白色系版本則無顏色差別) 。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

序

憶昔余垂髫，當丁丑冬，從石頭先師大中丞余公，問易武林西谿之橫山。岩放舟過京口，望一峰孤聳大江，險怪崚嶒、盤欝蒼翠。訊之，知為金山也。誦樹影中流、鐘聲両岸之句，輒神往久之。辛卯歲，潯接天隆鐵舟禅師，一見心契。未幾，師即受潤城蕊亭陳公之請，繼席金山祖庭。余益深嚮慕，竊冀咨扣方丈，兼詣山中，一博曠觀，而竟未能也。惚怳至丙辰夏望前一日，始買一葉舟造焉。師為烹中泠泉，歡然道故，設榻古曉堂。縱談世出世之暇，出所輯金山誌畧見示。余焚香展對，適風雨淹留，為之三宿卒讀而拜手言曰：凡天下名山，各有紀載，師於茲首標形勝，獨表祖位綱宗，旁搜諸名賢佳話、軼事，以暨歷代碑記、古文、辭賦、詩歌，無不悉收入山者。不待縷詢，其大端已列眥指掌。即聞風相思者，亦不妨臥游。如歷驚濤駭浪，身峙龍門三拄中。旨哉，是可藉金山以說法矣！師盖嗣法南澗箬老人，親自堂奥中來。其雷電之機用、氷雪之心胸，作為出風入雅之撰述，良有以哉！或云金山拳石耳，似未足誇異！余則不然，大抵域內山在水中者，不可勝數。其最著，近如采石之翠螺、洞庭之縹緲、岳陽之君山；稍遠則普陀之洛伽；再則神山之十洲三島、香水之須彌，約畧止矣。而蓬萊亦有時三見清淺。噫！達人旦暮古今，橫睇八表，抑又何大小之殊視耶？曩聞之先師稱前輩尊宿，每以南澗老人與報恩天童諸大老為法門傑出，尤歎其高韻不群。余恨未獲追隨，猶幸把手鐵師。余往來江上將四十載，今方一至止，徘徊不能去。師乃住持山中，高座大徹堂三十餘年。烟雲圍繞供養，立說成書，与山靈光。余能無望洋而歎哉？是為序。

南邨法弟子大張掄拜手題于龍游之古曉堂

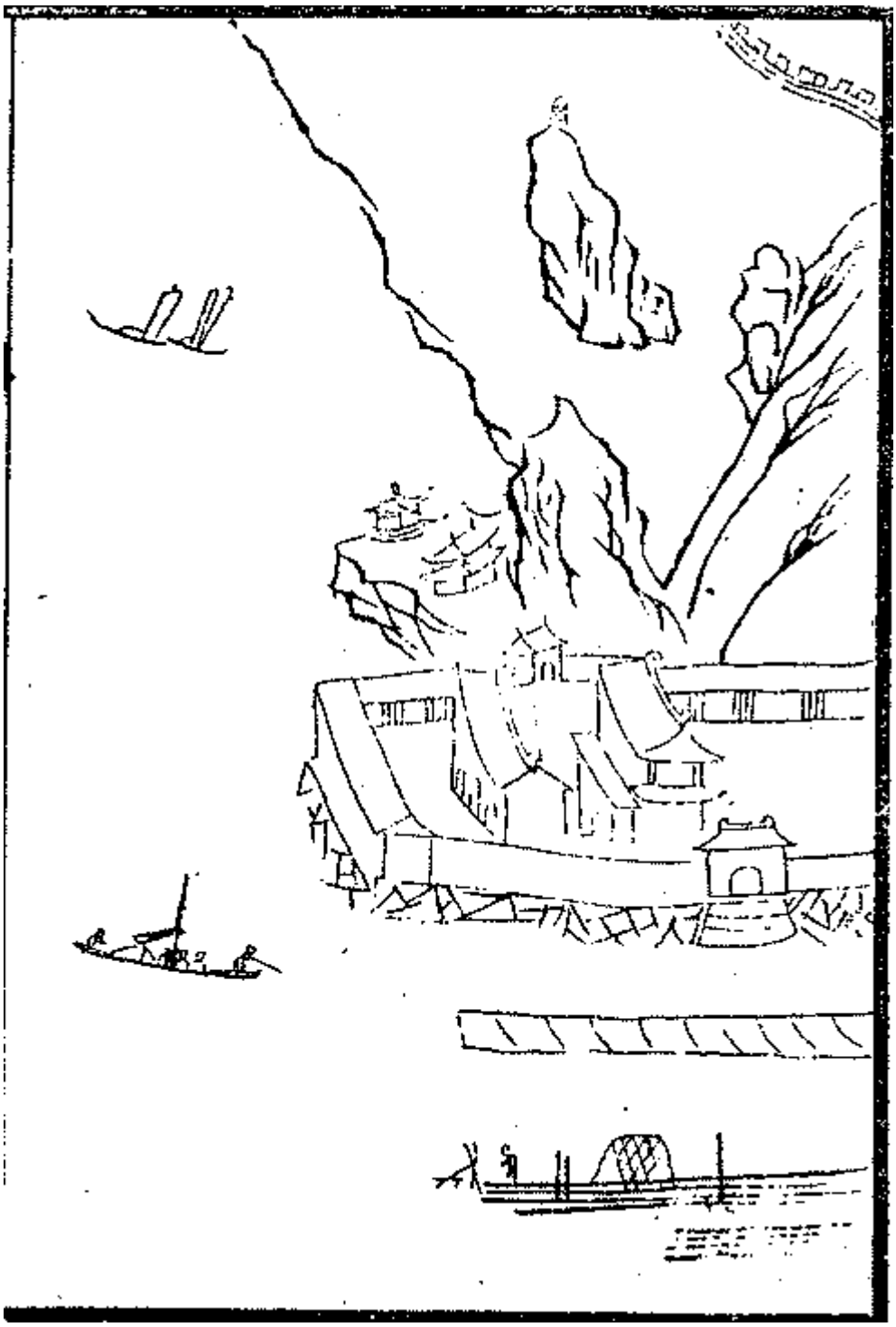


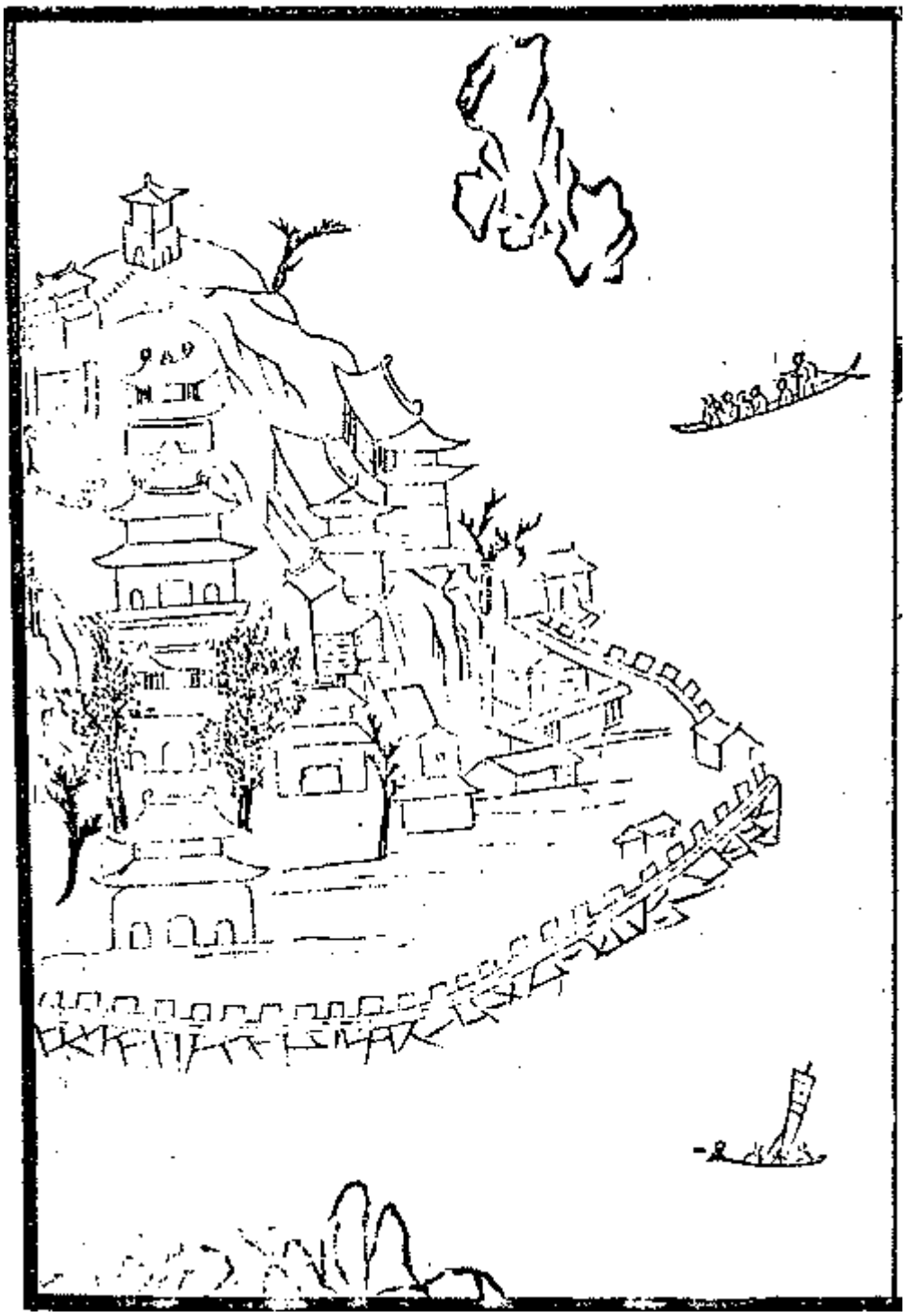
金山志畧目錄

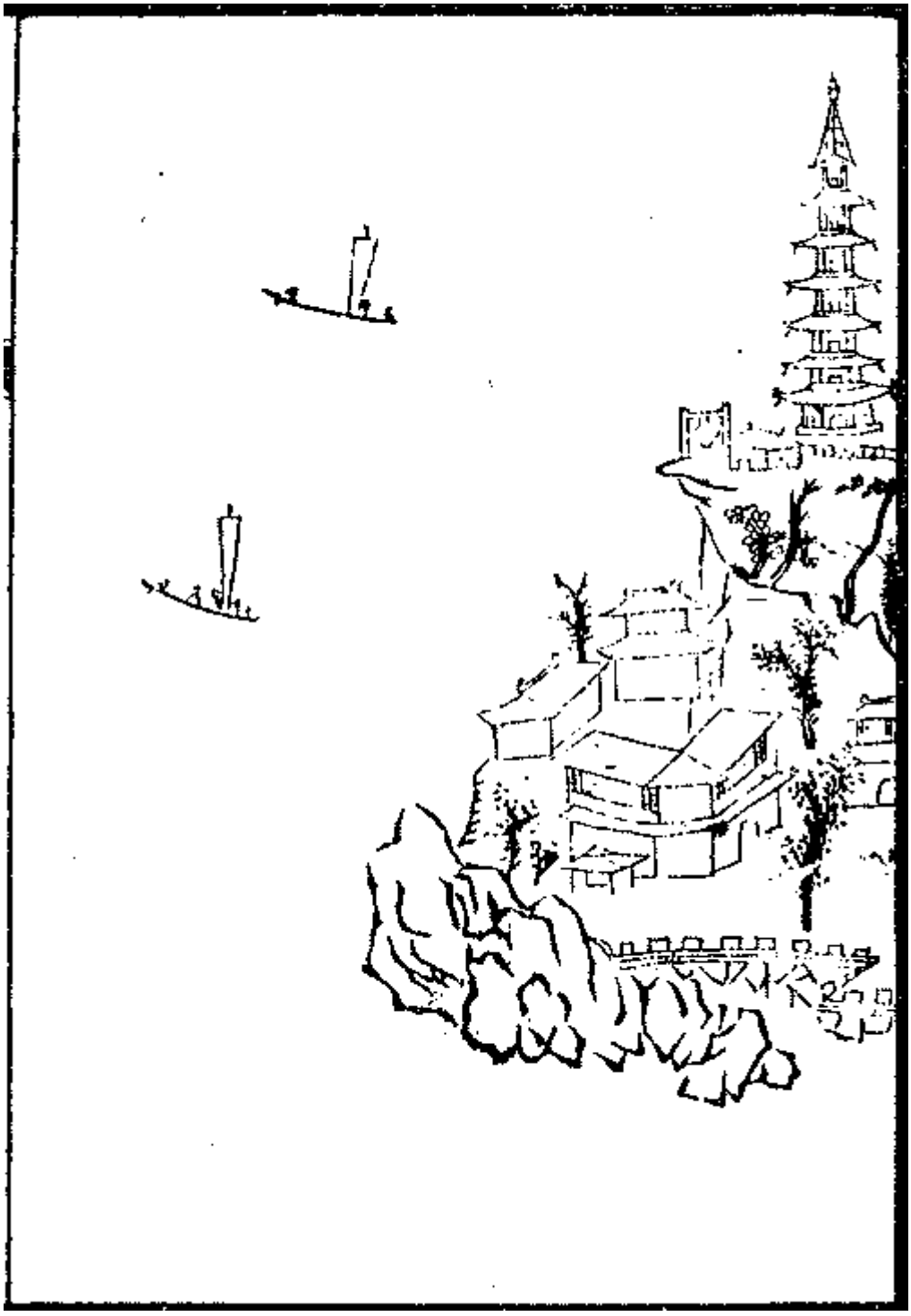
卷首
序

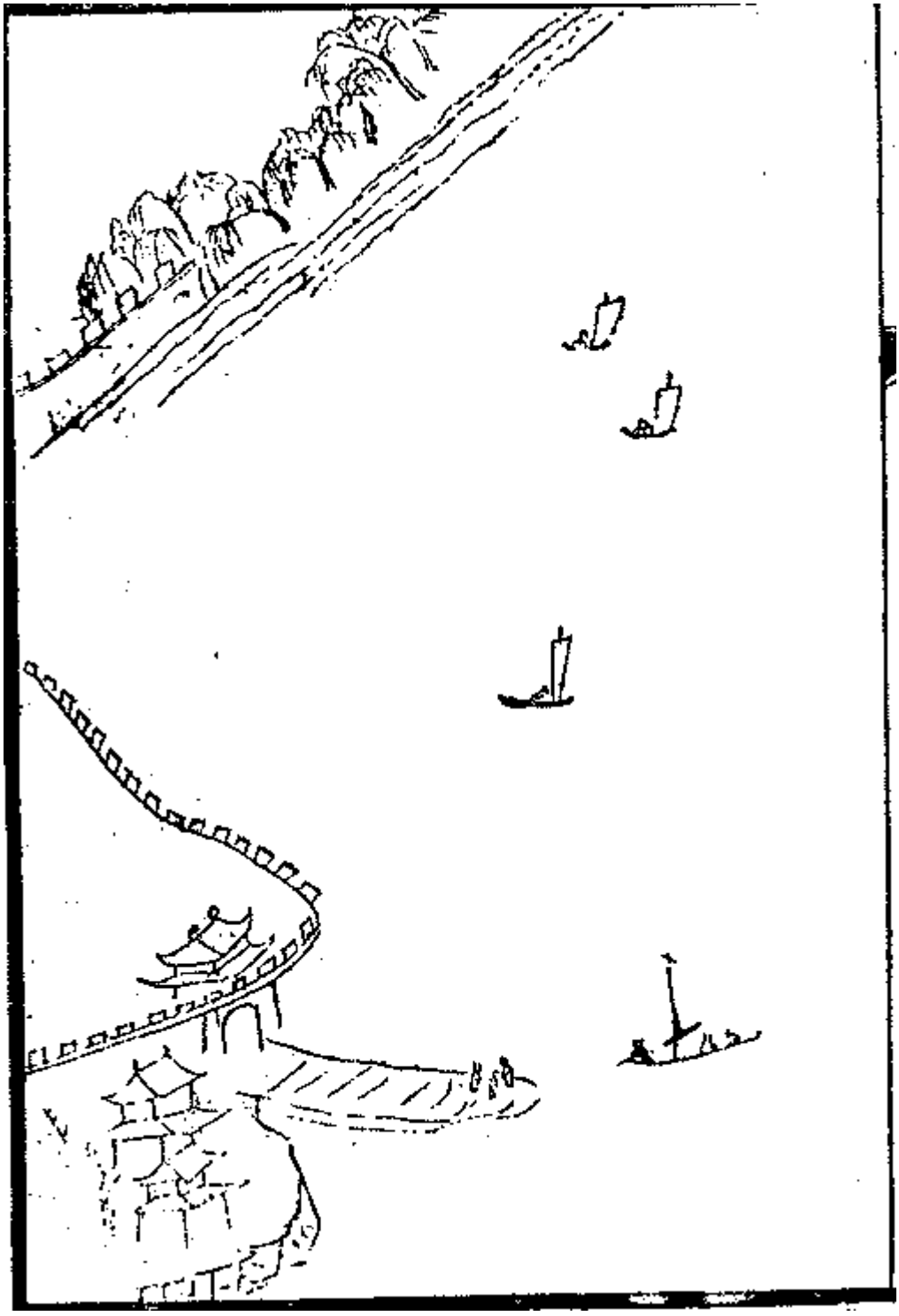
山圖
緣起
卷一
形勝
建置
祖堂法系
記
紀游
碑
賦
勅書賜田附
卷二
高僧
題贈
紀蹟
紀異
彙紀
序
僧詩
聯對
詠江唐句
卷三
選詩(唐宋元明)
卷四
選詩(明國朝)

金山志畧目錄(終)









金山志畧緣起

夫山川奇秀而崒嵂無過金山若也坐於江南京口古云南徐者也其巉巖屹立孤峙江心上達荊楚下抵蘇浙百川歸海風波洶湧四面環繞中流砥柱信不誣矣然山之居水中者不一近而金山稱最著焉肇自梁天監詔高僧寶公律師僧祐從金陵來建水陸大會極其祥瑞時號澤心寺金山

之名已著至大唐得大鑑之孫靈坦禪師係則天武后之苗裔也每有異徵住錫山之蟒洞安禪入定蟒服歸海此禪宗開山之始四方高僧建置疊興遂為京口十剎之首而成江南名勝也貞元年間相國之子裴公重建伽藍於水際迨宋興以來幼聰公獻圖於宗皇帝夢遊此山賜改澤心為龍遊禪寺又賜大藏一部山塲田地若干頃當斯時也主法席者如達觀穎掩室開佛印元枯木成別峰印諸祖皆傑然秀出者相繼興起不翅十四五員大善知識激揚祖道說法如雲宏闡宗乘辯才無礙而名震天下嗣後高宗南渡駕臨維揚詔佛果勤祖於行在機緣稱旨賜號圜悟勅住金山為國開堂結制日一夜悟十八高賢更古曉堂為大徹禪堂法道益彰元時有衲堂心海了休諸公說法山中任運嘉會而已歷明以來主法者稍間後先不一其文海淵公從天界遷任此山大有因緣善於視事見所賜洲田差徭煩苦躬詣朝廷疏奏蒙尚義太監力為蠲免建永安堂則差徭無擾惜乎後裔競任都綱分列為十二房矣至天泉頂目問石諸公說法一期因緣殊勝奈何解制翛然長往而明季有蜀晉雲公若氷法師住靜十有餘年已為講席

國朝鼎興始公議敦請　先師箬菴問和尚廼圜祖第二十代孫也於戊子春進山開法衲子雲興戶無納履至此又見一番崇勝矣命余監寺三年後交謝本山闔山諸耆德偕護法陳藥亭諸公恐新興祖庭又成冷落矣于是出書赴天隆請余繼席余勉就赴請於癸巳夏六月入院四方衲子聞風而至者縱不能如　先師時雲集然從而開法者亦不乏人但余目擊祖堂不稱三門大殿及大徹堂傾圮兼海波騰湧檝檝梗梗兢株苦守上不干於朝惟有待於野幸隨緣一一重而新之不覺羇迹三十餘年日久月深得以考覈詳細禪餘之暇手輯志畧以歷代宗乘法脉及名賢達士高風逸韻庶顯山靈之勝不負護法之誠心也雖然有成有壞者世間相也其宗風相傳斯歷萬劫而常存又何慮乎後賢之不振而繼起開來也哉切念歷代之光明幢不昧本原之大義斯廼江南之名勝宜為天下後世傳故述而志之以備曠觀焉爾

岩大清康熙二十年歲次辛酉　月　朔旦嗣臨濟正宗圜祖第二十一代

孫行海撰

金山龍遊禪寺志畧

金壇綏菴居士蔣超較正

嗣祖比丘鐵舟行海修輯

楚潭叅學門人超智編次

形勝

山在郡城西北七里大江中長山西北起為五州至下鼻浦遂入大江突起而為金山又名浮玉又名獲符又名伏牛皆相形之比擬而已金山之名其來久矣自梁天監中律師僧祐高僧寶誌已在金山建水陸會極其祥瑞名澤心寺至唐天寶中有廣陵靈坦禪師初於江心金山之北入定蟒洞降蟒歸海乃重開山為禪宗之始焉貞元間裴頭陀建伽藍水際獲金數鎰以聞賜名李錡奏而易名皆前人之悞也金山之說本出華嚴此閻浮提外香水海中有七金山遶須彌盧因海水瀲洄播溢無定以金山之此山相似而得其名梵語須彌此云妙高故亦名妙高峰又烏得而疑之乎葢天下之名山皆本同而末異孰謂茲山無本自其遠而言之雪山發脉崑崙抽幹五嶽定鼎南抵金陵之紫金山自其近而言之以紫金旋北而起五州自五州入江以此山奇秀威峙中流萬派朝宗古德名賢互相推盛無得而比之雖所擬之名不同亦其勝之一端也本末同異詳錄於左以昭天下形勝云

金山

註已見前序

浮玉山

道書云自玉京諸峯若浮而至周必大謂風濤四起勢欲飛動故名

獲符山

晉破符堅置俘山下故名

伏牛山

此相形比擬又唐志貢伏牛山銅器為據

龍游山

宋宗常夢游其山後賜額故名

石簰山

在西北急流中有漩渦常防溺舟之患米芾賦云浮玉捲霧石簰落潮又號頭簰宜之

妙高峰

須彌也獨出山曰高四寶所成曰妙南方有國名曰勝樂峰名妙高比丘德雲常居於此善財童子叅之

金鰲峰

宋端明學士蘇紳有詩云僧依玉鑑光中住人踏金鰲背上行之句

日照巖

在山之東朝陽洞是也巉崖絕磴深丈餘許萬曆間有僧重開草莽號曰老朝陽焉

妙空巖

在朝陽之右谽谺洞豁縱廣數丈可通山底

裴公洞

在峰之側幽峻奇絕入深四五丈許宋相張商英題云白蟒化龍歸海去岩中留下老頭陀事與龍洞同

郭璞墓

在金山之西日本使臣中心叟題曰水底有天行日月墓前無地拜兒孫之句

善財石

在山之東南水中亦名鶻嶺宛然瞻禮之狀道遐題妙高臺畔有時見疑是善財叅德雲

磐陀石

在洞前蘇子瞻與佛印禪師常談於此題云中泠東畔石磐陀古來出沒隨濤波

臥龍石

此石在石[簿-尃+卑]山前隱於水底舟觸自壞特立險竿以警過往者

龍洞

在朝陽之左深不可測俗呼珠洞唐時常有毒龍吐氣近者多病因靈坦禪師降之去

龍井

中泠泉其泉在郭璞墓前因有三禁之說又當漩波險峻難汲以井易之其水亦佳

覺岸

在砥柱東泊舟處明許少華題云幾時登覺岸為我發塵蒙小華山人重勒石

信磯

在聽潮軒前昔人呼黿處以浮玉山隨波出沒潮汐不爽

竹逕

山頭有竹二本云黃金嵌碧玉碧玉嵌黃金在大悲殿後靈觀閣前謂之竹逕

龍門

在筆架山之右相傳龍宮在下紀出三禁堂

鶻嶺

善財石也

建置

形勝者天生也建置者人力也無天生何以見峰巒之奇秀江海之寬廣無人力何以見殿宇之精麗樓閣之參差雖有天生之勝其人力豈可以少乎哉然人力在緣勝緣勝則百廢俱興緣不勝相時補綴而已是故緣勝則建置勝具載無遺備年氏於現在實錄也詳廢興於往返始也或昔有而今無必錄以存其功也三者立將來勸建置之道益無窮矣故畢列於左以昭天生人力之佳境焉

澤心寺

東晉時名趙孟頫謂元帝時虞集謂明帝時未詳孰是

龍游寺

以其狀若游龍出水宋咸平中寺僧幼聰獻金山圖詔遣內侍藍繼宗賜大藏經祥符五年詔改龍游寺天禧初宗夢游以飛帛書龍游禪寺四字賜之寺僧表求舊額改曰金山龍游禪寺

大雄寶殿

按天下叢林正殿咸稱大雄大者包含萬有雄者攝伏群魔寶者乃三寶也皆歸此殿傳持正法我佛威力雄大千也此殿曾遭宋元兵火已廢明正統間是殿復成之者有徽郡祁門汪克明公也公客京口嘗登是山見殿宇傾頹非尊佛道遂傾囊鳩工重建此公艱於子嗣因修建叢林普濟急難樂善勇為子孫殷富代不乏科乃公之緣所致後之見此凡覩叢林零替必有加於汪氏者

天王殿

在大雄殿之前天順壬午都綱弘霪重建正德庚辰御用太監馬俊重修至順治戊戌年復傾弛住山比丘行海率同耆宿浩然滄濤二公及信士湯承宇汪正甫吳五州等重建本殿兩間永禁不可竪碑有傷風水闔寺咸知

祖師殿

在大殿右成化年住持安溥重建至清朝因其墜落住山比丘行海重建葢天下名山祖堂皆遵白雲端祖儀式惟設像三尊一達磨祖師西來正脉二百丈禪師叢林師表三開山大師不忘始創今此山設像五尊何故因其舊有不便改移遂令安名佛印元禪師圜悟勤禪師實住此山有大功而名最著者其餘列祖均是牌位此係行海公同闔山耆宿在郡諸護法所設永垂不朽云時順治戊戌年十二月朔日立

伽藍殿

在大殿左舊名水府殿正統丁卯都綱弘霆重建正德辛未住僧重建

大悲殿

在半山之中永樂年太監鄭和浮海至大洋空中現千手觀音得無風波之險於是命工塑所見像造殿于茲祀之正德戊寅尚膳太監李和奉使浮梁至清河夜夢此殿頹重建

彌勒殿

在大徹堂後是也

大徹堂

古曉堂也宋建炎臨濟正宗佛果勤禪師結制山中一夜悟十八位高賢如佛智佛海徹菴或菴瞎堂瞎石等遂更名大徹堂高宗南渡位二年正月詔金山住持克勤入對行在稱旨大悅賜號圜悟又奉旨住維揚雍熙寺上問居金山如何勤曰金山在大江中臣僧老且病願歸林野以保餘年復勅住江西雲居寺時大慧杲亦過金山省覲後數百年雖有主席不及復整戊子春行海同先師箬菴問和尚重開此席內外萬指可謂一時之勝至順治庚子此堂傾墜於壬寅勉力有蔣太史諱超胡鹽臺諱文學杜道臺諱溎及信商黃僎等重建大徹禪堂五間上下樓閣樓上為古曉堂作法堂樓下仍為叅禪堂是不忘其所自也

三禁堂

宋別峰印禪師主金山入定神遊水府龍有所告出建此堂三禁者以其不載鐘樓鳴大鐘不推轉輪藏不渡石[簿-尃+卑]汲中泠水皆神龍所忌始知山下有龍宮焉

永安堂

在大雄之南宣德年住持道瀾建正統年主僧弘滋重建中書舍人金湜扁今廢宣德初金山以賦重役繁僧皆散去有司以是事聞於巡撫巡撫召諭之曰僧民一理也今或不得其生而去者必有故汝其圖之於是群寮相議以為廢興之機存乎其人誠得勤能之僧以主之則其廢斯興矣乃聘瀾師來主寺事師奉命唯謹入寺以事佛為己任舉廢為急務晨夕拳拳如有所失忽遇宦臣尚公義携師至闕下懇陳寺之重役頹苦又得地官尚書兼署兵部夏忠靖公具本復奏蒙賜優免師遂謝恩歸寺滌心焚修賞其勤戒其墮僧佃有再犯不悛者悉擯斥之於是上下勸懲捷如影響茲山之勝煥然改觀特搆永安堂以昭後進按師字文海蘇之常熟人號拙菴住浙之阿育王奉旨遷金陵之天界係別峰印禪師法嗣後由承天復遷金山住持丙辰正月廿二日沐浴更衣趺坐而化壽六十有九臘四十八後有剃度弟子三人弘霆弘演弘滋陞任都綱滋傳永齋齋傳安吉吉之傳子孫不絕崇祀法蔭代不乏僧綱其文海之功有光于後故名永安余以師考之乃佛法中人緣弟子輩以世法為繼未免不能體師之志也良可太息

泳思堂

此山有上司官長迎送設席在大佛殿褻慢佛天此心不忍於順治年間蒙鞠四尊諱鼎衡率都綱深奧建此堂作公館則佛殿得以清淨功德福澤無窮命題為泳思也

淨居堂

在永安後癸巳歲長沙曠宗舜為濟公藏修題扁淨居乃梵天宮名以其超六慾絕聲色也今廢

玉鑑堂

王安國為佛印禪師題或名玉帶堂今廢

浮金堂

在寺之中宋徐元用嘗邀子瞻同遊賦詩處今廢

悟心堂

在妙高臺下景泰間寧諼重建今廢

至遊堂

元祐年寶覺禪師建蘇學士為記今廢

雄跨堂

乾道初淮東路總管洪适題額今廢

觀瀾堂

在祖師殿後成化間僧安賢建今改為三官殿

海月堂

在中泠亭後今廢

黃鶴樓

原係郭璞祠基順治丙戌丹徒令唐虞世建

海嶽樓

在永安之右正德唐都綱惠鑾建郡守滕謚題

華藏樓

在天王殿左崇禎癸巳住僧成理建

待月樓

在永安之左嘉靖年主僧圓濟建今廢

水陸樓

在大徹禪堂左明住僧晉雲建便供水陸道場

善財樓

在妙高峰右宋僧衡適中建今廢

涵虛樓

在聽潮軒左正綂間都綱弘霪建郡守姚堂題扁

枕江樓

在天王殿左今廢

聽江樓

散玉樓

懷劬題今廢

拱都樓

洪有聲題今廢

寶光樓

僧定越建後孫都綱深奧遷一分住朝陽門郭家坡長生菴

漱玉樓

今廢

毘盧閣

在大雄之後成化年住山安溥重建金鰲閣昔蘇端明書額

藏經閣

昔日殿也在毘盧閣後正統十二年侍郎周忱奏請一藏安置本寺建殿奉事計經一十匱合六百四十函天字至庭字止經從植字函竟已後唐宋元明各代高僧禪師聖皇名臣編集拾遺紀錄雖入藏矣不在此數

江天閣

在山頂之南弘治丙辰主僧安賢建靈觀閣自監建水陸大會祀五顯神于茲山左少叅王徽撰碑

晉玉閣

周廷鑨題

慈雲閣

化城閣

未詳建氏僧仲珠有南徐十詞此閣居七王安石登過今廢

無邊閣

未詳建氏今大徹堂後有臺是閣基俗云布袋亭

奎文閣

宋高宗幸建康孝宗以元子扈從登金山命郡守方滋建今廢

萬壽閣

萬佛閣至治辛酉勅僧應深出內府寶鈔裝萬佛像至順二年上命學士虞撰記今廢

西來閣

環虛閣

司祿閣

李延大題

關聖閣

明辛卯僧定澄建

三聖閣

今廢

武閣

今廢

回瀾亭

在大藏經殿右俱鄭公重建有記

觀瀾亭

在中泠泉北臨江處宋寶祐間主僧永茂建久廢

吞海亭

在絕頂之北宣德年住持德全重建

留雲亭

在絕頂之南景泰年都綱弘霪重建

妙高臺

楞伽臺

湧翠軒

在回廊右住僧寧諼建吏部尚書三原王恕題扁

聽潮軒

在江天閣下都綱弘霪建住持安溥修太常卿程南雲書扁

養素軒

在覺岸左住僧智明建旰江左替扁

涵清軒

在妙空岩右住僧理潮建

濤軒

在寂逕右

雪月軒

在寂逕左

笑傲軒

今廢

龍王廟

在山之西南正統年侍郎周忱重建按五代初楊氏據江南封神為下元水府昭信忝江王祥符初封曰顯濟元豐中佛印以禱者病涉又附禪林割牲以享非其禮因請遷于江之南岸建炎中燬浙西安撫劉光世重建紹興丁卯都綄制王勝重修嘉忝中加封英靈普護聖惠忝江王嘉定中郡守史彌堅重建自撰記畧曰歲夏六月不雨至于孟秋之望農以病告禱於祠膚寸之雲起自祠旁次日炎曦亭午焦山外濃雲潑墨冷風掠人面如氷雪兩龍現於其間水波逆泫有聲上與龍接疾電震雷甘雨隨至歲仍大豐明朝洪武初詔封順濟龍王每歲十月望旦郡邑特牲致祭天順八年郡守姚堂重修工部主事鄭記畧曰天順壬午夏秋不雨遂躬詣祠下三禱三注歲

獲有秋癸未甲申天復亢旱禱之隨雨歲仍大豐四民懽頌曰此無他牧民得人故雨暘時若也

薦慈塔

元符末丞相曾布建雙塔於山頂南北相向請名于朝捨蘆塲七頃在建康又王安石捨田八頃並為塔下香燈之資今俱迷失

方丈

在山之中唯住持得居之以其容納無私巨細畢舉之謂否則道眼日昏衰相日見

庫司

在香積之右

香積厨

在湧翠軒後

一漚菴

今廢

信菴

今廢

淨業菴

馮夢禎題

北菴

弘治僧惠明建今廢

玉帶橋

在山之北

永安橋

在山之南

三忠祠

內奉嗣韓世忠文天祥魏勝國公皆宋忠臣也係龍王廟左首春秋有祭

祖堂法系淵源叙

蓋天下名山因法席而顯法席以住持為尊住持必以祖堂為燈續其奉祀規模起自白雲端祖之儀式也則住持淵源不至淆亂而有序矣金山江南名剎歷代祖庭山夙有名祖堂不稱

順治戊子春叅隨先老人重興此席每以此語余與梅生杲法兄二人曰當秉我意旨而行毋負名山重興之願

梅兄有秀水漏澤之請余亦有江寧天隆之命皆不及此後蒙潤之諸君子山之耆宿請繼斯席遂不敢違遺命朝夕兢兢勉力告成然祖堂雖就奉祀列祖之位難容混越必求茲山開堂激揚宗乘師承的據法系洞然者庶幾為一代之光明幢也其泛濫之流曷能預數哉余所以博採五燈諸錄叅考高僧志傳鑒訂清徹而續入之一則開諸祖儼然生面二則滿先老人之遺命自唐至國朝三十有四燈係臨濟曹洞雲門三宗其法嗣來源統出於禪燈世譜稍有疑似不敢輕入仍有法嗣無機緣語錄者俟再稽考補之可也俾後之住持此山者一覩淵源之意則昭然而有次序矣

臨濟三十二代孫行海頓首拜撰

祖堂歷代淵源法次位

梁東土初祖達磨大師
唐南嶽下三世百丈懷海禪師
唐大鑑下三世開山廣陵靈坦禪師
宋南嶽下十世瑞新禪師
宋南嶽下十一世達觀穎禪師
宋南嶽下十一世佛印元禪師
宋南嶽下十二世懷賢圓通禪師

宋南嶽下十二世寶覺禪師
宋南嶽下十三世善寧印禪師
宋南嶽下十三世法慧禪師
宋南嶽下十四世慧滿禪師
宋南嶽下十四世佛日禪師
宋南嶽下十四世惟仲禪師
宋青原下十三世枯木成禪師
宋青原下十四世金山堅禪師
宋南嶽下十五世曉常禪師
宋南嶽下十五世金山一禪師
宋南嶽下十五世圜悟勤禪師
宋南嶽下十五世了心禪師
宋南嶽下十七世別峰印禪師
宋南嶽下十七世達觀禪師
宋南嶽下十八世永聰禪師
宋南嶽下十八世道奇禪師
宋南嶽下二十世掩室開禪師
宋南嶽下二十世普度禪師
元南嶽下二十世訥堂禪師
元南嶽下二十一世慧朗禪師
元南嶽下二十一世心海禪師
元南嶽下二十一世惠明禪師
元南嶽下二十二世了休禪師
元南嶽下二十二世長溪深禪師
元南嶽下二十三世別峰在禪師
元南嶽下二十三世南清凱禪師
明南嶽下二十四世文海瀾禪師
明南嶽下二十四世慈舟濟禪師
明南嶽下二十四世天泉淵禪師
明南嶽下三十五世箬菴問禪師
明南嶽下三十六世頂目徹禪師
明南嶽下三十六世問石乘禪師
清南嶽下三十六世鐵舟海禪師
清南嶽下三十六世天笠珍禪師
清南嶽下三十七世香林淨禪師
清南嶽下三十七世法乳樂禪師
清南嶽下三十七世可達杰禪師
清南嶽下三十八世量聞銓禪師

東土初祖達磨大師

師於梁普通七年庚子歲九月二十一日廣州史蕭昂具主禮迎接表聞武帝帝覽奏遣使賫詔迎請十月一日至金陵帝問曰朕位以來造寺度僧不可勝紀有何功德祖曰實無功德帝曰何以無功德祖曰此但人天小果有漏之因如影隨形雖有非實帝曰如何是實功德祖曰淨智妙圓體自空寂如是功德不以世求帝又問如何是聖諦第一義祖曰廓然無聖帝曰對朕者誰祖曰不識帝不領悟祖知機不契是月十九日潛回江北十一月二十三日届於洛陽當魏孝明帝正光元年寓止於嵩山少林寺面壁而坐後顧慧可而告之曰昔如來以正法眼付迦葉大士展轉囑累而至於我我今付汝汝當護持并授汝袈裟以為法信各有所表宜可知矣可曰請師指陳祖曰內傳法印以契證心外付袈裟以定宗旨後代澆薄疑慮競生云吾西天之人接汝此方之子憑何得法以何證之汝今受此衣法却後難生但出此衣并吾法偈用以表明其化無礙至吾滅後二百年衣止不傳法周沙界明道者多行道者少說理者多通理者少潛符密證千萬有餘汝當闡揚勿輕未悟一念回機便同本得聽吾偈曰

吾本來此土　傳法救迷情
一花開五葉　結果自然成

祖又曰吾自到此凡五度中毒我嘗自出而試之擲石石裂緣吾本離南印來此東土見赤縣神州有大乘氣象遂踰海越漠為法求人際會未諧如愚若訥今得汝傳授吾意已終

唐南嶽下三世百丈懷海禪師

師以禪宗肇自少室至曹溪以來多居律寺雖列別院然以佛法住持未合規度切常爾介懷乃曰佛祖之道欲誕布元化冀來際不泯者豈易與諸部阿笈摩教為隨行耶或曰瑜伽論纓珞經是大乘戒律胡不依取師曰吾所宗非局大小乘非異大小乘當博約折中輔律而行調護攝持在事皆理蓋佛之道以達磨而明佛之事以百丈而備凡為天下後世建立叢林開遮禁勸細大合宜未有不取法於斯者其諸軌度具載清規

唐大鑑下第三世開山廣陵靈坦禪師

荷澤神會禪師法嗣師姓武太原文水人乃則天太后姪孫也師叩神會會施善誘頓見其心默而許之容其執侍始末研磨得破疑滯神會於天寶初召坦曰我有一句祖祖相傳至曹溪付我汝諦受之後住潤州江中金

山其山北面有一龍穴常吐毒氣如雲有近者多病或斃師常居之毒雲滅迹出高僧傳

宋瑞新禪師

師係福昌善禪師法嗣南嶽下第十世傳雲門宗也

僧問吾有大患為吾有身父母未生未審此身在甚麼處師曰曠大刼來無處所若論生滅盡成非曰恁麼則周徧十方心不在一切處師曰泥裏撼樁上堂云世間所貴者和氏之璧隋侯之珠金山喚作驢屎馬糞出世間所貴者真如解脫菩提涅槃金山喚作[尸@豕]沸碗鳴且道恁麼說話落在甚麼處故不是取舍心重信邪倒見諸人要知麼猛虎不顧几上肉洪爐豈煉囊中錐

宋達觀穎禪師

得法於谷隱聰禪師南嶽下第十一世傳臨濟宗也

師首謁太陽玄禪師遂問洞山特設偏正君臣意明何事陽曰父母未生時事師曰如何體會陽曰夜半正明天曉不露師罔然遂謁谷隱舉前話隱曰太陽不道不是秖是口門窄滿口說未盡老僧不然師問如何是父母未生時事隱曰糞塹子師曰如何是夜半正明天曉不露隱曰牡丹花下睡猫兒師愈疑駭一日普請隱問今日運薪邪師曰然隱曰雲門問僧人搬柴柴搬人如何會師無對隱曰此事如人學字書點畫可効者工否則拙蓋未能忘法耳當筆忘手手忘心乃可也師於是默契良久曰如石頭云執事原是迷契理亦非悟隱曰汝以為藥語為病語師曰是藥語隱呵曰汝以病為藥又安可哉師曰事如函得蓋理如箭鋒拄寧有加者而猶以為病實未喻旨隱曰妙至是亦秖名理事祖師意旨知識所不能到矧事理能盡乎故世尊云理障礙正知見事障續諸生死師恍如夢覺曰如何受用隱曰語不離窠臼安能出蓋纏師歎曰纔涉唇吻便落意思盡是死門終非活路

上堂大集定有僧纔出禮拜師曰欲識佛性義當觀時節因緣僧便問如何是時節因緣師便下座僧問師唱誰家曲宗風嗣阿誰師曰臨濟曰恁麼則谷隱的子也僧曰德山問如何是長法身師曰拄杖長六尺曰如何是短法身師曰算子三寸曰恁麼則法身有二師曰更有方圓在師過京師寓止駙馬都尉李端愿之園日夕問道一時公卿多就見聞其議論隨機開悟李公問曰地獄畢竟是有是無答曰諸佛向無中說有眼見空花太尉向有中覓無手摝水月堪笑眼前見牢獄不避心外見天堂欲生殊不知忻怖在心善惡成境太尉但了自心自然無惑曰心如何了答曰善惡都莫思量又問不思量後心歸何所穎曰且請太尉歸宅穎東遊初住舒州香爐峰移住潤州因聖太平之隱靜明之雪竇又遷金山龍游寺嘉祐四年除夕遣侍者

持書別揚州刁景純學士曰明旦當行不暇相見厚自愛景純開書乃驚曰當奈何復書决別而已中夜候吏報揚州馳書船將及岸頴欣然遣撾鼓陞座叙出世本末謝裨贊蔡林者勤修勿怠曰吾化當以賢監寺次補下座讀景純書畢大擁步上方丈頴跏趺揮令各遠立良久乃化

嘉祐間正月元日達觀曇頴禪師遷化生錢唐丘氏年十三依龍興寺為大僧神情秀特于書無所不觀為詞章多出塵語十八九遊京師時歐陽文忠公在塲屋識之游相樂也細閱師之廣錄乃五年元日可謂奪胎神化乃秉夙願耳

宋佛印了元禪師

字覺老生饒州浮梁林氏世業儒父祖皆不仕元生二歲琅琅誦論語諸家詩五歲誦三千首長從師授五經畧通大義因讀首楞嚴經于竹林寺愛之盡捐舊學白父母求出家度生死禮寶積寺沙門日用試法華受具游廬山謁開先暹禪師南嶽下十一世傳雲門宗也暹自負其號海上橫行俯視後進元與問答捷給乃稱賞時年十九又謁圓通訥公訥曰骨格已似雪竇後來之俊也時書記懷璉方應詔以元繼其職江州承天虛席又以元當選郡將而少之訥曰元齒少而德壯雖萬耆衲不可折也于是為開先之嗣時二十八矣自承天遷淮之斗方廬山之開先歸宗潤之金山焦山江西之大仰又住雲居凡四十年間德化緇素縉紳之賢者多與之游東坡謫黃州廬山對岸元居歸宗酬酢妙句與烟雲爭麗及其在金山東坡釋還東吳次丹陽以書抵元曰不必出山當學趙州上等接人元得書逕來坡迎笑問之元以偈答曰

趙州當日少謙光　不出山門見趙王
爭似金山無量相　大千都是一禪牀

坡抵掌稱善又嘗謂曰昔雲門說法如雲雨絕不喜人記錄其語見必罵逐曰汝口不用返記吾語異時裨販我去今室中對機錄皆香林明教以紙為衣隨所聞書之後世學者漁獵文字語言正如吹網欲滿非愚狂時江浙叢林尚以文字為禪之謂請益故元以此諷之高麗僧統義天航海至明州傳云棄王位出家上疏乞遍歷叢林問法受道有詔朝奉楊傑次公舘伴所經吳中諸剎皆餞如王臣禮至金山元牀坐納其大展次公驚問故元曰義天亦異國僧耳僧至叢林規繩如是不可易也姓出家同名釋子自非買崔盧門閥相高安問貴種次公曰卑之少徇時宜求異諸方亦豈覺老心哉元曰不然屈道隨俗諸方先失一隻眼何以示華夏師法乎朝廷聞之以元為知大體李公伯時為元寫照元曰必為我作笑狀自為贊曰李公天上石麒麟傳得雲居道者不為拈花明大事等閒開口笑何人泥牛漫向風前鼾

枯木無端雪裏春對現堂堂俱不識太平時代自由身元符元年正月初四日聽客語有會其心者軒渠一笑而化其令畫笑狀而贊之非苟然也

宋懷賢圓通禪師

得法於達觀穎禪師南嶽下十二世傳臨濟宗也

僧問師揚宗旨得法何人師拈起拂子僧曰鐵甕城中曾印證碧溪崖畔祖燈輝師拂一拂曰聽事不喚鐘作甕

宋寶覺禪師

乃育王璉禪師法嗣南嶽下十二世傳雲門宗

宋善寧印禪師

係慧林本禪師法嗣南嶽下十三世傳雲門宗

僧問天皇也恁麼道龍潭也恁麼道未審和尚作麼生道師曰手握白玉鞭驪珠盡擊碎曰退身有分師曰知過必改上堂顧大曰古人道在眼曰見在耳曰聞在鼻曰嗅香在舌談論在身覺觸在意攀緣雖然如是秖見錐頭利不見鑿頭方若是金山則不然有眼覷不見有耳聽不聞有鼻不嗅香有舌不談論有身不覺觸有意絕攀緣一念相應六根解脫敢問諸禪德且道與前來是同是別莫有具眼底衲僧出來通個消息若無復為諸人重重註破放開則私通車馬捏聚則毫未不存若是飽戰作家一任是非貶剝僧問如何是佛師云眉如初月眼似流星云如何是法師云義列交羅星分大野云如何是僧師云古貌稜層丈夫意氣

宋法慧禪師

乃慧林本禪師法嗣南嶽下十三世傳雲門宗

僧問大修行人還落因果也無師曰鳩鳥入水人皆死毒龍行處草不生

宋慧滿禪師

乃常熟珍禪師法嗣南嶽下十四世傳臨濟宗

宋佛日禪師

乃善寧印禪師法嗣南嶽下十四世傳雲門宗

宋惟仲禪師

乃佛國白禪師法嗣南嶽下十四世傳雲門宗

皇后遣中使降香為皇帝祝延聖壽上堂法本無說隨事應機心本絕形遇緣現古今如是凡聖同途蓋生迷妄不知遂成流轉故能仁頓忘情見了達根源不從外求亦非內得所以佛佛授手祖祖相傳道貫一乘宗分五派臨濟則賓主互換韶陽乃顧鑑全超仰則父子相投曹洞乃君臣慶會清涼法眼直指惟心建立門風各張鋪席包含萬象該括大千冥冥不混於色聲蕩蕩豈妨於語嘿把定則十方坐斷虎踞龍蟠放行則千聖出興風行草偃助堯仁政化祝睿算延鴻降伏魔普利群有然雖恁麼猶涉程途且道正令當行如何理論良久云一氣不言含有象萬靈何處謝無私

宋枯木成禪師

乃芙蓉楷禪師法嗣青原下十三世傳曹洞宗

師初住東京淨因次住金焦二山上堂燈籠忽爾笑咍咍如何露柱亦懷胎天明生得白頭女至今遊蕩不歸來這寃家好歸來黃花與翠竹早晚為誰栽上堂知有佛祖向上事方有說話分諸禪德且道那個是佛祖向上事有個人家兒子六根不具七識不全是大闡提無佛種性逢佛殺佛逢祖殺祖天堂收不得地獄攝無門大還識此人麼良久曰對面不仙陀睡多饒寐語上堂歸元性無二方便有多門但了歸元性何愁方便門諸人要會歸元性麼露柱將來作木杓旁人不肯任從伊要會方便門麼木杓將來作露柱撐天柱地也相宜且道不落方便門一句作麼生道三十年後莫教錯舉

頌達磨大師示門人得皮得髓公案云

四維上下絕遮欄　湧出水壺印碧天
無孔笛中藏六律　一聲驚起釣魚船

出《寶訓》

宋金山堅禪師

乃淨因法成禪師法嗣青原下十四世傳曹洞宗

宋曉常禪師

乃智海平禪師法嗣南嶽下十五世傳臨濟宗

宋金山一禪師

乃泐潭清禪師法嗣南嶽下十五世傳臨濟宗

宋圜悟勤禪師

乃五祖演禪師法嗣南嶽下十五世傳臨濟正宗

住金山師在高乾明受勅陞座大道無背面機有卷舒撮大地如陶家輪運大千向針鋒上猶未是寰中正令閫外全威所以萬國仰瞻同歸舜日靈光一道共照皇家重興佛祖道場追還普天寶所正令全提主賓同用山僧今日得奉一人聖詔傍資宰輔威權共建法幢竪立宗旨楊子江心滔天輥浪妙峰孤頂舒卷閒雲是處著眼不前頂[寧*頁]正令全現若是個同得同用同殺同活底共一眼見共一耳聞同一口宣同一音演更無異緣亦無異見說什麼九十六種二十五有正要當頭辨取一時列在下風且如今日應時應節事作麼生道一句迥超今古格萬年仰祝聖明天上堂僧問遠辭帝闕已届南徐不涉程途請師垂示師云到此已六日進云竹密不妨流水過山高豈礙白雲飛師云猶涉唇吻在進云不涉唇吻請師道師云高高處有餘進云衲僧家入林不動草入水不動波且以何為證師云猶較些子進云只許老胡知不許老胡會師云且莫詐明頭師乃云三十年前曾到此如今樓閣碧參差善財叅處消息誰識德雲間古錐還有識得底麼未渡瓜洲時有一句子已與諸人道了也若以心思若以意識若以眼見若以耳聞則沒交涉直得七佛已前威音那畔薦得猶是話會在若委悉得更不用如之若何便請丹霄獨步苟或未然不免落第二義門去也江心一峯樓臺相映水面雙塔金碧交輝誠聖帝福田乃禪林上剎為琳宮為佛宇為淨土為穢邦建立法幢弘荷祖道若非今上皇帝睿聖文明信此道安能首降詔書復此寶坊以為福地如今所以與諸人向此古道場中各得相見到者裏直須念德修德知恩報恩若也如此則佛法付囑有在正當恁麼時一句作麼生道銀山鐵壁無回互草偃風行得自由開堂判府延康度疏與師師接了云斷盡現成公案擲地金聲發明古剎家風耀天光彩出自大手筆顯示最上乘正欲四海普聞便請僧正宣過

指法座云須彌燈王如來見居此座放大光明說法了也還聞麼苟或未聞爾當爐不避火更須撥轉上頭關遂陞座拈香云此一瓣香奉為今上皇帝祝嚴聖壽恭願文明齊二曜睿等等乾坤奪少康得禹迹之功成宣光與漢室之業萬邦歸聖化八表偃干戈此一瓣香奉為判府安撫延康通判學士闔郡文武官僚伏願位隆盤石功濟維城居方面則魯衛晉齊陟巖廊則皐夔稷卨此一瓣香佛眼也覷不見江淮十載受盡辛勤一旦白雲打破

漆桶六處忝領大剎七回拈出此香奉為蘄州五祖山慧禪院第十二代演禪師以酬法乳遂斂衣陞座焦山和尚白槌云法筵龍象眾當觀第一義師乃云適來未陞此座第一義已自現成如今槌下分疎知他是第幾義也還有打成一片解觀得底麼試出未對眾舉看僧問目視雲漢德雲不下玅高峯至化難逃金山且通一線路報恩一句請和尚道師云萬年長祝聖明君進云可謂帝力丘山重君恩宇宙寬師云愈令心似鐵進云金枝永茂千年秀玉葉長芳萬古春師云又得闍黎其證明進云昔日裴相公入寺石霜借笏垂慈今日台旆親臨未審如何相見師云只了個見成公案進云瑞氣直從天上降祥雲元自日邊來師云高著眼進云只如和尚六處開堂為人說法還有人相肯也無師云一時不肯進云為什麼不肯師云獨許師乃云大道絕中邊至離言說諸佛莫能提祖師莫能傳透聲透色絕遮欄蓋地蓋天無向背豈止棒頭取證喝下承當直饒千眼頓開未免依草附木到者裏要須是針劄不入風吹不倒把斷要津不通凡聖底始得是故靈山會上廣額屠兒放下屠刀云我是千佛一數大集會中大刀魔王云待一切眾生盡皆成佛了然後發菩提心豈不是龍象蹴踏師子嚬呻敵勝驚群蘊大丈夫意氣始可承當擔荷所以道殺人不眨眼底立地成佛立地成佛底殺人不眨眼還他過量人提持過量智發明過量機展演過量用正當恁麼時向過量境界中作麼生道還知麼仰祝聖君無量壽河清海晏樂昇平

宋了心禪師

乃雪峰慧禪師法嗣南嶽下十四世傳臨濟宗

上堂佛之一字孰云無木馬泥牛滿道途倚遍欄干春色晚海風吹斷碧珊瑚還有同聲相應同氣相求者麼百鳥不來樓閣閉祇聞夜雨滴芭蕉

宋退菴道奇禪師

乃徑山別峯印禪師法嗣南嶽下十八世傳臨濟宗

僧問雪峯曰望州亭與汝相見了也意旨如何師曰左眼半斤曰烏石嶺與汝相見了也作麼生師曰右眼八兩曰僧堂前與汝相見了也又且如何師曰鼻孔大頭向下曰只如鵝湖驟步入方丈保福入僧堂此意又作麼生師曰水向石邊流去冷風從花裏過來香

上堂此段大事無處不周新焦山未離東霞時已與諸人相見了也且道相見底事作麼生幾多頭角成龍去蝦蟹依前努眼睛上堂至道本乎無心心法本乎無住心體靈知不昧性相寂然所以道吾打鼓四大部州同參拄杖橫也挑斡乾坤大地盆盂展也覆却恆河沙界到者裏象王行處狐兔絕踪水月現時風雲自異古今收不得歷刼不知名千聖立下風誰敢當頭道咄我王庫內無如是刀

宋蓬菴自聞永聰禪師

乃徑山別峯印禪師法嗣南嶽下十八世傳臨濟宗

杭於潛徐氏子幼依本邑東資福出家十五從父遊徑山慕別峯機辯驚拔白父願學焉峯器之育王天童當灺菴密菴全盛時師往來兩公間十餘年後遊閩越江東西湖南北凡遇各流反覆博約雍容盡底蘊乃已出世台州淨慧徙金陵保寧蔣山轉金山終焉壽六十五臘五十七

宋掩室善開禪師

乃靈隱嶽禪師法嗣南嶽下十九世傳臨濟宗

上堂舉蜜菴破沙盆話頌曰

法眼拈來早自瞞　無端錯對破沙盆
而今徧界難遮掩　殃害叢林及子孫

宋虛舟普度禪師

乃華藏通禪師法嗣南嶽下二十世傳臨濟宗

上堂邪人說正法正法悉皆邪正人說邪法邪法悉皆正卓拄杖一下邪耶正耶又卓一下說耶不說耶向者裏揀辯得出黃金為屋未為貴玉食錦衣何足榮上堂萬法是心光緒緣惟性曉本無迷悟人只要今日了無迷悟了個什麼卓拄杖一下千言萬語無人會又逐流鶯過短墻

元訥堂辯禪師

乃雲巢巖禪師法嗣南嶽下二十世傳臨濟宗

上堂舉僧問古德萬境來侵時如何德曰坐卻著古德有障斷狂瀾底手段未免勞心費力設有人問金山萬境來侵時如何只向他道我無心于萬物何妨萬物常圍繞上堂我若與你說破將後必須罵我我若不與你說破又恐你因循蹉過忽有個漢出來道長老話墮了也只向他道老僧罪過

元性原慧朗禪師

乃徑山元叟端禪師法嗣南嶽下二十一世傳臨濟宗

浴佛上堂舉藥山儼禪師因遵布衲作殿主浴佛次山曰汝秖浴得者個還浴得那箇麼遵曰把將那箇來山便休去師曰者一箇那一箇一一從

頭都浴過藥山布衲謾商量仔細看來成話墮成話墮轉諸譌拍禪牀武林春已老臺榭綠陰多佛誕上堂舉世尊纔生下一手指天一手指地周行七步目顧四方曰天上天下惟我獨尊成大人相不是小兒嬉雲門曰我當時若見一棒打殺與狗子喫貴圖天下太平要作老胡種族直須恁麼始得法昌曰好一棒太遲生未離兜率脚跟下好與一錐豈到今日雖然如是賊過後張弓將謂胡鬚赤更有赤胡鬚黃面老子固是未上賣俏似乎傍若無人雲門法昌雖則見義勇為爭奈箭去久矣爾方刻舟以拄杖畫一畫召曰還會麼一把柳絲收不得和烟搭在玉欄干

上堂今朝閏五月初一依舊日從東畔出衲僧箇箇解知音短咏長吟皆中律梅雨晴樹陰蜜林下優游何得失無位真人赤肉團等閒靠倒維摩詰佛涅槃日上堂涅槃生死等是空華佛及生皆為剩語諸人到者裏作麼生會良久拍禪牀曰但見落花隨水去不知流出洞中春

浴佛上堂舉香嚴和尚云去年貧未是貧今年貧始是貧去年猶有卓錐之地今年貧錐也無中忽有個漢出來問長老錯了也今朝四月八是佛生日如何舉此公案山僧只對道住持事煩下座師始至經畫大雄寶殿僅一載落成巘然山峙師室中垂語曰蓮華峰被虻蚜食卻半邊因甚麼不知又曰冷泉亭吞卻壑雷亭不問南高峰與北高峰闢額是第幾機罕有契之者示滅于洪武十九年六月二十三日壽六十九夏五十

元金山心海禪師

乃笑隱訢禪師法嗣南嶽下第二十一世傳臨濟宗

元惠明禪師

乃元叟端禪師法嗣南嶽下二十一世傳臨濟宗

明慈舟濟禪師

乃高仰友禪師法嗣南嶽下二十五世傳臨濟宗

西竺作禮曰某甲拏得賊來請和尚决斷師曰贓在甚麼處竺拍案一下師往復徵詰復曰諸佛不說列祖不傳除却搖唇鼓舌瞋目揚眉還我到家一句來竺默然師曰去聖時遙尚有此子善自護持

明箬菴問禪師

乃天隱修禪師法嗣，南嶽下三十五世傳臨濟宗師。

在竹林受請陞座，宗乘一唱，三藏絕詮。亘古亘今，輪槌不動。風行草偃，木到渠成。自然時節因緣，滿目全彰殊勝。同殺同活同縱同奪，同照同用同主同賓。提持向上玄猷，共展衲僧巴鼻。有意氣時添意氣，增些子不得；得風流處且風流，減些子不得。減不得處增些子，增不得處減些子。便見法隨法行，法幢隨處建立，如肓龜木，如香象渡河。波浪滔天全身出沒，截流而過滓淺隨。楊子江心揚化日，玅高峯頂露鋮錐，何曾畧假外求，只在竿頭進步。正當恁麼時，兵隨印轉將逐符行，節拍相資作麼生道，九萬里鵬纔展翼，三千年鶴便翔。復偈云：

滿院竹風關不住　一聲長笛到江聞
弘恢佛祖機前令　偏向洪波浪裏行

上堂云神龍窟宅古佛名藍我二十世圜悟禪師重開正覺之場十八高人打失鼻孔眼睛一回徹證之地洵江南之巨剎誠衲子之寶坊不勞彈指樓閣門開無所希求風雲際會據此位者顯示不言正令導此機者激揚向上宗乘明如杲日皎若大虛一語歸宗千差坐斷回千百年倒之瀾挽今時世已隳之轍直得臨濟有喝倒退三千德山有棒無敢動着抹過建化門裂破囫圇句風高浪湧水沸波騰正當恁麼時且妙高已到寶所親登剎影高揚誰遭毒手擘開華嶽連天色放出波濤動地雷

復舉三聖開堂云我逢人出出不為人興化云我逢人不出出便為人師云綱宗在握正令當行照用全提拳踢相應三聖興化是他臨濟的子方敢向人天前激揚個事山僧要將二大老肝膽一時揭露擲向人前莫有辨得者麼有不犯之威乃能樹起屍之德有不言之化始可成歃血之功太平只用垂裳治建土分疆列下風復白槌云諦觀法王法法王法如是下座

當晚小叅師云機不到處萬境摠然境不留時一機獨現機境互用人法雙彰機境俱泯衲僧向甚麼處出氣者裏着得隻眼人人常光現前個個壁立萬仞所謂據虎頭收虎尾第一句下明宗旨你面前無我我面前無你得路路過橋拔橋騎賊馬捉賊刀萬人叢裏揭高標者回不是虛相識眨眼流沙萬里遙卓拄杖

復舉當山達觀曇穎禪師僧問如何是長法身觀云拄杖六尺僧云如何是短法身觀云算子三寸僧云恁麼則法身有二也觀云更有方圓在師云古人一期施設可謂四稜蹋地仔細撿點將來也是隨他語脉展演設或有人問山僧如何是長法身拄杖六尺如何是短法身劈脊便打恁麼則法身有二也擲拄杖云兵隨印轉將逐符行且道與古人是同是別更聽一頌

萬叠長江浪裏遊　月隨漁父上扁舟
釣竿收放憑吾手　不計工程得便休

顧左右云珍重

上堂師云一雨普潤三草二木低低處平之有餘(高高)處觀之不足天左旋地右轉牛頭沒馬頭回一舉四十九陽春律起灰五鳳樓前聽玉漏七金山上布雲雷喝一喝

示舉張天覺金山偈云

龍伯狂夫不自閒　竿如天柱餌如山
六鰲上釣群峰碎　一片巉巖落世間

師云過量人有過量語金山面目葢古葢今被天覺居士道破山僧不圖別展家風貴要大家知有聊為續和樓閣門開竟日閒善財南岸盡青山不須香餌和鈎擲但肯回頭到此間

晚叅舉佛印了元禪師一日與叅徒入室適東坡居士到印云此間無坐榻居士來此作甚麼士云暫借佛印四大為坐榻印云山僧有一問居士若道得請坐若道不得輸下腰間玉帶士欣然云便請印云秖如山僧四大本空五蘊非有居士向甚麼處坐士不能荅遂留玉帶印却贈以雲山衲衣師云作家爐鞴殺活全施明眼高人隱顯互用佛印可謂作家東坡不妨明眼若也死了活不得活了死不得不惟不能與古人增色要且自救未得了在山僧不惜眇毛為諸人判斷佛印與叅徒入室魔宮虎穴任縱橫適東坡居士到蹄踏蹄嘴對嘴印云此間無坐榻居士來此作甚麼見兔放鷹不為分外士云暫借佛印四大為坐榻騎賊馬殺賊印云山僧有一問居士若道不得輸下腰間玉帶劍刃上橫身士欣然云便請虎口裏奪食印云山僧四大本空五蘊非有居士向什麼處坐鐵裹泥團錦包特石士却不能荅遂留玉帶荊棘林中擲蒺藜印却贈以雲山衲衣若非佛印了元洎被東坡摧折一上山僧恁麼判斷還有節拍唱酧者麼若唱酧得金山大開方丈與諸人相見去也江漲雲高浪湧雷一波纔動萬波隨幸然玉帶山門在暮雨橫衝鴈影歸

明頂目徹禪師

乃三峰藏禪師法嗣南嶽下三十六世傳臨濟宗

上堂舉圜悟勤禪師為金山住持宋高宗皇帝適幸維揚詔師入對行在上曰朕素知師道高妙可得聞乎(師云若非圜悟老祖誰當此問)悟曰陛下以仁孝治天下率土生靈咸被光澤雖昆蟲草木各得其所此佛祖所傳之心此心之外無別有心若別有心非佛祖心矣(師云一句當天八萬門永絕生死)帝大悅賜號圜悟(師云作家君王天然有在)師云這個公案仔細看來如獅子之翻擲和身觔斗縱象王之(威猛)安然穩步如今適有人問師道高妙可

得聞乎乃大喝復云當時圜悟老祖下得這一喝免得說心說性葛藤註解大還會麼不會且置即今開堂祝聖一句作麼道仁藹乾坤知聖德壽齊日月永皇圖卓拄杖下座

明問石乘禪師

乃三峰藏禪師法嗣南嶽下三十六世傳臨濟宗

清鐵舟海禪師

乃南澗問禪師法嗣南嶽下三十六世傳臨濟正宗

於順治戊戌十一月初一日繼席開堂師陞座中輪首座出問登獅子座發海潮音祖令當行如何舉示師云一會儼然進云一花現瑞靈山後五葉芬芳徧界馨隆釋種必紹門風臨濟料揀還許學人請益也無師云逐一問將來進云紫嶂峰高迷古徑碧巖花下見芝翁如何是奪人不奪境師云滿目是風光進云春潮帶雨晚來急野渡無人舟自橫如何是奪境不奪人師云遶座聽雷音進云橋上馬蹄敲雪水歌橫山背牧牛人如何是人境兩俱奪師云退後退後進云白雲盡處是青山行人更在青山外如何是人境俱不奪師云進前來答汝話進云人境蒙師親指示普利群機一句作麼生師云鐘鼓一齊鳴進云若然鐵甕城邊垂雨露金山頂上起風雷師云恰被闍黎道著進云有意氣時添意氣不風流處也風流師便打師乃卓拄杖云峰頭坐斷千江水浪裏橫衝八面威四海五湖歸化域到來須識此中機若識其機急須破的苟能破的一任橫行設有窮諸玄辯竭世樞機億千問難不經一拶說甚人人有通天活路個個有畫地奇猷假若智如鶖子慧似滿慈不透上頭關也是餿飯泥茶爐臨濟三玄三要曹洞五位君臣雲門一字關仰法眼圓相六義總係岐分絲染令人特地生愁撥轉上頭關擲翻華藏海頓超凡聖裂破古今事是恁麼事人須恁麼人須知百千沙界境現前億萬殊途同歸一致且道全主全賓能殺能活踏破化城親登樓閣一句合作麼生千峰勢到嶽邊止萬派聲歸海上消

復舉當山達觀曇穎禪師一日陞座方集定有僧出禮拜穎云欲識佛性義當觀時節因緣僧問如何是時節因緣穎便下座師云者僧奮步龍門秖望明珠入手穎祖孟嘗賢主豈負天下來賓雖則兩不相虧誠恐迷封滯殼設或問海上座如何是時節因緣以拄杖劈脊便打不惟壁立萬仞亦俾此僧後來有出身活路結座云諦觀法王法法王法如是下座

當晚小叅遠山潑黛近水描青綠氣生烟紅霞開旭亭臺燦白玉之光樓閣映赤珠之色人與境會事得理融方能建法幢於水國殿中始可德林於江心淨土須彌非大浮玉非小渤海非寬涔蹄非窄同此依正同此身心同此行願同此福利正當與麼時不離人境一句合作麼生擊拂子一下

性明菴主率檀信請上堂問浮幢名勝海內奇觀紫雲葢覆寶座增輝普施法語請師舉示師云萬古長川進云如何是金山境師云僧歸夜船月進云如何是境中人師云龍出曉堂雲進云人境相去幾何師驀呈拄杖進云人境不立又作麼生師云也知你在此躲跟進云恁麼則妙高臺上千秋月中冷一滴萬年清師云點點不在別處乃舉白雲端祖舉雪竇道偶續靈峰炤夜燈遽泛鐵船下滄海承天此者也隨例泛一隻鐵船文殊普賢為招頭把柁觀音摩詰為打篙搖櫓承天秖管坐地看揚州然如是且道將甚麼報答諸人良久云誰知遠烟浪別有好思量師云金山者裏則不然雖有一隻鐵船也不用文殊普賢招頭把柁也不用觀音摩詰打篙搖櫓有時撐過江南有時放過江北通身泥水滿面風霜為甚如此只要諸人親到者裏且道到者裏後如何有時乘好月隨我過滄洲敢問諸人山僧道底與端祖道底是同是別具眼者辨取

舉當山十六代圜悟勤祖上堂云月圓月望月旦月朔斬釘截鐵堆山積嶽小乘錢貫大乘井索有漏芃籬無漏木杓定龍蛇句全殺活散向諸方任貶剝叅師云依稀似曲纔堪聽又被風吹別調中

江陵天隆監院東旭率蘇息吾居士等供法衣請上堂問大庾嶺頭提不起豈從雞足付將來和尚法服從何處得來師云急著眼覷進云靈山一會儼然猶在師云止止不須說進云大千俱捏聚祖令正當行師云可知禮也進云恁麼則知恩有地師云箚問文殊普賢昨夜起佛見法見貶向二鐵圍山且道是神通妙用法爾如然師云見義不為無勇也進云鴛鴦繡出從君看不把金針度與人師云衲子難瞞進云玲瓏巧石開心眼冷地廻波看主人師拈拄杖僧便喝師亦喝僧擬進語師便打乃云十五日已前無風起浪十五日已後浪靜風恬正當十五日道泰時清林泉樂業雖然如是太平本是將軍致不許將軍見太平

復舉阿難尊者問迦葉師兄世尊傳金縷袈裟之外更傳甚麼葉召阿難阿難應諾葉云倒卻門前剎竿著師云二尊者恁麼問答雖則有賓有主有照有用爭奈行海放不過在脫或有人問山僧世尊傳金縷袈裟之外更傳甚麼但提起袈裟角云定光金地遙招手智者江陵暗點頭

清天笠珍禪師

嗣箬庵問南嶽下三十六世傳臨濟宗

示眾舉宋時本山達觀穎禪師首參太陽元便問洞山特設偏正君臣明甚麼邊事陽云明父母未生時事穎云如何體會陽云夜半正明天曉不露後參谷隱舉前話復問如何是父母未生時事隱云糞墊子又問夜半正明天曉不露又作麼生隱云牡丹花下睡貓兒便悟去達觀挑得一擔懞懂換了一擔瞞頇谷隱錯下名言要會父母未生時事三生六十刼金山則不然若有問父母未生時事向道牛頭馬面夜半正明天曉不露又如何荅云

芳草碧嘶韓幹馬綠楊影擊戴嵩牛恁麼答話不惟使十八高人當下瞥地直使現前大一箇箇如龍得水去也設或佇思都被牛頭馬面吞却

示要叅臨濟禪莫將問來問你若胸中纔有個問老漢若有一句答你只明得賓中賓未識賓中主在直饒問在答處答在問處只明得個賓中主未識主中賓在直饒答不在問處問不在答處只明得個主中賓未識主中主在要識主中主麼未上船舷先喫棒隔江招手去還遲

示舉應庵老祖道蜻蜓許是好蜻蜓飛來飛去不暫停被我捉來摘却兩片翼却似一枚大鐵釘老祖慣用者隻鐵釘釘瞎諸佛諸祖師天下羣生眼睛今晚落在金山手裏不免拘直作曲拋向郭璞墓前還有人收拾得者麼驀豎竹篦云負命者上釣來

晚叅掀翻海嶽撥轉乾坤須是沒量大人始得若也佇思停機且緩緩著德山入門便棒家肥生孝子臨濟入門便喝禮義出豐年金山者裏不行棒不行喝凡有來者但舉拂子云者是曹家女未甚嫁了白拈賊擬議趁出且道還有為人處麼但能莫觸當今諱臨濟德山俱赧顏

清香林淨禪師

嗣鐵舟海南嶽下三十七世傳臨濟宗

掛寺額上堂怒猊頒賜九重天渴驥奔嘶中泠泉浩蕩恩波霑帝澤仰祝皇圖億萬年輝煌金剎昂霄迥鬱秀琳宮湧翠連香惹御爐花欲濕山留宸翰日長懸於斯長也風恬浪靜海晏河清萬邦寧謐八表歸仁且道林下臣僧如何恭謝捧拂嵩呼云日月光天德山河壯帝畿聖明何以報願上萬年書

頌德山托缽

遇著出門風色惡　狂濤浩浩打頭來
轉篷直入蘆灣泊　釣罷月明滿載回

頌夾山叅船子

竹林不出奈他何　及到秀州鼓碧波
釣得錦鱗歸去後　清風月映至今多

清法乳樂禪師

乃鐵舟海禪師法嗣南嶽下三十七世傳臨濟宗

佛誕日海將軍董大護法請上堂師拈香祝慶畢舉世尊初生一手指天一手指地周行七步目顧四方天上天下惟我獨尊雲門云我當時若見一棒打殺與狗子喫貴圖天下太平瞿曇傍若無人不知正是嚼飯餧嬰兒韶陽雖則正眼流通未免傷鋒犯手怎似董大將軍不施一刃不展一旗能令河清海晏國泰民安且道得何三昧坐致太平如此一點丹衷如曉日高懸宇宙照江天

丁丑元旦諷誦欽賜御筆石刻金剛經上堂拈香祝聖畢遂舉起經云此是釋迦老子於祇樹園中說不盡底細大法門數千年後復從當今至尊筆尖上流出欽賜江天永遠供奉幸元旦良辰特命四海高流焚香誦一言一句皆從一毛頭上放大寶光徧照百千萬億世界內國王王子百官緇素乃至情與無情一切倉靈同明船若正因其證金剛三昧以此無量無邊功德慶祝聖壽無疆萬民樂業風烟永息天下太平金輪與法輪共轉舜日並佛日同輝秖如般若云若以色見我以音聲求我是人行邪道不能見如來畢竟是阿那個如來又作怎生見良久云千祥共祝金鑾下萬國來朝賀聖君下座

康熙己卯年四月十八日聖駕南巡三幸金山至五月初一回鑾直郡王設齋謝恩　上堂僧問幸逢三次駕親臨泉石增輝萬類欣惠澤[鼖-鼓+大][鼖-鼓+大]彌宇宙師將何法報皇恩師卓拄杖進云寫出琅函來水國鑄來寶像鎮金鼇如何是光大法門句師云杲日麗中天進云處處昇平歌舜日家家咸若戴堯年如何是黎民樂業句師云含哺鼓腹進云九重雨露九州溢萬里江山萬世清師云也須與麼道問薰風解慍南巡日林下相逢事若何師云一人有慶進云棒頭點出金剛眼麈尾揮開淨法身如何是淨身師呈拄杖云見麼進云如何是金剛眼師打云放過則不可進云江天萬古傳心印弘振祖風滿大千師云站過一邊問賓主交叅不問君臣五位請師宣師云逐一問將來進云如何是君師良久進云如何是臣師云開口落二三進云如何是臣向君師云禮拜了退進云如何君視臣師云識得你進云如何是君臣道合師云大家在者裏進云五位君臣蒙指示祝延一句作麼生師云天長地久日月齊明乃云佛祖大法周遍乾坤在天同天在人同人示現國王王子文武羣臣權衡造化際會風雲堯天蕩蕩舜日欣欣撫萬民如赤子視三寶若家親幸山敕寺賜帑題名江天生色祖席增榮如此洪恩將何報答揮拂子云金鼇背上栴檀繞願祝吾皇億萬春

己卯四月十九日皇上駐蹕金山面奏準磬山修祖語錄入藏至庚辰正月初九日內織造曹公兼署江南江西總督陶公委江寧理事同知賁江寧縣陳同送版入南藏上堂皇圖鞏固帝道遐昌佛日增輝法輪常轉以拄杖指錄版云汝等諸人還見麼佛心天子絲綸布磬室宗風萬古傳下座遂送入大報恩寺大藏殿

庚辰二月二十二日進　京謝恩至三月二十四日辭駕出京皇上手賜菩提葉帽回山上堂非俗非僧一老翁天冠高頂金峯有人若問酧恩句

杲日騰輝萬象中喝一喝

佛成道日江寧織造府曹大護法設齋請上堂僧問文殊是七佛之師因甚出女子定不得師云為汝不[口*留]進云罔明出得意旨如何師云一犬吠虛進云佛與生同一鼻孔出氣因甚有出得出不得師卓拄杖云百雜碎乃舉楚石奇禪師上堂云如來明星現時成道且道半夜裏瞌睡的還見明星麼非惟半夜裏瞌睡的不見明星縱繞不瞌睡的向明星下走過千遍萬遍秖恐瞌睡猶未惺在畢竟惺後如何年年有個臘月八滿天星斗挂梅梢或有傍不甘的出來道秖如卒風暴雨明星在甚麼處但云若向織造府前躲避時自有沒量大人為汝指示便下座

示破一為三攝三歸一識得一生死畢會得三透祖關祖關透頂門隻眼明如晝生死畢裂石之機似箭劈碎却三拈却一新婦騎驢阿家牽等閒踏破蒼龍窟咄

清河達杰禪師

乃鐵舟海禪師法嗣南嶽下三十七世傳臨濟宗

示云無多寡貴在真純道絕功勳惟期透徹栴檀林幸無雜樹如意寶不類他珍孤峯百尺翠摩天洪浪千層寒潑面面面洞彰刼初消息明明顯示古佛真機果能一笑知歸便見心空及第顧左右云相期共作中流柱奮志追還上古風

結制上堂浮玉峯頭爐韝開些兒火種自埋乘時引發金剛燄璞玉混金輥作堆猛烈士全機拶入伶俐漢點著便回髑髏門正眼黑豆爆寒灰疑團驀拶虛空碎赫赫紅輪遍九垓

解制上堂把斷要津佛祖無趨承之路放開線道人天有相見之期時逢臘盡春回道在心融境寂處處風光溢目塵塵條令斬新草鞋尖踢出百千祖師拄杖頭撥轉洹沙諸佛切忌循途守轍直須就路還家饒伊剔起便行何似從空放下儂家不管興亡事盡日和雲占洞庭

萬壽節鎮海將軍馬　欽命織造曹副都統(崔黃)諸大護法率同八旗四營請上堂拈香祝聖畢云江心瑤島碧崔嵬丹闕珠樓向曉開遙望天庭申祝頌一爐香散妙高臺歡騰海宇春滿寰區為九霄瑞應之辰實萬國光華之旦冠裳普會同傾葵藿之心法象欲陳共祝同陵之算景星耀而泰堦平化日舒而卿雲集龜龍麟鳳並萃瑞徵蠻貊萇夷咸臻壽域雲中野衲化外逸民荷殊恩特輸誠悃豎拂云仰祝聖君無量壽萬年松上一枝藤下座

天使賚人參瓜果諸珍至謝恩畢陞座異味奇珍色色鮮恩膏頒自九重天微軀愧難圖報直使心同鐵石堅海外殊珍上林嘉味聖君頒賜天使賚來歡聲動江國春雷惠澤沛九天湛露隆恩異數揣分踰涯草野之臣若為秖受良久云惟憑一縷栴檀氣仰祝　仁皇壽萬年

小叅黑月白月作無殊別生魄死魄妄生卜度空外無雲眼中离膜玉鑒光寒氷輪影落驀竪拂子云仙桂高攀正斯時廣寒宮殿無關鑰

晚叅三拜得體一笑印心圓相著點缽木投針袖頭打領掖下剜襟速則易改久則病選佛若無宗正眼真風那得到於今

清量聞銓禪師

嗣法乳樂南嶽下三十八世傳臨濟宗

師在金陵蔣山香林寺受請陞座有負垂天之翼方能搏萬里長風具截眾流之機乃可破千層巨浪山僧一句晏坐鍾山目視雲漢上無攀仰下絕已躬直饒千聖到來敢保鉗口結舌不意祖庭虛位使命徵行然回避無門只得一肩擔荷所以道人行履無固無必有時向十字街頭垂手却在孤峯頂上興慈有時向孤峯頂上興慈却在十字街頭垂手須是過量人方行過量事今聲和響順正當換步移身貴圖正眼流通那顧拖泥帶水且符到奉行一句作麼生道自信平生有仙骨好風吹上妙高臺下座

入院上堂僧問金陵豎起剎竿楊子江心垂釣闡揚石磬宗風發宗佛祖心髓如何是開堂聖底一句師云地久天長進云恁麼則皇風與宗風並扇佛日與舜日齊明師云道得恰好進云全憑補衮調羹手撥轉如來正法輪如何是砥柱中流句師云御碑亭子立青霄進云德山用棒臨濟用喝未審新江天用個什麼師豎拂子云唯此一事實進云作家宗師天然猶在師云莫來塗污進云大抵還他肌骨好不擦紅粉也風流師便打問一毫端上現寶王剎坐微塵裡轉大法輪此是和尚尋常作畧未審新主江天如何施設師云斬釘截鐵進云登先人之堂入先人之室如何是入室句師云識法者懼進云據先人之座行先人條令未審作麼生行師云點水滴氷進云掀翻海嶽求知己只如知己到來作麼生接待師云侍者點杯茶來進云謝師厚疑師云三十年後此語大行問金鐘纔扣人天普集靈山會上何似今日師云今之古之進云大振宗風不問公案重新事若何師云昨日陰今日晴進云楊子江中輝化日妙高峯頂鼓雲雷師云瞻仰有分乃云壁立孤峯千山稽首潑天門戶萬派朝宗揭示摩醯正眼提持向上弘規拈一機則羣機頓赴示一法則萬法週圓明如杲日濶若太虛大用天旋不存軌則揮金剛利劍勦絕聖凡之窠臼用格外鉗錘斷送衲子之命根古佛家風再展大人境界全彰直得楊子江心風恬浪靜妙高峯霧散雲收日月爭輝乾坤朗耀堪報不報之恩共助無為之化正恁麼時祝延聖壽翊贊　皇猷一句作麼生道遂躬身云金輪統御三千界寶祚綿延億萬年

闔山耆舊師設齋請上堂云太虛無向背大道沒邊中至理絕言詮大公忘彼此若是沒量大人開山僧與麼道不用如何若何正好一肩擔荷直下如天普蓋如地普擎如日普照如風普扇蕩蕩乎廓週沙界塵塵爾充塞十虛無所希求風雲際合不消彈指樓閣門開古佛家風依然猶在祖師法

印妙用全提到者裏自然高超物表獨步大方任運陞騰隨緣自在正恁麼時畢竟功歸何所但願皇風成一片莫教建土列封疆下座

元旦上堂師拈香祝　聖畢新日新年新主人舊山舊水舊叢林彌天瑞氣繽紛落共祝吾皇億萬春下座

移新方丈小叅古人道若得一回汗出一莖草上可以現瓊樓玉殿其或未然縱有瓊樓玉殿却被一莖草蓋覆辯金鍮別玉石不無古人揀點將來大似徐六擔板話作兩橛江天者裏折東籬補西壁拾短從長開方便示真實平高就下且道為甚如此雖然舊閣間田地一度贏來一度新下座

示眾金鰲峯頂玉樓臺面面軒　盡豁開欲問江天端的意波濤萬里自西來下座

聖節日海將軍馬副都統(崔黃)三大護法同設齋請上堂管本山防禦(張景)二護法引師陞座拈香祝聖畢僧問天垂寶蓋地湧金蓮一會靈山儼然未散如何是祝延　聖壽句師云庭前古栢叅天秀進云金輪永三千界聖德威嚴萬國尊如何是地久天長句師云巖畔青松插漢青進云縱有虛空廣長舌贊揚不盡聖明君如何是尊貴句師云垂衣拱手進云恁麼則日月光天德山河壯帝居師云慶遇一時問人天普集勳貴臨筵自他兩利不問君臣五位請師宣師云大哉問進云垂裳治世尊貴天然如何是君師云堯眉八彩進云保障萬方屏維四海如何是臣師云舜目重瞳進云身離鳳闕三千里心近龍顏十二時如何是臣向君師云將軍塞外絕烟塵進云天心常眷戀丹詔屢褒榮如何是君視臣師云王令已行天下遍進云佛心天下道念宰官如何是君臣道合師云驗在目前進云前問已蒙師指示今萬壽良辰如何慶讚師舉拂子云薦取者箇進云恁麼則華封三祝不獨唐堯師云確乃云瑞分剎土春滿寰區一人端拱無為萬物各得其所是以頂天立地感荷皇恩含齒戴髮均承帝力大眾還委悉麼今日乃我大清聖主皇帝陛下降誕之辰海將軍親率寮采恭集此山啟建萬壽無疆道場仍命山僧陞于此座舉揚大法用展丹葵直得日月星辰全彰妙明心印昆蟲草木咸沾殊勝恩光和風匝地花雨彌空福蔭南天慶集北闕林下道人無由報答僅成一偈畧表微忱

海天空濶妙峯高　玉殿瓊樓聳碧霄
羅列香花陳妙膳　嵩呼萬壽祝皇堯

結椎下座

千秋節啟建師拈香祝延畢乃云五月天中節儲君隆誕辰福流千界月慶集一人身林下潛修士焚香演梵音願消黎庶三灾刼睿算彌隆億萬春

晚叅師卓拄杖云上通下徹地轉天旋繞門綠水隔岸青山經行及坐卧常在于其間雖然善財叅後誰相訪樓閣門開竟日閒下座

晚叅舉同安否禪師因僧問如何是和尚家風安云金鷄抱卵離霄漢玉兔懷胎入紫微僧云忽遇客來如何抵待安云金菓早朝猿摘去玉華晚後鳳銜來師云絲來線去玉轉珠回偏正相承惟明尊貴此是同安老漢為人處金山則不然或問如何是和尚家風但云得人一牛還人一馬忽遇客來如何抵待向道我不敢輕於汝等汝等皆當作佛

記

重建水陸堂記

宋曾子固撰

慶曆八年潤之金山寺火明年寺之僧瑞新來治寺事某月擇山之陽亢爽之地勸州之人某氏為水陸堂積錢之數百三十萬積日之數若干而成夫金山之以觀遊之美取勝於天下非獨據江瞰海並楚之衝而演吳之要也葢其浮江之檻負崖之屋椽摩棟竭環山而四出亦有以夸天下者則天下之東馳而莫不顧慕者豈特一山之好哉而其作之完葢非一人一日之力及火余固嗟夫嘗得與時之君子者遊而縱夫余心之所樂焉至于今未久也則聞夫山之穹堂奥殿環傑之觀滋起矣此非佛之法足以動天下葢新者余嘗與之從容彼其材且辨有以動人者故成此不難也夫廢于一時而後人不能更興者天下之事多如此至於更千百年委棄鬱塞而不得振行於天下者吾之道是也豈獨牽於勢哉葢學者之難得而天下之材不足也使如此寺之壞而有新之材一日之作軼於百年累世之迹則事廢者豈足憂而世之治可勝道哉新方以書告某氏之世善而其子某又業為士因以求予記堂之始故為之歷道其興壞之端而并予之所感者寓焉

重建佛殿記

宋洪邁撰

江自岷山而下歷巴夔湘楚包吞前沫橫漾浯流沱潛澧沔[日*(工/ㄅ)]金巨川數千百演迤橫放薄于朱方極沛以大然後東入于海舉天下之水莫盛此焉金焦兩山崒然天立乎中流皆有大蘭若岩嵓其上古記謂紫金浮玉者是矣浮玉處其左如幽人逸士巖棲谷隱恐入林之不密故航葦罕至而僧居觸事隨亦泯歇惟紫金超遙擅勝不復與同蕩然開闢八面應敵所謂江心一峰水面千里潭月雙暎雲天四垂能雄跨東南二百州如宸章所表揭者千颿下來萬客鱗萃魚龍之所憑怙人天之所賓悒古今推勝無得擬議寺舊名澤心天禧中宗皇帝感宵夢所抵更為龍游飛帛扁額

以賁方來室廬崢嶸槩與境稱遭罹魔劫鞠為燼墟中興以還視力開葺軍帥劉寶奮營大殿幾成而厄于火明年郡守韓及祖又嗣為之築于道謀旋蠹敗淳熙四年樞密沈公復出治慨然嘆曰吾行四方多矣未有如此剎者住山非本色人其可哉乃卑禮厚帛延金華蘊衷師于焦山俾主張是舍寂而居囂去安而煩人以為介介師不屑也徧行其彊悲智歎起自念己身逢此壞相亟倒空鉢囊先募捨前所未及一切趁新展前資以安耆舊抗塔院以壯瞻睹壽坊經室庖浴廂縈易翳為明寬潔敞靚江濱故址隘而不舒累石拓基堤護榆楊作屋二十四楹中建亭命曰烟雨奇觀游士戾止洗心儲清又捨法施為後人買田六十頃唯雄殿尊居役鉅費侈居之六年而後敢議擇廉謹僧入閩山伐木如約浮海歸命黿鼉而協謨節定星而揆日道充于內而跡彰于外其聲遠揚如谷應響施者惟恐不克豐其獻匠者惟恐不克其巧度為崇五十有五尺為廣七十有四尺縻錢六十萬閱四寒暑而成廓如穹如輪奐華奕卻顧城闕根塵聿清前瞻海潮法音如在吳頭楚尾莫之與京功甫訖師移錫錢塘靈隱邦人願有記使來謁當紹興之季戎馬飲江暴骨堆莽是時長老淨信誘化童隸收拾瘞藏予再奉使往來親見為之啟于太上被褒寵而僧徒二十人則予茲山疑若有宿因故書而不辭殿經於癸卯之孟夏成於乙巳之仲春而記於丁未之秋八月實有二十四日癸巳云

翰林學士洪邁撰淮東路總管吳踞題額住持淨全立石

萬壽閣記

元虞集撰

南徐古治限大江之堧受川之委東趁而將至于海也其浸汪洋以無涯其流舒肆而莫止拳然屹立中江以迎其衝者金山也山有佛祠始建于晉明帝時梁武帝著水陸齋儀親幸其寺至宋宗賜名龍游禪寺國朝至大己酉僧應深以天子之命主之兼[田/廾]以馬薛里吉思所據銀山東西二院且敕使者修水陸大會如梁之儀延祐至治間又兩敕建會如至大故事於是應深以辛酉之歲寺之右建大閣焉上嚴萬佛之像下肖羅漢之容為位五百後三年今上皇帝潛邸之日由江引舟而親登是閣壯其締搆雄偉而善深之為也出帑金成佛像千以贊之又三年皇帝登大寶建元天曆三遣使齎名香白金往祠之山祇波神魚躍龍舞幽顯咸若應感著焉至順元年秋應深來朝京師十月乙未入見上御奎章閣奉佛像以進上曰閣中萬佛已莊嚴乎對曰像具而未完以金也上曰朕悉為若成之出內府寶鈔五萬緡以賜之仍歸以羅漢莊陷江沙汰之田明日應深入謝曰臣僧請以萬佛祝萬壽願萬壽等萬佛上曰朕之崇佛豈私朕躬所願含生均被佛力

因名其閣曰萬壽又明日敕學士臣集勒文以記之臣集聞諸浮屠氏之說曰充乎法界一佛身也何有於萬及其化現至百千億恒河之沙析為微塵猶不能擬豈萬可言用像設教取數于圓以表也臣請喻之以言今我聖皇運至善大慈之心位乎億兆萬民之上一念慮之善一佛之全體也一號令之善一佛之大用也一日二日已具萬機至于歲時積善無數佛之言非萬可計然則聖天子萬施之施豈獨見于斯閣而已哉有生之類無間遠邇大小知上之念已也仰而望之一一如視涵上之恩惠焉辟如瞻日於天人各見日如日視已不知所見共一日也觀月於水人各見月如月視已不知所見同一月也散之諸有名之為萬歸之於無其實一佛也一佛萬佛也我聖天子一佛萬佛之所具乎一佛之壽已不勝計至萬佛其壽無量壽佛佛壽是故斯閣可得而名矣請書其事以諗諸來者而深之勒亦得繫於無窮焉

勅賜大藏經記

明王肯堂撰

皇上以孝治天下以天下孝養聖母而聖母慈聖宣文明肅皇太后以萬物得所為心不私其養每推服御之餘以為利濟事如藥餌橋梁之屬歲縻金錢不訾而尤加意于佛事增刻此方撰述未入大藏者四百一十卷出金繒摹印裝繕全藏以賜天下名藍及高僧所棲之處千箱遙遞郵傳不知豈非以三藏聖教奪群生三塗八難之苦而予以涅槃之樂尤為利濟之大者歟維茲金山峙大江中流鎖鑰南徐山川之氣不使隨波蕩散以為運道之咽喉舊京之門戶相傳其下為龍宮雷咆電激無風自波舟出其上者有戒心焉識者以為宜得竺乾氏之教之故名德多出世其間有宋盛時棒喝如雷龍象如雲為名叢林矣厥後法道陵夷宗風不振崇臺飛觀徒資遊眺伎樂殽醴跳踉紛拏寺僧不能禁或反以為利過者傷之有僧空滿從北方來結廬危巘下髮不薙足不履蕭散夷遠類有道者學徒景附始累甎石為重閣十年間鬱成精舍四方雲衲往來大江南北者始有駐足之地而滿躬筦鑰操作為行甚苦以愧世之安享利養者寺舊有賜藏殘闕不完滿乃與其徒如然至京師時天下乞藏者聞風蝟集所司厭之不敢以聞然猶內降香藥紫方袍賜滿以歸而如然獨留誓不得藏不已淪落長安中者五年肯堂時讀中秘書每馬上見之踽踽稠人中若有所失而求之者雖摧辱萬方不為動有識者咸謂滿業已受賜歸機會失必不可復得徒自苦耳雖譬曉百端不為止時刑部郎中吳捣謙嘗守江素敬禮滿見而憫之乃屬肯堂為題疏令資檀信具楮幣摹印不必仰煩宮掖而朝之大僚諸從官鑒其誠咸樂助之可得二百金于全藏費尚闕四之三肯堂且予告歸矣未幾有以金山賜藏且至告者肯堂未之信已有僧從山中來訊之果然乃為大喜過望蓋內侍周珣因內奏事牌子趙媛以聞聖母大嗟賞取二百金者以付內侍

張本益以金繒不月而就時緣海有警他藏悉尼不發而獨此附便差舟以南故若是其速也於乎非我聖母皇上弘法度生之心無微不通曷克臻此而匹夫一念之誠可以動天地詎不信夫昔眢山蘇氏記李氏藏書以謂前輩得書之難日夜誦讀惟恐不及今人得書之易宜所得倍蓰前人而皆束書不觀遊談無根為可怪夫寧獨世之學者而已彼學出世法者猶不能免焉禪莫盛于唐宋時而是時藏經傳寫不易猶未大行南渡以來雖有刻本得之艱甚及我祖以佛法輔儒教而行兩都並有刻而北藏尤精名山大剎賜本往往而是顧得法聞道者壹何尠也葢人情以得之難易為重輕誠有如蘇氏之所歎者今此藏始得之嘗難矣及夫誠達帝閽丹函綈褒如取諸寄而舊藏亦補綴畧完得無覩今之易忘昔之難矣乎夫人不幸而為世法所罥無論也業已棄父母妻子為佛弟子矣而亦束書遊談玩愒時日虛消信施余竊痛之苟能立為程課以此身心浸漬其中一念專六根俱聚寘昏沉掉舉了不可得則何誦讀之非禪定如讀楞嚴則思萬法無一堅固者何以為一切究竟堅固讀法華則思始敘將說法華已讚嘆法華無一語正說法華者所謂法華安在開卷皆疑也因大疑而得大悟則何教之非宗不然藉口前人語以一大藏教皆拭瘡膿紙而弁髦之無論聖母皇上弘法度生之心委諸草莽而法門之波旬此其人將如業報何學者其勗且戒哉如然以肯堂嘗經紀其事過而請記因述其末申之鄙意以為大勸

妙空岩記

明周忱撰

金山之東麓有岩焉[石*含]砑洞豁縱廣數丈許居其中可當屋四楹然其上崖嵼疊出有傾側之勢下則蔀石隱起作礧磈狀荒茅篁竹又蓁翳于其前故高人勝士不以為奇而蹤跡未嘗至前住山敏機聰上人作竹院退居于其旁已十餘載亦未之顧也宣德五年秋余至京口暇日過金山啜中泠泉陟妙高臺坐楞伽室進至絕頂倚吞海亭窮極勝覽然後退坐于上人之竹院始覩是岩謂其可以居也因俾上人營而治之後二月予復至焉則向之傾側于上者補以簷楹列窗戶而正向之礧磈于下者足以土石加甓甃而平矣其前之蓁翳者亦芟治而為徑路矣入其中几案床榻熏爐茗椀無不具矣徘徊瞻顧則岩之深與廣迥若有增于昔時因為名之曰妙空岩求駙馬都尉沐公為書三大字揭而扁之且告于上人曰茲岩空洞之妙出于天造地設自開闢以來然矣何其晦于昔而顯于今耶葢有賴乎上人之窗戶甓甃也窗戶甓甃非岩之本體而岩不能無賴之者非此則傾側者無由正礧磈者不得平終於蓁翳而妙空之體不足以表見也嗟乎一岩空洞之妙尚有賴于營治之力曾謂人之有身而可以頹墮委靡不事修飭乎佛家謂之定慧必由戒律而通於此亦可以取譬矣上人曰善請以是為

記使後來者知所警上人名善聰博學而嚴於戒律嘗與予同修中秘書余是以為之記云

金山遊記

明鄭懷魁撰

玉京縹緲向峴首以雲浮金界崚嶒聳澤心而岳立限大江於南北宛在水之中央靈山湧巨鼇之區瞿唐失如象之險上有瓊樓琳宇金碧曄以輝煌翠壁丹梯葱蒨紛其環合境超欲界望若仙居其下則有蛟龍之宮黿鼉之宅躨跼夭矯驚大鳴於洪鐘隱見沉浮荅清聲於方響下元秘府上應乎天垣中泠名泉廼潛通乎地道然而梁朝勝會虛傳水陸之場晉代靈丘已成陵谷之變惟見殘碑斷碣清江白雲而已臨水登山憑高望遠臺三休而始上峰七盤而遂躋相輪聞鈴鐸之音合尖窮階檻之勢游極重巒之柱浮提邈以三千六通四闢之都窣堵吞其八九意軒翔而欲舞腋翕習以如飛乃月上滄溟地懸山河之影雲銷江渚星輝牛斗之墟氷天與雪巘同清銀漢共金波爭曜信足以發皇耳目瑩徹心靈者矣二儀已會於旁羅萬象隨移於轉顧不有凌雲之筆孰標出塵之觀扳地孤根屹長撐乎江紀磨崖片石慚仰荅乎山靈

遊金山記

明馮夢禎撰

金山在大江中不能三十仞中藏寺上有浮屠兩岸烟火相望與焦山北固稱京口三山渡者望之培塿耳而遠近異勢峰巒互變隨波濤上下唐以來題咏甚多惟稱張祜塔影鐘聲句它俱可芟山傍小峰離立或名郭璞墓或名善財石際郭璞墓水最狀下有甘泉汲者截竹為筒去上下得泉陸羽所稱揚子江心水為第一泉者是舊有標識僧病其艱取去之指井當之大不稱世無陸公誰辯泉品噫豈獨泉哉宋時佛印元公住持此山蘇子瞻往來叅扣為不能酬四大作禪牀輸卻玉帶山金兀术兵過失去韓蘄王料兀术必過金山伏兵龍王廟兀术果與數騎至廟兵誤先出兀术墜馬躍上得脫去余每徘徊不能捨去本朝景泰間北藏板始完印賜三山百年來獨金山藏缺失數少余萬曆庚辰侍先封君過三山遍得隨喜而金山果沙彌者發心寫補并舁藏殿許為匡護因極力從臾之壬午補官復侍先君遊自癸未遭艱甲午自留翰內轉戊戌解南司成歸俱從大江俱不及登金山而果上人音耗不絕今歲乙巳冬十一月余出吊江都李氏而返汝唐客部見送方侯啟閘因約遊金山至僧來迎迓時果上人已稱耆舊趨而前云補藏

與藏殿兩緣俱幸畢事專俟公作記耳僧虛舟延至水月樓已迫暝色客部倦坐余洎諸客從果上人禮藏殿讚嘆久之索額題之曰龍宮寶藏殿之左曰淨業菴其左一室果掩關寫經處承檐修竹十數竿不礙眺望菴之右為德雲樓樓下址連妙高臺臺自佛印時得名坡公嘗登此暮不及竟覽歸飲水月樓更之江月殽兼葷素肴及名酒客部所攜葢客部不耐素云客吳人二陸合奏絲竹甚佳惜不能和佳曲耳客部宿江月而余宿淨業與胡仲修沈伯宏俱其明日早登吞海亭昔遊亭圮後重修亭直海亭一望淼渺亭在浮屠前更上為絕頂晉雲亭亭後餘址尚堪他構為叢所有由吞海亭覓徑而下至江天閣更前則僧虛谷者建一樓面西中有大士頗廠堪眺上游諸勝樓北置梯梯東一禪房甚幽可臥坐樓中久之濤聲清耳字之梵音閣又僧持心者稱余舊居停延坐其樓亦南向左塞右通客部字之無礙樓又出詩冊見示中多閩士詩陳肅翁師公衡儀部曹能始俱有詩追念公衡不覺泫然僧太虛設早齋其樓樓面北登之寒威偪體下徙始安樓左一堂尸祝李汝培中丞以中涓配葢位可左右客笑中丞得左當是假靈吾輩耳汝唐亦胡盧不已過中淨業菴晉連德雲樓妙高臺見一官鷁在江中流欲向京口四漁舟帶纜或疑余舟又有疑其非者已從汝唐及客隨喜無梁殿繡頭所居繡頭者山東人居此二十餘年昔嘗一見勸余勿絕仕進今歲九月又訪余西湖其人葢修習華嚴法界觀者誤傳未返迺從關中相見欲晉余宿以戒舟江北辭之遂與汝唐諸客別于瓜洲登輿踪余舟至閘則午前已渡江妙高臺所見良是復覓渡之金山晤二客亦無耗久之老蒼頭至舟入京口故來相迎遂與二客共渡逆風到京口達舟昏黑矣是遊也李客部為政沈伯宏從臾余初無意也客部曰使金山悵望過門不入可乎余之過門不入屢矣豈敢重得罪于山靈至如久客乍返眷屬歡踴佛廬僧舍路徑參差半屬新治喜果上人寫藏緣就記諾未償又再晤繡頭三人俱老矣江中懸望不勝依依渡江之三日舟未至澄墅二十里追憶為記

金山遊記

明吳郡都穆撰

金山在揚子江心其勝槩為天下第一弘治戊午秋予與同舉之士將會試春官舟濟中流風恬日麗江平如掌侍行之人咸有喜色十里維舟山下有石並峙其前類雙闕然傳為郭璞葬處入龍游寺酌中泠泉味極甘冽陸氏水品以為東南第一水是也散行登毘盧閣其南為妙高臺半已傾圮上故有楞伽室宋畇山蘇公嘗書經于此北曰善財樓今與室俱廢上大悲閣而登吞海亭席地環坐小飲數巡聞晉雲亭據山之攝衣登之四望江波渺然臺殿皆在其下令人神爽飛越亭南石刻妙高臺及玉鑑堂六大字披草視之稍下有塔基二南北相向葢宋曾丞相布所建燬於火經觀瀾亭循

石級西下歲久石多斷裂俯視江波如行天上足甚危慄頃之至祖師崖中有唐裴頭陀像開山得金山因以名者也崖之右有洞深黑不可入日向莫由故道出觀龍池僧言旱歲禱之可致雲雨左有龍王祠著祀典有司每秋祀以特豕僧復言山有江山一覽烟雨奇觀二臺回急皆不及遊順風張帆仍飲舟中還[瓜-、]步宿嘗一至江口欲為山遊懼於風濤而未能也今而畢素願殆有數焉而非偶然者矣夫江山猶昨人事靡常吾輩登臨能無慷慨激烈如昔之人者乎遂為記之以貽諸君

金焦兩山記

明袁衮撰

金焦山屹立江中流險峻而奇然金當潤州之咽喉渡江者苟好事必遊焉而焦山則僻故遊者特鮮余之遊金者再矣而焦獨闕庚寅之秋余將北轅也乃有事于金焦焉時秋高氣清天風和融水波寧緩窮日而遊兩山亭閣軒臺攀躋畧盡客曰夫兩山者孰勝袁子曰金狹而巧所眺者廣焦廣而幽所眺者狹此兩山之槩也夫江發于嶓冢赴于海而潤州者當其下流江之奔也勢若赴壑金焦者適當其衝束其隘口截之使緩此兩山之功也昔余有四方之志焉如浙之天台雁宕閩之武夷江右之匡廬荊湖之衡嶽武當洛之嵩邙之秦山晉之恒霍秦之終華蜀之峩眉劍閣咸思縱觀以畢吾願未遂也葢所覩巨麗者三焉曰震澤曰大江曰黃河此天下之大觀也而金焦者抑又其次乃于是作遊金焦山記

遊金焦兩山記

明董傳策撰

余渡淮而南爰以六月五日渡江于時江流浩浩大風俄起江中浪高于山葢余又得奇詭觀焉而風收浪恬日照江面舟子語余當渡余小子策從家大人偕兩友人渡而甚夷也無何望見金山家大人兩友人欣然欲登余葢已兩度登云結纜甫登江岸遽有黿上而仰食入寺縱觀復循廊瞰江外鍾山諸勝宛如在目余卑六朝之偏安頌　高皇之大烈慨然有覩河洛而培豐邑之思焉已而越毘盧閣入憩觀音殿遂由舊逕出寺摩閱古今人詩刻尋中泠泉吸之復汲以烹茗甚清甘日晡放舟泊北固山下家大人先還家明旦巡院尚仰山君過訪語奮然有奇氣且云明時浩蕩遷客多得奇遊余三人遊興方銳又監押官未戒行仰視日方中廼遂復放舟焦山余葢亦未嘗遊云山視金山殊大其上僧寺幽閑旁布田疇更平曠憑闌而瞰江洲令人飄飄然有物外之適山以焦光名於是張生為作招隱辭而余與吳

生和而題之壁俄有騶從來乃江郡守都君蘇郡節推王君知余三人者當遊因以巡院意携酒殽相隨從見歡笑口誦壁間詩復徧遊歷碧桃灣青玉塢諸僻絕處薄暮還渡江兩君從陸去余三人乘月泝流江澄于練鼓柁鳴榔豪興輒發而余與兩友人評兩山之勝則謂金小而麗其望遠焦曠而幽其棲息亦惟人所愛好焉然潤當大江下流水勢入海甚近而兩山相對束隘口實有砥柱洪流撐峙江海之勢屬者島夷竊發沃土為墟江南民力竭矣聖明軫念元元數督過諸守吏誰能假兩山之靈為我畿輔拯淪溺也兩友人曰余輩忽漫遊耳君無多語乃記而藏之笥中

遊金焦兩山記

明王叔承撰

丙寅五月同陳貞甫范伯楨仲昭兄弟為金山遊自京口渡江而西數里及山由修廊左折入寺廊壁嵌古今碑題數十百虛敞臨江寺中觀中泠泉亭而井之水經品為天下第一云又左右三四折數百步至吞海亭又上則晉雲亭亭立絕頂所謂妙高峰也東顧海門南絕吳越上游北襟淮揚長江自岷嶓湘蠡湧天西來分下山足兩岸商舟萬計檣立如林江山奇勝飄然神爽下峰而南至江天閣懸空俯江大可憩望輒倚欄觴咏可二時許見月出江上輒徙酌寺門面石簰山地飲山郭璞墓醽酒弔之則暮潮與明月作白如大雪垂天江寒逼人不知為夏又漁舟明滅波際如畫工寫意家素縑飛灑水墨也忽憶異時同商任叔陸伯玉遊此今商生客死陸生病不果來死生離別覺江水悠悠者山有日照崖頭陀崖朝陽洞龍池會暮夜不及遊水有善財石亦曰鶻山分狀證之葢兩肖也月下捫張清河詩碑指識其字識者謂張後無詩或又誦杜少陵吳楚東南坼乾坤日夜浮之句云

遊金之明日遊焦焦山去金山下流十五里是日風大逆舟人揚帆就風橫折而下倍直道六七乃抵山其半有關侯祠飯焉去祠左折上登佳處亭榴花甚吐童子折一枝佐飲見山下江船亂流僧曰漁鰣魚者斤可十八錢買而及釜猶鱍鱍生動也右折而上至吸江亭則亭對金山而高倍晉雲山亦大于金金山峻絕當津渡要衝遊者易焦有田可稻麥山根多巨奇石如乱獸臥草中草樹四垂如衣女蘿衣者固幽僻藏勝夫金焦伯仲山也乃坐焦而酹金云頃之客有買鰣魚來者果鮮活色青鰓微開合遂烹魚酌水晶菴石庭菴噉江又面隔江石壁不減金之長廊耳會日暮雲垂垂且雨乃濯足江渚而去按東漢焦光隱此三詔不起山以名今嘉靖中楊繼盛又大書椒山二字于壁及其名氏月日椒山楊所自號也葢焦椒同音或其自負楊後竟以劾奸論死忠臣處士名節畧等陳子曰焦山亦云椒山矣

晉雲亭記

明彭祿撰

金山在京口江中每風四起勢欲飛動昔人謂之浮玉山良有以夫山上有寺寺舊有六亭今惟存其一曰吞海餘皆久廢景泰甲戌郡守白公祀金山之暇訪古懷興乃命主僧弘霪作亭于山頂因舊址也越明年夏六月而亭成高明雄傑叅絕霄漢復舊觀也華扁重揭輝映山水昭舊名也弘霪感公之惠徵記于予夫亭以晾雲名豈有他哉或曰晦冥之朝風雨之夕雲氣往往停晾其上故得名云嗟夫江山亭榭非人不傳唐王弘中在連山僧景常建亭以供游息而宴喜之名載諸簡冊宋歐陽永叔守滁陽僧智仙築亭以備宴多賞而醉翁之名垂諸後世今弘霪之作亭又因公而致余知晾雲與公之名流芳無窮必矣豈待記而後傳耶公名仲賢字希閔陜西綏德人由御史擢郡守所至皆有仁政云

景泰丙子中秋之吉

重建靈觀閣記

明王徽撰

金山之陽有閣焉曰靈觀其興替始末志刻莫載莫可考歷歲久岸石崩塌閣蕩然無存惟餘頹垣壞砌蒙蔽榛翳土像偶軀剝蝕風雨有秀頭和尚者至其處見而閔焉乃募財庀工鑿他山之石伐他林之木而重建焉累岸為基高七十尺有奇比舊益開拓為閣五間重簷覆宇其高深廣丈尺各若干雄偉壯麗畫棟桷榱繪以青碧扉闥窗壁塗以漆堊中塑華光像後塑五顯像旁列諸傳誦及諸神像金粉彩色崇餙尊嚴光炫人目于凡供具罔有不備創始于弘治乙卯八月越明年八月閣成其工木圩墁陶瓦鐵石漆膠之用工價傭役飲食之需費白金餘千數百兩皆秀頭孑身為之者秀頭名定清廣德州民家子自少削髮入僧籍初廣德有耆舊僧來金陵募緣造佛像清與俱來其僧美尚募無所清輒充牣而歸歸悉與僧後僧頗為私藏清遂棄去聞祖堂山幽棲之勝往棲焉去城南三十餘里梁武時舊剎也殿廡傾側清一見之頃以興復為己任遂入城募緣重新修造閱三逾歲而功始成其所費比靈觀不啻加數倍又皆清孑身為之者余嘗嘅夫天下自三代以迄于今忠臣義士有功德於民節婦孝子有關於風教其祠廟湮廢於荒郊之墟野水之濱者不知幾處矣安得吾士夫輩有如清者而為之修復哉清質狀朴野語言甚拙澁未嘗以巧令干人人無富貧見者皆樂為施與豈清一誠有以動人也與每募緣暇輒躬薪水以助役夜則入山叫佛蚤暮勤苦不少休頭髮復長出不暇剃及長長又不暇櫛沐髮遂纏結如氈歲久積高尺餘峨然在頂如一塔然雖盛暑間亦不作汗膩氣人見而異之因稱

之曰秀頭和尚平生惟食淡飯凡滋味未嘗入口一衲數年寒暑晝夜不脫足惟草履而已先後所募之物貨累鉅萬未嘗以一毫為己私用嗚呼若秀頭者誠可謂戒行精清無愧于學佛者矣士大夫有居高位食厚祿不顧義理取非其有而有者視秀頭能不少愧也耶僧宗文者楚石上人之嗣孫也來求予記遂刻諸石

重建觀音殿記

明錢仁夫撰

金山在楊子江心據南北之要衝作長江之襟帶有此天地有此江山稱重於人舊矣自張處士題詩蘇學士留帶金山之名益以增重達官顯宦道由江而南北者所必登焉人故以不登金山為欠事山之奇勝前人記述詳矣山有寺寺有觀音殿歲久頹圮寺僧乏力修建徒有嘅嘆乃正德丁丑春督光祿寺尚膳監太監李公和奉勅提督饒州浮梁燒造自北來南過金山艤舟山下入寺焚香禮佛祝延聖壽乃歷覽山之奇勝寺僧惠鐙實與前導行次觀音殿目覩頹圮惻然興念欲與重建因呼寺僧悉來前諭之曰吾受朝廷厚恩得有今日方切圖報而未知所以報也念惟觀音大士誓願弘深尋聲赴感靈應彰彰殿頹圮吾當重建仗茲願力監我微情祝聖壽于無彊保皇圖於永固庶以盡臣子涓埃之報遂傾其囊施白金二百兩命寺僧徹舊易新寺僧奉命唯謹乃市材鳩工擇日興作經始于正德丁丑二月落成于是年十一月也堂搆侵雲輝暎碧落金山氣象為之改觀亦盛事也寺僧惠鐙輩謂勝事不可以不傳遠來謁余請記將勒石殿廡傳示永久余惟世之稱好事者因輕財重義而得名用財合宜謂之義用財而失其宜其如義何若今太監李公之用財不為私計近以祝無彊之聖壽遠以綿永固之皇圖用財為得宜於義為有合誠當世之所罕見推其一念之義則凡有所監臨必皆盡忠報國知有君而不知有身無一事之不合於義誠出尋常萬萬矣又安可不述而記之以為後人告哉

重濬龍池記

明吳華雲撰

余昔躋金山窮名蹟謁龍王廟又得所謂龍洞龍池云者異之攷厥遺牒金山順濟龍王廟下元水府廟其來最遠建置非一載在祀典龍池一名龍洞水通太江與潮上下或云日照巖西北其處也正統丙寅工部尚書吉水周文襄公巡撫江南徙廟于天王殿左石[簿-尃+卑]當前若拱若揖若偃若臥江流盤渦人稱龍門而天塹之險意在是乎又鑿池其後深廣僅丈

許命曰龍池以神其說其水淵如冬夏不竭鱗介生焉其亦靈恆也已正德十五年秋毅皇帝洪都凱旋渡江駐蹕臨池顧問人侈談之而水漸涸沙泥草莽葢二十四年矣行者惻焉嘉靖壬寅臘月雲以復命道江上登山乃邑侯盧溪李尹隆仲畏茗來會容與終日言念舊蹟龍池是先知僧綱圓濟才屬之然亦未意其能速成也癸卯四月望濟來欣欣然告我曰龍池興矣願丐一言記其事且曰下有石穴亦通大江池濬召匠石開兩階碧檻朱闌神靈桓桓而逾舊觀矣庑實捐俸為之始于二月二日丙子成于三月七日辛亥成之夕大雷雨水盈數尺厥明少長環立相慶歡聲隆隆咸曰是我守令之澤也走白李庑庑曰是龍王之靈也天之貺也民之祉也太守之慶也於棟何有俾濟屬雲記之雲獲偕茲遊幸托名于山復為詩以數之詩曰

赫赫龍祠　奠彼南服
大旱作霖　為下民福
龍池洋洋　不遠之復
孰湮孰開　神明於告
龍有變化　雲行雨施
蟄以藏身　神哉斯池
旬宣之澤　河潤千里
滌之揚之　樂只君子
人之恒言　有龍則靈
聖作物覩　天下文明
事繫民瘼　我心則憂
胡為泥中　而作神羞
惟龍升天　惟雲觸石
茫洋玄間　深山大澤
茲江茲山　實蛟龍之宅
我詩于碑　乃頌其成
龍乎龍乎　與時偕行

宋韓蘄王廟記

清河濱李楷撰

金山血食為有司所祀者惟蘄王一人然其生平本傳未有碑游人無所稽余每過祠下輒嘆之嗟乎蘄王之贈不在於督軍行陣之日乃在於西湖蕭散之後不在於論功中興之時而在於晚好釋老之餘生未盡其力死未竭其忠雖以王爵榮之差過於鄂國宋人知公而不能用公亦何益哉夫

宋人之差有可觀者戰功也其傷心之痛貽恨於千古者和議也天下之論將者莫不曰張韓劉岳所切齒不忘者莫不曰秦檜是其功罪皎然三尺之童子皆知之宋人詘將而主和吾誠不知其何心則夫蘄王之未盡其力未竭其忠者天也嗟乎天何嘗亡宋哉宋自亡耳宋之可以不亡者以有將也將之可以存宋者以有君也君不知其賢而棄之不可謂之有君知其賢矣任以權矣所至有功矣天下信之矣此君將相得之秋也卒以相之故而撓之有君無相亦不可謂之有君君不自存以底於亡天何心哉若韓公者吾又為之流涕焉惟公戰功之大略能勝金人而挫之金山大儀楚州凡三捷其大過人者抗疏詆秦檜之誤國又攖檜怒力剖岳飛之冤獄它如削平方臘於青溪峒蕩滅劉忠於長沙定苗劉之亂而帝為握手流涕靖李復之寇而宿遷餘黨悉降生平嗜義輕財賜賚悉分將士持軍嚴重與士卒同甘苦故能設伏出奇以寡勝累立戰伐之功惜也杜門謝客絕口兵事跨驢携酒縱遊西湖以自樂平時將佐皆罕得見其面乃於晚年好釋老之學自號清凉居士疾之日戒家人勿諱忠字諱忠不言是忘忠也若韓公者不謂之純臣不可矣老於牖下無武穆之痛暮年恬退又能加子儀一等雖天下徧祀之可也今以其金山一事詳言之當兀术之自廣德趣臨安也公已屯兵江邀其歸路兀术至約戰求渡梁夫人親執桴鼓金兵終不能渡相持黃天蕩者四十八日公以海艦泊金山下預用鐵綆貫大鉤授驍健者敵舟澡而前公分海舟為兩道出其背每縋一綆則曳一舟沉之能使兀术窮蹙哀請公要要以還我兩宮復我疆土兀术語塞馳去葢初戰於江南之岸再戰於水中海艦金山未嘗用兵也其伏百人於廟中伏百人岸潴者設奇兵以鼓聲為約公計以為敵至必登金山廟窺我虛實俟其來岸兵先入廟兵繼出以合擊之果有五騎入廟廟兵先鼓而出僅獲二人而兀术蟒袍玉帶墮而復馳詳史氏之言廟以金山稱非於金山之廟也五騎與墮馳皆非金山之事當是江之南岸高阜處為廟祀金山之神不然金山乃在南岸不隔江水唐人張祜之詩亦不為工矣今祀蘄王於金山之上猶可彷彿其泊海舟用鐵綆之槩因是以推大儀背嵬軍各長斧上椹人胸下砍馬足公以勁騎四面蹂躪卒擒金別將孛也等二百餘人俘獲無算劉豫入祀公引兵圖淮陽圍其城卒能勒兵向敵殺兀术劉倪之前導教兵激厲山陽遂為重嗟乎如公者尚可多得哉凡有天下者不患無將患無名將不患無名將患任將之不專夫如是則後於宋者宜祀公以風天下之為將者宋雖亡蘄王自不亡也

康熙皇上登覽金山集

僧明記錄

歲次甲子二十三年十月二十四日皇上登覽金山方丈和尚超淨普領闔山大僧俯伏恭迎聖駕至山登岸問和尚汝是住持麼旁僧奏他是方

丈和尚住持是僧人上問和尚你是何方人和尚奏是江西上云引道和尚即旁行引道上路問你是宗門麼麼和尚奏是宗門問是那一派奏是磬山一脉玉林和尚姪孫問是何法名奏法名超淨問多大出家奏十六歲出家上行至大殿闔山大僧排立兩旁舉香讚和尚奏萬歲拈香上拈香禮佛畢云遊山和尚奏闔山僧朝賀萬歲僧俱向上班齊和尚首領一同朝和九拜口呼萬歲萬歲萬萬歲禮畢上云遊山和尚引道上遶殿而出至第一泉僧獻水上問好麼麼僧奏甚是清凉上飲些些云果然好水命取此水煎茶上遂登山路問和尚你年多少和尚奏六十九歲問多大出家奏十六歲出家問名甚麼奏法名超淨問可曾到京奏曾到過上對王爺云聽得有個超淨上遊至無樑殿旁僧云此處原有座無樑殿久被山石墜下打去了旁臣云誰知有殿無殿上以手自點胸復拍和尚肩云這個老和尚曉得和尚點首奏是上隨行指一草云是甚麼和尚奏是萬年青上微哂之遂登寶塔問老和尚能上麼和尚奏還能上云引道上登塔層層禮佛直拜至頂上如是敬佛和尚感歎曰乃佛心天子今古罕聞遂奏萬歲出塔外看看上遂出外倚欄四望見其江濤廣濶船隻紛然時龍顏大悅快觀一會暢然下塔上塔者甚多和尚未能下塔上問老和尚何在遂詔和尚聽忙然下急促不覺撞至上背王爺以手隔之上知轉身云這老和尚好健硬和尚遂啟奏萬歲登聖雲亭看看上至聖雲亭見其破敗不堪哂而下山至公廳坐定命大臣云萬歲用午宴和尚領且廻和尚云禪堂恭辦有齋供獻萬歲大臣云萬歲不用你們齋且廻和尚領暫廻竣之上宴畢和尚奏萬歲恩賜御筆上喜云有筆墨麼和尚奏恭備禪堂上步至禪堂登樓坐定和尚獻茶上問你寫得有字麼和尚奏有獻字上逐一看過又看墨筆梅遂命和尚寫大徹堂三字和尚奏萬歲前不敢寫上云你寫看無妨和尚寫數筆不覺筆頭活動上賜御筆和尚領寫徹堂二字上遂寫江天一覽四字聖雲二字又命和尚寫詩條和尚奏寫何詩句上云寫片石孤雲窺色相和尚奏知道寫上又命大臣寫一幅上遂自寫一幅下樓至梯問禪房何處和尚奏旁有小居上云引道直至禪房坐定見案頭大一函問是甚麼和尚奏是歷代佛祖圖上檢閱問好麼和尚奏好是名筆獻上萬歲請至宮中太皇太后皇太后太后千歲隨喜隨喜上云且放著上自取一葉問是甚麼和尚奏是募修大殿緣簿皇上看畢遂下樓至法堂中坐定取出自寫御筆心經手卷展開桌上云老和尚你看和尚看奏萬歲寫的是淳化上云是董字和尚奏強董百倍上自卷好簽定親手賜與和尚又賜石刻心經三卷上對大臣言大臣復對和尚云萬歲說喜你年高有德是宗門方纔賜與你的一字也是難得的好好收供著和尚忙忙頂領謝恩時有二宿跪求和尚奏此二僧甚是有德萬歲賜他等二卷供養上出隨駕臣云你問老和尚要看上聽得著臣云俱和尚的取紙筆寫十月二十四日賜金山禪堂老和尚超淨御筆心經手卷石刻心經翻本三江天一覽四字聖雲二字書條一幅逐一記去上步至公廳坐定與大臣言過大臣復與和尚言萬歲說廻京差人來修理金山要你老和尚用心料理

和尚謝恩奏聖恩千古名山有幸上出公所和尚隨至江隄上立定似有未盡之意和尚啟奏萬歲還有金言分付上云先俱分付過了和尚領江邊謝恩上登舟和尚領立竣萬歲舟行望不見處各各俱廻數日和尚聞知聖駕至蘇州江寧定轉維揚廻都預乘舟至維揚三晝夜在天中寶塔舟前見駕龍顏大悅云老和尚你也來的和尚奏特迎聖駕獻佛祖圖內有祖圖二有一未完待完再獻又語錄四本淨土偈六本字條八幅梅一大幅俱同獻上上命大臣接上舟命臣云萬歲收下分付曉得和尚廻罷和尚廻至金山數日寒窗切感普集大云皇恩彌布聖德滋切生渴仰之心大作難逢之想若非宿結善因此生寧能如是乎明辰當大辦普齋供佛陞座謝祝皇恩時十一月十二日和尚陞座拈香云此一瓣香巍巍堂堂輝輝煌煌亘古亘今為瑞為祥熱向爐中耑為祝延當今皇上聖壽無疆伏願帝道同法輪永固皇圖共佛日齊彰復拈香云此一瓣香奉為太皇太后皇太后皇后遐齡地久太子儲君妙算天長更願天下尊官滿朝將相一念精忠報國永增祿位名揚斂衣就座西堂白椎云法筵緇素當觀第一義和尚揮拂子云此是第幾義會者出道道未會者急須切忌子西堂問龍游古寺幸龍遊無限風光孰可酬御筆聖恩師得受弘揚祖道中流請問和尚聖恩佛恩如何酬謝師打圓相○云如是如是進云恁麼則九重恩力光天地一鏡高懸耀古今師云可知禮也進云燈籠露柱添光彩佛殿山門瑞色新師云讚之有分乃舉手卷云大可知個中消息麼遂云始自釋迦西降漢王夢感金人像法東流白馬駝來玉軸聖駕親迎立建鴻臚供奉公卿恭敬時揚士庶皈崇瑯妙典行行展皆梵字鳩摩羅什字字譯作華言言言見諦高超十地三賢句句明宗普救四生六道佛寺因如縱橫宇內其法其僧自此闡布坤維說法利生雖弘釋氏之家風攝亾女歸大助國家之正氣前王後帝以三綱五常治兆民忠信而共善吾佛世尊說三皈五戒利六道心法之雙融戒恐懼遵嚴儒範得成賢暮究朝叅依佛乘而證道明德新民力繼天倫之不盡自覺覺他足延聖道之無休如是則佛道帝道總名一道儒也釋也何間然也遂舉手卷云且道此中是佛道是帝道儒也釋也良久云此中乃佛祖之心經人天之命脉始從唐時先帝欽命金山有德禪師元奘特至西天取來東土合國君民恭敬供養可為醒迷度永國家之大寶也幸感當今皇上於紫霄宮中御筆親書一字一句從龍腹中寫出立成手卷牙籤傳至金山親手賜與超淨淨謝恩受供於方丈亦為開迷度永金山大徹禪堂之寶此乃歷歷古今不異明明授受皆然千年一念莫大因由豈得作尋常世諦流布之爭論乎大若道聖上親手賜超淨是御筆心經手卷是凡情見解大負皇恩了不可得若道聖上親手賜超淨不是御筆心經手卷亦是凡情見解大負皇恩了不可得諸仁者可會麼設或未然只得更下個註脚復舉手卷云此乃佛說心經從佛心日中流山是佛心又從聖天子心手中書出是天心賜與超淨者何也要知世尊說法四十九年末後在靈山會上拈花示百萬人天悉皆口啞惟迦葉破顏微笑世尊云吾有正法眼藏涅槃妙心付囑與汝無令斷絕

自迦葉二十八傳而至東土東土六傳而至曹溪曹溪五傳而至臨濟臨濟三十傳而至磬山磬山四傳而至金山超淨淨得無所得者佛佛授受祖祖相傳正法眼藏涅槃妙心所以聖天子得心於心於心授心佛心天心涅槃妙心且道那一心是心鏨良久遂厲聲喝一喝云三一分明會者難聲前句後任追攀光超日月燈明佛續燄傳輝滿世間僧受皇恩何願謝遂打圓相○云雲泥一統萬年歡西堂結座諦觀法王法法王法如是師豎拄杖下座

十月廿四日聖駕登山廻鑾和尚感拈俚句天舒嘉運小陽暉駕至光騰遠近依水獻江心紅日麗林呈峰頂白雲威皇恩普布頹山秀帝澤涔滋祖道徽萬里江山今在握滿襟風月轉皇畿皇上親手賜和尚御筆心經和尚感拈俚句江心古寺朽緇衣何幸龍顏一面暉非是多生緣有分何能此際擅瞻依臣輪玉帶時為異帝賜靈文世罕希受闡祖庭山色麗恩光千古巍巍

康熙二十三年十二月八日西堂明記錄募刻

紀遊

陳仁錫

嘗讀太史公書始知蓬萊方丈瀛洲為三山始皇好奇衷徐福語遂舉求仙問藥事心快之吾吳金焦北固名襲而實左欲為山靈拭汗及登金之妙高臺焦之吸江亭北固之三山樓青冥落地龍江無色不知一片熱世界失在何處玉免為兩金烏作雙低回於明鏡中若遠若近而琳宮紫剎飛廊舞磴為之色矜嗚呼所謂蓬萊方丈瀛洲名挂圖籍而試以此律其實無緜也反居水下之說特福之愚始皇耳然古今遊三山者咸便帆過舫稍稍載筆延討輒以傲人是以皮相山靈貽辱非淺愚謂遊三山必未遊數年前聞風結想幾深夢寐及遊則裹歲糧攜同心一二奇書數種嗒然居之雞五喔後急奮策孤往據絕頂最高處細觀雲之往來湊合度水入林舍崖吐谷或白衣或蒼狗或橋梁或車蓋姿狀萬出應接不暇日始升則廻視日所矚處隱躍晦顯遠近濃淡之奇畢在林巒相錯時及返照靜看落霞帆影出沒長江之致不全在丹金五色為奇也大雨後短衣狼狽趨亂壑重泉間觀水勢不能直行躍舞飛鳴與山爭奇于一號之內春時花未發先課數詩商擬開時景色及爛熳離花數百武擇危樓杰搆置酒凭闌與客指點霞封綺錯之奇秋則山水本色譬猶病客乍痊動定閒靜又如醉士臥起七碗茶後也奇石露奇怪水呈怪江之形澄以遠泉之響悠以調堪歌李青蓮絕句數首消之此葢三山之勝塲古今遊之所不及也廻視蓬萊方丈瀛洲失覈負名不可大愧耶余二十七遊洞庭庚戌遊碧雲香山又嘗五泛楊子江彌月眺三山歸則晏坐清溪時與林仙翁酣對適潤州霍公祖選補三山京口二志謬

承豕之委集成附洞庭詩碧雲香山詩清溪詩酒仙詩各一卷質諸霍公祖曰可因併載焉

碑

重建吞海亭碑記

明彭國光撰

大江奔流萬里東入于海而金山崛起中流立江海之間于寰區稱奇絕山上下四圍墉院菴剎凡數十各有所受之景乃其絕頂有亭巋然東瞰海洋舊名吞海又此山最奇絕處亭刱不知何代我朝宣德景泰間經修者再後復傾圮殘基斷礎委諸榛莽之中久矣嗣山曹公以甲午歲奉簡書備兵江南再踰年不佞謬忝同官相繼受事先是諸臺使按竣渡江而北兩監司必相與祖餞于此公及不佞循故事其于此山歲凡一再登每徘徊千仞問其所謂吞海亭者而不可得公慨然語不佞曰金山之勝茲亭為最胡可不亟復于是檄潤州王守督毛叅軍稍稍營度計費可四千貫遂相與捐俸鳩工庀材重建焉閱月而亭成所謂巋然者盡還其故公乃屬不佞記其事余惟天下大觀無過于海金山據海上游空青無碍而茲亭據山絕頂當夫日月踴出如金丸躍冶閃爍激射沉影浮光變態無極若乃陰霾霧雨天水蒼茫上下玄同如鴻濛一氣混沌未分時或長風驟來驚濤黏天怒波拍空山根搖而欲浮地勢拔而若飛恍如神鼇揚鬐島嶼騰躍憑欄俯視目眩心顫海之大觀于斯為極故自古及今騷人墨客登眺其上往往對景抒思觸興吐奇載在三山誌中可考鏡焉乃嗣山曹公所為愀然寄慨獨有異于諸君子者公嘗與余把酒此亭因論典午之際能與江流山色競爽爭雄我朝自太祖高皇帝混一六合雍熙大業迄今二百四十年無論耕鑿之民相忘帝力此山一草一木榮華罔遂不見斬伐蹂躪之害孰非雨露之恩所蒙被然而承平久文恬武嬉漸歸窳惰頃者海氛倏揚載勤我師閱五載未覩底績萬一橫窺江左我輩蒙國厚託不能滅此山靈有知彼乃以我為非人乎噫嘻公所寄慨葢若此視昔王丞相斥新亭之淚期于戮力中原者豈不千載一轍歟以余覩公肝膽氣魄俱號絕倫今大江以南倚公為長城豈惟江以南天下而無事則已有事舍公其誰可屬者然則茲亭之建儻亦有深思焉獨區區覽勝云爾哉不佞固陋僭為之記成屬長洲江令伐石丹徒龐令徙置山使夫登此亭者誦余之言聞公之風其于立功報國之心可以油然而奮矣公諱時聘直隸獲鹿人辛未進士嗣山其別號云王守名應麟尋擢越之觀察使龍溪人江令名盈科桃源人龐令名時雍汶上人

建水陸大會碑

僧應深撰

皇帝纘業以來海內生民安安惟念墮墜下泉者罔克攸濟延祐改元二月乙亥嘗欽旨順母后以金山為水陸建始地特降侈儀修大齋會一七晝夜普用津利其感神光聖燈頗與常異明年八月丙戌乃再欽旨如元年例仍建水陸大會用荅內弼之勤於乎大覺聖人昔愍阿難啟請斛食其水陸要儀已具蕭帝廣以法言弘設金山齋會典儀始著皇上今原是教復眷茲山益以宗說圓音兩崇無極之鴻勳臣應深幸備灑掃罔竭涓埃謹以盛美形于聲頌勒于金石庶俾幽顯得與見聞咸遂蒙福

延祐二年二月佛海慈惠禪師住持臨濟宗臣僧應深撰

集賢院學士臣趙孟頫書

復建水陸大會碑

僧應深撰

其畧曰佛道巍巍三界具瞻皇化蕩蕩萬邦咸服皇帝有以克肖之乃召有司如延祐元年例嚴備淨儀入金山古壇建水陸大會一七日始事以七月戊戌畢于乙巳用培社稷之鴻釐及津幽顯之多(猗歟盛哉)

賦

金山賦

明盛恩撰

潤有金山公子與焦山處士相遇于大江之東公子嬉嬉然有咍色詡詡然有夸容廼語諸處士曰潤自古昔郡名朱方控引全吳凌躡大江金焦並峙東西相望膾炙多口震蕩遐荒若有奚异與台並颺請各撰微用質低昂夫金山者據京口之上游界南北之中央屹橫流之砥柱亘帝都之巨坊雄跨肇於太乙嘉名錫於李唐星紀牽牛熒熒煜煜而垂耀焉勢迎長江澎澎湃湃而會交焉其東則吞吐溟渤枕倚扶桑玉山為肱爾質我相雲山作股曲阜連岡石堰儼戶樞之闔闢正屏羅物色之弛張爾焦峰以列障彼北固以為隅含谿懷谷而獻巧涴沙抱石而呈奇咸頫躬而下首可使氣而指頤和風浩蕩拂其隈初月滉瀁射其阿延暘谷之朝旭道尾閭之晨波於是

乎瓊桃蚤實琪草先華奇葩眩錦雜卉流霞葛覃莫莫而蔓衍灌水萋萋而交加黃麗求友於薈蔚之岑玄鳥掠雲於滆瀑之涯其西則遐矚岷峨邈挹荊楚匯以潯陽阻以瓜步金陵道其脉五州袒其肩下鼻漱其腋江流突其龍潭峙而嶮巇州衍而平原流漢湯湯直瀉萬里怒濤雷奔驚湍電起大火墜於虞淵夕暉淪於濛汜於是乎秋聲淅瀝白露載零井梧凋翠崖菊敷英鴈陣驚寒於遠浦芙容倒景於滄溟木蘭梫桂椶枒杞櫹爰擢修幹載竦長條鵬鶚高騫乎雲漢猿狖長嘯乎林皐其南則百粵所屆四閩所通兩浙紓其臂三吳蕩其胸長揖會稽於逖域頫糾疊阜於邇封揚鵬星翥鴻鶴雲菊峰挺秀峴嶺岩嵲寶葐亭亭乎豐鄗磨笄翼翼乎清標漕渠習坎津驛通衢舳艫鱗次冠葐塵驅客子肩揮而競渡舟人楫詬以爭艤於是乎薰風薦爽水殿生凉嘉木繁陰鬱鬱蒼蒼虎兕風於氷雪之窩蛟龍沃於迴瀾之房芰荷揚頰葵榴熾赩岸幘凜而憎寒絺綌紵而忘燠其北則燕冀在望齊魯指掌徐泗孔邇淮揚接壤黃河紆帶而橫奔吕梁巖而流響挹具區之大藪鬱葐葐之無底爰自泰而徂通衍鹽田之千里揚子之梁通其吭太乙之峰委其體穹然秋虹之麗空藐爾蟻封之突起[瓜-、]渚作天壍要津囂囂燁燁實我比隣於是乎朔風凄凄玄雲漠漠雨雪霏霏石出水落綺閣重闈煖歌燠酌雪藕氷桃互為酬酢鬱鬱盤徂徠之松猗猗撼崑崙之竹癵鶴啄寒瀨之氷梅花露先天之易娛爾歲時瞻望北極爾其體勢則鳥道陟其龍宮守其基滄浪流而為隍兩岸廓而為隅贔風無纖埃之集潦雨尠微津之淤伏牛彷彿浮玉依稀獲符互父名與世移爾其勝槩則金鰲中屹妙高插空善財頭陀怪石巃嵸崆峒嶡嵑石排之山嵣[山*亡]岑峈裴公之岩璞墳噴薄而隱跡中泠淯而寒泉爾其梵宇則大雄西敞煇煌金碧天王伽藍前驅後翼江天乘聽潮之軒海嶽載毘盧之宅雄跨玉鑑大徹悟心三禁永安養素涵清雪月無邊烟雨化成留雲北偃吞海西憑廊腰紆折而蜿蜒簷牙高啄而崢嶸若乃日霽天晴風和雲斂朱履尋芳士女遊衍挈榼提壺登高望遠鏤壁鐫崖剝苔浥蘚估客艤八方之舟三老忽龍門之險櫓聲咿軋於中流漁唱悠揚於清淺揭寰宇之奇觀余躭樂而忘倦若乃陰風號怒浪起蜃擁波龍撼雨闇若天昏蹴若地圮神蛟鼓鬣而嗔怒江豚延頸而忭舞舟子狂呼傾檣毀櫓余亦悄然而悲肅然而怖若乃貴界公子墨客騷人探奇覽勝輝映古今感宗之夢寐動文帝之哦唫英廟巽申而晉錫武皇駐蹕而來臨宋學士之解帶唐宰相之命輪金玉充棟珠貝盈垣歐蘇泝其流孫張啟其端煥爾詞林爛然文苑托茲山而並久終萬古而弗諼若乃明神降靈高僧棲跡裴陀能搆佛印善葺菑畬薦千頃之租水陸賚萬方之福豈若野人之蹴窶子之齷齪公子辭畢洪澾欠伸切齒怒目奮臂攘衿諒處士之見屈敢怙勢而凌人

金山賦

金山峉峉立彼江波其天造而地設抑神鑿而鬼磨烟雲兮繚繞星辰兮布羅日月懸於楹牖蛟龍遊於檻阿壯哉奇矣噦夫長江萬里順流而東湔湔[泳-永+劈][泳-永+劈]淼淼[涓-口+匈][涓-口+匈]吼狻猊馳風騣拔坤軸轉乾釭轟轟雷逐赫赫龍從斷瞿唐之峽劈五老之峰固瞬息而千里若囊綻而矢衝由之濤珠濺而柱折飛沫灑而磯崩順騰牛渚直指吳淞滄瀛邇合泓愈斯正赴家之勢窮寇之鋒將避之而恐及敢獨立以當衝茲山則亭亭閒閒突自中起立靜專壓波靡鄰援不資聲色不侈縱震撼之不驚亦中立而不倚遏長驅於破竹衝堅陣於兩臂斯不戰而屈人兮亦匹夫而秉志猶之倒孟津之戈兮潰昆陽之騎取日於虞淵兮存孤於晉祀攖孤城於睢陽走老瞞於赤壁誠文王之怒仁者之勇矣及循波羅之岸躡至信之磯觀瀾聽潮廊步不迷乘風帶月葛巾杖藜閣則朝陽江天樓則海嶽涵虛眺烟雨之奇觀覽雙塔之遺墟穿寂徑折磐陀出藤蘿之外境登一覽之危坡蹲踞妙高之臺愒息氷雪之窩浮金湧翠嘉名不磨養素濤於焉再過大觀於留雲之亭重寄醻於郭璞胡日中之不遁尤詭秘於江峉生死之有數將陵谷之謂何考三禁之奇跡尋危巖之裴公出雪洲穿妙空橋度惺惺池瞰蒼龍覩如來之面立般若之峰斯皆深瞰龍宮高凌象度行者欷噓立者恐怖及兜率之懸品乃回頭於一步細吹竹葉旋汲中泠將試蒙山之上品驗陸羽之茶經動清風於兩腋覺沈疴之頓輕潤通法雨功邁洗心撫轆轤則法輪常轉瞰深清則修綆宜尋斯第一之稱萬世之名比厨異香積堂開大徹弘濟功深饑饞道塞愧稷道之陵夷思博施而未得聿茲臺殿突兀嶱嵷或嵌懸壁或倚危峰或倒臨龍窟或上摩高空如翬斯飛如苞之叢鱗鱗角角隱隱窿窿綑綑緼緼杳杳濛濛竹窗搖日松榻流風丹霞護於懸磬員贔負其辰鐘篆香凝而晝暝舍利見而宵明(叶)蛟龍驚輪藏撤綵雲流旛幢揭貝葉動異香洩疑三島之瑤宮與大千之樂國因而眺長江觀巨浪望海門瞻疊嶂時乎清風息朗月上綠烟乍銷金波不漾澄萬頃之玻璃連長天於一象浮光湛然靜影晃晃恍若布金磚於祇園壓銀盤以青嶂吳帆楚纜蘭橈竹榜欸乃輕歌咿啞緩槳來若中留去疑不往或緩而似馳或迅而復党時乎風雨合蛟龍爭陰霾起濁浪層馮夷舞海若騰長年泣舟人憐張皇頃刻失錯連使人神馳魄悸毛髮悚然若東海紅羲輪駕六合白瓊花下悉順時而改觀皆可喜而可駭覩太平於有象開無聲之圖畫比夫暮鐘動晚潮升征騎獵獵戰鼓鉦鉦嗟有期而不爽悟人事之虛盈若或指戰場於北固望王氣於金陵葱葱蒨蒨渺渺冥冥覩蛟蟠而螭據思虎鬬而龍爭幸金湯之如故懷保障之無能亦或仰長空飛鳥疾俯深淵遊鱗集臨磯呼老黿出斯至信之所孚非一朝而一夕殆有甚聽法之蛟點頭之石斯皆異態交從奇觀雜沓(叶)類有德之潤身而文章之外飾者也弔維往古靈異彌膴啟水陸之玄宗拔九幽之墮苦或胎幻以知期或書經而病脫雖恆

誕而無徵又相傳而不惑斯又類神化之無方而非常情之所能度用是名賢聞士罔不假步回車或以為遊仙之傳舍或指為文客之寰區始能解坡翁之玉帶發張子之秀句斯有似夫德高而利見實修而盛譽者矣然是豈直燕遊之地釋子棲息之居而已耶辭曰天高地厚兮造化寔工陽闢陰闔兮變化無窮高高下下兮莫測其蹤或山立於淵兮泉瀑於峰知無物不有兮可興可風惟達人大觀兮近取吾躬秉節貴定兮處世從修德乃耀兮尚絅於中寧蒙求我兮匪我從童萬說不移兮虛受而通始終一致兮德乃尊崇貧富不渝兮夷險則同首陽奚貴兮千古高風我心匪石兮變化猶龍蒸雲布雨兮靜乃有功將叅三而中立兮焉事夫培塿之蟻封言有盡而意無窮乃返棹而擊節於(江中)

泉石生涯賦

羅坤泰撰

南清凱師辭金山涉長淮登高虎圈吊古漢臺跨瀛洲之縹緲上瑤京以徘徊觀九重於伊邇招群英而往來于時羅浮子通籍金門操觚青鎖遭師與言憺忘物我凱師曰子亦知夫泉與石乎吾昔巢中流之孤嶼接大江之飛霞以巉岩為屋清泠為家漱地脉之春腴齊雲根之秋華知夫泉之為物始而涓涓終而潺湲激而為瀾瀦而為淵浩浩蕩蕩而播為巨川若乃蘭汀斂霧花島無烟飛鳥就樹賈客棲船一碧萬傾湛然與遙天相連於斯時也以智察之空明洞泓有似吾圓若夫石之為物平者如砥峻者如戟欹者為崖竅者為隙蒼蒼鬱鬱而削為峭壁爾其遙靄上陰膏雨下滌松蘿借青苔蘚附碧屹立萬仞截然與洪波相敵於斯際也以愚謀之妥帖恬默有似吾寂是故智圓足以周乎萬物而其機欲動愚寂足以滅乎萬慮而其神欲靜智愚相連動靜相應相應者心相連者性然而物生於氣氣祖於虛則吾與物咸歸於無物我無而又何有心與性乎此吾所以得於泉石者如此而吾子果以為何如羅浮子曰無吾不能知也有則吾能言之與其智以察之曷若求諸心以發之與其愚以謀之曷若發諸心以求之故觀夫空明洞泓不若觀夫進後乎盈羨夫妥帖恬默不若羨夫固而且貞此堅者所以貴乎不磷而逝者所以嘆乎無停也况夫心吾身宰性我心生厥初至善厥體至靈非若泉石徒然其名今皆以為無有矣復何說之可稱也耶凱師曰雖然子言其要我言其妙我言其無子言其有有無要妙舉無足較烹泉煮石與子同調於乃援焦桐之琴撫清泉之操而歌曰清泉淼淼兮白石鑿鑿兮空吾耳兮非子莫知其妙兮羅浮子竦耳而聽之乃賡為白石之歌曰白石皓皓兮清泉澔澔兮勿復道兮盍亦從而所好兮歌闋明月滿天清風在樹二人相顧一笑別去

本山歷代相傳勅書

宋咸平中有僧幼聰獻金山圖於宗詔遣內侍藍繼宗賜大藏經一部
明勅賜諸經一部(景泰萬曆癸巳又賜藏經全部)
皇帝勅諭金山寺住持及僧人等朕惟佛氏之教具在經典用以化導善類覺悟群迷于護國佑民不為無助茲者
聖母慈聖宣文明肅皇太后命工印續入藏四十一函并舊刻藏經六百三十七函通行頒布本寺爾等務須莊嚴持誦尊奉珍藏不許諸色人等故行褻玩致有遺失損壞特賜護持以垂永久欽哉故諭

廣運　　萬曆二十一年二月　　之寶

本山所賜田地舊額

西津田地山塘灘共二百四十九頃一十七畝三分三釐九毫(宋大中祥符間及元至大己酉年賜)
弘治間巡撫都御史彭蠡奏免坍江官田五頃一畝二分
建康蘆塲七千畝(宋元符末知樞密院曾布施以供薦慈塔下香燈之費)
歲輸夏稅麥四百八十五石九斗七升九合二勺
荳二百八十八石三斗六合四勺
絲一十四觔十三兩二錢一分九釐八毫
綿一十三兩四錢一分一釐三毫
秋糧米一千六十四石五斗二升四合
馬草一千四百三十包三觔十二兩
折納米一百四十三石三升七合五勺
每十年輪充均徭三名(弘治間僧安賢奏免以為事例)
寺舊有軍三名站馬二疋僧充糧里長役歲運所輸糧至通州交納寺僧苦之宣德三年住持僧道瀾具奏奉宣宗皇帝聖旨當軍的開了他軍伍當匠的還當匠事故了免他勾補站馬免他走遞官糧准他本處交納糧里長不要和尚當欽此今刻石寺中

已上舊額田產俱以漸消耗今只存在冊田五十七頃

書京口三山存恤碑後

明尚書陸光祖

金焦北固三山鼎峙大江鞏固天闕金陵實寰宇間之鉅勝其梵剎自江左六代僧得道者如林先朝賜香燈供養田甚夥近歲腴田盡沒於民家所存磽薄纔什百之一而賦益重費益繁僧益困極則千餘年古剎日頹廢矣余每過之興嗟語當事者漫無(訾省至萬曆癸未春)撫臺中丞郭公按院侍御邢公下其議于兵憲按察李公於是太守王君司理左君與徒陽二邑之長僉議存恤減賦蠲役具如兵憲檄文所云余同郡太史馮君為書其事鐫于石以草示余余時病卧當湖上竊獨嘆一時內外臺郡邑長佐皆仁賢循吏故能為此利澤之事於無窮因書以識喜立圖傳示永久焉

書京口三山存恤碑後

明編修馮夢禎

余聞兵憲李侯存恤京口三山事而甚為法道興慨也魚相與處于陸相呴以濕相濡以沫孰若相忘于江湖哉三山鼎峙大江為東南勝剎當法道盛時多擇明眼尊宿為之住持十方龍象望風雲集僧徒萬指至割膏腴數千頃充其供養縉紳大夫東西遊者非徒登眺山川且以咨决心要如東坡佛印之事不一而足炳耀今古抑何巍巍也方今法道向衰僧徒凋弱賜田存者僅千百之十一又多瘠薄佃租畝僅一斗糧差戶役不異齊民天下故少明眼人職住持者與常僧無異官府追呼若待奴隸縉紳大夫僅以遊覽行不復知佛法為何事而送迎供給之費反以累僧奈之何其不窮且逃耶李侯以憲臣視兵鎮江郡慨然念之下有司議存恤於是三山田若干頃除額稅外條編料價如數蠲免且給券為永守計嗟乎仁哉魚將枯死而不呴之濕濡之沫頃刻之不延而安所俟江湖以是知李侯之恩與三山並存也李侯去矣繼李侯者庶幾其常存李侯之心而徼福三山也哉

附存恤下帖

欽差整飭蘇松常兵備兼管河道驛傳湖廣提刑按察司副使李為違旨飛累事萬曆十八年二月初八日奉欽差總理糧儲提督軍務兼巡撫應天等府地方都察院右副都御史周批該本道呈詳本院批仰蘇松兵備道通將金焦甘露應納應免錢糧查議詳報奉經行據江府查議前來該本道看得金焦甘露三山並係先朝勅建故各有欽賜田地在金山則有五十七頃焦山五十六頃甘露四十九頃每畝止納勸米二升其餘夏秋稅糧條編料價等項盡數蠲免此特恩也後因一則均糧一應糧差悉與民田同科由是金焦等三山寺僧呈告不已至萬曆十八年間該前道酌議除夏秋稅糧照舊辦納外止將條編料價量行優免焦山約免十分之五金山約免十分之七甘露盡免葢因地當南北之衝經過使客時而登臨僧人薪水之費誠

所不貲故以此少示優恤耳况經前院詳允似應仍舊批開前因擬合就行為此除行該府轉行先年欽賜田地照數優免所據金焦甘露三山田地仍照前道原議優免合給箚付焦山金山甘露寺住持將本寺先年原蒙欽賜田地每年夏秋稅糧照依民間田地一體辦納其料價條編盡數優免餘田不得影射冒濫須至箚付者

萬曆十八年二月十三日給

金山龍游禪寺志畧

金壇綏菴居士蔣超較正

嗣祖比丘鐵舟行海修輯

楚潭叅學門人超智編次

高僧

目錄

梁誌公禪師
梁僧祐律師
唐裴頭陀
宋道月禪師
宋幼聰禪師
元長溪深禪師
元元叟端禪師
元月江印禪師
明旅泊問禪師
明縉雲禪師
明空滿禪師
明若氷法師

高僧

寶誌

梁釋寶誌金陵人姓朱少出家止京都道林寺師沙門僧儉修習禪觀至宋大始初忽如僻異居止不常飲食無度跣行街巷執一錫杖杖頭掛剪尺鏡布於齊建元中稍見異跡先言後驗士民咸敬事之武帝謂其惑收獄又見景陽山猶有一誌與七僧俱常分身三處應供帝知師供侍焉出入禁內求雨雨降食魚魚活上問弟子煩惑未除何以治之誌云十二又問十二之旨誌云在書字時節刻漏中又問何以淨心修習誌云安樂禁如是提持本色家風後奏帝撰水陸儀文天監同祐律師於金山大會至神化日鐘山之獨龍阜神奇莫測其事甚繁備載本傳

僧祐

梁釋僧祐本姓俞父母世居建業年數歲入建初寺瞻禮踴躍樂道不肯還家父母憐其志師事僧範年十四父密為訪婚祐知避至定林投法達法師師亦戒德精嚴及年滿具戒執操堅明受業於法穎穎乃一時名匠為律學所宗祐乃竭思鑽研遂大精律部有邁先哲為帝王見重講律聽常滿萬指凡獲信施修葺建初定林繪繕像好武帝臨川王知師年衰足疾聽其乘輿入大內為六宮受戒天監四年奉詔金山證明水陸儀文極徵祥瑞十七年五月二十六日卒於建初寺春秋七十有六窆於開善定林之舊墓註有律學諸部廣行於世焉

頭陀

唐裴頭陀生而穎異胎素不群乃河東裴相國休公之子也因作文送出家行頭陀行精煉形神清齋一食六時危坐後來潤之金山塔傍巖洞中每入禪觀降龍斷臂重興殿宇功成而不知所之宋相張商英題云半間石室安禪地葢代功名不易磨白蟒化龍歸海去岩中留下老頭陀

道月

宋金山道月紹興中岳飛途中得夢到山質問於師曰夜夢兩犬抱頭而言未審凶吉月曰二犬着一言乃獄字必要謹飛謝登舟月又囑以偈云

風波亭下浪滔滔　千萬留心把舵牢
謹備同舟人意歹　將身推落在波濤

又云

將軍此去莫心焦　未審金牌氣怎消
滾滾風波須仔細　勞心把舵要堅牢

飛至錢塘果被秦檜陷於風波亭下後檜知月囑語差何立提月正遇說法立候聽已月乃重整衣香問訊大合掌說偈曰

吾年四十九　是非終日有
不為自己身　只為多開口
何立自南來　我向西邊走
不是佛力大　幾乎落人手

竟怡然坐脫

幼聰

宋澤心寺釋幼聰咸平初獻山圖詔遣內侍藍繼宗賜大藏經祥符五年詔改山名曰龍游天禧五年又遣內侍江德明就餙佛像給錢三百萬市术修寺寺僧求表舊名詔山曰金山寺曰龍游聰師德行人也

長溪

元深長溪不知姓氏往來金山有神跡焉入定僊女散花出定龍子擎鉢大有功於此山虞學士送師還山詩云

長溪送到長江上　千古金山是寶山
晝永獻花天女下　夜深持鉢老龍還

薩都剌送詩

諸天聽法蒼茫際　萬佛垂光紫翠間
我欲題詩酬道德　摩崖常恐雨苔斑

元叟

元元叟端禪師奉旨金山水陸陞座拈香云此香融五嶽之神秀五嶽莫並其高(崙結)九地之精英九地莫窮其深厚爇向爐中端為祝延大元世界主當今皇帝聖躬萬歲萬萬歲陛下恭願懷保小民茂昭大德本枝百世壽考萬年問答不錄乃云盡不可說不可說微塵數世界是個金剛正體淨躶躶絕承當盡不可說不可說微塵數世界是個寶覺心赤灑灑無空闕如天普蓋似地普擎如日普照如風普吹無一時不徧無一處不周無一理不圓無一事不具塵塵剎剎八面玲瓏物物頭頭十方通暢拈一莖草作丈六金身將丈六金身作一莖草腹中現百億閻浮提室內湧三萬二千獅子座七縱八橫千變萬化左之右之無可不可三世諸佛以此正體以此心坐寶蓮華成等正覺津濟四生梯航九有六代祖師以此正體以此心開甘露門廣度群品啟廸盲聾炳耀癡昧奕世人王帝主以此正體以此心為生民立極為世開太平基拯黎元於塗炭措天下於盤石大元世界主當今皇帝以此正體以此心克紹丕圖纘登大寶百億須彌盧百億香水海日月所照

風雨所至悉禀威靈咸歸化育乃至此日特頒聖旨敦遣使臣就金山古澤心寺照依梁武帝科儀修設天地冥陽水陸大會七晝夜蘸種種香然種種燈營種種上妙飲食設種種上妙服御金銀珊瑚珠瑪瑙種種上妙珍寶而為供養命僧一千五百員披轉三藏五乘十二分秘典詮權也實也頓也漸也半也滿也偏也圓也交光相羅如寶絲網上以翊衛皇圖下以資培民本徑山臣僧行端與禪教律三宗耆年碩德以此正體以此心欽奉綸言高陞寶座闡揚諸佛無上奧旨發揮諸佛無上秘傳若幽若顯若聖若凡若飛若潛若動若植普仗良因均霑妙利四方消炎渉之虞萬姓樂耕桑之業同躋仁壽共享昇平當此之時理周事徧果滿功圓直下無私一句畢竟如何擎展擊拂子云化行舜日山川外人在堯天雨露中復說偈云

執尺量虛空　終難究其數
持蠡測海水　豈解知其源
吾君本心體　廣大亦如是
欲求其邊際　畢竟不可得
吾君之壽量　與此心體同
欲求其窮極　是亦不可得
吾君之福源　與此壽量同
欲求其窮盡　是亦不可得
太后皇太子　嬪妃諸眷屬
心體及福源　等無有差別
一塵一佛剎　一剎一釋迦
各現廣長舌　共說如上事
百千萬億中　亦不能及一
天人群生類　地獄鬼畜等
十方諸有情　三界含識
當知此心體　本來相如是

月江

元月江印禪師奉旨金山寺水陸陞座普說僧問堯風蕩蕩如天濶舜日囷囷似海深法施門開無壅塞三途八難盡超升朝宰臨筵請師說法師云天無私葢地無私載進云梁武製文於曩日我皇今日再敷揚師云聖人無兩心進云昨日金鏗明碧落今朝法皷震玄音師云見聞明歷歷我法妙難思進云與麼則皇道與佛道並行也師云知恩方解報恩師乃云如來往昔為生修治法海無邊行有如沛澤清炎暑普滌生煩惱熱所以乘大悲願力示現世間為三界大師四生慈父如優曇華時一現爾或於一毫端現寶

王剎坐微塵裏轉大法輪或為轉輪聖王王四天下千子圍繞七寶莊嚴壽八萬歲飛行自在所向無礙其國豐樂人民熾盛威德特尊無有為比是皆大悲願力中之所發現所以道大悲願力如大海甚深無底大悲願力如太虛空廣大無際大悲願力如大日輪升于虛空大悲願力如須彌山普雨寶大悲願力如如意珠滿生願大悲願力如世明燈普照一切大悲願力猶如高蓋普蔭群生我佛如來以大悲願力為體因於生而起大悲因於大悲生菩提心因菩提心成等正覺譬如曠野之中有大樹王根若得水枝葉華果悉皆繁茂菩提樹王亦復如是一切生而為樹根諸佛菩薩而為花果若諸菩薩以大悲水饒益生則能(成就)諸佛智慧花果若諸菩薩以大悲心饒益生則能成就阿耨菩提是故菩提屬於生若無生一切菩薩終不能成無上正覺故我大元佛心聖人與釋迦如來轉輪聖王同一根本同一枝葉亦乘大悲願力示現世間作大國王為世界主允文允武克哲克明辰法垂永視四海生如赤子金輪綰御攝十方剎土為一家具十地菩薩之身心超四輪王之壽量萬機之暇留心佛法以正法治民故佛教倍前光明熾盛以大悲心饒益生開甘露門廣度群品由是於楊子江建金山萬僧之海會修水陸無碍之大齋披閱五千四十八卷尊經講演教律直指難思之妙法以百億日月而為燈燭使一切生得証光明三昧門故以百億須彌而為香饌使一切生悉皆飽滿得證法喜禪悅樂故以百億香水海而為醍醐酥酪使一切生頓息饑虛得入如來清淨法海故以百億四天下七寶而為布施使一切生永離貧苦皆得如意富樂故以過現未來百千萬億恒河沙微塵數諸佛菩薩而為眷屬使一切生得依怙善知識故以三千大千世界而為經卷使一切生常轉如是經故上窮有頂下極空輪若幽若顯咸脫於苦輪曰天曰人皆承其恩力莫不皆從佛心聖主清淨微妙大悲願力之所流出上合諸佛本覺妙心下與一切生同一悲仰以此祝聖壽壽如妙高不動之山以此延聖福福等華藏甚深之海以此治國家則民康物阜以此平天下則海晏河清百億刼之罕逢十方國之希有何異釋迦出世彌勒降生恒河沙界盡入提封九十六種咸歸正化巍巍乎蕩蕩乎不可得而量不可得而思議只今君臣慶會佛法光輝知恩報恩作麼生道兩輪日月無私照一統乾坤樂太平復舉梁武帝夢神僧告曰六道四生幽囚者何不建水陸大齋而濟拔之帝寤詔十大高僧披尋大藏撰成儀文始於金山建此大會於初夜分悉停燈燭帝親臨筵禱曰若此儀文理協聖凡願我拜起燈燭自明如未得聖意燭暗如故帝一拜燈燭皆明二拜宮殿震動三拜天雨寶花當時靈異不可勝數至於歷代修建顯驗尤多當今佛心天子以梁武之心為心特降御香七寶練緞修設齋供建此大會宰相百官光臨法會諸山碩德共闡玄音凡聖混融人天交接直得娑竭羅龍王從海湧出親獻寶珠天帝釋空中雨花殷勤贊嘆上來臣僧升于寶座舉唱宗乘所萃鴻因端用祝延天算復成一偈

堯眷八采輝寰宇　舜目重瞳照四方
紫金山頭日卓午　大千沙界仰恩光

久立尊官伏惟珍重

旅泊

明旅泊老人箬菴問禪師應七請建水陸大會陞座僧問踢翻滄海大地塵飛喝散白雲虛空粉碎令拔濟水陸幽冥向何處安身立命師云剎竿頭上仰蓮心進云恁麼則棒頭指處明如日爇向爐中幾個知師云幸得闍黎共證明問如何是金山境師云赫日炎天飛片雪進云如何是境中人師云汗雨淋淋問萬仞峰頭獨足立百尺竿頭撒手歸如何是萬仞峰頭師云劍閣高千仞夜行人不知進云天上有星皆拱北人間無水不朝東師云又與麼去也乃云盡世界是個寶華王座塵塵剎剎滿目全彰窮億劫只這不壞正身歷歷明明更無遮護乘此座據此身悲濟四生梯航九有所以道天人群生類咸承此恩力以此恩力故無一佛不成無一生不度無一佛土不該無一微塵不具無苦不息無樂不極此心不昧諸願恒圓乃佛乃祖開大方便門若聖若凡同遊正覺海山僧今日秉此願輪合寺勤舊竭此心力遵依古制修設天地冥陽水陸大會半月日晝夜於中無一佛事不與身俱無一纖塵或離本座一香一花一燈一供一歌詠一讚唄一經一佛一字一句如帝網光如摩尼色交光相羅互融周攝到者裏不可說不可說微塵世界中或幽或顯或暗或明一切沉溺苦趣生何啻如日並照如風普吹達性本空一獨現會中莫有同相證明者麼不見道處生死流驪珠獨耀於滄海踞涅槃岸桂輪孤朗於碧秋驀喝一喝卓拄杖云但能當念空諸有共轉如來正法輪

縉雲

公諱法肇字縉雲俗姓高氏蜀之蓬州人也髫齔芟染於本州鳳凰寺年十六南詢叅歷講肆受戒於憨山大師聽講於蓮峯二楞輒自嘆曰正法道要唯在解脫拘滯文字其能濟乎獨走少室扣無言宗主執侍三年盡獲其旨無言授以偈曰

萬戶俱開類廣寒　一条官路透長安
如來心印分明記　珠付摩尼看走盤

嗣是飛錫南徐住金山之大徹堂往來縉紳士人樂與之遊亦不以提唱為己任時萬曆之丙辰也公以金山為寶公建興水陸之地而像法久湮

乃經營變相卷軸六十四及蒐葺儀文建水陸閣以奉像設崇禎五年壬申七月十七子夜說偈而逝壽四十七臘三十有九闔山哀切建窣堵波於寶葢山

空滿

公東海萊州人天性至孝不露姓氏父母日廬墓三年遂脫白苦修以報親恩志慕海島金山寺先住朝陽洞長坐不卧默持楞嚴秘密不記其數而得一心不亂純一無雜之境後閱法華得悟開佛知見四句偈凡隨喜者有問答過後有應次移妙峯之絕巘以數蓆蓬僅避風雨髮長不薙足不履地因感四建無梁殿法華樓多寶塔幻出可觀又見山中藏經多缺少者乃往北都同徒如然苦行募藏時天下請藏者蝟集唯公德行所感大內降香賜紫得全藏還山更建蓮華閣而供奉焉每祝願雙親生阿斯天僊足矣雖垂耋耄不言壽臘可謂高尚其志翰林王肯堂為之記後無病吉祥而逝藏於竹林之西譚家山也

若氷

公諱福城字若氷四川渠縣趙氏子也稚性沉默凝靜端嚴八歲落髮縣之羅漢寺依叔父映天為徒敏而好學年滿遊方詣高原於龍岩山得親相宗染指教乘三年辭去二十有六遂抵金陵浮沉講席受具人宥律師徧叩名宿四十始到京口悟心法主深研悟旨嗣法受衣喜止金山與縉雲友蒼諸公互相砥礪公獨鄭重儀範忽縉雲翛然揖世輿議請住大徹堂十有餘年得以坐究龍藏博通內典四請弘唯識楞嚴於爪潤闡法華於本山言含妙義梵音清朗見者聞者無不皈依至六十一目擊世運更遷生死凋落閉關八公洞溟心內照樂意禪觀葢不忘其所自順治辛丑三月初十示微疾三日遂喚弟子德本等云我在關中神情怡悅冥念純一且付衣有人予亦無愧於茲矣念佛數聲向西蟬蛻享年七十一臘六十三僧俗慕其高風建塔於錦屏山之陽也

題贈

題贈扁額乃名賢達士目擊名藍勝境與高僧宿德酧唱機宜輒有命題其世出世間凡所有相豈能保其長久乎然時移事遷興替不同此護法心似不忍忘遂錄存以誌山靈之永好云

行海識

法門秘藏
妙慧一泓(吳泰來題并書)
天宮寶藏(樊尚璟題)
潮梵和音(秦鏡題)
筏濟無邊(易水劉大川題)
海禪宗(順治甲午張思明題篆)
苦海慈航(西蜀蕭雲舉題篆)
自在法門(江都楊九鵬題并書)
禪宗寶藏(申時行題)
另是一天(陳國經為大徹堂題)
中流砥柱(天水胡纘宗題丹徒令藍田李本書)
飛巖驚幬(西雒王鐸題)
天懸柱石(李率泰題)
龍游禪寺(成化癸卯明遼王書)
大雄寶殿(成化癸卯明遼王書)
洄瀾矗漢(張思明題)
形似盤龍(越人柴際題)
佛印山居(虞淳熙題周天球書)
乾坤一覽(行人內江高梅題)
水月空明(智烺題)
煙雨奇觀(宋淳熙戊戌主僧蘊衷建弘治庚戌郡守鄭傑命工重建于北墝左)
吐納江波(李植題)
雲水樓臺(楊寀題)
破浪開山(河東塗廓題)
長嘯江天(太守錢升題)
金沙江月(王懩題)
千古雄觀(新安汪廷納題篆)
江山如画(鄭貴京題)
雪崖氷柱(張翮題)
江心坐快(朱啟元題)
有山此僧(楊道寅題)
山水佳居(越人柴棨題)
坡僊遺蹟(黃吉士題)
卷石飛來
空閣雷聲(河東李瑾題)
金玉懸岩(在蟒洞之旁怪石嶙峋草木罕生其赤若金其白如玉灼灼艷艷若烟霞浮空古記謂紫金浮玉者此也)
江山一覽(在南墝右)

不忙處(史[范/土]題)
百八窩(劉玄賜題)
小匡廬(樂天遊匡廬見泉勝絕為之忘歸斯臺之曠有不殊也書以誌之雲間張安茂書)
第一泉(鐵溪題)
中泠泉(隆慶戊辰春三月望七十二翁仲山王問篆)
羼提齋(王鐸題)
雪洲門(大徹堂堂左後)
臺骨依雲靜(蘆中公題)
江聲帶雨飛
苦海岸頭清世界(丹徒令張文光題)
浪濤千古(康應乾府主題)
佛國金湯(趙庭府主題)
雪山示現(張瞻題)
俯視一氣(張瑞圖相國題)
中流自在
江山滿目皆詩料(唐虞世請)
龍藏寶閣(趙志皐題)
烟雨千家總畫圖(仙判對)
天風海濤(朱來遠題)
玉液潭(懷劬題)
江山絕勝(汪高梅題)

記蹟

梁天監二年武帝夢神僧告曰六道四生受苦無量何不作水陸大齋以拔濟之帝覺問諸沙門無知者惟誌公勸帝廣尋經論必有因緣帝遣迎大藏經置重雲殿積日披覽創制儀文三年而成乃建道場于金山寺命諸沙門依式修設僧佑律師宣文大彰感應(佛祖統記)

唐咸亨中長安法海寺英禪師夕坐方丈忽異人來謁曰大覺寺吳僧義濟藏金山水陸儀文盍願往求之于山北寺修設言訖而隱英遂訪義濟而果獲焉遂設大會廣濟孤爽(葦江集)

唐光啟中金山寺西石磯上有異獸狀如牛無角色黃而毛長可數十丈引首望城中久之復回顧廣陵寺僧觀者漸多乃躍入水波濤洶湧如車馬聲移刻乃止(稽神錄)

金山「萬川東注，一島中立」丹輝碧映，攬數州之奇，于俛仰間而下，有蟠龍之宮，神靈之府，實堪輿間一奇絕處也。(洞天記)

金山之勝，非獨據江瞰海，並楚之衝而演吳之要地。其浮江之檻，負崖之屋，椽摩棟接，環山四出，有以夸天下者也。(曾子固記)

潤州大江本與楊子橋為對岸，瓜洲乃江中一渚耳，潮水昔通揚州城中。唐李紳詩云：「 鷓鴣山頂片雲晴，揚州城裏見潮生。」大曆後潮始不通。今瓜洲與楊子橋相連，自楊子距江三十里，瓜洲以閘為限，雖楊子橋亦不至矣。

山有佛寺建於晉太寧中名澤心寺至唐有裴頭陀斷臂立誓重開山焉

宋蘇子瞻過潤留寺數日一日佛印禪師挂牌與弟子入室子瞻至方丈見之印云內翰何來此間無坐處公曰暫借和尚四大作禪床印曰山僧有一問若答得便請坐道不得輸腰間玉帶公欣然曰便請師曰山僧四大本空五蘊非有居士向甚處坐公不能答遂留玉帶印却贈以雲山衲衣公乃賦二絕云

病骨難堪玉帶圍　鈍根仍落箭鋒機
會當乞食歌姬院　故與雲山舊衲衣

又

此帶閱人如傳舍　流傳到我亦悠哉
錦袍錯落相稱　乞與佯狂老萬回

(五燈)

寺有薦慈塔宋元符中丞相曾布用西府俸所建以薦其先者

元豐末，子瞻得請歸耕陽羨，舟次瓜步，以書抵金山了元曰：「 不必出山，當如趙州接趙王。」元得書徑來，東坡迎笑問之，元以偈答曰：

趙州當日少謙光　不出山門接趙王
爭似金山無量相　大千都作一禪床

宋佛印禪師遊京師，天子以高麗所貢磨衲賜之。客有見而歎曰：「 嗚呼善哉！未曾有也。嘗試與子攝其齋衽，循其絡，舉而振之，則東盡嵎夷，西及昧谷，南放交趾，北屬幽都，紛然在吾箴孔綫蹊之中矣。」佛印笑曰：「 甚矣，子言之陋也。吾以法眼視之，一一箴孔有無量世界，滿中生所有毛竅，所衣之衣箴孔綫蹊，悉為世界。如是展轉經八十反，吾佛光明之所照，與吾君聖德之所被，如以大海注一毛竅，如以大地塞一箴孔，曾何嵎夷昧谷交趾幽都之

足云乎？當知此衲，非大非小，非短非長，非輕非重，非厚非薄，非色非空。一切世間，折膠墮指，此衲不寒；鑠石流金，此衲不熱；五濁流浪，此衲不垢；劫火洞然，此衲不壞。云何以有思惟心，生下劣想耶？」蘇軾聞而贊之曰

匣而寶之　見衲而不見師
衣而不匣　見師而不見衲
惟師與衲　非一非兩
渺然視之　蟣虱龍象

李龍眠畫子瞻照容弟子由贊佛印像亦龍眠筆也留金山寺後東坡過金山自題曰心似已灰之木身如不繫之舟問汝平生功業黃州惠州瓊州

蘇子瞻以怪石供佛印佛印以其言刻諸石蘇子聞而笑曰是安所從來哉予以餅易諸小兒者也以可食易無用予足笑矣彼又從而刻之今以餅供佛印佛印必不刻也石與餅何異參寥子曰然供者幻也受者亦幻也刻其言者亦幻也夫幻何適而不可遂舉手而示蘇子云拱此而揖人人莫不喜戟此而詈人人莫不怒同是手也而喜怒異世未有非之者也子誠知拱戟之皆幻也則喜雖存而根亡刻與不刻無不可者蘇子大笑曰子欲之耶亦以供之(東坡集)

金山一名獲符山亦名頭陀岩按記謂因李錡奏而易名然建中間揚州陳少游以甲士臨江韓滉總兵臨金山與少游會則建中時已名金山非自錡始梁天監四年金山修水陸會則金山之名殆非始于建中明矣(頭陀記)

金山據海上游而茲亭據山絕頂當夫日月踴出如金丸躍冶閃爍激射沉影浮光變態無極若乃陰霾霧雨天水蒼茫上下玄同如鴻濛一氣混沌未分時或長風驟來驚濤黏天怒波拍空山根搖而欲浮地勢振而若飛恍如神鰲揚鬐島嶼騰躍憑欄俯視目眩心顫海之大觀于斯為極舊有亭曰吞海嗣山曹公始復之(彭國光吞海亭記)

東坡大風留金山兩日云塔上一鈴獨自語明日風當斷渡于湖詩云塔上一鈴語湖頭三日風用坡語也(偶談)

楞伽室在妙高臺右宋張安道自翰林學士出守滁州一日入瑯琊山藏院呼梯梯梁得匣發之乃楞伽經也恍然覺前身乃知藏僧寫楞伽未終而化續書殘軸筆跡宛然如昔元豐末蘇軾過南都安道出此經授軾且以錢三十萬使鏤板印施江淮間軾曰此經在他人猶為希世之寶況于公乎請家藏為子孫無窮之福金山主僧了元謂軾曰印施有盡若書而刻之則無盡乃為書之元使侍者曉機走錢塘求善工刻之板以為金山常住乾道中主僧寶印軾寫經處扁曰楞伽室(子瞻集)

舒王宿金山寺賦詩，一夕而成長句，妙絕。如曰：「 天多剩得月，月落聞歸鼓。」又曰：「 乃知像教力，但渡無所苦」之類，如生成。山谷在星渚，賦道士快軒詩，點筆立成，其畧曰：「 吟詩作賦北窗裏，萬言不及一杯水，願得青天化為一張紙。」其筆端三昧，遊戲自在也。(冷齋夜話)

宋翰林蘇紳公嘗題金山一聯云僧依玉鑑光中住人踏金鰲背上行時公方舉大科識者以人踏金鰲背上行乃榮入玉堂之兆已而果然公位止於內相豈亦詩之讖耶(青箱雜記)

楊子江心水號中泠泉在金山寺傍郭璞墓下最當波流險處汲取甚艱士大夫慕名求以瀹茗

金山佛印與人談笑間化去吳人鄭夷甫聞之喟然嘆曰不得壽得如此去夫復何憾哉乃從僧授楞嚴忽有所省曰死生之理我知之矣後預知時至沐浴更衣屹然立化(夢溪筆談)

東坡詩云：「 江山如此不歸山，江神見怪驚我頑。我謝江神豈得已，有田不歸如江水！」葢遊金山與江神指水為盟耳。

邵半江題陳圖南小像云：

磐陀石上淨無塵　岳色江聲共此身
莫怪吳儂渾不醒　百年俱是夢中人

外紀

宋咸平初澤心寺僧幼聰獻山圖詔遣內侍藍繼宗賜大藏經祥符五年詔改山名龍游天禧五年又遣內侍飾佛像給錢三百萬市木修寺寺僧求表舊名詔山曰金山寺曰龍游

元至治中僧應深寺之右建大閣焉上嚴萬佛之像下肖五百羅漢之容文帝潛邸之日登是閣壯深締搆雄偉出帑金成佛像以贊之至順中深奉佛像以進上曰閣中萬佛已莊嚴乎對曰像具未完出內府寶鈔五萬緡賜之名其閣曰萬壽

元虞集記云南徐古治限大江之堮受川之委東趨而將至于海其浸汪洋以無涯其流舒肆而莫止拳然屹立江中以迎其衝者金山也(圖經)

金山灘瀨下多黿鼉宅每泝洄順流噆喁沉浮或近或遠出沒浪花間頗類馴擾可玩故子瞻詩有扣瀾見黿鼉揚首意自得之句(名勝錄)

萬壽閣記云一念慮之善一佛之全體也一號令之善一佛之大用也譬如瞻日于天人各見日如日視己不知所見一日也觀月于水人各見月如月視己不知所見同一月也散之諸有名之為萬歸之於無其實一佛也一佛萬佛也(元虞集)

客有問此山何以名金有云昔裴頭陀開山得金故名客笑曰若然則銀山是得銀錫山是得錫也殊不曉出自佛書大地外有香水海以縈之海

水播溢無常天帝設四大七金山浮游於海以定之以此山似之故名之又何疑哉

金山江中有毒龍變幻不出船由州渡必欲渡此江須大祭乃得否則必覆後以佛力遣去

金山從北岩下一穴能容人出入中空洞而上數丈石床如案一洞大方二丈四面風生不可久留

金山中冷水比他水每甌重錢腹瀉者飲一甌頓止煮茶無宿垢

江心龍門水深二百丈似與郭璞墓相連實不連勢亦孤絕也

金山居大江中迥然孤秀詩意難盡故孫張詩為第一羅隱亦云老僧齋罷關門睡不管波濤四面生(日記)

客又問何為浮玉此出仙經上仙居浮玉山朝上帝則山自浮去因金焦俱在水上似之故贈名也

楊升菴云郭璞善地理凡遇吉地必剪爪髮以瘞之故郭璞墓所在皆有

溥無際住持金山性慧博記士大夫至必曰金山主人嘗建毘盧閣祖師殿及修陂塘埧閘以利寺業賦役之免多其用力

全體菴能詩重建吞海中泠二亭學士黃淮書扁保定候留玉帶

李贊皇，居廊廟日，有奉使京口者，托取中泠水。其人醉而忘之，泛舟至石頭城，方憶，乃汲江中，歸京獻之。李飲之，嘆訝非常，曰：「 京口水味，有異于頃歲矣。此頗似石頭城下水。」其人謝過不隱。(廣記)

梅聖俞山形無地接一聯絕妙尾句有味孫又有句云結宇孤峰上安禪巨浪間可以埒然移之落星湖心亦無不可(律髓)

明王陽明年十一歲時，其祖竹軒携往京師過金山，寺翁與客酒酣擬賦詩，未就。陽明從旁賦曰：

金山一點大如拳　打破維揚水底天
醉倚妙高臺上月　玉簫吹徹洞龍眠

客大驚異，復賦蔽月山詩曰：

山近月遠覺月小　便道此山大于月
若人有眼大如天　還見山小月更濶

(王文成年譜)

明別峰禪師，洪武初奉勅住山，嘗赴京賀萬壽聖節，寓雞鳴寺，高廟親臨寺，賜詩曰：

命駕雞鳴訪老禪　知師昔日住承天
幼年叅學心猶切　晚歲修持操愈堅
蓮發性天香馥郁　月澄秋水玉團圓
一毫照徹三千界　何必藏身北斗邊

明景泰甲戌郡守白公命住持弘霪寧諼作亭于頂或曰晦冥之朝風雨之夕雲氣往往停留其上故名曰留雲亭

明慈聖光獻皇后嘗夢神人云：「太平宰相項安節。」神宗密求諸朝臣，及遍詢吏部，無有此姓名者。久之，吳充為上相，瘰癧生頸間，百藥不差。一日立朝，項上腫如拳，后見之告上曰：「此項安節也。」蔣之奇貴，項上大贅，每忌人視之。為六路大漕，至金山寺。僧了元，滑稽人也，與蔣相善，一日見蔣，手捫其贅，蔣心惡之，了元徐曰：「冲卿在前，潁叔在後。」蔣大喜。(可談)

明永樂中僧道瀾創毘盧閣及兩廊洪熙改元葺大悲殿新梵像正統十一年寺燬明年都綱弘霪重建是歲勅賜藏經侍郎周忱建庫貯之主僧寧諼重葺大徹堂於中泠亭側悟心堂於妙高臺下景泰中郡守白仲賢重搆留雲亭於山之絕頂弘治八年安賢建五聖閣于毘盧閣之南

往有高僧呼龍曰汝能見身乎龍見一頭如山僧曰汝能大却不能小能入吾鉢中乎龍入鉢中僧曰汝能出乎龍百伎莫能出僧因與之說法開其毒惡龍請降以聽法今封順濟龍王是也本山伽藍之一

自張祜吟詩後詩人閣筆孫魴復吟一詩時號絕唱然魴詩不及祜如驚濤濺佛身之句寺何其低而小哉末句仍自驚衒天多剩得月一聯亦未為至以其亦可用之落星也

燕華君題金山寺詩云濤頭風捲雪山脚石蟠虬

楊升菴云唐人韓垂題金山詩當為第一張祜詩雖佳而結句終日醉曛曛已入張打油矣

中泠井中梯可下須冬涸時乃可大可數丈高可二三尺以手捫銀杏樹根直立不知下至何處乃止

記異

唐大曆八年靈坦禪師卓錫金山山北有毒龍穴常吐氣如雲近者多病或斃師居之毒遂滅師在江北異跡甚多具在本傳(神僧傳)

宋歐陽文忠公宿采石渡夜聞相呼之聲舟尾忽應曰叅政宿此不可去公疑之至五鼓岸上馳驟有聲舟尾又呼曰如何行者答云道塲不淨無所得而歸公愈異其事後遊金山以告寺僧僧曰昔者施主于寺設齋方第二筵其妻乳卧少頃腥風滅燭駭其異公詢其日正宿采石之夜也(夜話錄)

宋元祐間了元禪師靜夜東望忽見焦山西北五色霞光上燭星漢亘夕方滅因于方丈搆妙高臺潛對其地今址在山畔而為層巒掩蔽焦山不望而見矣(詩序)

元豐中本山五色霞光夜起達旦始滅

明弘治十六年七月十八日夜僧安議卧聽江上龍舟競渡聲起視惟見空中火色熒煌自西船聲繞寺而去明旦安北渡遇覆舟之溺

明成化中僧雪堂於金山閱藏本郡熊守為助糧一日疾終熊獨坐衙內忽見雪堂獨入私室頃報曰室人產一男命吏往金山探問而雪堂是日時沐浴已入滅矣

金山有一巨蛇色黑其大如斗人常見橫于山或踐之動而去必不傷人

金山有一片水銀大於席月下或將曙飛集僧屋忽不見偶一夕夜月初上時有山人孔承寵見所積柴蘆上一席如銀近而視之颼然飛去驚問山中僧始知之

金山塔時放舍利光遊客與僧頻見之

金山居僧及借寓之客渡江必無傾覆之患聞神龍常默為呵護

大徹禪堂僧古燈厨下一童不知何來年二十見人惟笑至齋時堂前歌舞不知所歌何言與之言世外事始肯點首知其為異人後沐浴坐化

宋進士虛中王日休，一日附舟至江，閘缺水不能行，乃於金山借四經，《阿彌陀經》也。欲校勘板廣傳，舉筆之時，右手有風疾，其指自掉，寫字非便。予乃舉指，念阿彌陀佛與觀世音菩薩數聲，禱告乞除風疾，以成寫此經。禱于空，指遂不掉，以至終帙無恙。以此見佛與菩薩只在目前，但人信心不至耳。(《龍舒淨土集》)

嘉靖六年七月初一日夜至三更忽聞霹靂一聲房屋皆震動天明以見靈觀閣外金柱樓板上擗破裏半面樓板下擗破外半面觀者皆　其事莫測其理明有人多得勞疾相因傳染者數十人取病者於棺中釘之棄於水流之於江永絕傳染金山有人異之引岸開視見一女子猶活取置漁舍多得鰻魚羹啖之漸有生意病遂愈為漁人之妻稽神錄與三元參贊同

金山都綱弘霆戒臘孤高成化三年二月十一日涅槃托生南京柳千戶家四歲方言忽曰我是金山寺霆僧官其父異其事令家人至金山詢問使曰其生時正是霆公入滅之期及長送能仁寺出家胎素比昔尤善

江天閣一老僧號無碍司一山晨昏鐘皷寒暑不輟常持金剛經偶渡江落水止淹半身乃誦金剛經之力也

江有一老黿夜窟甘露港日窟金山岸下以就食時有一僧與黿狎客欲見之僧輒擊魚呼之起其身四裙水蛭聚吮僧用鉗拔出百条黿快開口作聲如笑夫物之與人狎也如此

金山伽藍最靈每夜巡山偶有房僧酒醉行兇往殿前過拿進重責二十板遂推出其殿門仍閉如舊其僧從此改過修行後受華山戒者不知其

終身何如也

明禪堂有僧覺源夜出經行忽見山上燈籠火炬執事儀從如上司行狀遂避於廊廡間窺其何住竟回伽藍殿不見踪跡自云莫是夢耶身心驚悸走歸白其所以始知有龍神常出巡山

明佛印山居有老僧與沙彌夜禮觀音文忽一夜現丈六金身儼然是活菩薩遂感發之愈加精進

明永安橋中夜分有一青臉大人徐步登岸至廊廡間見有人至復回橋下江而去

明枕江樓老衲號江樓者虔書華嚴經是日客多廻互不下樓竟至黑夜其筆放光滿樓皆明有沙彌呼老太夜了何不下樓喫飯及舉首逐深黑矣始知筆生光尤加敬信

明前馬頭有二僧同提燈出恭見江面有一人上岸奪燈一僧先見廻避一僧與之相奪相奪者病故廻避者幸免

明崇禎四年大江漩渦中突起一獸如水牛相似逆流上行風波洶湧久之方沒

清順治庚子初夏黃昏時山頂忽現大人儀容威武渾身甲冑若似乎將軍也久之向北而隱多僧目擊以為奇事

清黃昏時後山東厠有一黑臉人用繩套一兵互相與奪俟後其兵認得是伽藍使者遂求祝願猶病數月免死而已

清順治戊子箬菴和尚重開大徹堂法席寶塔放青白光二次兩岸漁人入寺報知

至戊戌冬期寶塇又放光寺僧浩然耆宿繞山通知遂率出瞻禮

鐵舟和尚常坐入定於樓之南窗是夜明星朗月四無人聲惟有一犬獨向冬青樹下吠之不已啟戶視之杳無影響然吠聲愈甚曳杖出戶趁之往天王殿走犬亦隨之而吠追至殿前如人下江之狀始知有在江鬼神朝山之者名山大川每皆有之

己亥夏海上兵船繞山攪擾忽山頂有一員穿綠袍戴金額手執令旗四面指點遂至寧靖及求其人則無形跡始知關聖帝出現護山得以瓦全兩岸闔山皆目擊者

彙紀

重建大殿上梁文

宋孫仲益撰

萬川東注一島中分長江界吳楚之衝故剎踵陳梁之舊肇新蘭若寅奉金仙都綄太尉得正法眼藏而擢軍官了一大因緣而作佛事眷茲勝地獨有頹基鐘鼓不鳴龍象皆泣毘耶城大居士已屬當人妙高臺老比丘而為說法指囷分粟除地布金嗣開祇樹給孤之園首建釋迦文佛之殿六鼇負出三神山仙聖之宮一鷲飛來四大海神龍之會廻起諸天之上中嚴兩足之尊仰止仁祠俯伸報地大安國步衍河沙數之難窮求錫帝齡等西方佛之無量爰修修梁之舉共賡擊壤之音

東赤岸銀河一水通萬疊彤雲竟天起六龍推出半輪紅西草舍蕪城望眼迷日脚未收蜺飲海濤頭初上雪平堤南一勺中間乳水甘殿角風來鈴自語曼陀花雨落氄氄北北戶星垂如可摘夜鶴休驚蕙帳空古佛同龕有彌勒上堂中丈六金身相光明五色爛摩尼八部龍天盡回向下二十三生本同社庭前松栢自長春神裏靈珠光不夜伏願上梁之後四恩擁佑十方護持萬德從香之鉢而來群魔分一炬之燈而去三登歲應百順人康六合混同城池有金湯之固千齡際會山川書帶礪之盟凡在見聞普沾利樂

祭順濟廟文

維年月日江府某官某偕僚屬等官敢昭告于金山順濟龍王之神維神托迹金山揚靈江海褒封順濟實以報功月吉辰良下元届候謹遵國典常祭是伸尚饗

與寶覺禪師書

蘇軾

去歲赴官迫于程限不能住舟一別中流縱望雲山杳然有不可及之歎渡江遂蒙輕舟見餞復得笑語一餉之樂慚荷之懷殆不可勝言別來因循未及奉書專人至辱教累幅慰喻反覆讀之爽然如對妙論仍審比來法體佳勝某比粗遣但未有會見之期臨紙惘然惟萬萬自重至遊堂記當下筆遞中寄去近有後杞菊賦一首寫寄以當一笑人還草草

寶覺禪師贊

望之儼然　之也溫
是惟寶覺　大士之像
因是識師　是則非師
因師識道　道亦如是

與佛印禪師書

軾啟人至辱書承法體佳勝離揚州日忙迫不復知公在郡也但畧見焦山耳頃承示喻知世外人尚劫劫如此吾輩何足道耶妙高詩聊應命耳僕不知大如何人若果出世間豈一退之能輕重哉今日過邵伯埭自此入塵土狹猾之鄉矣回望山水間麈妙談豈可復得惟千萬為不具

與佛印禪師離黃州

辱書伏承道體安佳甚慰馳仰約遊山固所願也方迫往筠州未走見還日如約忽忽布謝不悉

復金山雪仞首座

旅泊問老人

法道不振繇於趨競時緣以時緣盛為道法盛所以叅學無眼無識無骨力從最初一步便錯也擔荷法道要在立得定守得住不圖人攢簇因緣輻輳刻刻以法道為己任刻刻以後學失據為己憂古人單丁住山五六人不廢晚叅亦何嘗營心時緣之得失公首名山所患道德不充不患時緣不就常住一切事非公才力所宜亦非公職分所當自効昨知同發心雖出鼓舞人情至意然不免失名山延請所重初心矣山僧八月朔日已入先師磬山山深岑寂可一洗近時狂濫之習有志兄弟亦樂安心此今冬快事耳

復金山鐵舟海監寺

旅泊問老人

為法致身此向上人趨操也如疑此外更有他事則日用誰為之主一刀兩斷挺立自任楊岐血脉不至斷絕內外一如心行調直不落始終不墮邊際吾深為監寺望之矣大徹祖庭不類他處可已則已繼然拋撇行盡閣浮恐不能出祖庭一步錢穀瑣屑有此願力自有此福利不必躊躇過慮也冬期望同首座以安為心囑囑

與鐵舟禪師

李皐

陽暉甫茂大地春廻正至人養和長年與物無極之會某以夙緣得叨法會感切三生敬當躬謁壇墀以罄祝頌雖座下旋繞悉大阿羅漢無容此下界凡愚而締因奕世戀戀道光亮不棄此毫末微忱也偶以凝寒相襲未能輕脫敢遣小力代叩曇筵耿耿之私愈增悵切伏冀鑒茹無任神馳

復鐵公方丈

華山讀體

百里一江兩剎相望每於雲水邊藉知道履康休興修事盛殊為加額峰頭惟艱謀面為快耳此浮玉一席甲第諸山只緣頹落多年竟無一出手眼者致使祖廈寥寥法燈虛繼苟非鐵公鐵力决不能感發鐵甕檀施令大徹堂斬新條令也泐此附候起居惟冀節勞珍育不備

與鐵舟禪師

蔣超

昨得領導益兼飽伊蒲歸來捧誦佳刻天花亂墜至今魂夢猶作龍華境界種此勝因想當多生曾事過師來不則當返折福也金山名勝先君有二律敬書呈正其後二作乃是弟子皈仰所成奉扇十柄原擬供師揮灑今乃污塗一柄亦是借婆衫子拜年耳附笑于老想回車尚當奔晤憑楮主臣

又

春間拜別巾瓶牛馬驅馳無隙軌遠承慈訊垂念殷勤感激天末嗣頃羈絆一官目斷梓里常自嘆念右軍誓墓之謂何言猶在耳竟自忘之不審此生猶能赤脚上金山石也杜道臺在都中甚承提挈茲復遠任四明臨崖

失杖遇暗奪燈思之悵然今弟子從風火不停中警策自詰我今果在何處而於任運安命則如護髻珠不敢一毫分外此報師恩之實在際也紹隆清冷于老有己饑之憂想當官中必能為海畧施檀度倘師晤時再叮嚀之不河漢我也嗣容續布憑楮瞻馳

復鐵舟禪師書

杜溎

前於舟中恭領和尚指誨如黃檗痛棒令人感激接法誨益深喜甚葢必立定脚跟始不為他人舌頭所惑至順逆境界差別因緣不受輪替始得安穩並行六度遵四攝此皆心法雙修體用兼至之要敢不秖遵乎若論打失眼睛只一味黑漆漆地正不須復較些子耳承惠語錄諸刻不敢却大徹堂功德完上謹此以復不盡神往

又

久違道範不勝渴思向聞螺鼓發我愚蒙夢寐時亦在金山法座左右也客歲在都晤蔣虎老年兄知和尚已駐錫岡山故渡江竟未圖往謁也虎老有寄師一書過揚州托泰州玉田師送至法壇玉師想必不至浮沉耳佳惠謹登一種餘璧并謝不盡

再與鐵舟和尚書

蔣超

吳郡得賜遠光病中如獲醫王施藥此後又承頒示紹隆法語感領教益謝不可言鄙意岡山終近江海兵馬往來師臺脫一塵入一塵雖願船逆駕無所不可終使皈仰者有畏龍神獰惡之心向承面諭欲於舍間閉關閱藏心甚慕之眼前力薄不能為師築靜室倘餘生不死定將僮輩移居興化倉中其近禪堂右邊一帶造成齋堂厨厙業成然後屈請法駕入院此素志也石佛菴僅可暫棲但卓公來去不定統俟改日面商不肖曩在萬峰欲從剖師受菩薩戒因恐多病戒酒非養生家所宜不曾的决今往長安誓欲了此積願容卜吉專僮舟迎吾師至華藏菴為我圓成此事至所感也寓揚尚有十日相晤非遙翹仝嗣仰

又

近接手諭只遍尋不得一語是好消息謹領謹謝人傳老師臺又住龍游想是紹隆常住不能次第耶杜君來山曾留寶帶否鄙意金山有駐防兵馬師臺或在岡山或雨花牛頭吾輩間雲野鶴何所戀戀不然金焦一日吹向石頭城去也不肖近來劇病簿書鞅掌欲得刻停不能思欲奮身名山作隨侍頭陀如驛馬卸鞍思之最切願師臺於靜中默加護念早遂初心使不肖無生得生是沐師臺再安甲子之賜也附貢齋金稍供伊蒲冗中率復不盡欲言

與鐵舟法兄和尚

黃山弘眷

別後至天目謁老人蒙以破格見待曾已俯允約夏秋之間擬可惠臨天都也新安法道寥寥之極所賴興起者惟老法兄有力大人耳此回當不妨就路還鄉撾大法鼓俾聾聵知有此事弟亦能合掌從傍贊歎希有也天目老人回札奉覽不備

天目玉琳老人手復鐵公老侄覽

承手書諄諄喜名山多故人明年夏秋之交當相携於三十六峰間但龍池祖庭近來茅塞特甚所司善權祖塔視為膜外水木本源共應培濬統待面悉不盡

與鐵舟法兄和尚

南澗大珍

獻歲諸事蝟集未遑遣候興居反辱蘧使遠臨頒諸厚貺益增愧感弟尠德無似者乏任師門毫無裨補顒望責滿卸肩深入楚雲詎意澗南之鐵枷未脫道峰犁耙加來不啻如虫負山叨老法兄之福祐將來不致蹶有玷祖席嚙檗蹈氷固所願也秋冬竚候駕臨傾倒契濶西子湖頭竟不見子喬帆影至今耿耿無已幸晤端姪備悉鄙懷并聆近况廸吉欣慰欣慰承命塲頭辦供一沾惠容遣謝不宣

與金山鐵公禪師書

華山讀體

時臨秋晚法運下衰苟非固力弘忍以法自重者奚能挽回狂倒也吾公道明德立高追前古一味家常茶飯本色惠人俾諸遐邇歸從由茲漸實頓令千秋祖席一旦斬新所謂大徹堂重輝於今日矣老朽律身寒谷株守空山翹企徽猷不勝欣慰第慳促膝緣寡曷能時吐積懷耳今時維冬杪山骨蒼寒嶺梅傲瑞雪三分足下壽期願半百亟擬東渡相見別峰緣以有所羈故弗克其願焉謹耑二子聊將不腆以介彌齡江天隆寒惟為道自玉不備

與鐵舟法兄和尚

天華行悅

兩年嶺表渴仰之情殊難言喻昨至京口欲躬趨函丈敬候起居因以勞頓受病且兼氣血不調百苦交集了無間歇奈之何也新刻正宗一書自知妄作然非瓦礫終不能引大貝南金惟望法兄和尚正顏直削不辜懇請幸甚幸甚外書面一帋求客頭侍師實貼座右使來往龍象知聞是錄不識法旨何如餘儀不成乞麾存之更望勿以拘拘形跡之禮悅至七月初必圖把晤也諸餘面悉不一

請鐵舟和尚書

史福謙

弟子福謙憶自維揚親炙大德仰慕威光誠古佛之臨凡洵如來之出世嗣後音問濶疎德容緬渺徒存饑渴之懷未遂瞻依之願茲啟舍親蔣虎臣護持正法葢已有年今者捨宅為寺禪林虛席兼以石佛菴主心切皈依用是展布微忱走懇法駕伏乞大和尚猊座下玉趾光臨金沙住錫慈雲別院開闡法之場石佛禪菴住靜之所德音遠暢無嫌蕞爾方隅正覺宗風共成光明世界懇祈惠然辱臨曷勝榮藉之至

募修大徹堂疏

清蔣超撰

金山為大江崛起一耆闍山殿閣羅列嵌空傑出極盡造物之奇山有大徹堂為宋圜祖道場相傳此山一夕徹悟一十八人惟師道風高秀汲引群英法嗣最為繁盛今磬山天童皆師正脉也入明以來有箬師翁洎其嗣鐵舟禪師後先唱和緇流雲集法雨四布祖堂並寺前天王殿久已傾圮師

皆隻手成之繼念堂為法席煆煉聖凡之地而其瓦腐棟橈久不任擔荷數向不孝私計之以為此山名勝歷代祖師淵源所系幸得從先師後託跡於此中間兵燹之所震驚人事之所委曲皆悍然不顧志圖恢理此亦似有宿願存焉子其為我成褫之予應之曰自己亥六月之變吾潤遠近奔走公私惶惑莫有寧處師寂坐妙高臺雙趺面壁不能動其一毫頭此自天神護佑非人力可致者祖席當興不雲自雨師持此堅固心豈無檀施蹶起為師建大法幢者爰書數語為券異日堂成不孝當持破衲一住一千劫師無以為鈍漢馳我也

與鐵舟法兄和尚

廣教行玉

己亥春過訪妙高峰厚擾常住懷歉至今擬掃塔回欲罄所欲言不意法駕出山相左別來未兩載殊覺變態多端想道力靜人天欽仰不待言已客歲十月輪土座至西河捧讀普說并承雅貺欣謝交集聞遷天隆弘護攸躋今五月初有南澗化主至復聞受金山請大徹堂前花雨擁簇又是一番景況矣屈指弟兄中有大福德大力量如吾老法兄者乎偶因便羽忙中修候倘下路法門細大弟相去遼遠倘有鴻便示一音

寄鐵舟和尚啟

吳一貞

浮生碌碌如在睡鄉第年來觸境皆魔連做幾翻惡夢雖本來自了奈着魘還迷頃承法旨提撕清夜洪鐘敲醒邯鄲枕上心境都空誠刮翳之金渡迷之寶筏也燕京返後亦識漏盡鐘鳴已作方外想矣擬春山可攬春水堪航當借上剎一蒲躬聆妙諦冀吾師以蓮華筏待我於碧浪津頭也敬具菲供京香貳函少表區區希惟莞茹不宣

寄謝鐵舟和尚

汪昌光

浮生半百鹿鹿魚魚豈識我是阿誰那知我在何處前承指教如夢裏聞鐘一棒當頭強於九年面壁也所嘆根器原淺夙業且深不敢覬作雙林會末之人亦不敢認為門外漢當時尋所謂我者還我不使逐猿馬紛馳服

膺和尚法旨耳虔書金經一卷奉上伏乞供之精藍襄日遙禮蓮幢頂焚沒齒也嗣容面叩不盡

詞

登金山次蘇韻作大江東去詞

宋儀望

獨上蓬萊第一峰　遙覽江天風物
紺宇琳宮相映帶　踏遍蒼崖翠壁
日射蛟涎　浪吞龍沫　翻出千層雪
江南佳麗　信是地靈人傑
為問神京何處　看三山煙樹　王氣千年發
倚闌長嘯破層雲　遐瞰落霞明滅
丹闕心懸　赤松人杳　一夜凋華髮
試泉初罷　歸載滿船新月

一漚菴偈

汪道昆

無量者　海奄忽為漚
無住者　漚奄忽而海
漚生而海不減　漚滅而海不增
海漚　非漚非海
何以故　無生滅故　無增減故
極之則無空幻　無剎塵無混合　無區分無差別
無因仍無斯　為不二法　無斯為最上乘
見此者　為文殊法眼
居此者　為維摩法身

贈淨談說

馬孟河

世教三老佛與焉，其徒與吾人並天下君子多損之。有損哉？予獨無損也。是惟無損也，損之不可也。惟人奚取焉學焉耳？奚取焉言焉耳？奚取焉淨焉爾？夫淨釋氏之宗也，釋之宗淨，猶吾之道中，是或一說耳。夫淨難以言，一塵不立謂之界淨、萬慮澄息謂之念淨、圓如如謂之性淨，是皆不立文字、不事言語。彼謂六祖西去，無復能談淨者，則世無淨談久矣。

月齋善談者也。夫善談莫若儒，談儒而中。中則儒。淨談非釋耶？以淨談為釋也，則飾儒而背道者，復當為淨談所損。寧知所損哉，知所損於淨談，則予之無損於淨談也，非過也。君子知於天下，固不泛宗其學，亦不泛棄夫人。孔孟先予為淨談地，予何不為淨談耶？

道瀾大師半身喜照

明靳貴

公身禪　公身不全
吾來訪公　已上西天

金山半字歌

陳觀陽

半是山阿半水隅　半遮樓閣半通衢
半望江南半江北　半看山色半平蕪
半住僧伽半遊客　半同廛市半江湖
半安禪誦半詩酒　半祠名宦半毘盧

戊午九月渡江懷古

趙吉士

捲盡秋濤　金焦劃斷烟光濶
六朝景物付滄波　無路尋吳越
天未青山一抹
是何人　錦袍坐月
夕陽斜照　江村荒凉　海雲殘缺

風挾山鳴　魚龍噴薄飛晴雪
遙看南北兩三峰　長嘯江流咽
著我中泠片葉　頃刻間　穩過百折
浪遊無了　對此茫茫　自然愁絕

感懷次韻

陳力生

江上三山　勢連滄海洪波濶
生憎弱水阻蓬萊　今古難飛越　目斷烟嵐横抹
最逍遙　壺中日月笑
看塵世　烏兔奔忙　幾廻圓缺

總角兒童　奈轉眼鬢毛成雪　親知淪沒
鑒前車　屈指心如咽　靜裏時翻貝葉
著先鞭　不堪周折　劈開韁鎖
雲散天空　那時快絕

奉答趙天羽護法金山遙江調寫懷原韻

鐵舟海

寄迹金山　頻觀上下　襟懷濶
孤巒聳翠西來　一脉許誰越
萬水千山盡抹　喜憑欄　江朗月奔馳
世態虛度居諸　安知盈缺

風翻白浪　滔天起伏　猶如雪
潛消楚岷吞羣流　不為波濤咽
四顧舟横似葉　任飄颻　由他轉折
清閒遜我　淡泊自甘　塵氛久絕

序

泉石生涯詩序

王英

浮屠師惠凱字南清蚤從遊方外戒行純潔嘗應詔至京師還說法於金山喜其山水幽勝自題其室曰泉石生涯今年夏復徵至北京考校三乘之典暇日訪余劇談其泉石之勝且曰此吾所以托之而為生計者也縉紳大夫皆賦之以詩幸有言以序之予嘗泛舟濟乎大江瞻望金山巉巖盤礴奠乎中流而蒼石隱起崚層險怪古木藤蔓蟠錯陰翳慨想其下中泠之泉甘冽絕品惜風烈帆駛不得登覽以遂幽賞而吾師獨擅其趣聞師之言益重予之所慕也其能已于言乎今夫天下之物人之所以愛重之者非徒然也莫不資之以為吾生之用若泉石之謂乎是故土壤可以耕稼也水泉可以灌溉也農以之而為生麻枲繭絲可以製布帛也織者之為生金鐵玉石材木之屬可以為宮室器用也工以之為生因山澤川陸之產變而通之以致其利者賈人之為生儲丹砂琥珀草木花實療人之疾挾龜策與人決休咎禍福者又醫卜之為生凡物之可致于用者若是而人之生也固不能外于此矣然或者謂耕織之勤勞技藝之工巧皆所以經營奔走役其心肆其力而後乃獲其利蓋亦為難矣是以古之遺民逸士羽人釋子高尚其志而勿事于此往往耽適烟雲風露之浩渺巖洞澗壑山谿之幽邃濯清泉撫白石吸沆瀣而卧烟霞取其清潔之姿以為終身之用故其所得者非但寓之于目必能契之于心而有非他人之所能知也若吾師者豈非是歟嗟夫師之所以自適者如是故凡世之所謂勤勞奔走而為生者舉無所與焉宜其於閑暇之頃笑談之間其心休休然未嘗有忘于泉石者也予與師為同鄉竊喜師之性質慈惠秀朗深悟禪理而尤喜讀儒書工詞翰與縉紳遨遊精究理義故所造者益至而其所資以為生者非有求異於人亦方外之所宜也于是益嘉吾師之志而嘆予之治生不能効農工之服力田野又不能如師之脫離世俗徒切探討六籍佩服格言夙夜匪懈以為生計而深愧無補于時因吾師之言姑胥其槩以弁諸作俟他日來遊金山又當與吾師枕石漱流浩歌擊節而賦之也

永樂十七年冬十月望日

泉石生涯說

曾棨

凱師南清卓錫金山因題其所居丈室曰泉石生涯葢將以寓其樂也而承詔至北京乃得請其所謂泉石生涯之說於予遂為之言曰天下之物其澹泊清峭莫泉與石若也然非世之貴富顯榮者之所好雖或好之而有所不能致或可以致之而又有所弗暇以窮其樂然則知其可好得以身處其中而樂之弗厭者其惟山林遁迹之士方外遺世之流若凱師其人也夫金山聳然特立於大江之中奔流之所噴激怒濤之所簸蕩而其谿砯磅礴之勢其若與黿鼉蛟蜃戰鬬於波濤浩渺之間確乎其不可拔屹乎其不可撼也何其壯哉山之上有寺未暇究其所始然實為天下之奇勝唐宋以來諸賢往往見於歌咏至於今猶可指也凱師之居於此嚥漱濯沐無非泉也偃仰休息無非石也或酌而飲焉或倦而枕焉以至嬉遊宴適之際皆得其樂宜其惓惓於茲而不忘也雖然佛氏以寂滅為教而凡世之所謂境者皆目為幻與空也然則此身之寄於空壤者亦空幻耳泉石何有哉凱師豈外其教而違之者哉予固有知其意矣夫佛之道欲此心湛寂持志堅確庶幾其能有悟然則凱師之嗜泉石其將托之以自勵乎不然何獨取於斯也凱師深於其教而又工吟而善書且博通吾儒之道而樂聞其說也故士大夫皆愛重之而於予復有疇昔游從之好因其請遂書以歸之

泉石生涯解

盈天地間足生涯者皆是獨取於泉石何也飛者忍弋潛者忍釣動者忍害植者忍伐其生無涯矣則夫不擇地而施脉絡乎天地流通乎古今放之而盈溢無窮止之而泓澄莫測者泉也有生者無不資之無或敗之也隨處而有骨骼乎川嶽盤礴乎悠久鑿之而形琢之而文戛之而聲者石也有欲者無不資之無或敗之也其有資則於吾有益其無敗則於用無窮藉其有益而恃其無窮故以為生涯也曰有資也無敗也人皆得而生涯也獨以名之若將敗之又何也曰世之資夫泉者不弋其飛則釣其潛雖有泉未見其以為生涯也資夫石者不害其動則伐其植雖有石未見其以為生涯也不弋不釣不害不伐枕乎石漱乎泉泉吾其動石吾其靜泉吾其通石吾其確泉吾其必造石吾其不移將與之終身而不於他圖雖與之終身而亦無所圖斯乃以其名名之也曰適遠者不邇止圖大者不小成石不逾山泉不逾海况復其山而載其海者乎儒者以聖人之道發育萬物峻極于天以聖人之德博厚配地高明配天今學其學謂將超萬有出世無上廼不于彼而

于此則所適欲遠而止於邇所圖欲大而成于小又何耶曰智者不疑人之所疑而知人之所不知如泥其有則凡快吾目者吾目之生涯清吾耳者吾耳之生涯馥吾鼻者吾鼻之生涯甘吾舌者吾舌之生涯樂吾身者吾身之生涯悅吾意者吾意之生涯而不捨也豈獨泉石然擴其無則覆吾者不久吾覆載吾者不久吾載鞠育吾者不固吾存温飽吾者將蕩吾形軀愛樂吾者將促吾性命而不恃也豈獨泉石然能神而通之則天地不以為大泉石不以為小而吾之所以能遠且大者又皆不在於此否則徒資之無益也謂其有者溺人謂其無者誕人不溺不誕因其所可有而名其所本無故名之曰泉石生涯也

泉石生涯銘

胡儼著

凱師住金山題其丈室曰泉石葢有所資也何則資其清將以洗滌其根塵資其確將以堅持其戒定然天地間動而不息者無踰於泉靜而不易者無踰於石師於日用動靜亦嘗有點頭微笑默會其妙者乎師不以此自足復有求於余余乃為之銘始述其學之其然而極其所歸終告以陰陽動靜之所以然反身而誠庶幾有得焉銘曰

泉之清　石之白
清與白兮　未離有色
泉沄沄　石琅琅
本來清淨　何有垢氛
泉石兩忘　心休意歇
天機獨露　太虛寥絕
一動一靜　互為其根
陰陽闔闢　此德之門
乾坤無言　萬古一春

泉石生涯辨

道遐

臨川沙門南清雅以泉石生涯顏其宴休之所客有質其義予者因為辨之曰凡世之人庶類雖各靡同而其所以生涯云者孰不均有樂樂爾夫君君臣臣父父子子詩書絃誦進退揖讓郁乎其文閑邪規正游心聖域此

士君子之生涯也深耕易耨春種秋穫罔或違時麻枲蠶桑以充織紝歲計給足此農者之生涯也椎輪繩墨規圓矩方像形創製埏埴物狀此百工之生涯也坐者於市行者於途以有易無踊貴趨利此商賈之生涯也至於巫醫版築離群絕俗遯世無悶怪僻狂簡之汙亦皆自得生涯之趣惟吾南清所謂泉之與石生涯之實有非斯數者之可比也客復之曰可得聞歟曰吁難言也扣之至再曰向嘗詢諸南清云子以泉石生涯自居豈非有慕夫古之人有為掬溪而飲者聚石為徒者有云枕流欲洗其耳漱石欲礪其齒有云臨水則學其清坐石則學其堅者子之生涯有得於是歟曰非也某聞先覺微言若有所得遂託泉石為之生涯視被大塊以為石融其溟渤之為泉以有生之微軀周游旅泊乎其間斯之樂也曷有涯哉雖然斯有形也有物也未至焉極其至也無形無物其生也無涯窈乎冥乎其息也無終不得已而謂之玄也性體云爾天地之廣焉足並吾泉石之大毫末之微安能喻吾泉石之小當是時也恬其神靜其慮恍然若遊乎無何有之鄉廣莫之野併忘其有身世不知泉之為石耶石之為泉耶生之與涯一歟二耶葢不可得而摹擬也客再拜而退適中山毛穎氏介傍因命錄之為泉石生涯辨

贈文海瀾禪師還金山序

周忱

佛家以大願成因果猶儒者以誠心立事功葢心而不誠則不足以取信于人而成天下之務願之不廣又何足以感格幽明而致人天之助哉此古今之通論非一人之言也金山為東南勝境屹立大江中山有寺舊名澤心梁武帝天監四年車駕臨寺中設水陸會宋宗天禧初夢遊其寺遂勅寺名曰龍游歷代以來僧伽攸聚者常以千計禪林老宿之欲倡其道者常在於此騷人墨客往來登覽長篇短詠照暎簡誠四方禪剎之觀爰自數十年以來寺有得罪謫戍于遼海及黔中者凡三人有故則寺中僦人以補其缺且其稅額有遠輸之數而驗稅以給驛傳諸役者又難而不易由是修葺之功不繼贍之資不給而金山之勝槩日就隳圮矣聖天子繼大統紀元之三年姑蘇瀾上人文海實主茲寺據猊說法之暇究觀前弊遂發大願心稽顙闕下以陳其故皇上惻然憫之特詔所司貸其謫戍之人寬其遠輸之稅而驛傳之役亦皆蠲之上人感激聖恩抃舞稱謝治任將歸山中吏部主事錢君淑平屬余言以為贈之夫金山自隳圮以來多歷年所住持者凡更幾人未有能究心於此者上人獨能不憚勞奔走數千里以達其情綸音渙發悉從所請葢亦知其願之大而心之誠也世之居官食祿坐視民隱不肯一啟喙以言于朝者其視上人此舉心能無愧乎上人可謂賢矣雖然予於上人復有告焉昔宋之盛時佛印元公亦主茲寺其所以納交於蘇端明而留名至今者葢亦因其氣岸軒豁能兼讀儒書有文翰之足稱也上人聰明秀整

歸而求之一效元公之為人安知異日無文章風度如蘇端明者重過于山中乎上人勉之此予與錢均之所望也

時宣德三年龍集戊申冬十月望日

送文海禪師住金山序

鄒齊

江古潤州當時為觀察使治所其地民物繁阜故其城之中外梵剎相望率皆鉅麗而金山屹立大江為中流砥柱其寺列在江南十大剎代有名德為之住持若佛印元之揚於宋了休顯於元別峰之登徑塢性源之遷泠泉咸由是而升而望重叢林葢住持任師法之尊自非負荷得人則何以提唱宗綱利生接物今金山虛席僧錄司公舉文海瀾公主之瀾受法於先育王別峰和尚得法於天界樸菴椿禪師嘗出世常熟之慧日禪寺再遊京遂分座善世學行老成性質寬厚人皆敬服茲舉僉謂得人吳僧古章習上人友善自以起遺佚於大方克行素學想高風於江上足慰同盟來謁文以華其行余惟佛法興隆必際夫亨嘉之會如唐之玄奘慈恩宋慈明大覺皆逢時際遇以大其宗教葢聖主明王所以隆太平之治普福生民者本之以禮德輔之以刑政又慮夫未足以盡格其非心而大雄氏之教以弘慈博濟之大善而化導之俾有以勸其為善銷其萌惡有不知其所以然而然者故有取其陰翊王度也方今聖人統御集諸佛名經俾人人禮誦又製為歌曲使之稱揚讚咏凡所以遏惡興善而資太平之治又選名僧修崇藏典許度沙彌以俟考試教門興隆葢自茲始而瀾公之出政惟其時矧金鰲之峰仰接雲漢俯臨巨浸仙聖之所棲蛟龍之所宅茲山實為名剎據猊床秉麈拂者其地清高其望崇重非才德瑰奇之士豈能副人人之所仰哉是行也其尚以身率扶立教基以報國恩庶不負同袍之慶幸也是為序

金山志序

胡經

前岡子志金山成或曰嶽瀆而特志古與前岡子曰地不自勝惟人則鳴嘉不在景惟心乃神典不襲跡惟義足徵予志金山也志吾志焉夫道萬物之輿也倚則不中回則不直窒則不虛窮則不達金山崒嵂大江邊江諸山或俯或獻或衛或奔猶之曰中天下而定四海也是故君子登之思務精一之學旁谿遂讋維罔由是曰中而不倚江滌于三江滙于彭蠡沛于京口險矣險矣茲山以孤島而障厥會又猶一夫秉節三軍莫奪是故君子思養

浩然之氣勿厶助以求配于道義以塞天地曰直而不回左絕楚氛右斷吳鞅瀜瀜乎蕩蕩乎是故君子觀之思明吾明德致廣而盡精微于茲哉曰虛而不窒由京口東注以達于海幾矣一山西峙若望洋而未之見是故君子思曰闖闖焉極深致遠欲罷而未能也曰達而不窮夫中道之樞也直道之介也虛道之鑑也達道之奧也樞定而時發以和介石而居安以鑑徹而應順而居安以鑑徹而應順以自有此山以來登覽不絕四道備而金山無遺勝矣四勝寓而君子有樂矣大哉孔子乎登泰山而小天下在川上而發不舍之歎孔子如登是山也臨長江望東海必將洒然喟然攄精而發微其誰能禦之詩曰泌之洋洋可以樂飢是故金山之足志也是業也大學郝子子高倡我廣陵寺僧智宜則摭拾以俟於戲冠天舄地萬物一體吾身其能金山哉

金山志後序

文徵明

世言山川靈境必藉文章以傳永柳諸山非有子厚諸記人固不得而知也或又謂文章必得江山之助杜子美夔州諸詩所為尤不可及金山在大江中號為勝絕由唐以來題詠多矣世獨稱張祜孫魴二詩以為絕唱自今觀之二詩誠未易及然在唐人中未為極致徒以金山故獨得不廢詩以山傳耶山以詩傳耶要之人境相須不可偏廢而傳不傳固有幸不幸存焉今味泉宜公褒錄古今諸詩備山中故實他日過吳門示予俾為選擇云諸詩雖妍蚩工拙不能皆同然莫不各有意義使選得其當尚無益於傳否況酸鹹異嗜可以一人之見私之耶顧其意不可辭則為銓次先後正其誤而還之

金山新志後序

施儒

正德己卯歲除儒偕吳門袁袠太學游金山維時天子駐蹕南京有司計當臨幸諸凡賦詠在墻屋者撤洗無餘有若西涯閣老長江行錢狀元與謙勒石長廊亦圬墁不可見則相與悵然恨來游之晚也急訪宜師聽潮軒中欲觀志焉師曰刻在郡齋歲深且漫滅矣將新之山中而未能也予二人曰誠哉缺典其早圖之又明年辛巳之春師持袁書訪予霅上則知新志已刻私心甚喜豈亦曩時贊成之力耶夫金焦為江上名山而金為尤勝則夫寺宇廢興之跡詞人憂樂之情非志於何考焉是知新志行而金山將增勝矣宜師別去附贅末簡見志所由成耳師常熟人別號味泉稱能詩云

僧詩

重遊金山

宋性嘉

十載摳衣登此樓　江山有待我重遊
景多人立海東面　天近鳥飛雲上頭
雨過烟巒翠屏曉　月明氷墊鏡奩秋
世間無限丹青手　誰寫蓬萊第一洲

次唐韻

江空山獨立　境與世平分
潮白多宜月　嵐青半是雲
梵宮鰲背起　仙籟鳥邊聞
啜罷中泠水　遊人興欲醺

金山

法湧

一拳蒼玉一泓泉　家業從茲富有年
製衲不妨裁瀑布　買山寧用費苔錢
和雲卧去衣偏冷　持鉢[邱-丘+((嗇-(人*人)+(百*百))-回+八)]來月正圓
試問金鰲岩下水　幾時送盡利名船

石[簿-尃+卑]山

德煥

碧潭深皦潔　教我如何說
性理本來明　萬古中秋月

寧諼

卓錫金鰲上　禪餘少步岑
碧潭深似海　水冷有龍吟

金山

元明本

一拳玉立萬重波　曾記扁舟載月過
象外斷香飄海宇　雲邊仙梵雜漁歌
山高日月光平抱　天近星辰手可摩
到岸回看何所似　水晶盤內一青螺

金山

智鉉

江上重樓江上山　躋登恍若出塵寰
窗涵遠水平舖練　檻繞群峰玉作環
萬古雲烟樽俎外　六朝風月笑談間
甕城鐵鑊空相對　曾見微瀾擁碧蓮

金山

守端

山面鯨濤遠碧天　金湯形勢尚依然
山花黯黯人吹笛　江柳青青客上船
馬帶淮雲東入浙　鴈拖湘水北歸燕
武侯一去孫劉死　原野幾人畊墓田

金山

梵奇

半江湧出金山寺　一簇樓臺兩岸船
月轉中宵為白晝　水吞平地作青天
塴鈴自觸微風語　灘石長磨細浪圓
龍化老人來聽法　手持珠獻不論錢

金山

曇噩

崢嶸兩岸市廛開　愛靜人尋靜處來
水底有天行日月　山中無地着塵埃
塔擎燈影凌雲杪　船載鐘聲出浪堆
自喜平生有仙骨　好風吹上妙高臺

金山

夜半枯禪倚石屏　風光滿目境偏清
簾前月轉定初起　錯認江聲是雨聲

金山

宗泌

水際一峰出　危樓倚寂寥
烟雲連北固　風物見南朝
山勢臨淮盡　江聲入海消
偶來閒眺客　倚檻興偏饒

金山

守仁

砥柱東南壯帝州　飛樓湧殿壓中流
雲收蛟窟天無際　風捲鯨濤地欲浮
兩岸青山迎畫舫　萬江烟雨隔滄洲
妙高臺上青冥裏　乘興須登到上頭

金山

惠凱

隔岸山橫紫翠深　倚闌一望滌煩襟
怪來最是門前水　不洗浮生名利心

金山

智鉉

雲遶樓臺水遶山　長江天塹隔塵寰
晴波漾日鋪銀練　遠岫凝烟列翠鬟
萬古乾坤興廢外　六朝風月笑談間
我來極目忘機處　一片心隨白鳥閑

金山

明宗泰

九水西來一口吞　端為江上山尊
一峰碧玉當天墫　半點青螺塞海門
殿湧高低千佛住　岸分南北萬船屯
屹然獨立紅塵外　可共三光永劫存

登妙高臺

野閒

萬派奔流到海深　奇峰孤碧波心
聲轟絕壁潮翻勢　影落半江雲弄陰
天末遠山爭突兀　檻前沙鳥自浮沉
妙高臺畔藤蘿徑　覽勝何妨日日臨

次韻

圓濟

憑虛御風時一攀　嘯歌在雲霄間
浪起蛟宮驟作雨　烟開蜃閣高浮山
群峰北拱勢爭壯　大江東下聲何潺
吳楚平分自中峙　共憐此僻超塵寰

喜准侯缺漫作

清虛境界絕塵沙　布衲蒲團了歲華
消却一番烟火氣　水晶宮裏讀楞伽

寄贈金山霆都綱

道成

江心湧出翠崔嵬　上有千年梵宇開
月下談經了無極　不知花雨滿樓臺

金鰲峰

道隆

金鰲屹立負禪宮　勢壓群山氣象雄
萬古中流為砥柱　應知造化有奇功

善財石

道遐

塊石孱顏立水濱　天然異狀不同群
妙高臺上有時見　疑是善財叅德雲

烟雨奇觀亭

江頭烟雨晝溟濛　水色山光淡復濃
詞客倚欄看不厭　恍然身在畫圖中

金山

淨談

鰲背迥浮江上寺　僧居面面俯潺湲
樓吞海氣兼天湧　船載鐘聲帶月還
漫說蓬壺懸世外　分明孤島插江間
平生自是超塵客　更得山雲一倍閒

金山

圓悟

波中卓出始昂頭　裂破長江兩道流
隔岸紅塵飛不到　三三兩兩渡人舟

金山

通問

破浪千層只一拳　妙高孤頂出雲烟
平吞沙界空中色　橫截蛟龍水底天
怒馬挾雷奔碣石　伏牛銜月引泠泉
分明塔影呈秋面　舉棹休迷別浦船

題慈雲閣

座繞慈雲夏亦宜　爽凌秋漢敝猶奇
江光雄壓高低勢　山色晴開遠近眷
有夢不生緣自寂　無塵可礙眼何疑
夜深月印空天水　聽入潮聲到海時

金山

際菴

金山水底有龍眠　樓殿崖嵓玉鏡懸
廟夢遊曾賜額　武皇親幸是何年
楞伽故事尋蘇子　大徹遺踪付老禪
莫道大千無佛界　一拳石上現諸天

金山

天徹

水上蓬萊何處尋　中流佛地湧黃金
裴公去後閑風月　千載單傳只此心

寄題金山

明瑞

江心屹立湧鰲峰　兩岸遙聞破曉鐘
旭日煖烘金殿閣　秋波冷浸玉芙蓉
浮屠倒卓九千丈　峭壁環遮百二重
擬欲登臨發長嘯　恐驚潭底抱珠龍

寄贈金山賢大愚

普泰

楊子中流山遶寺　題詩遠贈住山人
四圍水浸魚龍窟　千古天開草樹春
生飯許分江上鳥　庭除不落世間塵
紛紛俗事都無累　清梵朝朝謝紫宸

贈欽上人號野閑

宗林

自從幽處結茅堂　塵事紛紛徹底忘
門外有雲依水石　案頭無曆紀炎凉
雨肥蕨菜厨添供　風老松花受糧
却笑飛黃浮鵜者　此身終日為誰忙

次王世賞韻

惠欽

好山如畫明雙眸　中流奇跡天留
搜吟暢興倚松立　尋幽陟險穿雲遊
鯨濤澎湃忽作雨　蜃氣變化時成樓
個中景物道不得　品題當讓岑嘉州

金山

文湛

孤峰浮水面　勝境世無雙
亭枕一拳石　樓開四面江
天光浮玉鑑　雲影落晴窗
縱使風濤息　詩魔未肯降

其二

昔聞金山寺　今上妙高臺
僧向雲中住　帆從浪裏來
地高霄漢近　山碧畫圖開
日暮詩成處　潮聲暗作雷

金山

理潮

寶地稱名勝　登臨興不窮
林巒浮海上　臺殿倚空中
嵐氣晴飛雨　潮聲夜吼風
臨流坐磐石　樂有誰同

次王翰林韻

惠鐙

禪榻留雲臥　漁舟泛月來
鉢空龍化去　松暝鶴飛回
星斗寒侵室　烟波潤拂苔
渺然隔塵世　詩夢亦悠哉

次韻楊黃門宿山

圓璋

詩客來蘇老　山僧非印公
一觴涵皎月　兩袖挾清風

水濶炎氛絕　林深灝氣通
長江回首處　帆影又吳中

登金山

福靜

陟險心猶壯　憑高眼更空
豪吟銷野况　縱飲敵江風
漁火明沙際　鯨音吼月中
緬懷張處士　一宿興何窮

金山

惠琰

樓閣涵空碧　風雲任去留
濤聲喧日夜　幻影自沉浮
我亦渾忘世　心同不繫舟
癡吟坐磐石　清興逐江流

金山

圓環

一峰削玉枕中流　臺殿撐空勢若浮
岩畔有臺堪結社　檻前無路只通舟
風濤湧處驚禪子　鐘鼓喧時起宿鷗
見說三山在何際　恍疑此地是瀛洲

登金山

慈恩

獨倚危闌俯碧流　上方臺殿接神州
鐘聲過院日初午　竹吹入空山更秋
潮噴天光雲影動　氣吞千嶂萬山浮
乾坤未盡東南眼　又上清風海岳樓

金山

圓澗

一拳孤立勢嵬然　砥柱中流不記年
紅漾水光涵曉日　翠分山影破晴烟
得金開寺追先代　留帶遺名感昔賢
幾向妙高臺上坐　俯臨江漢詠詩篇

酬杜湘草有聲閣坐雨之作

通明

樓空江冷難留客　天意留人未肯晴
險韻逼吟非細事　薄醪寬飲更多情
案邊花草看猶媚　窓外雲山辨不明
小閣別無長物供　只餘步步有潮聲

登海岳樓次戴士章韻

智宜

翼翼簷牙高啄天　東南形勝此為先
波光明几漾晴日　山色入簾凝暮烟

檻外潺湲通晝夜　風前飛躍見魚鳶
詩人酒客來登處　誰是當年鶴背仙

次唐韻

萬里長江勝　奇觀獨此分
曉堂昏宿霧　晴几濕生雲
塔影浮波動　鐘聲落渡聞
古今登眺客　無日不成

月夜登涵虛樓聞笛

滄波萬頃月華明　獨倚危樓思轉清
何處胡床吹玉笛　梅花吹落滿江城

送鐵舟和尚住金山

清行謙

全提一句振三玄　坐斷江流啟法筵
活路通時誰凑泊　生機用處自超然
須彌影裏香雲繞　拄杖頭邊杲日懸
翻盡由來舊公案　從教寰海永流傳

贈金山鐵舟和尚

行岡

潑天高揭水雲關　獨釣金鰲意自閒
千里江濤翻舌底　三峰嶽色接眥間

老龍聽法常浮水　衲子聞風盡識顏
渺渺餘波今四潰　中流砥柱看囲還

其二

到來山寺裏　不復記寒温
瓜潤風烟介　波濤晝夜奔
三秋淹越客　千里見荊門
天下滔滔日　中流一柱存

金山

行書

晨昏孰所先　鐘磬在漁船
狎浪龍聞法　平秋江是天
客來雲一日　僧老水多年
不記曾遊處　憑樓思愴然

壬寅春寄懷金山鐵舟法兄

行玉

金山横截海門口　龍子吹濤勢作吼
雨花晴雪漲江潮　义牙滉漾爭群有
山水雄長俱欲過　翠崿丹巖逼帝座
鬼神變態含氤氳　蛟龍鬐鬣互翻播
一葉曾將破浪前　客帆無數眼江邊
焦子風清懸麗日　司農草茂鬱朝烟
中有人指撥空　妙高頂上青且葱
曾是雲璈奏欲徹　鶴將清唳赴別峰
繩武年來話已墮　玄珠錯落爭一顆

我欲乘槎天漢　附飛舸四溟　那窄誰可
可君乎　本是吾宗亢
打就鐵船海上行　錦鱗齊遏桃花浪

金山

懶愚

孤峰突出迅流中　一柱高擎隱梵宮
返照霞光蒸几案　當窗帆影拂簾櫳
隔江看月天相似　兩岸聞鐘地不同
閒坐蒲團修靜觀　日輪遙映晚潮紅

金山賦呈鐵舟法兄

行杲

江流如駛片帆開　眨眼峰頭萬象陪
落葉半庭秋欲老　吹蕭別舘暮何哀
風廻北固迷陽鴈　石迸蛟龍滾地雷
賴有德雲知已在　掊笻更上最高臺

呈鐵翁老法兄和尚

行悅

砥柱狂瀾　寰寓內　金鼇雄傑
挽時趨　猛浪千重百疊　直使廻源知所自
傾頹故態從空歇　毘嵐頻起怎如何　奇絕

龍睡穩舟安楫　兩岸鐘一江月
喜微茫　水國人天交接

由自千年并萬載　全承大力
夫何說是那日　再共把玻璃　此情切

奉祝鐵舟和尚并正

大珍

占斷金鰲浪裏峰　唯君能起古人蹤
一拳高豁蛟龍眼　萬派旋歸山水胸
臘算自應齊趙栢　燈傳不盡頌華封
廿年輝映江南北　大徹雲雷久景從

和南澗老人韻

行海

千流裂破嶼如卷　橫鎖長江浪裏烟
標月平分山月影　撥雲惟露水雲天
應知有榻舒三禁　最愛無塵落一泉
幾勒伏牛回海渚　寶王親現度人船

謝孔明府

畫圖烟雨亘崆峒　萬派驚濤一櫂通
慧業未堪追往蹟　聖朝端喜遇明公
祖庭再造憑山斗　雉堞莊嚴賴惠風
莫道子瞻難繼美　今光被有誰同

山居

雲頂棕團坐翠岑　海門空濶列高嶔
三山氣槩雄寰宇　六代人文冠古今
玉帶輸留名寺重　金峰横踞澤波深
孤懷試詠前賢句　石長寒潮又幾潯

其二

人世炎凉總不關　此峰消受此心安
空中樓閣開圖畫　窟底蛟龍護石壇
千葉含苞同日長　一枝藏蘊耐風寒
無才自覺身宜朴　篤志寰中守大端

重建大徹堂

卷石鷲峰脉　疎林古法筵
樓臺環水面　亭塔出雲天
莫道此山小　能廻萬里川
浮幢重建立　勉繼後來賢

玉帶橋

江山閱歷無今古　影跡還同去住身
橋石苔斑俱落盡　不知玉帶屬何人

開堂日擬宋端明學士韻

撞動玉樓鐘　七五千指
徘徊復聲欵　頻伸示故里
獨露主和賓　雙顯父與子
儼若靈山會　承恩澤國裏

練江及中冷　本是一源水
琉璃碧波清　洞開八面羙

裴公洞

超智

石屋崩圮到最艱　白雲棲老此巖間
裴公一去無消息　夜冷蒼梧月一灣

蘄王廟

樓艣當年戰碧波　百年南宋借公多
近人一拜蘄王廟　千古英雄自不磨

金山

超法

突出波心寺　金山名已傳
鐘清瓜渚月　樹老鐵城烟
雙墝分今昔　層碑續後先
凭欄舒野况　萬里一江天

晚眺金山

超信

乘興登臨俯碧湍　潮生日落大江寒
千年古寺波中出　兩岸青山畫裏看

金山

超宗

金鰲背上卓瓊樓　勢壓江南四百州
箕踞妙高閒品調　片帆横截海天秋

金山

超定

萬派奔流處　天然插一峰
詩存今古蹟　徑藉水烟封
帆影飛晴樹　潮聲錯晚鐘
幾回清夜望　明月抱游龍

金山

超宏

蕩漾波中突一峰　江干遙聽暮烟鐘
移舟拍浪桃花細　古寺宜春塔影重
嵐氣催雲歸海嶠　潮聲洗月入簾籠
蒼茫極目無涯際　擬是蓬萊作梵宮

金山

超還

四面山如畫　危樓倩月支
龍吟風雨夜　僧定晚鐘時
塝影翻濤亂　雲聲出樹奇
古來登眺者　張祜有傳詩

金山

寂學

一點青螺涌　芳名冠六朝
乾坤廻砥柱　今古耐風濤
岸濶横舟楫　波深卓玉驁
每從閒處望　逸興動詩豪

金山

超溥

一拳撐漢表　卓破大江天
佛住波心地　僧叅水觀禪
鐘聲聞遠近　鳥語出蘿烟
縱使王維在　應知繪不全

妙高峰

尋幽登絕頂　俯瞰海門東
浪濶天分墜　臺高人御風
征帆來遠漢　清磬隔疎楓
抛卷和雲臥　山河握掌中

戊午冬日恭祝鐵翁法兄七旬

祖道垂秋賴阿誰　中流砥柱獨堅持
妙高峰頂安禪處　大徹堂前說法時
隔岸千山爭起舞　當陽一句破羣疑
年來更得新三昧　消息惟容寶掌知

聯對(附)

七層天欲盡　遠色帶孤嶼　落日驚濤上
八面景皆空　虛聲涵殷雷　浮天駭浪長

鄉連江北樹　水流心不競　山形無地接
雲斷日南天　雲在意俱遲　寺界與波分

天晴秋見海
山潤午生雲

孤峰屹立昂天柱　門前一水常來遶
萬艦奔流破海濤　屋後三山不斷青

平分沙界空中色　齊梁棟宇金山寺
橫截蛟龍水底天　吳楚乾坤鐵甕城

天開圖畫孤峰秀　檐花半落嵐光重
地湧樓臺萬派新　木葉亂鳴江雨寒

江水湧光　滌盡逐流凡氣
巍山聳極　頓開超世曠觀

屹屹孤高　廻狂瀾於倒
滔滔東下　豎砥柱於中流

洪流東注吐長江　烟波萬里
積水北潮吞大海　雪浪千尋

金塔冠金山　直上九重擎日月
碧濤凌碧漢　還從萬里駕風雲

詠江唐句

島間應有國　波外恐無天(周繇望海)
秋色湖上山　歸心日邊樹(又)
雨暗迷津時　雲生望鄉處(戎昱晚次江上)
拂潮雲布色　穿浪日舒光(又)
照岸花分彩　迷雲鴈斷行(太宗春日望海)
驚濤含蜃闕　駭浪掩晨光(許敬宗春日望海)
林聲寒動葉　水氣曙連雲(蕭穎士江上秋曙)
野曠天低樹　江清月近人(孟浩然宿江)
雪照聚沙鴈　花飛出谷鶯(李白望江)
孤石影如馬　高蘿垂飲猿(杜甫長江)
東風吹客夢　西落此中時(李白江上寄巴東故人)
思君不可得　愁見江水碧(李白江行寄遠)
天清一鴈遠　海濶孤帆遲(李白送張舍人)
日晚烟花亂　風生錦繡香(杜甫汎江)
片雲天共遠　永夜月同孤(杜甫江上)
月隨碧山轉　水合青天流(李白江行)
朔雁別海裔　越燕辭江樓(李白江上秋懷)
雪晴山脊見　沙淺浪痕多(章八元江行)
返景斜留草　廻潮暗動蘋(李端游江東)
歸時不覺夜　出浦月隨人(張仲素春江曲)
細雨翻蘆葉　高秋卻柳條(羅隱秋江)
蕭蕭客舟帆　暮入寒江雨(柳中庸江行)
渚花張素錦　汀草亂青袍(杜甫渡江)
細動迎風燕　輕搖逐浪鷗(又)
霄漢愁高鳥　泥沙困老龍(杜甫江漲)
水氣多為雨　人烟遠是雲(戴叔倫江干)
聽草遙尋岸　聞香暗識蓮(姚元崇夜渡江)
浪草侵天白　霜林映日丹(張祜江城晚眺)
根老藏魚窟　枝低繫客舟(魚玄機江邊柳)
海色晴看雨　江聲夜聽潮(祖詠江南旅情)

誰驚一行鴈　衝斷過江雲(杜牧江樓)
鳥歸沙有跡　帆過浪無痕(宋之問江亭晚望)
雲歸全嶺暗　日落半江紅(賈琮旅泊江津)
斗轉月未落　舟行夜已深(錢起江行無題)
雨餘江上月　好醉竹間樓(戴叔倫江樓會別)
寂寂深夜寒　清霜落秋水(權德輿江上夜詠)
遠樹懸金鏡　深潭倒玉幢(宋元禎汎江翫月)
水烟暗吐月　山火夜燒雲(岑參江行夜宿)
落日見秋草　暮年逢故人(李端江上)
草樹含遠思　襟懷有餘情(又)
納爽耳目變　玩奇筋骨輕(劉禹錫秋江早發)
樹遠天疑盡　江奔地欲隨(英融晚泊)
殘霞無變色　游鴈有餘聲(劉禹錫晚泊)
涼天生半月　竟夕伴孤舟(于鄴晚泊)
岸沙平欲盡　垂蓼入船窗(錢起江行)
人事年年別　春潮日日生(崔塗江泊)
黯澹遮山遠　空濛著柳多(杜牧江上雨)
孤舟簑笠翁　獨釣寒江雪(柳宗元江雪)
岸花明水樹　川鳥亂沙洲(李嶠江雨初霽)
驚花翻霽日　垂柳拂烟波(張均江上逢春)
暮雨潮生早　春寒鴈到遲(崔塗江上)
影動魚邊火　聲遲話後鐘(曹松江上暮春)
雨下侵苔色　雲凉出浪聲(又)
飛浪驚飛鳥　回風起綠鱗(劉畋江渡)
遠山橫落日　歸鳥度平川(温庭筠秋江晚泊)
遙林浪出沒　孤舫鳥聯翩(張九齡江上遇疾風)
岸鑿青山破　江開白浪寒
日沉源出海　春至草生灘(賈島新開江)
月落江路黑　前村人語稀
幾家深樹裏　點火夜漁歸(項斯村夜歸)
白鳥波上棲　見人懶飛起
為有求魚心　不是戀江水(陳陶江鷗)
水容侵古岸　峰影度青蘋
廟竹惟聞鳥　江帆不見人(温庭筠江岸)
薄雲巖際宿　孤月浪中翻
鸛鶴追飛盡　豺狼得食喧(杜甫宿江邊閣)
極目無人行　浪打取魚籠(僧貫休)
草白牛羊瘦　風高猿鳥寒(僧卿雲江居閒詠)

爽氣遙分隔浦岫　斜光偏照渡江人(李嘉祐晚登江樓)
何處青樓方凭檻　半江斜日認歸人(羅鄴江帆)
潮聲歸海鳥初下　草色連江人自迷(劉滄江中晚渡)
月色滿牀兼滿地　江聲如鼓復如風(元稹江樓月)
簫管曲長吹未盡　花南水北雨濛濛(盧綸曲江春望)
白石素沙亦相蕩　哀鳴獨叫求其曹(杜甫橫江)
一風三日吹倒山　白浪高于瓦官閣(又)
橫江欲渡風波惡　一水牽愁萬里長(又)
白浪如山那可渡　狂風愁殺峭帆人(又)
郎今欲渡緣何事　如此風波不可行(李白橫江)
江深竹靜兩三家　多事紅花映白花(又)
桃花一簇開無主　不愛深紅愛淺紅(又)
繁枝容易紛紛落　嫩蕊商量細細開(杜甫江畔)
新添水檻供垂釣　故著浮槎替入舟(杜甫江上水)
江上相逢借問君　語笑未了風吹斷(李白江上)
滿空星河光破碎　四座賓客色不動(杜甫携酒汎江)
林花著雨燕支落　水荇牽風翠帶長(杜甫曲江雨)
亂波紛披已打岸　弱雲狼藉不禁風(又)
寵光蕙葉與多碧　點注桃花舒小紅(杜甫江雨有懷)
曲岸危檣移渡影　暮天棲鳥入山光(劉滄游江)
青莎覆城竹為屋　無井家家飲潮水(張籍江南行)
水風浦雲生老竹　渚暝蒲帆如一幅(又)
鱸魚千頭酒百斛　酒中倒臥南山綠(李賀江南弄)
空江獨樹楚山背　暮雨一舟吳苑來(又)
人渡深秋風葉落　鳥飛殘照水烟開(劉滄江行事)
草色連雲人去住　水紋如縠燕差池(杜牧江上偶見)
思飄明月浪花白　聲入碧雲楓葉秋(劉滄江樓月夜聞笛)
澄江月上見魚擲　晚徑葉多聞犬行(周賀晚題江舘)
卷箔檻前沙鳥散　垂鉤牀下錦鱗沉(又)
白雲野寺凌晨磬　紅樹孤村遙夜砧(方千桐廬江閣)
黃葉夢餘歸朔塞　青山家在極波濤(羅鄴秋日懷江上友人)
妾夢不離江上水　人傳郎在鳳凰山(張潮江南行)
水濶風高日復斜　扁舟獨宿蘆花裏(左偃江上晚泊)
江上荻花飛雪花　風吹撩亂滿袈裟(拾得江上送梁拾遺)
樓空客散燕交飛　江靜帆稀日亭午(韓偓江樓)
聞道漁家酒欲熟　夜來翻喜打頭風(鄭谷江上阻風)
裌衣猶冷過寒食　雲度春陰半江黑(高廸江行)

江上閒衝細雨行　滿衣風灑綠荷聲(韋莊江口雨)
遠天蜷蝀收殘雨　映水鸕鷀近夕陽(戎昱江上秋霽)
夢歸蘭省寒星動　吟向莎洲宿鷺驚(鄭谷江上秋夕)
數星昨夜寒爐火　一陣誰家蠟甕香(羅鄴冬夕江上)
關中秋雨書難到　江上春寒酒易醒(羅鄴江上)
龍頭劈浪哀笳發　千里涵空澄水魂(又)
萬枝破鼻飄香雪　漏轉霞高滄海西(温庭筠春江)
日欲沒時紅浪沸　月初生處白烟開(又)
辭枝雪蕊將春去　滿鑷霜毛送老來(白居易江亭夕望)
日消石柱綠嵐氣　風墜木蘭紅露漿(白居易江行)
愁見舟行風又起　白頭浪裏白頭人(白居易江上送客)
此時聞者堪頭白　况是多愁少睡人(白居易江上聞笛)
最是霜閨年少婦　白粧素袖碧紗裙(白居易江岸梨花)
日出汀花紅勝火　春來江水綠如藍(白居易江南詞)
風吹古木晴天雨　月照平沙夏夜霜(白居易江樓夕望)
寒流帶月澄如鏡　夕吹和霜利似刀(白居易江樓宴別)

金山龍游禪寺志畧

金壇綏菴居士蔣超較正

嗣祖比丘鐵舟行海修輯

楚潭叅學門人超智編次

選詩

（小引）

余自髫稚時觸發已躬下事遂擲詩書不求世榮不親世味孳孳扣已朝夕叅承以此為最上乘也輒杖笠徧叅諸方尊宿逮至透露雖機思脫落照用縱橫苦不知詩書惟動止面墻而已輒生驚悸脫或有把茅蓋頭將何以助發機宜耶遂勉強批閱諸子詩集始知詩中亦有最上乘也矧見名公巨卿文藻佳製深有愧凡見吟咏必有格式必不失其本旨故集金山詩惟不失本旨者集之至於騷人韻士樂情山水與茲山面目不相干涉明珠聯璧亦不敢多錄惟唐宋元明國朝雖時代分明而名位先後參差不及次序惟識者鑒之至於近代諸名賢新詠未及徵錄者虛左以俟

金山

唐張祜

一宿金山寺　微茫水國分
僧歸夜船月　龍出曉堂雲
樹影中流見　鐘聲兩岸聞
因悲在城市　終日醉醺醺

送僧歸金山寺

許渾

老歸江上寺　不忘舊師恩
駐錫逢山色　停盃見浪痕
秋江吞楚驛　曉月上荊門
為訪題詩處　莓苔幾字存

金山寺

杜荀鶴

僧愛無塵地　江心島上居
接船山影瘦　登陸路頭疎
載土春栽樹　拋生日放魚
入雲蕭帝寺　畢竟欲何如

孫魴

萬古波心寺　金山名日新
天多剩得月　地少不生塵
過櫓妨僧定　驚湍濺佛身
誰言張處士　題後更無人

李

山載江心寺　魚龍是四隣
樓臺懸倒影　鐘磬隔囂塵
石室堪容膝　雲堂可憩身
我來登眺處　能有幾閒人

韓垂

金山一峰秀　岌然殊山
盤根大江底　撑影浮雲間
雷霆常聞作　風雨時往還
象外縣清景　千載長躋攀

馬戴

金陵江色裏　蟬急向秋分
回首橫孤島　歸僧渡水雲
夕陽依岸盡　清磬隔潮聞
遙想禪林下　鑪香帶月焚

徐道暉

兩寺今為一　僧多外國人
流來天際水　截斷世間塵
鴉宿腥林徑　龍歸繞塔輪
却宜成片石　曾坐謝心身

許棠

四面波濤匝　中流日月隣
上窮如出世　下瞰忽驚神
剎礙長空鳥　船通上國人
禪房皆叠翠　風掃永無塵

憶萬歲樓望金山

李紳

樓高雉堞千師壘　峰拔驚波萬壑攢
山絕地維消虎踞　水浮天險尚龍盤
蜃噓雲拱飛江島　鼇噴仙巖隔海瀾
長對碧波臨古渡　幾經風月與悲歡

宿金山寺

劉滄

一點青山翠色危　雲巖不掩與星期
海門烟樹潮歸後　江面山樓月照時
獨鶴唳空秋露下　高僧入定夜猿知
蕭疎水木清鐘梵　灝氣寒光動石池

金山(七言絕)

竇庠

一點青螺碧浪中　全依水府與天通
晴江萬里雲飛盡　鼇背參差日氣紅

題金山僧房

羅隱

根盤蛟蜃路藤蘿　四面無人輟棹過
得似吾師始惆悵　眼前終日有風波

金山寺石堂(七言絕句)

唐李羣玉

白波四面照樓臺　日夜潮聲遶寺回
千葉紅蓮高會處　幾曾龍女獻珠來

望金山寺

鮑溶

一朵蓬萊在世間　梵王宮闕翠雲閒
近南秋水更清淺　聞道遊人未忍還

贈寶覺禪師(并序五言古)

宋王安石

予始與寶覺，相識于京師，因與俱東後，以翰林學士召，宿金山一夕，今復見之。聞化城閣甚壯麗，可登眺，思往遊焉，故賦是詩。

大師京國舊　興趣江湖迥
往與惠詢輩　一宿金山頂
懷哉若留戀　王事有朝請
別來能幾時　浮念劇含梗
今朝忽相見　眸子青烱烱
夜闌接軟語　令人發深省
化城出天半　遠色有諸嶺
向前對汀洲　猶思理烟艇

前人

招提憑高岡　四面斷行旅

勝地猶在險　浮梁相拄
大江當我前　颱灩翠綃舞
通流與厨會　甘美勝牛乳
叩欄出黿鼉　幽姿可時覩
夜深殿突兀　太微凝帝宇
壁立兩崖對　迢迢隔雲雨
天多賸得月　月落聞津鼓
狂風一何喧　大舶弄雙艣
沉在須臾　我自檝迎汝
始知像教力　但度無所苦
憶昨狼狽初　只見石與土
榮華一朝盡　土梗空俯僂
人事隨轉燭　蒼茫竟誰主
咄嗟檀施開　繡楹盤萬礎
高閣切星辰　新秋照牛女
湯休起我病　轉上青天去
攝身凌蒼霞　同凭朱欄語
我歌爾其聆　幽憤得一吐
誰言張處士　雄筆映千古

送金山鄉僧（歸蜀開堂）

蘇軾

撞鐘浮玉山　迎我三千指
中聞謦欬　未語知鄉里
我非個中人　何以默識子
振衣忽歸去　隻影千江裏
涪江與中泠　共此一味水
氷盤薦琥珀　何似糖霜美

暇日侍法曹叔父遊得往字

朱熹

長江西委輸　匯澤東滉漾
中川屹孤嶼　佛屋寄幽賞
我來此何日　秋氣欲蕭爽
共載得高儔　良辰豈孤往
酒酣清笑發　浪湧初月上
叠鼓喚歸艎　奇跡俯仰

遊金山寺作

曾鞏

候潮動鳴艣　出沒縱方舟
舉箔見茲山　巋然峙中流
朱堂出烟霧　縹緲若瀛洲
十年入夢想　一日恣尋遊
屣履上層閣　披襟當九秋
地勢已瀟灑　風颸更颼颼
遠挹蜀浪來　旁臨滄海浮
壺觴對京口　笑語落揚州
久聞神龍伏　况覩鷙鳥投
行緣石徑盡　却倚巖房幽
頗諧雲林思　頓豁塵土憂
昏鐘滿江路　歸榜尚夷猶

(自揚子渡，以兩小舟夾引所乘舟，故云方舟。)

鮮于侁

蓬萊三神山　橫絕巨鰲背
鰲傾海水動　一峰失所在
飛來大江心　礧磳幾千載
化為金仙居　龍象錯朱貝
夙昔愛山水　江湖不易忘
君前或剖竹　匏繫古維揚

隱然絕勝地　旦旦遙相望
不憶二君子　招携一葦航
高攀躡雲梯　濶視皦溟漲
潮來隱天地　萬里捲白浪
波清霄漢淨　澄澈迷下上
更深月正中　山影杳無象
蛟鼉四面穴　形勢三洲壯
融結難窮　丹青殊莫狀
蘇侯韻高遠　邵子雅趍尚
奇觀極無邊　幽尋端未放
浮生閱流水　清晨造方丈
畢景趣言歸　侵星搖兩槳

陳子高

縹緲浮巨浸　空漾倒諸天
林棲十方僧　門泊萬里船
四圍極壯麗　一鉢餘芳鮮
頗疑龍宮迥　時有人世喧
大江東流去　天濶象緯旋
群動驟起滅　獨餘此山
蓬萊若可到　補陀亦現前
二家忽聚訟　委曲信所傳
徑滑繚幽步　窗虛寄空眠
老僧將無問　但咏山中篇

化城閣集句

王安石

層宮憑風迥　兩岸聞鐘聲
鑿翠開戶牖　構雲有高營
化城若化出　仰攀日月行
俛視大江奔　茫茫與天平

大江盤嵌根　田波自成浪
却畧羅翠屏　秀色各異狀
楞伽海中山　杳出霄漢上
中有不死庭　天龍盡回向
惜我不得往　側坐渺難望
登茲翻百憂　意欲鏟疊嶂
忽憶年少時　孤嶼坐題詩
空懷焉能果　唯有故人知

寄佛印禪師妙高臺詩

蘇軾

我欲乘飛車　東訪赤松子
蓬萊不可到　弱水三萬里
不如金山去　清風半帆耳
中有妙高臺　雲峰自孤起
仰觀初無路　誰信平如砥
臺中老比丘　碧眼照窗几
巉巉玉為骨　凜凜霜入齒
機鋒不可觸　千偈如翻水
何須尋德雲　此比丘是
長生未暇學　請學長不死

金山寺

蘇轍

揚州望金山　隱隱大如幘
竭來長江上　孤高三千尺
僧居厭山小　四面貼蒼石
虛樓三百間　正壓江潮白
清風斂霽霧　曉日曜金碧
直侵魚龍居　似有鬼神役

我行有程度　欲去空自惜
風吹渡江水　山僧方午食
波瀾洗我心　笋蕨飽我腹
平生足遊衍　壯觀此云極
鐵甕本誰安　海門復誰植
東南遞隱見　遙與此山匹
茲遊幾不遂　深愧幕府客
歸時日已暮　正江月黑
顧視天水并　坐恐星斗濕
使君何時罷　登覽不可失

蘇子美

孤峰湧滄江　突兀臺殿積
驚波四面起　日夜走霹靂
陰壑畜風雲　陽崖產金碧
離披萬年樹　根抱太古石
修廊轉峻閣　窈窕壓山脊
寶像浮海來　珠瓔冷光滴
扣闌見黿鼉　揚首意自得
偃蹇互出沒　日此飽餘食
又有翠羽禽　群飛喜賓客
口銜紺蒂花　近我若相識
開軒心曠絕　上下無異色
氣象特清壯　所覽輒快適
余心本高灑　誤為塵土隔
不知人間世　有此物外跡
落日將發舟　低回空自惜

秦觀

江流會楊子　洶洶東南騖
海門劃前開　金山屹中據
鼓鐘食萬指　金鑮棲千柱

夜庭遊月波　曉顧搏山霧
天清猿鶴哀　風暗魚龍怒
雲物橫今古　波濤閱晨暮
三州氣色來　上下端倪露
偉哉元氣間　此勝知誰聚
念昔琴瑟廬　登臨輒忘去
汲新試月團　飯素羹魁芋
妙興入芳藤　境在芒屐
別來星暑換　寤寐經從處
忽蒙珠璧投　了與雲巒遇
幽光烱肝肺　爽氣森庭戶
區中多滯念　方外饒奇趣
寄語山阿人　泠然復復御

遊金山分得微字

史良臣

長江古天塹　浩浩無津涯
金鰲屹中流　白晝烟霧垂
大船聲號嘈　開蓬若星馳
繫纜石壁側　天風吹我衣
攀蘿陟幽險　四顧心神怡
東觀浴赤日　光動扶桑枝
西拱蓬萊宮　銀潢抱神畿
上有五色雲　萬狀爭獻奇
吳楚隔南北　間氣裂坤維
壯哉形勝地　恍若青琉璃
晚登妙高臺　飛步縱所之
其宿牛斗　其下蟠蛟螭
臨流不敢唾　轉思神物疑
蕭爽給孤園　祇樹森陸離
臺殿雨花外　突兀摩穹倪
浮屠歷浩劫　千年今若茲
涓涓楊枝兩　灑向青蓮池
洪鐘吐崇岫　大荒西日微

再拂古碑碣　試讀前賢詩
長歌歸去來　清絕和者稀

金山(七言古)

蘇軾

魏王大瓠無人識　種成何翅實五石
不辭破作兩大樽　只憂水淺江湖窄
我才廓落無所用　虛名驚世終何益
東方先生好自譽　伯夷子路并為一
杜陵布衣老且愚　信口自比契與稷
暮年欲學柳下惠　嗜好酸鹹不相入
金山也是不羈人　蚤歲聞名晚相得
我醉而嬉欲仙去　傍人笑倒山謂實
問我此生何所歸　笑指浮休百年宅
蒜山幸有閑田地　招此無家一房客

金山

王珪

江流滾滾抱山回　曠古不易牢根荄
一峰但見貼雲起　仰觀俯視森樓臺
吳淮此景端第一　金碧一片中天開
清詩妙畫遠持寄　使我東望心悠哉
隋苑吳宮已寂寞　茆峰蒜嶺空崔巍
大風吹江晝翻雪　驚濤捲浪晴轟雷
吾徒何為自驚絆　驅馬六月走黃埃
厚恩寵祿無裨補　青山白雲歸去來

郭祥正

金山杳在滄溟中　雪崖氷柱浮仙宮
乾坤扶持自今古　日月彷彿躔西東
我泛靈槎出塵世　搜索異境窺神工
一朝登臨重太息　四時想像何其雄
捲簾夜月掛北斗　大鯨駕浪吹長空
舟摧岸斷豈足數　往往霹靂鎚蛟龍
寒蟾八月蕩瑤海　秋光上下磨青銅
鳥飛不盡莫天碧　漁歌忽斷蘆花風
蓬萊久聞未成往　壯觀絕致遙應同
潮生潮落夜還曉　物與數會誰能窮
百年形影浪自苦　便欲此地安微躬
白雲南來入我望　又起歸興隨征鴻

潘景良

嵌岩穹窿　屹立乎江中
崩湍下瞰不見底　巨石崛出高摩空
混沌破來到今幾萬歲　雄奇秀麗胡為乎此山兮獨鍾
長江西來一萬里　當空削出金芙蓉
上有金仙居　下有馮夷宮
寶坊櫛比列霄漢　塔影倒置驚魚龍
有時洪鐘咽烟響　潮音屬和驅群龍
鳥飛竟力不得到　我嘗挐舟一抵其雲峰
攝衣步樓閣　矯首觀無窮
齊州九點落眼底　岷峨西望滄溟濛
忽聞長風破巨浪　芥蒂一洗平生胸
山僧喜殊常　握手何從容
盃擎陸羽水　茶泛玉川風
鶴菴散仙　恒齋老翁　把臂大笑聲融融
天風吹袂欲輕舉　白雲縹緲將何從
不知海外之三山　群仙之樂與此將異而或同
迄今別去五六載　我舟又復來掀蓬
山靈偃蹇我踞傲　塵懷汩沒不得追前踪
風帆一笑金山過　山頭日落飛冥鴻

楊萬里

金山未到時　羨渠奄有萬里之長江
金山到了　長江不見只見千步廊
老夫平生不耐事　點檢風光難可意
老僧覺我見睫眥　引入妙高臺上嬉
不知老僧有妙手　捲舒江山在懷袖
挂上西窗萬丈間　長江浮在爐烟端
長江南邊千萬山　一時飛入兩眼寒
最愛簷前絕奇處　江心巉然景純墓
僧言道許乃浪傳　龍宮特書珠貝篇
初云謝靈運愛山如愛命　掇取天台鴈宕恠石頭　疊作假山立中流
又云王逸少草聖入神妙　天賜琉璃筆格玉硯屏　仍將大江作陶泓
老夫聞二說　沉吟未能决
長年抵死催上船　徘徊欲去空茫然

宿金山

秦觀

山南山北江水流　半空金碧隨雲浮
我來仍風日好　十月未寒如晚秋
山僧引客尋蒼翠　歷盡參差到平地
萬里風來拂骨清　却憶人間如夢寐
夜深無風月入扉　相對老人如槁枝
流水與天爭入海　共笑此心誰得知
下山却向中泠望　翻憶當時在屏障
老母思兒且欲歸　囘首雲峰已天上

遊金山

蘇軾

我家江水初發源　宦遊直送江入海
聞道潮頭十丈高　天寒尚有沙痕在
中泠南畔石磐陀　古來出沒隨濤波
試登絕頂望鄉國　江南江北青山多
羈愁畏晚尋歸楫　山僧苦留看落日
微風萬頃靴文細　斷靈半空魚尾赤
是時江月初生魄　二更月落天深黑
江心似有炬火明　飛焰照山棲鳥驚
悵望歸臥心莫識　非鬼非人竟何物
江山如此不歸山　江神見怪驚我頑
我謝江神豈得已　有田不歸如江水(是夜所見如此)

曉登金山

楊廷秀

金山東　金山西　金山排霄南斗齊
天將三江五湖水　併作一江字楊子
來從九天上　瀉入九地底
遇嶽嶽立摧　逢石石立碎
乾坤氣力聚此江　一波打來誰敢當
金山一何強　上流獨立江中央
一塵不隨海風舞　一礫不隨海潮去
四旁無蒂下無根　浮雲躍出江心住
金銀宮闕起峰頭　搥鼓撞鐘聞九州
詩人踏雪來清游　天風吹儂上瓊樓
不為浮玉飲玉舟　大江端的替人羞　金山端的替人愁

次梁必大金焦行

費震

太倉一米梁魏中　梵王坐處如天宮
硨磲瑪瑙珊瑚重　護法更有諸天龍

醍醐浮香甘露濃　我欲問訊當何從
惟有一席西津風　快哉八九雲夢胸
海門直指扶桑東　金鰲兩角爭豪雄
蒜山房客送墨綜　妙高千偈佛印同
衲衣玉帶知何在　至今詩句撐蒼穹
江山如畫人往已　雲霾浪打寺復寺
華陽逸曾至止　鶴銘筆法蘭亭似
老綸敗壁扶不起　沙戶初蠶修竹裏
處士蝸牛空舊址　晒得名山作焦字
年來俗事怕到耳　神尻氣輿隨所至
從渠烏兔走如矢　白雲之鄉吾故里
桑榆斥鷃安識此　大鵬逍遙問莊子

金山

蘇轍

長江欲盡濶無邊　金山當中惟一石
潮平風靜日浮空　縹緲樓臺轉金碧
瓜洲初見石頭城　城下波瀾與海平
中流轉舵疑無岸　泊舟未定僧先迎
山中岑寂恐未足　復將江水繞山麓
四無隣家群動息　鐘聲鏗鍠答山谷
烏鳶力薄墮中路　惟有胡鷹石上宿
誰知江海多行舟　遊人上下集巖幽
老僧心定身不定　送往迎來何時竟
潮來未厭夜未歸　愛山如此如公稀
不待遊人盡歸去　恐公未識山中趣

遊金山

程卓

楊子長江天際來　中流有山何壯哉

深根盤礴千萬丈　寸土不受雙崔嵬
金山屹據上流險　四面佛屋相環回
來帆去槳別艫舳　住僧過客煩追陪
排空傑閣揖滄海　海山亂點浮纖埃
龍潭列聳石峰巧　獨立野鶴慵毬毸
堂頭回首指遺像　坡翁印老留青煤
其人已去詩尚在　倡酬風月相徘徊
再三瞻我二山去　縹緲又入雲濤堆
焦山一望二十里　舟師駕櫓如奔雷
行行滉蕩呼吸頃　繫纜埚犖登山隈
山中僧少竹木古　瘦根迸石穿莓苔
幽姿野態隨步出　勝處往往多樓臺
洪厓路轉尋瘞鶴　幾年浪打風雨摧
遺銘破碎石剝落　摩挲細讀心眸開
同行韻遠心未盡　飛仙亭上傾樽罍
酒酣我為發前絕　底須方外求蓬萊

登金山

唐文若

江流出岷蜀　萬折東南傾
茲山若巨舫　勢欲扼滄溟
天高象教尊　海岳朝百靈
雲水渺四極　下上涵日星
朱甍倚霄漢　倒影魚龍驚
重游十年舊　掛席鷗鳥輕
維揚魏公幕　回首劍戟明
行都望北固　鐵甕高崢嶸
孤舟繫烟月　六尺僧窗橫
印師支遠儔　靜對如風鈴
曠懷憐此翁　得法世慮平
塵勞霜鬢禿　風月氷壺清
乞詩寫崖壁　指月雙浮萍

金山行次梁必大韻

金遁初

江春淮水通吳中　深有萬丈天吳宮
珠樓貝闕知幾重　魚首人面赤如龍
紫雲赫奕青霞濃　天帝下降百神從
鮫鯨無端怒生風　勅移三山其胸
日纏月緯分西東　戴鰲方知策強雄
馬塵轍跡絕遊蹤　仙境與蓬萊同
千濤萬浪插兩峰　乞然對拱摩層穹
金山蜿蜒勢未已焦山縈廻藏古寺
大覺仙所廬聖止　人間畫圖那得似
鏡銅摩青鳥飛起　浮屠倒影澄波裏
六朝陵闕存故址　百戰功名數行字
相去清風半帆耳　此身未遊心已至
君詩到手破的矢　我詩刻劃慚下里
三分之句豈辨此　舉杯一酹問蘇子

次前韻

張道元

二山砥柱江流中　下有水府之幽宮
巨靈設此天險重　怒濤欲起兩伏龍
山光對面山淡濃　朝暮雲起相過從
鐘聲兩樣飄江風　撞驚大夢醒塵胸
海門茫茫直其東　江山第一麗且雄
六朝形勝留遺蹤　天荒地老代不同
登臨此地閱幾翁　公獨硬詰盤高穹
長江滔滔去不已　千古名山占蕭寺
白髮印公心水止　嗟予勞生竟何似
人間平地風波起　誰能釣舟烟波裏
千年門限鐵臺址　不如流芳向文字
州縣之職徒勞耳　丈夫封侯待時至

以道事人直如矢　豈但絃歌化州里
人兮山兮有如此　我願學者梁夫子

登金山(五言律)

范仲淹

空半簇樓臺　紅塵安在哉
山分江色破　潮帶海聲來
烟景諸隣斷　天光四望開
疑師得仙去　白日上蓬萊

梅聖俞

吳客獨來後　楚橈歸夕曛
山形無地接　寺界與波分
巢鶻寧窺物　馴鷗自作群
老僧忘歲月　坐石看江雲

韓持國

寶塔中流起　香園此布金
鴿棲秋殿冷　龍伏夜潭深
水鳥銜生食　江黿聽梵音
上方聊縱目　天幕杳陰森

熊茂叔

注海銀成壑　浮空玉作堆
鼇翻三島出　鷲駕一峰來

塔影波搖動　鐘聲潮拍回
猶嗟禪伯老　虛入妙高臺

李肅

金山何處好　四顧不相連
窗迥前無地　波澄下有天
堂留三楚客　門泊五湖船
暝色關詩思　江籠兩岸烟

楊時

環望荊吳坼　清江日夜流
飛騰潮汐浪　漂泊利名舟
山湧鼇翻出　樓虛蜃氣浮
僧窗千古意　出沒看輕鷗

張栻

萬頃洪濤裏　巍然閱古今
雲烟三島接　花木四時深
亂石維舟住　西風倚檻吟
朝宗知不斷　凄切此時心

戴復古

水湧孤峰出　濤聲日夜聞
重巖戍鐵屋　雙堠礙行雲
天地八窗見　江淮兩岸分
登臨多感慨　北鴈又成群

何千里

上妙空王殿　諸天不敢窺
雲霞捧兜率　日月遶須彌
八柱當如許　三山定自奇
波瀾吞巨海　正要十分詩

劉儀鳳

奇特開山老　江心一味禪
流將到海　萬頃忽擎拳
絕境宜衰病　歸途憩靜便
故巢心未死　又上逆風船

金山(七言律)

歐陽修

地接龍宮漲浪賒　鷲峰岑絕插雲斜
巖披宿霧三竿日　路引迷人四照花
海國鹽牙爭起榻　河童施鉢但驚沙
春蘿攀倚難成去　山谷疎鐘落暮霞

金山懷古

黃庭堅

星霣高岡勢若浮　上擎青殿寶香樓
裴公託跡開神秘　廟頒名紀夢遊

東際雲航來越國　北邊烟樹認揚州
笑看郭璞墳前水　激石淘沙幾日休

題金山

蘇紳

九派分流湧化城　登臨潛覺骨毛清
僧依玉鑑光中住　人踏金鰲背上行
鐘阜雲開春雨霽　海門雷吼夜潮生
因思絕頂高秋夜　四面銀濤浸月明

金山夕望

楊蟠

世上蓬萊第幾洲　長雲漠漠鳥飛愁
海山亂點當軒出　江水中分遶檻流
天遠樓臺橫北固　夜深燈火見楊州
回船却望金陵月　獨倚牙旗坐浪頭

與荊公會宿

王安國

寺壓蒼崖勢欲傾　歡然西度為誰興
雲隨草樹縈群岫　江浸樓臺點萬燈
坐久不知身寂寞　夢回猶覺氣軒騰
思君城郭塵埃滿　相逐尋閒亦未能

會宿次平甫韻寄親友

王安石

天末海雲橫北固　烟中沙岸似西興
已無船舫猶聞笛　遠有樓臺只見燈
山月入松金破碎　江風吹水雪崩騰
飄然欲作乘槎計　一到扶桑恨未能

別寶覺圓通二禪師

蘇軾

沐罷巾冠快晚凉　睡餘齒頰帶茶香
艤舟北岸何時渡　晞髮東軒未肯忙
康濟此身殊有道　醫治外物本無方
風流二老長還往　顧我歸期尚渺茫

登金山

晁公武

東遊尋勝登臨　浮玉知名冠古今
萬壑波濤喧海口　千年巖岫據江心
兩蓬烟棹征帆遠　曉磬昏鐘佛屋深
詩客分留風景在　憑君為發一長吟

遊金山

曾鞏

城外岧嶤鷲嶺宮　駕虛排險出青紅
林光巧轉滄波上　海色遙涵白日東

夜靜神龍聽呪食　秋凉蒼鶻起搏風
連荊控蜀長江水　盡在回廊顧盼中

金山述懷

宋賢

水湧樓臺寺裏山　魚龍聽法石溪禪
飯香京口三千　茶好江心第一泉
古墓衣冠傳晉代　斷碑文字見唐年
幾回楚尾吳頭夢　長在金鰲勝槩邊

金山

翁逢龍

波濤湧處浮雙塔　塔影高低樹影邊
山下雖無歸寺路　門前却有過淮船
石峰隔水難尋水　井脉通泉易得泉
聞說老龍歸洞口　幾番驚起定僧禪

趙葵

紫金千仞鬱崔嵬　四面驚濤捲雪堆
屹立中流天柱壯　高標雙闕海門開
江流今古幾分合　日月東西自往來
一覽山皆培塿　不知身世是蓬萊

王安石

數重樓枕層層石　四壁窗開面面風
忽見鳥飛平地上　始驚身在半空中
插雲金碧虹千丈　倚漢嶒嶸玉一峰
想得高秋涼月夜　分明人世蕊珠宮

同大覺遊金山寄介甫兄

王安國

憶同支遁宿嶔崟　不負平生壯觀心
北固山連三楚盡　中泠水入九江深
紛紛落月搖空影　杳杳歸舟送梵音
東去何時來蠟屐　天邊爽氣夢相尋

李士元

滄江水底湧金根　千古崔嵬勢獨尊
雙堞層臺飛壯觀　全吳平楚入雄吞
天開兜率在人境　神駕金鰲控海門
倦客欲歸歸不得　時登絕頂望中原

王逢原

萬頃清江浸碧山　乾坤都向此中寬
樓臺影落魚龍駭　鐘磬聲浮水石寒
日暮海門飛白鳥　潮回[瓜-、]步見黃灘
常時戶外風波惡　秖為高僧靜處看

蔡天啟

曾訪山中支道林　厭聞鐘鼓日欽欽
百川赴海通三島　萬籟逢秋共一音
折戟戰痕誰與弔　浮杯足跡杳難尋
魚峰梵唄隨曹植　試聽雲間鸞鳳吟

余去金山五年而復至次舊詩韻贈寶覺禪師

蘇軾

誰能斗酒博西凉　但看齋厨法豉香
舊事成一夢過　高談為洗五年忙
清風偶與山阿曲　明月聊隨屋角方
稽首願師憐久客　直將歸路指茫茫

毛澤民

莫把他山比一同　紫金光彩孰磨礱
樓臺影壓浮天月　鐘磬聲隨過岸風
知有神龍潛洞壑　初疑海市變青紅
蓬萊此境應相類　我欲南徐寫画工

平甫遊金山見寄次韻

王安石

漳南開寺好叢林　慧劍何年出水心
獨往便應諸漏盡　相逢未免故情深
檻窺山鳥有意　窗聽海潮非世音
一笑上方人事外　不知衰境兩侵尋

登金山

黃庭堅

落星開士深結屋　龍閣老人來賦詩
小雨藏山客坐久　長江接天帆到遲
燕寢清香與世隔　畫圖絕妙無人知
蜂房各自開戶牖　處處煮茶藤一枝

金山

吳日

我泛靈槎天漢來　清風吹到妙高臺
一拳石上須彌見　萬象珠中金碧堆
烏兎東西催晝夜　魚龍掀舞響風雷
瓣香端拜東坡像　喜見紗籠無點埃

登金山

陳孚

萬頃天光俯可吞　壺中別有一乾坤
雲移塔影橫江口　風送鐘聲過海門
僧榻夜隨蛟室湧　佛燈秋隔蜃樓昏
年年只有中泠水　不受人間一點塵

遊金山

唐桂芳

我正無心懶似雲　那堪奔走汗緇塵
飛花岸柳偏留客　吹浪江豚忽拜人

玉帶暫拋煩轉語　楞伽曾寫悟前身
異時好說金山寺　小小漁舟喚渡頻

馮海粟

雙塔嵯峨聳碧空　爛銀堆湧紫金峰
江流吳楚三千里　山壓蓬萊第一宮
雲外樓臺迷鳥雀　水邊鐘鼓振蛟龍
問僧何處波濤險　郭璞墳前浪打風

申屠駉

層層紺宇聳崔巍　脚底洪濤激怒雷
埏影暗搖坤軸動　鐘聲晴擊海門開
僧臨水府洞中出　人泛仙槎海上來
六鑿塵根俱洗盡　不知身在妙高臺

黃晉卿

偶為清遊宿梵宮　凌晨試上最高峰
水翻雪色寒猶落　雲掩丹光遠更重
舊有一僧能跨虎　近聞三洞盡藏龍
下方車馬應難到　烟際唯聽日暮鐘

吞海亭

張翥

危亭突兀戴鼇頭　俯視滄溟一勺浮
龍伯衣冠藏下府　梵王宮殿起中流

扶桑夜色三山日　灩澦江聲萬里秋
者我惜無吞海句　但磨崖石記曾遊

寄休禪師

危素

八十了公如古佛　禪心久矣會如
飯供南海浮來鉢　經鈔西天譯後書
持呪降龍秋雨歇　焚香迎客晚潮初
此生終擬依蓮社　猶苦塵緣未破除

俞希魯

雪崖氷柱出氛埃　掛席登臨每厭坦
兩塔撐空鼇極壯　千楹捲露蜃樓開
無風但見驚濤沸　盡日如聞驟雨來
欲訪開山裴祖蹟　荒凉古洞翳蒿萊

送長溪禪師還金山

前人

阿師召到金鑾殿　喜動龍顏坐賜茶
三宿觀堂談般若　九重春色上袈裟
波濤險處龍藏鉢　鴻鴈來時月印沙
歸到江心舊禪榻　妙高臺上望京華

金山(五言絕)

陳篁墩

樓閣中天起　波濤四面降
崔嵬千尺影　終古長江

善財石

何物瑤琨石　龍宮夜不函
由來江岸側　天造補陀巖

題金山(七言絕句)

宋孝宗

崒然天立中流　雄跨東南百二州
武士每登須破膽　毋勞平地戰貔貅

題金山寺

王安石

北檝南檣泊四陲　共憐金碧爛參差
孤根萬丈滄溟底　除卻蛟龍世不知

其二

波瀾蕩沃乾坤大　氣象包藏水石閒
秖有此中宜曠望　誰令天作海門山

其三

天日蒼茫海氣涔　一船西去此登臨
丹樓碧閣皆時事　只有江山古到今

金山晚眺

秦觀

西津江口月初弦　水氣昏昏上接天
清渚白沙茫不辨　只應燈火是漁船

登金山

李石

紺殿浮渠十丈華　黃金布地梵王家
只應白足行天上　免使塵埃污紫霞

其二

樓觀驚飛水府開　海龍扶出妙高臺
潮音震動龍歡喜　子母西川萬里來

登金山

楊大年

白浪掀空無盡時　孫魴張祜此何之
興來獨上盤金頂　萬里清風快我吹

金山

王元之

波心樓殿拂雲霓　吟繞詩脾日欲西
張祜孫魴靈魄在　也知相笑不留題

次韻荅寶覺禪師

蘇軾

芒鞋竹杖布行纏　遮莫千山更萬山
從來無脚不解滑　誰信石頭行路難

解玉帶山門

病骨難堪玉帶圍　鈍根仍落箭鋒機
欲教乞食歌姬院　故與雲山舊衲衣

其二

此帶閱人如傳舍　傳流到我亦悠哉
錦袍錯落相稱　乞與佯狂老萬回

金山夢中作

江東賈客木綿裘　會散金山月滿樓
夜半潮來風又急　臥吹簫管到揚州

將遊金山寄元禪師

蘇轍

麤砂施佛佛欣受　怪石供僧僧不嫌
空手遠來還要否　更無一物可增添

元禪師見訪晒坐具而去戲作一絕調之

石霜舊奪裴休笏　坐具只今君自晒
晒放書房還會否　受降曾不費戈矛

金山書懷

晁補之

山名浮玉一峰立　波接海門千頃開
我欲此中成小隱　莫教山脚有船來

夜登金山

沈括

樓臺兩岸水相連　江北江南鏡裏天
蘆管玉簫齊送夜　一聲飛斷月如烟

金山晚眺

米芾

插雲樓殿壓滄溟　笑語風生袢暑清
誰為决雲開皎月　練飛雪捲看潮生

贈金山寺僧

蔡襄

畫梁詩板暗流塵　水石魚龍萬句新
誰識高僧最深意　慈航長濟過江人

贈金山石牛上人

趙葵

萬里江山萬里天　疎鐘半夜落漁船
老來卻羨禪關客　一枕江聲抱月眠

金山

元俞希魯

突兀浮金出浪花　江淮一覽浩無涯
誰依玉鑑光中住　知是法成禪老家

晚過金山

虞集

雲連山樹樹連村　數筆元輝水墨痕

吟苦不知身入畫　更添白鳥破烟昏

金山

遺山

攢青疊翠幾何般　玉鏡修眉十二環
常著一峰烟雨裏　苦才多思是金山

浮玉山

趙孟頫

玉湖流水清且閒　中有浮玉之名山
千帆過盡暮天碧　惟見白雲時往還

題金山

陳元輿

千尋寶閣涵秋色　四面魚龍聽梵音
應是江神好禪理　故移兜率在波心

宿金山

薩都剌

遠人夜宿金山寺　坐對畫圖如夢中
剪燭題詩雲氣重　不知身已在龍宮

金山龍游禪寺志畧

金壇綏菴居士蔣超較正

嗣祖比丘鐵舟行海修輯

楚潭叅學門人超智編次

宿金山聽潮軒(五言古)

明儲巏

朝遊歡未極　暮憩還自營
上方鐘磬落　虛室冷然清
起視夜何共　片月東南生
青山如改顏　隱隱攢高城
蛟龍寒尚蟄　波浪誰與爭
乃知群動息　夕景寒空明
欻爾紫霞想　緬懷滄洲情
篝燈閉石閣　細聽江濤聲

遊金山

羅崇岳

舊聞金山名　偶訪金山寺
印公遠相迎　踏徧黃金地
山靈知我來　春風扇和氣
雲帆地中行　銀盤湧螺髻
試汲中泠泉　一掬嘗味
灑然滌我懷　迥隔人間世
愧無玉帶留　重結印公契
一笑登舟去　鐘聲隔江涘

登金山

黃元功

寺傍虛空搆　山從元化分
佛光霑浩渺　潮響帶聲聞
清嘯驚靈墫　高躋想莫雲
江寒秋氣早　楓葉月如新
天墫分南北　帆檣日夜行
其峰應歷劫　此水未揚塵
灝氣通宰　浮漚悟幻身
一花五葉後　誰是渡江人

遊金山

王士性

金山一拳石　杳然天宇涵
朱甍連萬瓦　梵宇俯澄湍
海月開夕霽　天風散朝嵐
長江咫尺地　天輿隔東南
水府淼莫測　[馬*百*百]頷誰許探
若為拾金人　驟至啟石函
卜築嵌空竇　猶然坐瞿曇
回首挹浮圖　貝葉聲喃喃
境不再得　何時早投簪
回光坐水觀　彌勒好同龕

遊金山

湛若水

世道程途永　艱危憂思長

涉江問京口　駐節金山陽
群公半知舊　相逢喜欲狂
登高濯長纓　浩蕩閱湖江
舉首望五雲　悄然思帝鄉
心期久不至　竚立以徜徉

題妙空岩

盛祥

斯岩同地闢　萬古尚完堅
窈曲幽而深　寥廓虛以玄
上連兜率境　下引中泠泉
祥芝毓幽竇　佳木蔭華
海曙出雲霞　日暮生嵐烟
有時風雨暝　一如混沌先
天日倏開霽　軒豁猶洞天
幽棲方外士　靜隱雲中仙
說法琅風生　人定明月懸
岩影倒寒碧　心境俱湛然
妙趣誰能識　聰師獨悟傳
何時謝事歸　結屋隣岩前

金山

俞則全

漫遊天姥客　特上留雲臺
雲冷山將暝　路危僧未來
巖空歸鳥集　汐暗江風急
起舞香袖單　欲歌綵琴澀
徘徊不成飲　惆悵還群立
回首望江南　江南雲漢濕

贈野閒上人

馬一龍

山林異臺閣　勳業同草菅
天地一逆旅　日月如轉環
此身寄塵土　誰能百歲顏
逸于性之外　備歷辛與艱
安得大師分　一日山中慳
幽居非厦屋　草舍餘一間
世事付水流　白雲晝常關
遊神入碧落　定歸玄鶴還
虛窗夜生白　一念空宇寰
邇來悟圓覺　閒者閑更閒

遊金山

華雲

點皷越京口　揚帆行中流
對面金芙蓉　可望不可求
臨淵興彌生　太息雙浮漚
幸遘輕舟廻　飄飄愜茲遊
飛磴恣蠟屐　玄風極高丘
觀妙曠六合　囂塵迥遭周
江寒柳花黃　石落黿鼉愁
何處謫仙人　遙傷白鷺洲
他時據孤抱　卧聽江楓秋

月夜泊舟金山寺

鄒之麟

繫舟以山繫　閒眠有孤詣
水盡天為涯　影謝月無蒂
將此窮俯仰　於何置身世
夜半鐘聲來　晝然前後際

登金山(七言古)

林俊

孟瀆海門江所滙　幾道桑田信東海
風饕浪雪日嚙之　滅沒青山一拳在
龍遊古寺開頭陀　僧船載景橫夕波
就食黿鼉冷不起　巴蜀雪水潮來多
是日長風送孤楫　鳥外吳峰半含日
岸影遙連島樹深　暝暉斜映山門赤
東方月遲日初魄　路滑石頭行昏黑
春星布野搖空明　出沒水怍神魂驚
無生妙語憑誰識　眼裏贅疣皆長物
白雲作伴同宿山　曉猿夜鶴驚癡頑
達曙聽濤意未已　歸吸中泠一瓢水

再登金山

沈周

金鰲巃嵸高當江　西覽鳳皇東渤海
薄游已快老夫眼　身今去山心故在
當時戲筆貌陂陀　蒼玉拳然蘸碧波
東堂不意掣敏手　我正鄙陋他人多
補忘尚憶笑有諾　塵土懸忙徒曠目
今年吉老遣孫來　喋喋致勤書一尺
空心何苦存亡　譬自白鬚求返黑
賢孫顧謂我累明　具意涉文辭可驚
江山須公記賞識　非為吾徒錮留物

若教歸袖無此山　不蒙收錄山耻頑
我起磨墨興不已　欲注中泠硯水

聽潮軒

張寧

海門蕩蕩天風來　雲潮千里如山摧
空雷隱地雨將作　萬皷齊伐車喧豗
初疑群蠅爭振翼　忽若洪鑪沃湯液
風廻籟歇如漸遠　兵馬蕭蕭走勍敵
年去年來似有期　春秋長落幾人思
天涯共道初來懼　夢裏空驚夜語時
海濱老禪得幽趣　禪居正近潮來處
山空木落境無人　地迥天高歲云暮
塵緣斷絕雙耳清　天機自動非人聲
上方鐘梵隨風散　下界樓臺孤月明
風微月朗將定　將定猶聞心轉靜
來非有為去無情　留連世韻何須聽
見說空軒百事無　音聲色相盡成虛
禪家自有西來話　莫向中州說六如

贈別味上人還金山

顏福

金山遙望一拳小　亂石巉岏出江表
佛宮梵剎倚雲霄　似此奇蹟天下少
個中還有中泠泉　碧波倒影連青天
一脉淵洪不可測　人言內有蛟龍眠
喜有高僧號義之　能醫能寫亦能詩
愛此泉香味偏美　啜來肯令旁人覗
江南鉅儒沈石田　作詩寫畫如通仙
卷中寫出味泉僧　持杯獨坐心悠然

錢公本是龍頭客　蚤向金門曾射策
生平大手愛題詩　雲烟滿卷光赫赫
我亦歸來林下叟　潦倒無能空白首
揮毫寫就味泉篇　汝水橋頭酌別酒

長江行

李東陽

長江西來是何年　奔流直下岷山
長風一萬里　吹破鴻濛天
天開地闢萬物茁　五岳四瀆皆森然
帝遣長江作南瀆　直與天地相周旋
是時共工怒觸天柱折　遂使后土東南偏
女媧補天不補地　山崩谷鏟漏百川
有崇之叟狂而　坐看萬國赤子淪深淵
帝赫怒　罰乃罪
神禹來　乘四載
驅大章　走竪亥
黃龍夾舟穩不驚　直送馳波到東海
朝離巴峽暮洞庭　九派却轉潯陽城
縈紆南徐萬餘里　更萬餘里通蓬瀛
君不見黃河之水天上下　其大如股空縱橫
長游清濟出中境　曷敢南向爭權衡
千流萬派瑣瑣不足數　雖有吐納無虧盈
下亘厚地　上摩高穹
日月出沒　蛟龍所宮
奇形異態　不可以物象　但見變化無終窮
或如重胎抱混沌　或如灝氣開穹窿
或如織女拖素練　或如天馬馳風騣
或如空山怒號飽後虎　巨壑下飲渴死虹
或如軒轅鑄九鼎　大冶鼓動洪鑪風
或如夸父逐三足　曳杖狂走無西東
或如甲兵宵馳　聚嘯滿山谷
或如神鬼晝露　萬象出入虛無中
吁嗟乎長江　胡為若茲雄　人不識　無乃造化之奇功

天開九州　十有二山
南北並峙　江流其間
堯舜都方　三苗尚為頑
魏帝倚天嘆　征吳但空還
吁嗟乎長江　其險不可攀
古來英雄必南騖　我祖開基自江渡
古來建國惟中原　我宗坐制東南藩
始知天險不足恃　惟有聖德可以通乾坤
長江來　自西極　包人寰　環帝宅
我來何為　為觀國
泛吳濤　航楚澤
笑張騫　悲祖逖
壯神功　歌聖德
聖德浩蕩如江波　千秋萬歲同山河
而我無才竟若何　聊為擊節長江歌

砥柱行

楊一清

長江萬餘里　來自岷山
摩空亘地　不知幾千載　直與造化爭機權
千流萬派時吐納　滾滾下徹滄溟淵
當年神龍驅百怪　宵馳晝走無停鞭
岩摧岸拆在頃刻　濤決浪倒　蕩蕩浩浩　止有巨浸無平田
天吳愁　海若懼
排清都　訴上帝
帝聞曰吁其可傷　錫以砥柱為隄防
中流無聲屹相向　狂瀾過之不敢狂
江漢朝宗　衡嵩定
乾為之清　坤歸其靜
猗歟嗟哉　雨雲變化晨昏殊　風波世路多艱虞
元氣一脉須匡扶　何人能作砥柱乎　柱乎柱乎今有無

留雲亭

亭子臨孤絕　江雲礙不飛
時來巖下宿　水氣濕僧衣

金山寺(五言律)

明吳登

金山孤絕處　幽閒遠塵寰
花木江心地　樓臺水面山
安禪無客到　喚渡有僧還
此日乘舟過　鐘聲落照間

盧濬

天地奇觀在　登臨兩腋輕
雲橫低度鳥　潮濶遠吞城
帆影春霞沒　漁歌夕浦生
瘡痍吾有寄　俯檻若為情

姚淶

孤嶂登臨處　凭欄四望通
潮聲千里靜　秋色萬山空
石壓黿鼉窟　烟開舴艋風
廣陵逢八月　豪思納胸中

楊一清

長憶波心寺　能清塵外心

乾坤自高下　魚鳥任浮沉
徑轉層樓險　雲深古洞陰
道人吹鐵笛　如和老龍吟

顧福

金山高突兀　玉宇靜塵埃
窟底蒼蛟卧　沙邊白鳥來
江空浮島嶼　樹遠見樓臺
斜日帆檣亂　臨流首重回

羅洪先

久別江南景　逢山眼更明
樓臺石壁迥　霄漢暮鐘輕
秋水四圍碧　蘆花兩岸清
平生愛幽絕　對此亦堪情

白鉞

千古金山寺　分明海門
濤聲春岸急　雲影入簾昏
傑閣凌空際　疎松漏月痕
題詩記曾到　回棹指天閽

次唐韻

方豪

再宿金山寺　空堂坐夜分

開窗見新月　入洞破晴雲
水冷黿猶伏　春初鳥未聞
平生愛山水　無酒亦成醺

黃侍顯

紅塵吹客鬢　僧榻此宵分
絕巘低沙月　虛堂抱石雲
乾坤元有限　雞犬杳無聞
愛爾能同調　[廖-(彰-章)+貝]酬酒半醺

唐鵬

閉戶北隣近　追君烟雨分
谷音開遠曙　島色濕輕雲
蜃閣參差出　鯨濤日夜聞
仙舟那可挽　愁絕不成醺

張祜

古今斯島絕　南北大江分
水濶吞滄海　亭高宿斷雲
返潮千磵落　啼鳥半空聞
此日登臨處　歸航酒半醺

金山

蔣詔

萬里廻天塹　中流湧地輿

濤聲翻檻急　雲影落窗虛
曉日觀桐樹　長風引玉裾
登臨疑蜃結　羽化欲何如

鄭大同

九折趨溟渤　金鰲勢欲吞
孤根出黿窟　一柱控龍門
石影秋邊瘦　江心夜不昏
蓬萊吾已得　應不數崑崙

孔彥光

孤迥塵緣斷　無如此寺僧
月分江練白　濤湧髻螺青
鴿散驚鳴磬　龍歸欲聽經
中泠空世味　瓢飲獨惺惺

唐順之

隱隱檣帆外　分明見法幢
川光孤斷石　井脉割寒江
折葦僧歸渡　觀潮客倚窗
一窺龍女偈　坐使戰心降

金山寺

顧銳

絕巘突江心　禪關合嶼陰

塔搖晴浪影　鐘散暮潮音
佛境浮年月　神州閱古今
吳堤兼楚岸　不受一塵侵

次張祜韻

李學道

浮玉渾無倚　乾坤向此分
亭吞吳海月　帆帶楚天雲
圖畫江心出　風濤石下聞
蓬瀛一舒嘯　不覺酒微醺

次孫魴韻

一峰橫巨浪　四面物華新
地脉連滄海　江光隔世塵
塔懸帆外影　僧老鏡中身
南北紛爭渡　幽尋有幾人

江汝壁

憑虛聊縱目　奇勝隔人間
白鳥依沙影　青山帶雨顏
樓高風易冷　塵遠世何關
未盡登臨興　哦詩月下還

陳銳

覽勝息塵機　攀蘿入翠微

鳥從天外沒　僧向渡頭歸
山色濃還淡　人情是與非
凭闌舒醉目　帆影掛斜暉

金山

王同祖

寶剎臨無地　丹丘倚碧空
古臺留夜月　禪榻自春風
水勢微茫外　鐘聲杳靄中
艱難復行役　回首意何窮

其二

紫巒晴霧起　滄海暮潮回
樓觀諸天近　帆檣萬里來
凌波看白鳥　坐石掃蒼苔
臥向雲霄外　斯遊亦壯哉

徐泰

海上評佳勝　金山最得名
濕雲拖水影　清磬答濤聲
落日催詩急　長江洗骨清
紛紛名利客　過此亦忘情

金山寺

袁表

孤島龍門迥　飛雲鳥道迷
大江流日夜　吳楚混東西
空翠浮蓮宇　金銀燿玉梯
登臨牽別興　愁絕暮烏啼

送僧還金山

高僧何處住　孤錫向空飛
驛樹連天盡　江帆帶雨歸
潮聲喧講席　山色映漁磯
遙憶東林下　精廬隱翠微

金山寺

舟從京口渡　地湧大江孤
水濶遙吞楚　山長半入吳
海門分脉絡　斗極望虛無
直北浮雲外　迢迢是帝都

王縝

長江風浪定　此地古今浮
山靜惟聞磬　天空不礙舟
樓臺雲外迥　烟樹望中稠
共說凭闌後　何人為國憂

梅俊

乾坤鍾此秀　鰲背立松關

金布水心地　玉浮江面山
磬聲雲外落　帆影月中還
鬱結塵襟久　登臨一解顏

金山寺

黃玄

江心浮絕島　古寺軼氛埃
樓迥中天起　窗閑向水開
空雲龍影度　海雨鴈聲來
故國登臨後　如今又幾廻

許宗魯

北客理歸棹　南江別遠公
行旌沾法雨　離思亂春風
化國魚龍護　高樓海岳通
結緣期後會　談劫水雲中

留雲亭

羅洪載

一亭天尺五　坐此賞雲容
曲檻還看落　虛簷亦借封
從龍應出洞　作雨更垂松
羽翼渾疑假　蓬萊羨爾逢

其二

南紀無雙勝　東吳第一丘
江雲呵怪石　天意扼橫流
瑤海風烟合　晴空殿閣浮
攬衣登絕頂　欲接太清遊

與顧華玉登金山

陳沂

江心擁鷲峰　金界出芙蓉
僧向空中定　人從水上逢
懸燈動星月　傳梵起魚龍
浪說蓬瀛路　鯨波更幾重

登金山

文肇祉

波心千古寺　日夜一峰浮
草色分江岸　潮聲帶海流
月高人返棹　更靜水鳴樓
欲坐金鰲閣　攀躋最上頭

沈鯨

孤峰從水湧　峭拔自天成
佛閣凌空起　漁燈隔岸明
魚龍諳梵語　鷗鷺識僧名
四面虛空處　紅塵何處生

夜渡金山

傅慧

空江信淼茫　月出水生光
入浦潮如雨　沾衣露欲霜
天清河氣白　夜靜海雲黃
坐久鐘聲動　應知近上方

金山寺

羅端

獨上金山寺　禪關次第開
塔穿霄漢碧　僧卧水雲堆
鳥為懸旛去　龍因擊磬回
妙高臺上望　弱水繞蓬萊

張元忭

天險何年設　神功此地分
濤飛千里雪　樓插九霄雲
帆影參差渡　漁歌杳渺聞
當杯論往事　惆悵不成醺

登金山

張鏊

鷲嶺天香染　慈航法水侵
定中潭月白　空裏雨花深

洗鉢龍驚蟄　傳燈海散陰
一江清漢影　何處着塵心

金山寺

顧璘

俯鑑江心寺　濤聲兩帶分
天晴秋見海　山潤午生雲
短棹今重到　名泉昔有聞
西風吹別酒　斜日未成醺

金山事

張奎

屹立江心寺　仙凡景自分
懸崖晴滴雨　虛閣晚留雲
沙鳥隨潮落　漁歌隔岸聞
登臨天地濶　不覺酒成醺

孔鏞

一水遠趨海　孤高極接天
江分南北路　潮送往來船
砥柱經千古　廻瀾倒百川
涵虛樓上月　閒伴老僧眠

朝陽洞

天地石色老　東南江勢開
神鞭浪說　仙島定飛來
根古龍為窟　崖奇鶻亦猜
雲亭舒望眼　山海共縈迴

韓蘄王廟

談自新

廟存孤島上　白浪日奔騰
以此江心月　為君地下燈
數推安足定　忠憤獨堪憑
麥飯何人祭　唯應隔岸僧

其二

我厭人間世　來尋最上禪
乘潮汎星斗　躡磴到江天
空濶無生界　微茫太古前
相將御風去　郤復絆塵緣

金山

李春芳

誰將一拳石　點破江心碧
如彼浮雲起　太虛生障隔
我欲遣天丁　鏟此塊然跡
頓令如掌平　悠悠無湍激

鄭材

島嶼空中見　招提象外幽
潮回雲共斂　天霽月同流
樹影翻江底　濤聲下石頭
逍遙聊寓目　蓬嶠問莊周

登金山多寶塔

李開芳

潮平雙岸出　塔聳半空寒
鳥背看雲度　鐘聲帶月殘
滄江浮一粟　大地等孤丸
莫道人天隔　翛翛長羽翰

張敷華

浩浩長江水　巍然卧玉龍
山高疑地少　水遠覺天空
塔聳層層月　樓開面面風
夕陽飛鳥下　雲外一聲鐘

張程

長鏡開天墮　孤峰浸巨波
潮連平野漫　風送亂帆多
海氣朝含蜃　鐘聲暮起鼉
此中超象外　虛說汎銀河

王叔杲

騁望臨高閣　無邊景色新
洪濤翻日月　紺宇出風塵
形勝連三島　人烟絕四鄰
坐來忘去住　何必問迷津

袁宏道

白浪三千頃　蒼巖二十盤
鮫人分夜火　龍女給晨餐
潮湧天難定　地孤石也寒
由來多勝跡　草裏讀碑殘

鄧伯羔

古寺微茫裏　輝輝木葉紅
蛟龍日下舞　麋鹿水邊逢
清磬有時發　禪房無路通
遠心何處是　千里付冥鴻

鄭直

喚起登山興　飄然渡水涯
雲霞互出沒　樓閣倚高卑
黿解山僧意　花催遊子詩
一朝成勝賞　誰復是相知

龐浩

萬頃波濤上　鰲峰磊玉堆

飛樓凌碧漢　貝闕壯山隈
海色連潮至　江聲入座來
登臨因奉命　去意總徘徊

諸葛味水

江勢吞天去　金山特吐奇
飛來將自海　俛仰盡成詩
王氣潮聲裏　荒坵碧草瀰
妙高臺上月　何必鴟夷

龔情

楊子金山寺　狂波至此廻
人喧江底市　檣度月中杯
打磬黿求食　聽經鳥自來
分明開色相　為我拂天埃

夜宿金山寺呈同遊黎惟敬因讀黎所題碑文賦此

朱正初

寺僻藏幽勝　烟霞滿榻生
窗窺遠潮白　鐘響出雲清
夜密傳燈寂　心將聽偈明
看君題石處　共起薜蘿情

謝肇淛

一柱接青霄　春江浪正驕

龍歸山寺雨　月落海門潮
水氣中峰合　人烟兩岸遙
振衣危塔畔　疑度赤城橋

盛德

山寺江心挺　恍如天落星
僧資舟楫渡　佛藉浪濤熒
鐘響魚龍逝　經聲鳥雀聽
詩人題石壁　漁叟釣沙汀

登金山寺

王正億

渺渺江心寺　停橈試一遊
深林晴帶雨　虛閣夏先秋
風送潮聲急　天空塔影流
寂寥塵世外　疑是陟蓬丘

登金山寺二首

黃惟楫

江天四望寬　吳楚此奇觀
山色寺門靜　濤聲佛座寒
黃金浮夜氣　白日走風湍
一柱中流植　滄桑欲變難

其二

日照水冥冥　江峰數點青
重蘿縈鳥道　古木帶龍腥
吞海若無岸　留雲故有亭
憑虛聊縱目　大塊一蟭螟

遊金山寺二首

王承勳

中流寺孤立　面面繞風烟
鳥卧波心樹　僧移渡口船
慈雲空外護　慧日鏡中懸
不道人間世　居然別有天

其二

一塵不到處　晏坐淡忘歸
山色全侵座　天花欲墜衣
鶴來當月到　龍出帶雲飛
試問塵途客　何如此息機

宿金山禪室

章詔

金地隱祇林　孤峰象外尋
還因月中坐　會得水邊心
鳥或聽經下　龍猶向鉢吟
自知常住者　不斷海潮音

何喬遠

團團似玉缸　拖練掛小窗
入門惟見寺　面壁不知江
龍藏家非一　曇花樹本雙
一聲懸磬下　萬念已俱降

陳思謙

山寺盤危磴　江流萬古分
明星動空水　絕閣隱層雲
客夢他年到　漁歌此夜聞
悠然抱孤興　高枕謝塵醺

同淨談夜坐

蕭祥曜

金地逢僧話　山房坐夜深
江空天一色　禪定月同明
諸相元無着　三生夙有盟
臨風增感慨　不盡古今情

俞則全

相傳開此洞　何代得黃金
遠水生秋月　虛岩無夕陰
山中閑佛骨　海外住禪心
只恐雲深處　重來不可尋

徐九皐

揭來洗心魂　旅憩磐陀石
樹影入江深　波光盪山碧
空岩月徘徊　鶻嶺天傾側
為謝蘇長公　風期宛如昔

海嶽樓翫月

曠宗舜

金山落木夜　寶月倚樓看
輪滿空中相　人逢絕境歡
舉杯吞海氣　廻席避江寒
遙憶關山笛　誰憐涇渭官

孫陞

江口倚天碧　中流見此峰
珠樓涵蜃氣　玉柱壯鴻濛
一水吳淮隔　三洲蓬島通
飛檣簇來往　山勢轉奇雄

次鍾陵張韻

張堯臣

立我金山上　翛然近斗牛
江空驚鳥墮　閣迥共雲浮
秋色群峰淨　藤蘿側逕幽
振衣消客慮　何必問瀛洲

中泠泉

陳沂

一酌中泠水　塵襟灑然
江心辨地脉　石竇得天泉
思入吟風葉　身輕吸露蟬
暫叅殊勝味　還結惠山緣

張祜

帆收依浦口　潮上渡江心
壁立烟崖古　水涵玉井深
中流分月色　飛閣枕松陰
地脉金陵接　憑高望遠岑

宗訓

兩岸瞻臺殿　金銀畫裏天
澄江翻白練　絕壁見青蓮
四面縈帆影　半空飛海煙
更憐瓜渡口　往返渡人船

金山

錢溥

渡江方一半　同作此山遊
背踏金鰲曉　堂開玉鑑秋

人烟分兩岸　佛剎映中流
海內論名勝　當為第一洲

題金山

丘濬

岷江萬里下　梵剎半空開
吳樹風吹斷　淮山水蕩廻
潮聲雜鐘磬　波影動樓臺
千載張公子　題詩會再來

右次唐韻

姚堈

獨上高臺望　青山隔岸分
潛龍吹洞雨　野鶴夢松雲
嵐翠波心滴　潮雷島上聞
徘徊恣漫賞　歸酒不成醺

登金山

姚堂

大江一孤嶼　岩畔聳禪林
水漾疑山動　潮來覺地沉
龍光現石罅　塔影蘸波心
兩岸人家近　時聞鐘磬音

遊金山

吳啟

造化奇絕　江流四遶山
樓臺浮水面　鐘磬落雲間
地接紅塵遠　僧眠白晝閑
宦遊經此處　仙境欲忘還

金山

吳廷舉

夙有金山約　今無玉帶留
僧身天竺化　地勢海珠浮
壯觀唐人句　飄零楚客舟
獨行憐影外　四面抱江流

登金山

毛倫

一上金山寺　飄然與世疎
雲霞孤島出　今古幾僧居
缽潤龍涎在　樓高蜃氣虛
天風醒醉目　杯酒笑談餘

次唐韻

謝琛

大江千古寺　吳楚自平分
地斷天連水　亭空晝宿雲

鷗盟閑有伴　世事喜無聞
坐看風波惡　詩成酒未醺

次韻

陸深

過水金山寺　憐地脉分
潮聲生絕壁　江影落孤雲
晚吹先秋到　漁歌入夜聞
登臨殊不極　斜日伴微醺

遊金山

鄭善夫

雙眼無空濶　長江會百靈
吳門對海定　淮樹貼天青
鐘動黿鼉窟　雲生鸛鶴庭
中流倘並濟　擊楫下滄溟

遊金山

許相卿

山脉潛滄渚　江心湧玉虬
鯨波環佛舍　客路寄僧舟
此境若為勝　吾生本自浮
壯遊猶未愜　汗漫訪蓬丘

除夕登山

施儒

奇絕冠江左　登臨適歲終
風帆天借便　僧榻意何濃
燈影搖孤嶼　寒濤吼萬松
奉高脫灑　千里得相從

金山寺壽蔣南泠

劉儲秀

銀漢仙槎下　珠林壽域開
蓮花平入座　竹葉共傳杯
青鳥啣書至　蒼龍聽法來
欲知遐算遠　劫石盡成灰

登金山

楊宏

突兀金山寺　江流一柱分
帆檣朝浴日　臺殿暝棲雲
勝槩登臨見　洪濤遠近聞
蓬瀛渺何許　此地絕塵氛

次唐韻

歐陽重

尋春來古寺　春意逐江分
山暝洞留雪　亭高簷宿雲

人歌疑鳥散　僧語慣黿聞
今古多賢達　能消幾度醮

遊金山

伍餘福

有約揚州鶴　重來問長公
樓前青玉案　江上白蘋風
樹接山雲闊　船從水國通
樊川寄何處　明月落杯中

登金山

薛祖學

紫翠凌虛閣　蒼茫浮漢津
風濤噴吳楚　島嶼列梁陳
海窟橫蛟室　江光動鬼神
飄然欲結社　憶爾廬山人

次王守溪韻

湯惟學

卓錫無多地　禪房住幾間
波濤自今古　登眺豁心顏
群岫開京國　孤帆渡海關
重遊情不極　向夕未言還

次前韻

蕭與成

濤聲環日夜　孤島屹江間
天設東南墫　山呈遠近顏
躋攀成野興　幽寂坐禪關
望望知何極　輕帆任往還

次許樊川韻

楊言

破浪登山寺　僧房宿贊公
入門發清磬　倚杖起秋風
金玉兩峰落　波濤萬壑通
乾坤陪一嘯　師塞定吾中

登金山

吳儒

十年攜一杖　幾度妙高臺
圖畫江心出　風雲天際來
此中非幻境　何處是蓬萊
酌罷中泠水　忘機坐綠苔

遊金山

豐坊

危樓控江閣　閑坐盡遐荒
波送千山翠　雲連落日黃

便風聞岸語　遠樹下烟航
到此吟懷豁　神遊入渺茫

次許御史韻

曾夢祺

勝地多僧占　由來造化公
雲屯京口樹　花落杖頭風
擊鉢魚龍躍　乘槎霄漢通
凌高趺坐處　詩思渺茫中

登妙高臺

楊時潤

臺迥八方盡　川廻東海深
江空聲蕩漾　秋老氣蕭森
碧殿中流枕　青山兩岸襟
登臨多逸興　偏起浩吟心

次唐韻

楊鏐

偶上金山寺　飄然與俗分
一身旋瘦鶴　兩足襯飛雲
蘇帶今何在　張詩古聞
興亡感無盡　索酒欲求醺

次前韻

王尚綱

清磬諸天近　高臺上界分
佛光波耀日　僧衲冷棲雲
塝影層穹見　濤聲盡日聞
登臨興何極　夕墜未成醺

登金山

李夢陽

狂瀾日東倒　此嶼忽中流
蜃學樓臺結　龍專滇洞遊
光涵天上下　影變地沉浮
解識超三界　何須問十洲

遊金山

盛顒

一柱摩空碧　登臨手可捫
江流吞日月　海氣蕩乾坤
泉冽通雲脉　松寒蔭洞門
分携各南北　翹首望天閽

題金山

金獻民

客喜中秋至　舟尋勝槩停
摳衣臨絕頂　拭目看空冥

江水圍山碧　岩松擁佛青
烹茶消俗慮　呼僕汲中泠

金山

桂華

丹碧憑虛起　蓬萊入海流
坤輿應軸斷　塵世逐萍浮
日暮愁飛鳥　天空失去舟
興亡千古恨　寂寞望中收

登金山

周倫

試陟金山頂　能收大觀奇
孤帆懸海際　一鳥入天涯
象緯依簷逼　龍蛇出洞遲
老僧煩引接　玉帶愧無遺

遊金山

馬章

寺古頭陀老　江空眼界寬
乾坤一砥柱　南北兩奇觀
樹影迷晴浪　鐘聲隱怒湍
平生今日過　詩酒夕陽酣

次唐韻

范璋

江心一古寺　野趣許誰分
水濶先來月　山高多礙雲
市城元有隔　鷄犬寂無聞
到此懷陳跡　詩腸酒半醺

登金山

段金

弭棹凌蒼翠　登臺識妙高
暝含瓜步雨　晴見海門濤
絕界廻飛鳥　神功掣巨鰲
坐聞鐘梵發　未覺佛天遙

楞伽臺

閻世科

垂老投簪穩　憑高對衲閒
江風梳白髮　海霧罨青山
目極秋天遠　身依暮鳥還
書經有遺迹　千載喜追攀

登金山(五言排律)

黃鶚

乾運垂玄象　坤靈聳石頭
江流千里湧　山勢半空浮

日月飛明鏡　星辰燦綴旒
凉風生殿閣　細雨灑松楸
聽月潮聲急　留雲樹影幽
懸崖新寶塔　砥柱古丹丘
漠漠漁歌晚　瀟瀟木葉秋
波濤驚旅鴈　鐘磬起沙鷗
老我江天興　携兒海嶽遊
開窗塵眼豁　閉戶放心收
學慕醇儒董　文希大筆歐
登臨來往便　題詠古今留
東望滄溟近　西連赤壁悠
淮揚朝北極　吳楚列南州
為惜茲山勝　空煩彼岸修
皇威任文武　駐節擁貔貅
永賴江防重　全銷海寇憂
賈生言厝火　王燦賦登樓
竊抱山林見　奚裨廊廟謀
應知千慮得　可致萬年休

金山

陳永年

名區開滌蕩　初地啟澄清
蜃氣樓臺雜　蓮花島嶼成
已將鷗鷺侶　終是薜蘿情
垂柳分堤綠　歸雲夾浪輕
玉浮孤砥砫　金布小蓬瀛
笑指交如石　烟波狎主盟

偕陳郡伯實齋先生同登金山用東坡韻

廖道南

把袂同陳矣　矯首望揚子
凌空超八極　乘風來萬里
江清蕩鰲背　山翠削龍耳
傑閣臨波出　層臺拂霧起
群籟若有竅　一柱堪為砥
飛虹墮簷楹　驚濤濺軒几
招鶴霞冥冥　呼黿石齒齒
僊闕啟蓬壺　海門限弱水
留雲亭故在　待月人誰是
獨憶蘇長公　深究常不死

遊金山

周訥

乍到金山寺　疑從閬苑遊
乾坤一大剎　今古幾經秋
地極江心建　仙踪石上留
龍門漱白玉　鰲背載丹丘
砥柱潮聲撼　凌霄樹影浮
黿鼉眠水窟　鷗鳥立磯頭
月透江天閣　鐘鳴海岳樓
一泉通渤海　萬象拱神州
崖洞環僧宇　山藤繫客舟
大觀元自異　斯境更殊尤
翫賞雙眸豁　登臨百感幽
重來何日是　賦此淨談收

金山寺

張恂

拳石浮江上　巍然勢獨尊
儼成金法界　幻出玉崑崙

洞掩裴陀跡　波埋璞老魂
孤亭吞遠海　雙塔擘朝暾
風起山搖寺　潮回水到門
夜龍噓月白　晴鶻踏雲蹲
鐘鼓鯨音雜　樓臺樹色昏
唄多閒日月　襟帶限乾坤
隨喜如境　聊投淨土轅
三泠如可汲　一勺滌塵煩

登金山

呂高

翠疊波心寺　登臨思不窮
孤巒上霄漢　萬象俯晴空
客至碧雲表　帆歸白浪中
樓臺低日月　鐘梵出魚龍
江漢三泠派　山河四望通
水搖金滉漾　斗轉木巃嵸
磴折攀陰霧　簷虛宿斷虹
神超三島化　醉醒八窗風

金山龍遊禪寺志畧

金壇綏菴居士蔣超較正

嗣祖比丘鐵舟行海修輯

楚潭叅學門人超智編次

遊金山寺(七言律)

黃翰

一室雲間半虛白　數峰江上盡涵清
舟從翡翠屏邊過　人在丹青畫裏行
東岸笑談西岸應　上方風雨下方晴
尋芝野鶴歸來晚　松頂長鳴三四聲

其二

湘簾捲日清暉滿　水閣臨風爽氣生
下界路從塵外斷　上方僧在鏡中行
雲封洞口禪心定　露滴松稍鶴夢清
幾度遊人歸去晚　滿船空載月華明

登金山妙高峰

吳國倫

春波浮玉起帆前　興發披衣到絕
江合萬流奔赴海　山蟠一柱上撐天
靈宮俯瞰蛟龍臥　石閣危憑象馬懸
騁望不知鄉國遠　鏡中吳楚接風烟

登留雲亭

楊一清

留雲亭上立多時　古木滄波繫遠思
南北界分還此水　孫張題後豈無詩
風高鶻嶺驚秋早　江轉龍門到海遲
三十年餘塵夢裏　每因登眺歎吾衰

其二

坐上青蒼接淼漫　樓臺面面枕高寒
八窗帆影隨潮過　兩岸人家隔水看
地有江山成偉觀　天將砥柱障狂瀾
塵心到此消應盡　更欲臨風漱碧湍

登金山

李東陽

每向名山憶所逢　偶來南國寄行蹤
潮聲夜落江心寺　雲氣朝浮海上峰
玄圃樓臺通日月　石壇風雨護蛟龍
詩成却愛張公子　解道中流兩岸鐘

宿山

高鑑

老月西飛萬里天　半江寒浪鎖空烟
斷鰲閣水疑無地　古樹撐雲信有年
湖海夢魂孤鶴遠　乾坤身世一匏懸
中宵未敢舒長嘯　只恐蛟龍誤穩眠

金山

何洛文

砥柱無關來去潮　琉璃萬頃翠峰搖
天開形勝標千古　世閱繁華洗六朝
俯檻欲浮銀漢上　飛帆半入紫烟消
誰携謝眺驚人句　搔首山靈似可招

平寧藩過金山

王守仁

每過金山便一登　鳴鐘出迓每勞僧
雲濤石壁深龍窟　風雨樓臺迥佛燈
難後詩懷全欲減　酒邊孤興尚堪憑
巖梯未用妨苔滑　曾踏天峰雪棧氷

登金山

儲懋

遙望金山一撮多　群峰不敢對嵯峩
撐雲樓閣東西聳　帶雨帆檣左右過
曉霧失迷京口樹　朔風雄振海門波
古今題詠多豪士　欲賦蒼崖恨未磨

萬端

鰲背雄蟠紫翠峰　波光倒浸玉芙蓉
龍噓海霧成朝雨　風送潮聲雜暮鐘
鏡裏有天涵寶地　人間無路覓珠宮
妙高臺上登臨處　極目雲山幾萬重

金山述古

沈周(石田)

龍宮湧出玉璘峋　乍看來時極悚神
滿地莫論無坐處　中流見不羈人
墻低樹少多容月　石瘦花慳晏得春
舟楫一江名利路　烟波誰謂不生塵

曹鼎

玉琢拳峰浸巨流　上方臺殿似瀛洲
岸分南北荊揚會　水渺東西日月浮
粉砌露翻驚鶴夢　石闌雲濕近龍湫
濫竽天上乘槎客　得遂平生一勝遊

春日與客遊金山

唐寅

山峙清江萬里深　上公乘興命登臨
憑尊指顧分吳楚　滿眼風波自古今
春日客途悲白髮　祇園兵燹廢黃金
日斜未放滄浪渡　飽酌中泠洗宿心

遊金山

王豫

一山能障百川流　樓閣虛涵景最幽
聽法老龍時出水　聞經臞鶴夜歸楸
峰頭雲去天無盡　海口潮來地欲浮
莫訝躋攀無限險　巍巍雄槩冠南州

秋日與茂秦登金山

李攀龍

孤亭遙上翠微重　檻外山林何處鐘
秋到諸天開薝蔔　湖連雙闕散芙蓉
雲光忽落黿鼉窟　雨色飛來鸑鷟峰
自信登臨能作賦　肯令陶謝不相從

登金山

趙宗文

水天樓閣影重重　化國何年寄此踪
淮海西來三百里　大江中湧一孤峰
濤聲夜恐驚巢鳥　雲氣朝隨出洞龍
幾度欲登帆去疾　蒼茫遙聽隔烟鐘

金山紀遊三律

汪道昆

群山萬壑盡朝宗　坐扼江關百二重
碣石高撐層閣起　尾閭近借一丸封
斗牛夾岸懸河鼓　龍象乘潮迸雪峰
下榻柢應成夜宿　白雲深處落疎鐘

其二

岩巃孤嶼出中流　百億諸天在上頭
納納乾坤開定水　滔滔江漢坼神州
化壇下見潛蛟窟　佛國高懸結蜃樓
日暮招提聽說法　風生洲渚浪花浮

其三

偶來海嶼攬江流　天遣群峰擁帝州
淨土成金作埒　空華幻出蜃為樓
塔邊鴻鴈凌風起　堦下黿鼉抱日遊
待月欲依重閣晚　歸舟恐失五湖秋

登金山

劉承直

孤峰宛若巨鰲簪　橫絕中流翠色深
勢與波濤相上下　影隨魚鳥共浮沉
海門風起雲翻玉　瓜步潮田月湧金
擬汲中泠觀放鶴　維舟三日阻登臨

與客重遊金山

諸大綬

勝地神遊二十年　登臨此日共高賢
山城王氣浮晴日　水國寒波接遠天
簫鼓漁舡知節序　松蘿鳥道竚雲烟
從君晏坐心如水　暝色江光正渺然

遊金山

吳山

靈鰲戴出梵王宮　殿閣崔巍百世雄
額古澤心頒建武　地鍾元氣孕鴻濛
雲連吳楚江山秀　水接滄溟海日紅
我欲楞伽分半榻　汲泉煮茗話空

秋日登金山二律

王世貞

山秋木葉翠將收　憩棹扶攜到上頭
天柱中懸南北影　海門西拒古今流
層雲錫響空王座　落月明珠帝女遊
便欲休餐旬日往　千帆風色使人愁

其二

青螺瀲灩水晶盤　斗削風烟面面看
地湧樓臺千蜃結　天廻波浪六鰲蟠

山形自挾秋雲壯　海色遙將曙日寒
恍惚龍宮吟嘯起　何人玉笛倚欄干

遊金山

張楷

山壓中流寺遶山　海濤送月到禪關
梵王下占馮夷國　龍伯來登舍利壇
曉日鐘聲催棹發　夕陽帆影送僧還
何當直上浮圖頂　萬里滄溟一望間

金山二首

吳世良

鐵城縹緲開孫氏　六代金陵海作池
古碣尚留蕭帝詠　荒亭猶勒宋皇詩
江山不為興亡改　魚鳥疑舍今昔悲
踪跡浮萍任流轉　恣談蘭若定塵思

其二

竹杖芒鞋訪上乘　銀潢一望護金陵
風廻牛首氷崖叠　春轉鳳臺雲錦層
萬壑千巖吞楚越　朱陵青岱失嵩衡
十年踪跡還成夢　好事修文憶舊僧

登金山

胡瀅

太極初分萬象羅　江流遠派接銀河
一峰削玉天垂仞　四地浮金月浸波
僧出僧歸京口渡　潮來潮去海門過
非誇傑特峩空碧　更喜先霑雨露多

登金山

楊茂

金山湧出似擎拳　砥柱中流不計年
一點翠雲浮水面　半窪滄海落岩前
樓臺倒浸參差影　星斗虛涵上下天
公暇偶來登絕頂　恍疑身近北辰邊

雨登金山

艾芳

不到金山四十年　重來風景尚依然
苔梳石髮青含雨　松拂龍髯綠帶烟
寂寂僧房隣水住　層層佛塔與雲連
鳳城回首三千里　一寸丹心向日邊

題中泠泉

丁元吉

萬水西來勢若崩　金鰲背上一泉生
氣噓雲霧陰常合　寒逼蛟龍夢亦驚
地脉不勞神禹鑿　品茗曾入陸仙評
誰知一勺乾坤髓　占斷江心萬古清

同中丞吳悟齋遊金山得秋字

曹大章

画戟朱旗閃碧游　中丞霜色正飛秋
詩篇剪雪兼潮湧　劍氣生雲抱日浮
砥柱孤標蒼玉削　廻瀾細織錦紋流
憂時未遂澄清意　縹緲江雲起暮愁

登金山

孫鐸

砥柱狂瀾坤軸牢　地空塵靜隔喧囂
雷霆夜吼驚濤湧　樓閣朝盤蜃氣高
雲洞雨香蒸石髓　海門天遠見秋毫
楞伽不作東坡夢　醽酒臨江洗鬱陶

登金山

陳鳳梧

山下江圍石磴斜　老僧相引着袈裟
波濤面面長飛雨　樓閣重重半入霞
乍見黿鼉海怪　不聞雞犬是仙家
小瓶汲得中泠水　指點舟人旋煮茶

登金山

虞謙

關河迢遞接神州　纔到西津却暫留
風送鐘聲來枕上　月移山影過船頭
煮茶夜汲中泠水　沽酒朝登北固樓
竊祿聖朝無以報　此心日夕向東流

遊金山寺

張表

融結寧知大造功　危峰孤聳半江中
地從鼇極分來斷　天向鯨波盡處窮
樓閣光涵龍伯府　帆檣影拂梵王宮
躋攀直越藤蘿上　笑語雲霄第幾重

登金山

邵曦

造化無私似有情　波心湧出小蓬瀛
船從碧玉臺邊過　人在黃金界裏行
四面星河連上下　幾重樓閣自陰晴
門前奇觀知多少　縱有丹青畫不成

遊金山

胡纘宗

金樓突兀大江心　碧石滄波面面深
蜃閣潮聲生近浦　棹歌梵語度空林

乾坤水抱一丘地　日月雲連兩岸陰
登眺獨憐驄馬客　高山流水正宜琴

次李西涯韻

費寀

江心樓閣興偏濃　繫舸聊停半日蹤
貝闕參差疑海屋　金陵迢遞見蟠龍
浪頭白浪春潮急　山外青山夕照重
醉後一帆風正穩　維揚燈火聽初鐘

遊金山

俞僩

楊子江心第一山　崔巍砥柱海門關
金陵烟樹微茫外　鐵甕人家指顧間
四面潮聲驚鶴夢　八窗雲影伴僧閒
一塵不到如境　時有天風振珮環

秋雨晚霽登金山

吳嶔

倏忽空江宿雨收　濕雲捲盡一天秋
槎通銀漢人何處　潮湧金波月滿樓
馴鵲影翻巖底樹　游龍光吐夜深湫
相逢况是烟霞客　倚醉狂歌指十洲

金山

嚴正學

帆檣白晝隨風下　燈火黃昏隔岸明
山色帶雲連水色　樹聲和雨雜潮聲
善財石上晚霞散　郭璞墳前春草生
我欲放歌乘小艇　滄浪隨處濯塵纓

遊金山

陳察

獨抱孤亭更遠遊　山僧識我喚維舟
千尋崖岫出深浪　四下樓臺映碧流
鼉窟摩挲天柱古　雲亭吞吐海門秋
臨流欲寫登臨興　涼月娟娟薄斗牛

登金山

史[王*爾]

煙樹微茫塞海門　江流一帶勢如奔
龍池星蘸晴搖影　蟒洞雲收濕有痕
北固風松寒翠挺　西津煙柳綠陰屯
無端佳景牽情思　幾度清宵入夢魂

同張虛菴枕江樓望月二首

沈奎

百尺長廊石作洲　與君同上枕江樓
帆歸遠浦和烟沒　鷗伴閒雲逐浪浮

夜靜潮聲聞戶外　月明人語在峰頭
青山故舊俱相隔　何日同來信宿留

其二

渡口逢君共放船　勝遊快入暮雲天
虛堂清籟僧初定　古洞幽香人自憐
楊柳稀微殘夜月　樓臺吞吐一江煙
空山猿鶴知相誚　回首風塵已十年

登金山

夏寅

江心喜見碧崔巍　不惜樓船破浪來
謾說風雲有神護　成圖畫自天開
文章健筆推蘇子　泉石幽清屬辯才
壯觀由來豁心目　夕陽扶醉妙高臺

與沈劍南登枕江樓次韻

張祥鳶

宿雨初收曉放船　布帆斜掛舊江天
雲留松磴午猶濕　檻俯沙鷗春可憐
閣影靜依波面石　磬聲清落海門烟
故人同別江樓月　雙鬢風塵又幾年

遊金山

張泰

七月江天秋氣清　妙高臺上坐江聲
東來海色扶金島　西去山形拱石城
碧樹岩巒留雨潤　夕陽樓閣映波明
憑虛未了東周意　不問無生問有生

金山

蔣忠

籃輿駕我上高臺　無限風光入品裁
萬里江流連日下　一天秋色帶潮回
雲盤螺髻空中見　金削芙蓉水面開
俯仰只疑浮世界　更于何處覓蓬萊

題金山

吳一瀾

名山地遠絕纖埃　圖畫憐四面開
砥柱恰當江盡處　海門不礙雪飛來
天連焦固成三島　蜃結陰晴見五臺
過客留題巖石滿　懸知獨有曲阿才

登金山

程敏政

大江中湧一峰孤　面面天開海岳圖
黃鵠已隨拳石化　白黿能受老僧呼
遺坵漫笑青囊郭　輸帶猶傳學士蘇
起向妙高臺上望　紅雲繞處是皇都

和吳郡守金山二律

李學道

飛嶠中浮隔世間　風廻堤畔水潺湲
遙分淮北成雙墅　屹江南第一山
虛閣漫連蒼樹泜　老僧長伴白鷗間
年來幸喜烽烟息　盡日登臨興未慳

其二

半空樓閣出塵埃　應是蓬壺向水開
群鴈拂雲天外落　老龍破浪雨中來
地分瓜渾無路　山峙金焦並有臺
千古奇觀題不盡　風流誰是謫仙才

金山別林文學

高廷禮

天塹何年擘巨鰲　地分南北限波濤
雲浮絕島金山出　潮撼孤城鐵甕高
往事幾廻人世換　東流千里客心勞
龍沙落日空洲樹　送子離心正鬱陶

登金山飲中泠泉

虞謙

樓閣崢嶸面面開　天然圖畫若蓬萊
風雲時向山頭出　日月長從海上來
神女獻花香作雨　老禪說法石為臺
願將第一中泠水　捧祝吾皇壽盃

金山待月

文徵明

浮玉山前白露凉　晚潮微上月洋洋
魚龍深夜浮光怪　雲樹遙空帶渺茫
水國題詩酬一宿　中泠煮茗薦初嘗
江風吹酒不能寐　起踏松陰自遶廊

秋日金山阻雨

郝梁

嵐氣陰森曉未開　旅懷僧舍重徘徊
洲前蘆絮衝風起　海上潮聲帶雨來
撫世獨憐荒草塚　催詩頻送菊花盃
扶笻極目臨江閣　不見征帆一片回

遊金山

許彬

山湧波心聳處尊　梵王宮殿倚天門
平臨北斗星堪摘　俯視東溟勢欲吞
人世幾回嗟廢置　江流千古自晨昏
南遊未及還朝日　絕頂時憑望帝閽

秋日金山晚眺

胡道

秋日銜盃坐江閣　野花流水照綸巾
塵中對月慚為客　忙裏看山有幾人
霞接海門初月上　雲昏京口暮潮頻
行行未盡尋幽興　萬木歸鴉促渡津

登金山

王守仁

水心龍窟只宜僧　也許詩人到上層
江日迎人明白帽　海風吹醉掖枯藤
鯨波四面長疑動　鼇背千年恐未勝
王氣金陵在眼　坐看西北亦誰曾

金山懷古

李應祥

乾坤何代湧浮丘　豈是神仙駕石遊
空裏樓臺鰲負出　眼前身世水爭流
潮聲送月吞瓜步　江氣排雲下石頭
興廢六朝俱浪迹　佛燈長照甕城秋

遊金山

趙祥

葉舟衝浪訪高僧　上盡亭臺上上層
一線天光通巨浸　千年瘦石鎖枯藤
江山有興詩應敵　杯酒無多意不勝
記取西岩留句處　鐵溪太史與吾曾

飲中泠泉

吳國倫

峭壁當江截海潮　芙蓉千葉鎖僧寮
峰巒飛動疑三島　殿閣崢嶸自六朝
仙梵杳從空翠落　亂帆紛挂野雲飄
携壺自汲中泠水　一飲居然萬慮消

登金山

金信

一自乾坤闔闢來　中流便有此蓬萊
屹磨不為秦鞭去　秀拔元非禹鑿開
萬古詩人吟不盡　六朝流水去無回
風晨兩岸聞鐘磬　疑是龍吟般若臺

遊金山

申時行

青螺丹鷲結氤氳　振策凌高破夕曛
千地樓臺孤嶼出　萬家城市兩涯分
峰前夜汲中泠月　渡口晴披北固雲
徙倚江天頻送目　烟波愁思轉繽紛

其二

天下名山此獨靈　半江高露一螺青
樓臺常日在圖畫　鍾磬有時來杳冥
浩蕩正當流靡靡　崢嶸偏自立亭亭
詩成一笑下山去　古木繞岩雲滿藤

登金山

林瀚

故人載酒棹仙舟　共向金山寺裏遊
吞海一亭當絕頂　擎天孤柱中流
雷轟岩下潮聲壯　龍卧波心塔影浮
試問蘇公登覽日　橫腰玉帶為誰留

題金山

沈固

鐘鼓晨昏出梵林　金山寺在碧波心
塇凌霄漢青蒼近　樓倚松筠紫翠深
片水飛甍無客到　孤峰絕閣有僧臨
紅塵一點應難着　時有松風亂法音

登一覽亭

謝琛

兩岸青山翠作堆　大江東下海門開
乾坤到此分南北　風月無邊自去來
十里潮聲穿鐵甕　千年王氣望金臺
傷心滿目前朝事　欲賦慚非宋玉才

登金山

韋椿

岫刻崖鐫碧蘚深　小奇留待野狂吟
濤聲忽作萬山雨　雲影倒垂千畝陰
我輩登臨良偶耳　化工幻出豈無心
中冷累試非味　須更盤渦觸險尋

秋夕登金山

屠隆

樓臺澤氣寫氤氳　萬里空波蕩夕曛
天地蒼茫孤寺出　東南咫尺大江分
鐘聲夜渡秦淮月　樹色寒生瓜步雲
不用蓬萊望宮闕　吾將此地淨埃氛

遊金山

郭郛

烟水周遭寺影中　巋然不與山同
登臨漸覺諸天近　孤絕遙知四面空
江靜最宜當戶月　僧歸尤愛順帆風
十年擾擾經過意　吟倚清鐏夕照紅

遊金山

王誨

紺宇岩巃鎖翠岑　明霞宿霧淨朝陰
慈航能渡江天濶　法界偏依水府深
海月熹微窺佛相　河沙寥寂印禪心
竭來欲問無生滅　徙倚空門漏轉沉

登金山

黃相

晚風吹袂度崚嶒　石洞雲深鎖古藤
妙處江山偏着寺　閒中歲月輸僧
龍門聲帶三生話　蜃氣光浮六祖燈
南望金陵雄幾許　萬家烟樹隔層層

金山紀遊

劉應秋

淼淼中流此一丸　嵯峨磴道拂雲端
樓臺上下波間出　日月東西鏡裏看
萬頃潮聲連海動　千層塔影落江寒
由來浮玉神仙地　咫尺蓬瀛去不難

登金山

楊光溥

曉日波心擁翠巒　一螺光映水晶盤
聞鐘始覺無多遠　到寺方知有許寬
濤險不驚僧夢穩　江長須信客行難
妙高臺上南風急　五月征衫早已寒

遊金山

李長春

飛剎稜層俯碧湍　泬寥秋色入憑欄
千峰聲撼驚濤過　萬頃光搖片月寒
江渚對懸靈鷲影　海門應戴巨鰲冠
長波不斷三巴水　欲擬孤根灩澦看

金山懷古二首

陳言

枕水軒窗面面幽　六塵飛不上簾鉤
一聲清磬海門曉　數點殘燈山寺秋
萵笋薦茶香可啜　蒲團作榻倦堪投
靈觀閣上凭闌看　宦海奔馳若個休

其二

翠箔朱甍蔭玉泉　層層石徑費攀緣
江山一覽窮千里　風日雙清抵萬錢
岸柳綠藏沽酒市　渚花紅颭釣魚船
匆匆又逐塵途去　回首松菴愧老禪

送僧取經歸金山

焦竑

春深開爾百花潭　曾與維摩共一龕
浮世無成登小草　空門何意見優曇
龍知聽法歸池鉢　馬為馱經度嶺嵐
鐵甕宗風今欲振　好傳消息徧江南

登妙高臺

許國誠

衲子逢迎掃碧苔　臨風佇立絕塵埃
個中袖拂烟霞映　眼底山環圖畫開
天鑿海門通佛照　地浮蓬島駕仙來
登臨不盡妙高興　屈指勞生幾上臺

早春登金山

王士崧

盤旋曲逕好扶笻　城市輕烟碧且重
天濶秖疑丹闕近　堂虛時有白雲封
霽回春雨千峰翠　聲落寒潮兩岸鐘
擬向老僧期結社　倦將身世逐萍蹤

弔郭璞墓

中心叟

遺音寂寂鎖龍門　此日青囊竟不聞
山下有田埋壽鼎　墓前無地拜兒孫
秋風野寺供生飲　夜月漁燈照斷魂
我有誄歌招不返　停帆空見白鷗群

登金山

胡組

一峰紫翠迥江心　兩岸風傳鐘磬音
樓閣倒懸波弄影　水雲低度樹生陰
堂開大徹觀龍象　泉酌中泠足洗心
獨有妙高臺上好　百年能得幾登臨

遊金山

葉忠

愛看金山似海鯨　直從絕頂步虛行
乾坤欲合洞雲起　風雨未來江水平
玉帶松亭蘇學士　斷崖荒塚郭先生
漫嗟今古興亡事　明日重臨恐異情

晚渡金山

瞿祐

坐倚牙檣逸興增　天容水色兩澄澄
三通鐵甕城頭鼓　幾點瓜洲渡口燈
夜靜鐘聲聞斷續　月明塔影見稜層
秖緣一信風潮便　孤負禪堂訪老僧

登金山

嚴方

日沉日起朝還暮　人去人來古是今
白鶴自飛青嶂外　紅塵不到碧波心
虎能匿跡他山嘯　龍解聽經出水吟
一塊生成造化　開山誰說有黃金

登金山

陳豫

浩蕩長江自古今　奇峰平聳碧波心
娛情鳥雀臨人語　聽法魚龍悟梵音
吞海亭邊紅日近　妙高臺畔白雲深
老禪隱几安然坐　不使塵埃半點侵

弔郭璞墓

沈周

氣散風衝豈可居　先生埋骨理何如
日中數莫逃兵解　世上人猶信書
漂石龍涎春霧後　交沙鳥跡晚潮餘
秖憐玉立三峰好　浮弄江心月色虛

再登金山

高鑑

江上叅尋敬訪僧　金山遙在水雲層
曉堂坐處勞雙櫓　石徑行來仗一藤
凉月隨人清不斷　晚風襲袂怯難勝
憐予亦有東坡志　玉帶相留愧未曾

登金山

王鏊

大江中湧小崑崙　勢遏洪濤幾欲奔
萬古乾坤限南北　一方臺殿自晨昏
雲低北固山爭出　潮落瓜洲海半吞
長嘯一聲天地濶　妙高高處是天門

遊金山

楊守陳

一區孤嶼四圍江　山映禪扉水映窗
兩岸樓臺聞梵鈸　萬方船艦望仙幢
瓜洲欲暮潮音定　北固初晴雨勢降
珍重故人紆五馬　不辭歡醉倒秋缸

題金山

朱鏞

江心一朵金芙蓉　水面突出光玲瓏
仙掌摩青結沆瀣　玻璃浸碧搖晴空

大山小山儼盤踞　千派萬派歸朝宗
中流屹立有如此　河清海晏歌神功

登金山

楊守阯

覽勝金山興最濃　長江如練插芙蓉
禪宮迥出三千界　別嶂周圍幾萬重
津樹槎牙棲鸛鶴　海潮來往送蛟龍
同遊總是青雲客　直上留雲第一峰

秋日與荊州宿金山寺

胡纘宗

壁立波心千尺臺　曉雲扶日座中開
潮乘江海自吞吐　鳥逐帆檣亦往來
縱有王維恐難畫　更無張祜獨憐才
豁人心目忘歸去　坐對山花酒滿杯

遊金山

劉澄甫

青山迢遞獨凭闌　碧樹蒼茫好挂冠
遠客向來多夢想　幽人自古愛盤桓
春帆細雨江濤穩　石榻疎燈夜色寒
病骨不堪風力峭　危峰愁共海天寬

金山

馬一龍

神鞭驅出小蓬萊　走向江心白浪堆
僧在鰲魚身背住　舟從水墨畫圖開
潮聲直下吳門去　山色遙連蜀地來
不盡登臨千古興　西風落葉漫停杯

金山追賦

文徵明

白髮金山續舊遊　依然紺宇壓中流
沙痕滅沒潮侵磴　帆影參差日映樓
江漢東西千古逝　乾坤高下一身浮
謫仙故自多愁緒　更上留雲望帝州

登金山

吳世良

五天久說金山寺　千載重登玉鑑堂
雄跨東南襟楚越　望廻西北帶徐揚
鐘鈴響動蛟龍窟　樓閣高鄰日月光
過櫓不妨僧性定　葛藤共話倚禪床

伏日登金山

汪道昆

文園消渴逃三伏　法界登臨覽四禪
望望扶桑東盡海　陰陰祇樹上叅天

江淮風壤黃塵裏　京洛雲山赤日邊
回首孤峰扣龍象　袒衣合掌禮金仙

竺延叟載酒金山寺因訪隱者閔壽卿

屠隆

陟步峰巒似擁螺　孤縣臺殿鬱嵯峨
一痕大地連青靄　四面遙空滿白波
閣傍雲巢妨鶴鸛　厨留香飯與黿鼉
最憐此處棲禪者　悟後應叅水觀多

送君釣遊金焦二山

焦竑

雙崖出水勢堪凭　才子乘春快一登
檻外烟巒低北固　望中雲樹接金陵
風回兩岸聞人語　雨過千颿亂佛燈
好為吾家尋舊隱　洞門蘿薜翠層層

入賀同高郡博登金山

葉向高

喜隨萬國共呼嵩　覽勝無如此地雄
已見樓臺開蜃窟　還聞鐘磬闇蛟宮
迴瀾曲折難奔海　宿雨溟濛欲混空
南北車書看此日　誰言天塹古今同

登金山

盛天瑞

金碧樓臺紫翠山　巉峨屹立水雲間
紅塵不到禪林淨　皓月長空寶地閑
洞口雲來龍聽法　岩頭鐘響虎臨關
老僧出定渾無事　獨倚高松看鶴還

登一覽亭

嚴方

烟籠江樹晚依依　舡載孤僧月下歸
自落自開花解意　相呼相喚鳥忘機
海門日上疑天近　山島雲深覺露微
一覽亭中恣吟眺　不知空翠濕人衣

遊金山

羅文瑞

孤峰突兀峙江心　樓閣高懸紫翠深
風捲鯨波山欲動　雲生蛟窟地長陰
僧歸晚渡半蓬日　鴈落寒汀兩岸砧
莫望石城傷往事　六朝文物總浮沉

登金山

朱境

何處堪居避姓名　金山千尺起嶸崢
業因地靜三餘足　心與雲閒一片輕

映几孤燈連雨色　到江疎磬雜濤聲
寺前楊柳年年綠　可記臨岐贈別情

題金山

李言恭

日日中流坐講堂　大江雲氣滿奚囊
扣門不借青藜火　展卷頻分舍利光
樹影夢回京口月　鐘聲客渡廣陵霜
懸知作賦憑高處　多少帆檣下夕陽

登金山

喬宇

晚風江上踏金鼇　坐待氷輪影漸高
烟霧島中雙貝闕　乾坤壺裏一鴻毛
景逢勝地秋偏壯　詩到名山興更豪
便欲尋仙東海去　蓬萊清淺不容舠

遊金山

方鵬

破浪衝烟此探奇　坐來宜酒更宜詩
沙邊寺古因江勝　城外山高得月遲
絕頂樓臺寬眼界　中泠風味爽心期
老僧莫作誰何問　留帶山門會有時

登金山

錢博

十年重上妙高臺　古塔崔嵬長碧苔
山色不隨今日改　潮聲還似舊時來
法書安國當終現　神劍豐城豈久埋
過客寧無崔顥句　品題誰有謫仙才

其二

金山楊子江心寺　千古英雄愜壯遊
日月平臨窗外過　波濤近逼檻前流
龍宮寶藏光堪掬　鰲背蓬萊勢欲浮
却憶長公留帶後　石岩花草自春秋

登金山

王同祖

海嶽樓高藹暮烟　憑闌一望思悠然
三生石上留偈　一宿山中有勝緣
寂寂蛟龍廻夜壑　冥冥風浪入江天
登臨盡日銷塵慮　瀹茗重烹第一泉

遊金山

姚淶

海外空傳有十洲　水雲遙處見靈丘
平分南北古今勢　橫截乾坤日夜流
鐘引蛟龍聲遠近　燈聯星斗影沉浮
輕風鼓棹歸來晚　頻倚仙槎繼勝遊

登金山

吳寬

文舶西來趁晚潮　金鰲峰下且停橈
江從灩澦流偏急　春盡崑崙雪未消
萬里京師瞻北極　一時人物嘅南朝
中泠入口平生足　坡老詩篇已命騷

沈弘道

江浮樓觀壯三吳　萬丈丹梯尚可扶
石屋春深千佛古　山亭日暖一僧孤
蘇公玉帶今何在　郭璞青囊事已無
支遁不須牽住着　白門烟樹鎖浮屠

高第

江濶天空入望賒　妙高臺畔踏烟霞
晚潮欲起奔濤壯　山雨初晴落日斜
鷗鷺翩翩應識我　魚龍杳杳更為家
明朝依舊歸城市　回首岩前愧落花

胡廷祿

江風浙浙吹早秋　江雨冥冥逆浪遊
眼前有景盡題石　雲外空天還放舟
一鴈不聞來故國　七年今始下山樓
振衣絕巘逢新霽　遙指南雲當白頭

冬夜偕唐濟軒白堯山二年兄宿海嶽樓

李中孚

歸路隔江成夜宿　飛樓裊裊駐霓旌
天空月色含山色　風急濤聲軋樹聲
悵望雲山他日淚　留連罇酒此宵情
醉來莫唱分携曲　窟裏蛟龍夢亦驚

登金山

司馬垕

幾年渴想金山寺　今日從寺裏遊
江面曉雲依玉節　海門初日映朱樓
化工忽點滄溟破　元氣長兼紫翠浮
勝境登臨方自適　可堪難忘廟廊憂

王應鵬

楊子江頭日欲陰　秋風吹動旅人心
中流會見群峰碧　遠水獨憐孤鳥沉
天險也能人一往　覇圖寧用鎖千尋
金山露出層雲頂　昏黑應須到賞臨

贈月齋上人

王渙

蛟龍擎出波心月　錯認明珠投小窗
雲撥秋光照閑衲　夜多寒氣捲長江
向明虛榻經千字　踏影廻廊鳥一雙
更靜山空不能睡　水晶冷浸聽淙淙

是日再陪鶴皐蕭道長留宿山房

薛甲

青山欲渡風吹斷　留得江心此一螺
車馬不來閑歲月　帆檣重過訪烟蘿
雲開吳楚晴光遠　人在星河爽氣多
欲別山僧重回首　此心吾已訂維摩

胡森

微茫雲海鬱孤峰　陶謝風流恨不逢
波湧玄堂朝結蜃　龍眠秋水夜聞鐘
江門細雨懸鄉夢　山寺疎燈照客容
書劍薄遊聊復爾　衣裳已遣製芙蓉

柬淨談主人

馬從謙

扶桑日出海門開　獨障狂瀾百折廻
金鎖肯教天馬渡　玉龍常負雪山來
濯纓喜有滄浪水　獻賦慚無赤壁才
好客主人延坐久　月明同上妙高臺

白悅

寤寐直疑超上界　高閑不換三公
當空人語半江月　清夜鐘聲兩岸風
適意壺罇賓客共　探玄扃鑰鬼神通
孤雲獨倚心俱遠　手捲南華日未中

登金山

梁琦

浩浩長江萬頃寬　碧波深處擁層巒
寺前潮起風雷壯　臺上月明星斗寒
蘇子昔曾留玉帶　秦王何必問金丹
此中便是蓬萊島　要學長生也不難

其二

夢想金山二十秋　好風吹我上瀛洲
紅塵不到波間地　綠樹深藏水上樓
指點無窮圖畫趣　登臨不盡古今愁
老禪話及東坡事　玉帶令人慷慨留

登金山

于冕

浮玉山高海日晴　峰巒如畫接空明
雲連梵宇諸天近　潮落澄江一鏡平
覽古題詩聊適興　思鄉對景不勝情
晚來還掛孤帆去　笑指鵬南九萬程

遊金山

達永定

大江東去幾千里　一朵芙蓉漾秋水
石間多少昔人題　筆跡半掩蒼苔裏
天風吹我遊復遊　長廊六月凉如秋
堪嘆人生不滿百　紛紛塵世空白頭

登金山

丁元吉

纔覺塵襟爽氣浮　便登浮玉坐中流
孤帆遠入江雲影　一笛横吹海國秋
詞客可能憐我老　山靈端不解人愁
六朝往事那須問　獨愛滄浪有白鷗

次明山姚太史韻

鄭天佑

大江翻下直萬里　神將開此一丘
溟澥北吞龍氣合　天池西抱翠華流
半空鐘磬水心落　無地樓臺雲外浮
司馬正須天上去　不妨蘭楫縱豪遊

同黃德文集海嶽樓

風濤海口秋帆靜　烟雨山樓晚席開
倚檻看詩隨鴈落　隔江呼酒趁潮來

疎燈此夜家千里　短劍經年賦百哀
吟對高僧興無極　瘦笻還上妙高臺

登金山

張弼

第一江山第一樓　年來頻得縱清遊
盤雲蒼隼如相識　煮茗緇衣苦欲留
筆底風雷搖海岳　壺中日月送春秋
古今多少登臨者　何事哀吟動客愁

登金山

王鼎

幾年南北經過地　名勝成夢裏遊
萬里清秋停短棹　八荒凉氣動虛樓
亭藏碧樹陰常合　山湧寒潮地欲浮
今古茫茫無限事　且凭闌檻散沉憂

臧鏡

水鄉驚見此樓臺　兀崖分明紫翠堆
萬里鯨濤孤柱屹　百年蜃閣幾時開
聲傳雲板僧俱集　望入風帆客正來
多少好懷吟不盡　隔江烟雨更奇哉

次繩武太史

文彭

日落江寒生紫烟　登樓懷土各凄然
凭高不礙乾坤眼　談劫空餘妙相緣
海嶠虛無遵北極　薜蘿直上接諸天
洗茗相對論文細　桑苧何年此品泉

陸景

孤峰高聳近星辰　形勝應推第一倫
四顧有天皆在水　俯臨無地可容塵
波翻夕照懸虛閣　鐘送寒潮落遠津
今古壯遊題詠處　孫張詩句自通神

次邃翁夫子

吳擴

暖風晴日坐高臺　面面澄波玉鑑開
石上白雲閑自起　海東黃鶴忽飛來
傳山上有坡仙帶　點筆慚無張祜才
人世百年登幾度　酒酣猶自戀深盃

南歸舟過金山

費宏

望入名山意頗濃　振衣何處洗塵蹤
雲巢隱見看棲鶻　水府蒼茫憶卧龍
冒險舟航慚擾擾　嵌空樓閣愛重重
向平未盡閑遊興　老衲應償幾杵鐘

和錢學士望都門

林瀚

壁立波心萬仞山　小孤山色草如菅
風開五兩來金壁　雪積千層勝玉關
塔影不隨流水去　洞門長有宿雲還
為詢蘇老叅禪處　更說當年稼穡難

春日與趙叔鳴周子賢二觀察遊

顧璘

江上春山青可憐　角巾同泛過江船
峰尖仄起通仙徑　海色平鋪到法筵
烟月光搖洲樹動　風濤聲撼石堂懸
驅馳久恨妨清興　徙倚應知廢夜眠

與錢屋舟自焦山放舟登金山

陳沂

畫舸乘流風色晴　錦袍江上坐春明
三天佛國金山寺　萬井人家鐵甕城
白日樓臺生海氣　綠蕪洲渚暗潮聲
須臾畫障皆陳迹　好事從誰彩筆成

柴奇

孤嶼鼉鳴應海潮　蒹葭楊柳共蕭蕭
朝陽閣下風微度　吞海亭中日半消

鴈落晴沙迷北固　僧歸古渡話前朝
縱橫重誦匏仙句　不用舟人歌楚騷

登金山

吳鶴

試上金山絕頂遊　無風覽勝冠中州
梵王臺畔雲長合　龍伯宮前水漫流
樹色近連京口暮　潮聲遙送海門秋
匆匆未盡登臨興　恠底鐘聲起石頭

其二

江勢東來接海潮　一峰屹立載靈鼇
龍眠古洞雲長濕　人倚危闌日正高
身到層疑隔世　眼空八極稱揮毫
詩成步入藤蘿裏　暮靄霏霏落布袍

遊金山

司馬垔

天下名山此獨靈　半江高露一螺青
樓臺常日在圖畫　鐘磬有時來杳冥
浩蕩正當流靡靡　崢嶸偏自立亭亭
詩成一笑下山去　古木繞岩雲滿汀

海嶽樓別黃德文楊子靜

朱諫

慷慨離歌意未降　暫憑山色倒秋缸
晴光入樹猶含雨　風葉隨人欲渡江
萬里滄波天作岸　百年詩史筆如扛
峰頭笑指驚濤白　砥柱于今見擊撞

登金山

徐霖

江上三山此據尊　牢蟠地軸天閽
金鼇玉鑑名無朽　樹影鐘聲句獨存
轉語難叅慚乞衲　奇觀莫負詫呼黿
波光嵐氣爭蕭爽　洗我平生眵眼昏

遊金山

黃扆

銀漢無聲玉露收　隔江遙見一鉤秋
故人相對意自好　美景共看心欲留
地僻那堪聞蟋蟀　天涯應笑寄蜉蝣
壯懷不負三年約　再宿金山海岳樓

贈淨談都綱

王三錫

山中宰相元無我　淨隱成小洞天
跨鶴每鋤山徑藥　枕書時向石床眠
往來長結烟霞侶　語默曾無色相牽
久欲振衣騰島外　却懨簪冕滯風烟

登金山

羅龍淵

孤峰聳玉倚晴空　積翠微茫望不窮
遠近樓臺芳樹外　晨昏鐘磬白雲中
虛巖冷滴松花露　絕壑香飄桂子風
三寄蓬萊書到否　海天秋霽見歸鴻

登金山

李東陽

楚纜吳檣萬里還　夢魂常在水雲間
地當好景多逢寺　江到中流合有山
鶻嶺高秋增突兀　龍宮深夜鎖潺湲
謝公無限登臨興　不為蒼生暫解顏

遊金山

屠滽

知是蓬萊第幾洲　六鰲載出障中流
僧從水國留華旆　子侍嚴親到上頭
翠黛半圭南海曉　青螺一點洞庭秋
爭如此處奇絕　今古詞人作勝遊

登金山

黃淮

浪花堆裏湧巑屹　鐵甕嵬峩指顧間
傑閣修廊深窈窕　層巒疊巘倦躋攀
一塵不到莊嚴地　萬劫長存秘密關
聽法魚龍時出沒　老禪心共白鷗閑

金山

黃諫

金山山寺古招提　此日登臨覓舊題
石骨有根從地起　風光無際老僧棲
危上逼天光近　勝槩雄吞海勢低
更上留雲遙極目　長江天塹石城西

遊金山

柳琰

獨愛風波四面降　兀然高坐看飛艭
海門潮信通孤寺　京口山形出半江
石磴凌空盤古塔　樓臺嵌水敞虛窗
老僧說法魚龍聽　不避鐘聲早暮撞

登金山

吳一鵬

水國禪林望渺然　振衣重上渡江船
置身似在青霄上　舉目長過白鳥前

列岫四圍瞻晚翠　中泠一勺試寒泉
日斜啜茗從容坐　聊把餘情記往年

遊金山

秦金

突兀孤亭不計年　白雲常為宿層
日沉簾影峰頭雨　風散鐘聲樹杪烟
放鶴漫遊神八表　從龍滂沛澤無邊
掀髯一笑凭闌處　下俯重淵上九天

登金山

劉玉

雨過金山霽色開　江心高下見樓臺
舟從鶻嶺雲邊轉　人踏鰲峰頂上來
干將不辭歌雪曲　允文初展濟時才
只今世泰留都近　贏得凭闌對酒杯

遊金山

韋椿

遊氛無髮海無聲　天水中涵太古清
萬寶呈光開貝府　毒龍噓氣湧金精
林空樹杪聞仙梵　夜迥雲虛度玉笙
坐遣詩神周八表　青冥何處放槎行

金山

劉績

萬流深處列層巒　絕頂登臨一縱觀
因緩水維凌渤海　故令砥柱遏狂瀾
烟霞入腹語言異　星斗襲人毛骨寒
鐘磬聲飛落塵世　凭闌始信上方寬

遊金山

錢福

飛盡塵寰劫外灰　分明幻出好樓臺
鰲應有足浮還峙　蜃亦無心結不開
萬里奔流須著此　十年清夢是重來
石頭城下州路　幾見寒潮寂寞回

登金山

趙祥

好風吹我上金山　山在飛雲縹緲間
江水拍隄留客醉　海潮帶月送僧還
凌高望遠心應健　躡磴捫蘿力尚孱
世外俗塵都不管　跏趺終日聽潺湲

金山寺吞海亭

吳天佑

百尺孤峰控海門　一拳亭子納乾坤
腥風起處魚龍舞　急雨來時蜃氣温

北固南徐形自下　東溟西渤勢平吞
題詩未挽長扛筆　欲起坡翁與細論

遊金山

顧鼎臣

霞侶飄飄何處逢　名山此復駐遊蹤
海門光彩通玄窟　楚甸山扉斂翠峰
仙子又來今化鶴　江雲欲起舊從龍
官程計日長安道　萬國衣冠曉禁鐘

金山

朱應登

水國題詩暢夙心　半空晴望接疎襟
長天草樹烟波迥　落日魚龍窟宅深
高蓋平臨金粟地　故鄉遙指白雲岑
六朝經梵無尋處　唯有山靈是賞音

登金山

蔡潮

留雲亭畔妙高臺　覽勝無厭客又來
棲鶻尚看危嶺在　喚黿空憶故僧陪
蘇碑廊下增新刻　郭墓灘頭減舊培
安得平分雲半榻　月窗高卧聽潮雷

遊金山

謝廷柱

覽勝初非問隱淪　緇流却喜得高人
山中富貴寧為幻　水上烟霞豈有塵
一勺甘泉心賞屢　半峰殘照首回頻
明朝又作天涯梗　空羨岩頭自在身

登金山

楊亘

中流屹立玉崚嶒　兩度穿雲掖翠藤
高興却憐長在客　閑心翻愧不如僧
坐吞溟渤三千里　話到宗乘第幾燈
下界行人遙指點　阿誰笑語紫霄層

金山

林魁

每到山中百慮輕　烟霞應訝向來情
江聲一枕從吾有　客夢三年此夜清
世路塵途槃若棹　玉堂書冷了元盟
水流花謝惟如許　休問蘭香幾度生

遊金山

丁孔暲

誰分峭壁在滄洲　江閣風生六月秋
石洞有龍歸海去　玉山無地任波浮

樓臺縹緲疑仙跡　烟樹蒼茫隱釣舟
忽憶清遊乘興去　不堪多病倦登樓

登金山

梁朝宗

滿山風雨老龍吟　草木蕭森晝欲陰
千里滄波圍寺碧　萬燈高閣浸江深
天邊舟楫分吳楚　檻外風烟變古今
回首六朝形勝地　東流江水日西沉

遊金山

黃綰

橫江紫黛隱澄漪　正是龍宮雪霽時
虛閣捲雲天上見　孤帆掣海月中遲
坐忘擊磬紆清聽　望入乘槎快遠思
此去風塵了魔業　釣竿須寄莫相疑

登金山

張璧

幾年夢憶金山寺　此日來登玉鑑堂
萬古乾坤開壯觀　兩川魚鳥坐相忘
郎官遠載沙頭酒　仙侶閑停月下檣
晚上留雲更奇絕　海風吹亂鬢絲凉

月夜登妙高臺

徐縉

江山秋日轉嶙峋　異境還須入夜看
月色波光相蕩漾　蘆花烟樹共瀰漫
乾坤自合開蓬島　身世渾如坐廣寒
最是主人能醉客　不知凉露濕纓冠

金山龍游寺

陳觀陽

西來佛國半江開　曾納須彌芥子胎
似藉一丸封鐵甕　更煩八部護經臺
帆搖雲影亭邊度　潮帶魚聲谷口回
向晚塔燈明水際　恍疑龍捧夜珠來

金山四首

山靈如欲薄塵寰　自立孤根濯水間
船到急流逢彼岸　僧依隙地結松關
巉巉怒石高人骨　淼淼烟波愁客顔
何事長江只東下　徒勞一柱挽回艱

其二

支機一片落波間　樓閣凌空引客攀
隔水莫嫌城市近　空門常對釣舟閑
蘇公留玉名徒在　郭璞游仙望未遠
惟有山容依舊勝　江雲千古自迴環

其三

風檣振壑水砰鎗　天塹尤資地險成
虎控三江窮禹鑿　雄當一面拱堯京
鐘聲夜震龍宮慴　塔影晴懸蜃閣明
壯士不須多擊楫　中流寓目見澄清

其四

天晝柱石壓風波　勢逼蛟門激怒渦
月印一江峰影瘦　樹連諸阜曉雲多
碣殘每惜蝌蚪字　苔滑頻登雨後坡
莫笑市城終日醉　幾人清醒此中過

遊金山

張衮

風烟漠漠素秋開　紫氣從北極來
鰲島千年流轉壑　龍宮深夜月升臺
依微樹色迷江浦　隱約山光入酒杯
此日登臨徐學士　莫教魚鳥漫相猜

金山二首

蔣鳴玉

偉然龍伯峙中流　蹴踏靈鰲十洲
海震潮音危列宿　天標塔影肅先秋
堯洪九載梳苔髮　禹步千年刻石頭
嫡骨崑崙開戒絡　那容凡土狎螭蚪

其二

峽馬河龍險莫當　金山氣宇更如王
衷行日月雙丸小　頂指風濤萬里長
燕尾分江吞澤國　虎頭出穴奠吳疆
帆檣南北仝呼吸　共笑書生壘戰場

登金山

聶豹

金山遊作三年夢　今日登臨豈漫逢
鐘磬忽傳飛鳥外　風雲時落酒杯中
一拳未可輕君少　萬頃從教入望空
回首西風瞻北極　大明宮闕倚天崇

金山

談允謙

輕舟問渡往來艱　隔水孤懸島嶼孱
涉險客游龍窟邃　憑高僧住鶻巢間
波濤起有千尋雪　樓閣環無膚寸山
羌笛一聲江月上　不禁終夜淚潸潸

郭璞墓

楚地兵凶犯石城　叅軍義激遂捐生
崖邊尚有波濤怒　墓上曾無松栢聲

孤島寒雲山鬼嘯　荒江秋月漆燈明
止將一勺中泠水　日薦凄凉晉代塋

元日郡公金山修佛事和韻

談自新

問詩浮玉將依寺　修社初春一渡江
詞客尋梅遵野嶼　使君携鶴上寒艭
清琴韻灑潮音鐸　畫隼旗翻花雨幢
元祀芳洲良日永　隔流鐘鼓發新撞

郭璞墓

談兆隆

共傳遺墓枕濤聲　可是生前卜此塋
似我置身無地淨　幸公抛骨得江清
依龍窟招魂住　定有蛟珠作淚傾
歲歲吾鄉舟吊屈　溯洄孤島豈無情

登金山寺

成始終

波湛孤峰紫翠明　芙蓉一朵訝蓬瀛
鐘聲水國金山寺　樹色江關鐵甕城
樓閣盡從天際出　風雲長向嶺頭生
傷心郭璞墳前路　日落寒潮萬古情

登金山寺呂仙閣

張縉彥

浮玉插天勢若傾　長空不盡大江聲
曉鐘遙度焦山月　夜雨時侵瓜步城
妙高臺靜猶聞梵　壁壘烟沉未偃兵
幾欲乘風騎鶴背　拂衣蒼涕海雲平

遊金山

熊槩

金山屹立中流　勢壓東南二百州
雁塔半空長帶雨　龍宮三伏亦生秋
揚州城郭參差樹　京口帆檣上下舟
何必蓬萊問清淺　此中已自是丹丘

登金山

胡濬

金山形勝推今古　舉目乾坤入網羅
柱立中流天有意　潮廻四面地無多
烟光渺渺江同盡　帆影悠悠鳥共過
酒進中泠坐磐石　醉看龍窟舞黿鼉

遊金山

胡經

東南形勝金山寺　三月登臨逸興新
隔水帆檣分楚越　倚天樓閣下星辰

氣吞湘漢浮雙堮　波吐乾坤蕩六塵
憂樂未忘江海夢　一亭風日百年身

登金山

邵寶

世間誰信有瀛洲　奇觀江南第一州
龍窟不知何事露　星槎向幾時浮
石分砥柱還孤注　水入滄溟正急流
更上留雲窮望眼　海風吹浪晚颼颼

遊金山

劉節

江中之山霄漢侵　衝流突起孤根深
波浮蒼玉來大地　氣壓狂瀾回古今
西接疑分灩澦出　東立恍見扶桑沉
遊人鼓檝秋未老　四望風烟空遠心

金山

李廷相

突兀中流俯一隅　勢尊常受山趨
江清日照黿鼉窟　雲霽天開樓閣圖
名勝地當南北會　登臨人憶古今俱
秋風萬里蘼蕪老　恨不開樽坐夕晡

登金山

袁經

南來佳境說金山　山在長江巨浸間
地湧雲根擎寶剎　天開圖畫隔塵寰
逢僧且了三生話　覽古能消半日閑
身世直疑蓬島上　夕陽西下尚忘還

遊金山

馮允中

星峰八面揖群山　勢截中流蕩涌間
龍避孤根移窟宅　鰲浮元氣奠區寰
臺高雲與蓬瀛接　寺遠僧便歲月閑
欲汲中泠乘興去　王程無暇且言還

登金山

劉澄甫

淮海維揚汙漫遊　烏紗皂蓋俯清流
溟溟雨落蛟龍出　渺渺雲開殿閣浮
濯足喜從千仞下　采芝閑上碧峰頭
買舟何日三山側　欲借烟蘿老一丘

再登金山

陳達

不到茲山又六年　舉頭四顧轉茫然
恍疑樓閣九天迥　仰視旛幢五色鮮

北道喜逢新邑主　中泠還酌舊時泉
酒闌歌罷餘孤興　江上何人為扣舷

遊金山

王木

使舟才泊潤江頭　咫尺名山負此遊
塇影巃嵸雙柱聳　水心平濶二螺浮
孤舟簸浪横輕葉　飛棟穿雲見小樓
欲駕長虬收絕景　海門東下瀛洲

登金山

顧潛

江山如許發清豪　此日何緣上妙高
樓閣連雲疑蜃氣　帆檣破浪一鴻毛
曾無坡老新圍帶　欲借并州快剪刀
香茗淹留移白日　明時佳境幸相遭

遊金山

王濟

乾坤好景知多地　山出江心此更奇
水勢西來源有委　海門東望渺無涯
路通絕頂攀嫌峻　舟急中流渡恨遲
探壑倚岩看舊蹟　好題都是古人遺

登金山

王瓚

浮山高地亦靈　中流屹立滄溟
渡頭雨過蒲帆濕　洞口龍歸草石腥
萬里青冥開眼界　千年形勝壓圖經
却憐未極登臨興　更上峰尖一小亭

遊金山

十嶠

突兀中流獨擅雄　好支開鑿自鴻濛
關嚴海岳留天險　勢壓波濤運化工
戲暖魚龍吹驟雨　盤雲鸞鶴下剛風
虹橋直跨滄溟水　方丈蓬瀛咫尺東

甲申北上登金山兼謝邃翁(七言排律)

白悅

金風動地接皇州　振服高岑試壯遊
楚漢洪濤收萬里　乾坤奇觀屬中洲
鯨波曉映牙檣麗　蜃霧春從貝闕浮
晴拂靈花明寶檻　靜疑蘭楫渡丹丘
巖亭揮手珠泉冷　錫杖談心虎磴幽
獨立混茫砥柱　待教移向鳳池頭

金山漫興(六言詩)

暮鼓晨鐘梵剎　白沙翠竹江村
山色平分北固　水烟近接京門

漁笛吹寒夜月　海鷄啼上朝暾
衣振風生碧落　酒酣足踏崑崙

登金山(七言絕)

魏淡

披雲遠上妙高臺　香繞楞伽室半開
舉目九重天日近　恍然身世在蓬萊

題金山

莫槩

金山屹立大江心　四面波光映梵林
縱目吟懷塵世遠　坐觀烏兎日升沉

遊金山

下榮

偶為吞海亭中客　海入秋杯飲十分
可惜一亭當絕頂　不能留客只留雲

贈濟上人一絕

王綎

梵王宮殿峭峰開　江繞根盤西極來
出定禪師還入定　不知人世幾輪迴

登北固山奉別鶴皐介堂二公

薛甲

金山焦山風色微　來帆去帆如鳥飛
青青蘆葉照江渚　送盡南行與北歸

登金山有作

劉欽順

此間定識釣翁遊　偏得蒼龍出一頭
飽吸乾坤江海水　化為砥柱立中流

絕頂遠眺贈湯沂東總戎

孫陞

凌虛忽送空塵目　萬樹千帆杳靄間
只願長江風色好　將軍載酒日登山

題淨談上人卷

柴奇

淨談已解談中訣　淨處工夫更若何
木落江空塵不起　月明風細水無波

登金山

葉盛

黃門繡豸白雲司　同閱江山一段奇
我媿才非蘇禮部　不留玉帶只留詩

題金山圖

祝允明

昔年曾趁海門潮　獨向龍宮弔寂寥
襯席寒風不成夢　老蛟一夜獻瓊瑤

金山

何遷

中泠東斷大江流　一片孤峰兩岸秋
日暮鐘聲何處落　山光海氣滿扁舟

登金山

陳鶴

瓜洲霜落鴈初飛　鐵甕城寒樹漸稀
南國興亡空悵望　金山殘月夜潮歸

贈金山寺半江和尚王問

絳殿朱樓映海圖　鯨波千頃鷲峰孤
夜深月轉維摩室　一點禪心貯玉壺

金山

汪道昆

怪秘陰靈與護持　重丹複碧煥參差
滄江見底應無日　萬丈孤根世不知

送閔壽卿遊金山

沈[樊-大+心]學

金山堪作采遊　坐俯澄江靜不流
伴爾孤吟江月白　清光遙映謝公樓

太虛上人請大藏于朝慈聖賜紫衣護送之南歸賦此為別

焦竑

兩度簾前賜紫衣　談邊玉屑倍光輝
皇恩已許無拘繫　一任凌雲錫杖飛

太虛上人玉京造藏歸贈

全元立

蓮花法藏大江開　絕勝馱經白馬廻

長信慈雲萬年護　朝朝龍女獻珠來

夏日同王元美憲使登金山

鄔佐卿

半空樓閣倚江開　鐘送潮聲落酒杯
憲節直從天上至　獨携雲色一登臺

其二

午樹陰陰照鶡冠　一罇山色對憑闌
火雲倒射江濤沸　雪擁青螺白日寒

妙高臺戲柬果公

孤踪瀟灑離人群　海汐林鐘夜夜聞
自笑此身無住着　妙高峰頂伴閒雲

贈味泉上人

陸節

邂逅叅禪悟禪　塵緣謝却仙緣
禪心萬物都無味　惟有江心第一泉

寓金山藏殿

孔承寵

江寒木落孤嶼寂　古殿殘燈照石壁
中有幽人尚未眠　朔風吹雨空堦滴

寓浮玉庭中一杏盛開

孤嶼懸江夜雨鳴　不知門外已春晴
誰道杏花開滿屋　曉來一樹亂啼鶯

寓浮玉後君邀集平江閣

一卧滄江二十秋　市城雖近不曾遊
春風昨夜吹新酒　來醉龍湖明月樓

卧江天閣聽李善甫吹笛

前人

玉笛秋清弄晚濤　一聲風斷碧天高
莫教吹落關山月　孤閣江寒夜寂寥

送閔壽卿遊金山

吳運嘉

中流孤寺鎖秋雲　破浪來登喜遇君
趺坐小窗看落照　不堪回首又離群

前題

梅鼎祚

送爾聊為汗漫遊　白雲無際大江流
鏡中一點金山小　蜃氣吹成十二樓

冬夜宿太虛上人紫衣閣却贈

章詔

寒江萬里撼風濤　滿目蛾眉雪未消
獨有中宮賜衣處　一樓春色紫雲高

金山竹枝詞

蔣錫疇

日落江風水氣腥　打魚船過浪冥冥
一聲譟子菰蒲晚　無數秋山天外青

其二

賣菜船從京口來　如常一日兩三回
今朝見說風波惡　歇定銀山不敢開

贈味泉上人

陳策

味淡始知泉水好　味泉無過此中泠

一涓一滴清如許　此是源頭第一乘

登金山

湯沐

登臨不負十年期　更喜交遊會有時
休得乘風便歸去　不留玉帶且留詩

金山阻雪與若氷法師

談允謙

群峰隔岸屏如玉　絕島風濤怒未回
游客雲寒借僧衲　欲沽山下少帆開

金山城成

金鰲樓閣戍旗紅　鼓角聲高向晚風
漫道過江為隔世　誰知今復落城中

訪鐵舟和尚時輯山志

不畏風濤隔江住　開堂直在翠巖隈
山無半畝堪畊地　雲水終朝千百來

其二

碧波深處冷禪扉　浸透江雲舊衲衣
師在山中葺烟寺　不教傍岸築漁磯

其三

刪得禪乘并古詩　示予三卷墨淋漓
山中左史唯師在　摩徧蒼厓讀蘚碑

金山龍游禪寺志畧

金壇綏菴居士蔣超較正

嗣祖比丘鐵舟行海修輯

楚潭叅學門人超智編次

大徹堂訪若氷禪丈用東坡妙高臺寄佛印韻

（五言古）

清胡世安

我昔登峨嵋　寄懷騎羊子
攀蘿攬白雲　窈曲不計里
積雪澣塵襟　松濤清市耳
今我陟金山　歷磴頻坐起
四顧碧浸天　孤嶼自中砥
冷泉敞閣櫺　寒光生淨几
中有禪棲人　蓮舌金剛齒
跏趺妙高峰　朝夕中泠水
拈句不離　入境融非是
有如月魄明　旋生不可死

偈呈鐵舟老禪師

杜涑

金山砥大江　歷刦作宰
無闡復無遮　滔滔至東海
德雲與了元　面目自常在
誰除有漏瓶　來着無生鎧
龍蛇盈鉢中　大徹寧須待
汲得第一泉　吾師乃嘗乃

過金山

張惣

孤嶼橫中流　參差列精舍
上有妙高峰　水雲結冬夏
經年屢行行　登陟了未暇
眷言托伊人　逸興遙相迓
杳杳暮烟生　漫漫遂東下
吳楚空波瀾　此情渺難謝
騁望窮溯洄　極目不能罷
造物秘靈文　徘徊惜清夜

登金山步唐韻(五言律)

洪承疇

寺向金山砥　流從鰲柱分
塔光冲斗極　石浪動星雲
檣櫓飛天墅　鐸鈴靜夜聞
中泠試一酌　可以解塵醺

孫承恩

一到金山寺　蒼茫四望開
客帆迎日去　烟樹接天來
幽壑魚龍偃　深秋鴈鶩哀
題詩不盡興　更上妙高臺

登金山

趙有成

一山浮水面　不與峰群
潮滿江淮合　沙連吳楚分
魚龍宵鼓浪　草木晝含雲
勝地增堅壘　烽煙暗夕曛

金山純陽閣

吳惟華

山以金為號　丹砂一粒開
松濤寒日響　竹浪晚風催
不入黃龍定　寧騎白鶴來
長生終有劫　再上一重臺

題晉玉閣

王仕稹

夢想金山寺　迢遙近十年
遠遊思素侶　佳興阻通川
六代人何往　三山事杳然
臨流一揮手　悵絕渡江船

其二

縹緲凌雲地　三山望不遙
鶯花環北固　雲水錯金焦
一抹海門樹　平分瓜步潮
妙高臺上月　今夜夢相招

次前韻

劉梁嵩

重過金山寺　曾遊記昔年
登臨餘勝蹟　時序閱晴川
去水終何極　高臺自巋然
浪花催日夜　今古渡頭船

其二

水驛隣京口　頻年一葦遙
風塵誰去住　指顧媿金焦
偶載僧歸夜　來聽江上潮
浮生酬夙昔　深得遠公招

金山

杜首昌

默坐如杯渡　輕身共鳥飛
蜃高隨日上　龍濕帶雲歸

天地有心怪　江山用意微
岷流千萬里　供我一開扉

慈雲閣作

登此登仙　慈雲繞佛前
萬山爭拔地　一水亂吞天
眼濶乾坤小　窗虛圖畫全
去年如昨日　風景只依然

宿山中夜雨

張惣

長江清入夜　閣臥雨風聞
下界應生浪　懸崖定結雲
氣寒知地迥　潮動覺天分
所幸臨空濶　遙從鷗鷺群

聽潮

日坐最高層　聽潮得未曾
雪翻驚寺湧　雷激訝崖崩
樹語難分鳥　鐘鳴不辨僧
怒濤聞徹夜　漁火亂疎燈

別金山

屢負金山約　相思今始酬
狂風三日住　薄霽幾廻游

客過每臨鏡　僧居宛在舟
臨岐猶有恨　明月未當頭

登妙高臺

蔣燿

層臺波面起　半壁敞巖扉
寶鬘經千葉　澄江練一圍
僧厨過午寂　漁艇趁潮歸
坐到忘言處　鐘聲出翠微

坐慈雲閣

高樓臨絕巘　小榻對江眠
直下千尋瀑　都忘六月天
潮聲喧枕上　帆影過窗前
梵唄松稍起　披襟意灑然

庚子秋宿山翌日留別之作(七言律)

蔣超

寶陀華月靜紛綸　僧共龍眠一谷雲
難後轉憐風浪穩　愁來莫遣夜摩聞
疎林暑退衣增秩　傑閣煙廻茗策勳
莽客到山悲信宿　壞船乘雨霎時分

壬寅再訪鐵翁大和尚

繖紋春浪一帆輕　到岸新看馬面平
剩有鴻嚎沙渚急　不堪龍臥鼓鼙驚
瓶香自滴曹溪遠　錫冷常懷鷲嶺橫
香火南華頻負約　重來收拾愧深情

韓蘄王廟

李楷

忠武祠堂白晝閒　江流東去淚潺湲
清凉自合棲初地　戰伐今誰念故山
望裏秋濤寒雨入　煙中老樹暮禽還
信公魏勝如同駕　應見驂虬到水間

查士標

蘄王往烈不堪思　寂寞空存異代祠
抗疏當年猶有恨　論功此地竟何知
比鄰長伴叅軍墓　並峙還留處士碑
千古神遊應共嘯　一抔無處說興衰

登妙高臺

趙吉士

雲盤曲徑上荒臺　六代繁華安在哉
可是化城空結就　將無靈鷲遠飛來
長江煙靜青螺湧　匝岸波澄碧鑑開
縱望海風吹落日　翻疑清夢到蓬萊

飲泳思堂

秋入滄江僧舍分　二洲遙接海門雲
樓通帝座諸天近　風遞漁歌隔水聞
石隱莫招焦處士　沉埋空弔郭叅軍
一尊呼嘯流湍咽　山對清人亦樂羣

夜泊金山登峰頂

張飜

孤舟此夜金山住　與客重登最上頭
一抹遠烟生隔岸　半輪涼月照高秋
星星漁火明還滅　寂寂江聲澹不流
莫更倚欄吹玉笛　老龍時出寺前游

奉祝鐵舟老和尚

羅為[廖-(彰-章)+貝]

年華七衮鬓初斑　猊座孤懸錯繡間
深窟蛟龍安地軸　高蹲虎豹守天關
衲衣斜綰三洲水　警錫平分兩界山
未許北焦稱伯仲　妙高峰頂幾能攀

戊午初秋訪金山鐵翁和尚

閻洞

秋光面面碧波澄　放艇來叅最上乘
入定幾曾驚過櫓　拈花何必盡傳燈
千江印月心常在　一葉隨風住未能
半偈久持緣不斷　好從壁上坐枯藤

其二

寒江五夜落松風　清磬微微出梵宮
梅子熟時花爛熳　木樨香發雨空濛
生天可許先靈運　結社還來問遠公
大海蒼茫東去水　不堪飄泊任孤篷

冬杪日奉祝鐵公大和尚

朱祜

七十年來老凍膿　終朝呵佛又窮冬
椒盤是處營新供　玉帶因緣舉舊踪
已向無生開面目　何煩此日逞機鋒
珍重曉堂撾毒鼓　金山脚底舞潛龍

金山西來閣予十一齡時，隨先大人來遊，丙辰仲夏再至其地，相去二十有六載矣，今昔之感愴然于懷偶作，示大願斌如慧舟諸禪丈

蔣燿

江閣斜開雉堞邊　虛窗晴日枕山烟
浮漚影裏三千界　彈指聲中二十年
綵服趨庭寧再得　碧紗籠句尚依然
重來滿眼悲搖落　惟見青峰插遠天

金山鐵舟海禪師行繇

師陞座良久驀豎如意云還見麼復擊香案云還聞麼然聞見分明復何可說倘不情存聞見自然面目現在若論大事因緣任歷千生百劫從來本自現成如碧天杲日毫無雲翳似月映寒潭清波有路利根上智者一點水墨便可成龍脫或纖疑不淨被所知而為障礙未免將黑豆子換卻諸仁者眼睛若是英靈衲子須照顧眉毛始得遂放下如意云大抵一回淪替定受千辛萬苦非夙有願輪豈能達此不退之地哉山僧生緣徽郡歙之黃山原與義興丹徒總是一宗因始祖莘公遷通德鄉豐樂里雙溪社管係鍾山子文公蔣玉之苗裔也父名文煥母謝氏素性樂善晚求添嗣於山之硃砂庵告香至敬忽於是夜父夢金神手抱一兒于竈上遞兒與父父接以雙手喜不自勝尋驚覺以所夢語母如上所言母曰奇哉如我之夢無二無別至萬曆己酉十二月二十九日午時誕生雖在襁褓神情安靜寡於言笑父嘗喜謂母曰此兒吾家跨竈子也宜加保惜不幸三歲失恃父出經商寄托兄嫂抱父母之思不幾漸染成疾形色庀羸長兄憐之携往山口忠靈堂祈齡保福得瞻像好樂意忘歸時方五歲兄亦送寺僧供給每在於佛前瞻禮趺坐端凝或合掌歌詠或緩步經行主僧見而驚訝語曰此子不凡大有夙因未可輕視也幸身病漸愈至八歲父念時當養蒙專人輿出南都隨命讀書年漸長大每於世典不生欣樂惟見佛經遂肯究心嘗聞梵唄心更喜躍至十五世緣漸深汩沒塵世常自警策不期舊疾舉發幾希不祿至十八歲有性命之憂與日俱積凡聞有道之士躬行叅謁勞山袁氏字冲衢者授以坐功朝夕修持微有效驗於是喜閱道書日夜批讀因見上陽子有詩云涕唾精津氣血腋七般靈物總皆陰若將此物為丹種爭得飛昇上玉京頓起疑情私計曰世人所求長生者不過為此身也皆陰物畢竟以何為丹本乎遂七日夜不寢專心銳志叅實究至第八日正困極處中夜展衾忽然開發頓明已事自云原來原來說偈曰

儀容動靜是何人　豈關氣質號全
七般膿血成何用　休執從前夢幻身
此時已知有本分　一着雖因邪打正
不遇明師終不能　透脫因循恍惚動

輒數年後於家庭之間冷眼自看甚生感慨乃擬漁父詞云幸處家庭曾露布妻孥聚首相歡處蝴蝶夢中仍栩栩休戀取冷眼覷破空今古愛慾牽纏宜暗覩知機始解玄沙虎莫逐浮生同浪侮沉吟語好筵難再終歸土諸仁者可見做工夫定要死心勇猛精進莫似學語之流隔靴抓癢何曾得快活處山僧此時若逢明眼尊宿深加煆煉不費程途自有出身活路其奈所遇者皆杜撰長老依稀越國彷彿揚州打入葛藤窠裏不知不覺墮坑落塹誠所謂依他作解塞自悟門一般說也會說拈也會拈機鋒轉語亦不讓人爭奈胸中礙膺終不能釋先父見山僧終日好道以善言勸曰吾兒汝曾

見中外幾人成佛幾人作祖切莫愚執以負吾望汝光大門戶一片殷殷之心也山僧雖領庭訓其實孳孳不捨叅學且先父亦有夙因年至七十在下關二兄船上坐譚之間翛然長逝遂有風木之悲勉進人子喪祭之禮然一種絕塵志向如山不動且切矣乃扶柩於牛首吳山路遠夜行露冷月凉荒居野處坐想此事明明歷歷且如父死歸於何處柩竟往矣前後失伴覺如夢中其實非夢聞林中有人密語某禪師在此入定吾輩不得撓之忽然驚醒時已半夜四顧無人且驚且疑雖是鬼神警策俗緣未畢不得脫白聞得博山和尚應天界請特去叅謁蒙尚垂問善友在家所作何事進云不是穿衣便是喫飯尚云去此二途合作麼生進云嘗聞一飽忘百饑今日學人身便是尚云一火燒卻又且如何山僧擬進語尚打一掌云弄虛漢出去正抓着山僧癢處次日懷香進方丈告以實情尚云善友要為生死心切不可學語如今學者熟讀公案以資譚柄閣羅老子豈怕多語乎山僧請問如何用心尚云汝如是當拋去從前惡知惡見但看一口氣不來主人公在甚麼處安身立命又拶着山僧癢處再拜而出從此復做工夫惟此心了了理路明明疑情發不起一任聰明卜度决不能打脫坐定見識始投金陵天隆德安老律師名下蘗香和尚芟染方就大報恩寺三昧和尚圓具次謁五峯和尚尚問那裏來進云久仰和尚如何來處也不知尚云不得亂統進云情知和尚有此一機尚便打山僧接住云奪打和尚莫言不道尚云這鈍漢復打山僧便喝一以為機緣相契細審當初一味鹵莽謁寶華朝和尚尚云到此做甚麼進云特來親近尚云生受遠涉進云乞師一接尚云還要第二杓那進云恁麼則禮拜去也尚下牀扭住云速道速道山僧便喝尚云這一喝無主在便打一日在堂趺坐至午夜人境皆寂身心安泰遂得一夢自乘順風船揚帆疾走忽然仰首見浩浩水中屹立一山樓臺殿閣金碧交輝便問左右曰此是何處從來未見左右不答忽爾驚覺聞樓頭已四皷矣乃知是夢常思夢景在於何所意中懷想後自瓜洲渡江一見金山恍應昔夢想是有夙因在此耳曾叅天童密老和尚便問從上宗乘還許學人着一問否尚云說底進云鷂子過新羅尚云盌脫丘山僧方進語連棒打出被此一頓始知學解無用因見太白峯高坡事繁難恐發舊疾不告而行遍歷叢席相應者住否者去遊罷兩浙道經靈峯聞先和尚名入瞻禮客在座不及問話林泉疎畧人境荒凉復取道還金陵過溧水縣憩平安山禁足一年叅林皐和尚尚問發足那裏進云南京尚云正要討個京中信進云不敢妄通消息尚云想是不從京裏來山僧便喝尚云大好不通消息便打山僧與竹林有緣放下一住三載為拮据募齋瀨上請為客司同兩序弟兄至武林理安寺請南澗和尚為林皐和尚入塔整頓叢林先和尚初至陞座山僧出問靈峯曾一見夾嶺又重逢的的一機如何舉唱尚云站過一邊進云七瞻依人天欽仰尚云且莫詐明頭山僧便喝尚便打偶侍立次尚云你日用事作麼生進云直下無疑尚云好個無疑丟在無事甲裏進云惟臨機稍滯尚云堪作甚麼山僧纔禮拜尚已入方丈此處不能領旨一日陞座出問猿抱子歸青嶂裏鳥

銜花落碧巖前請問是人是境尚云好個消息進云白鷺下田千點雪黃鸝上樹一枝花是境是人尚便喝進云人境已蒙親指示格外一句作麼生尚云風前滴淚斬丁公山僧喝一喝拂袖便出雖則機用如此不敢自欺終放不下尚一日命頌臨濟大師初住河北普化克符成褫機緣山僧呈頌二首

一段神峯具要玄　接人真處自森嚴
而今報告叅承者　白棒臨頭莫惘然

又

覿面全機用處奇　當家種草自相宜
三三兩兩來伸探　濟北宗風從此施

尚閱而頷之隨示偈云

同條生不同條死　觸着臨機不見師
過犯彌天休負堕　到頭此意許誰知

又

若是知音不用疑　森森家法整全規
總饒透得牢關者　要識棒從何處來

山僧禮拜受之

先和尚受金山請山僧率溧水馬寅公居士設齋請上堂出問獅子窟中無異獸象王行處絕狐踪如何是獅子窟中意旨尚云風凜凜地進云如何是象王行處機宜尚云驀直去進云賓主相逢如何接見尚云放汝三十棒山僧以坐具一搥云恁麼則放學人弄爪牙去也尚云大看取這員戰將解制日命山僧監院事山僧懇辭再四尚云喜汝實履踐才德兼全義不可却山僧見諸兄弟偷行者放行告假者告假因動名山祖席之思不忍棄去且與前夢符合黽勉拜命大名山祖席艱難處始見願力而今弟兄們只圖現成良可太息先和尚應磬山請因金山兩序以書請結冬尚以書辭山僧此時見處雖有胸懷凝滯不得灑樂亦奉書告假蒙尚以書付云為法致身此向上人趨操也如疑此外更有他事則日用誰為之主一刀兩段挺直自任楊岐血脉不至斷絕內外一如心行調直不落始終不堕邊見吾深為監寺望之矣大徹祖庭不類別處可已則已總然抛撇行盡閻浮恐不出祖庭一步錢穀瑣屑有此願力自有此福利不必躊躇過慮也冬期望同首座以安為心囑囑首座千仞兄山僧反覆踈讀謹遵師命而機宜稍順想亦夙因

所至己丑春進磬山省覲蒙和尚特陞座小叅法語畧云海上座昨自金山來憶上座隨侍山僧剛及二年在竹林作知客在金山領院事你知我見綽綽有餘此番特來省覲莫疑山僧更有說不了底佛法麼你見我歡喜我見你喜歡道出常情句明明不汝瞞因風吹火用力不多珍重是時乃截流兄作記錄以此法語錄送山僧次日進方丈侍立尚問云你試道一句看進云父坐子立尚云如賓主相見如何酬酢山僧禮拜立尚云你是透得禮拜透不得禮拜進云是甚麼所在說恁麼語話尚云如德山棒臨濟喝又明甚麼邊事山僧擬進語尚以茶鍾一擊粉碎是時山僧胸中寶惜一時氷釋遂悟從上以來大機大用不覺通身汗下如雨衝口說偈云

一擊百雜碎　吹毛全體施
過蒙提及處　大用在臨時
親見吾師旨　縱橫任卷舒
報恩應有日　塵劫豈能移

寫呈和尚尚見而笑曰始信吾從來不欺汝也是夜集兩序以偈付之命還金山偈云

大鵬劈海取龍吞　擊碎當陽透頂門
未展手時機已露　到迴旋處用方親
卷舒有準憑時節　逆順須存奉剎塵
個是報恩親切句　一瓶香茗送君行

更囑以重起祖堂並安列祖位等事山僧見和尚法乳情深俛仰而受回金山始覺方好操詣至庚寅夏山僧承總曹吳實宰並金豈凡相國二護法書請先和尚應淮上請尚雖允行沿途猶加罵詈彼時猶不知尚之用處可見師家提挈非在一處期畢還山告假辭監寺職尚固執不允山僧力辭以便親近尚云汝果如是乃菩薩中人也遂與議請梅生杲兄因杲兄應漏澤請不果此舉山僧後寓河梁復閱五燈見黃龍南與慈明機緣始知和尚用處乃藥現前是年蒙和尚召至竹林送單侍寮自此後往往臨機不讓和尚亦壁立萬仞偶因舊疾舉發告假尚怒發雷霆鉗錘更甚一日命天笠兄召至一佛居尚端坐叱退左右謂山僧曰屏却咽喉唇吻時如何進云窗外竹風清尚云切莫亂道進云和尚還屏却也未尚云至如玄沙道諦當甚諦當敢保老兄未徹在那裏是他未徹處進云精金不怕火尚云這是甚麼說話進云惜取兩莖眉尚云香巖上樹話汝作麼生會山僧以手拍門扇三下尚云神仙妙訣父子不傳進云和尚漏逗不少尚微笑歸方丈復專侍者請進丈室云山僧與汝商量你進磬山安汝首座我結制汝則率我出山汝不須動老僧自有安頓山僧私忖磬山係先老爺道場且身有舊疾不能往返

坡事故堅辭不敢擔荷亦是山僧福薄處也因舉密傳能兄代之是年臘月三十日夜闔寺僧皆去喫茶閒話尚惟據室中命頌百丈野狐立刻便要山僧呈頌云

獅子遊行本自由　何關落昧為拘礙
有人問我解何宗　拳倒虛空七八塊
阿呵呵　哩哩囉
任是臘月三十日　何用婆心更琢磨

尚看了拈筆直抹却瞠目視之進云不勞再勘尚云見個甚麼山僧便喝尚云一味胡喝山僧云今日捉敗老漢尚云好與一頓山僧云恩大難酬便禮拜尚便打山僧再拜而出次年辛卯春解制室中賜如意一柄祖衣一領云是我一生用不盡今日付汝善自護持不得輕易舉示與人遂命往焦山別峯菴養病和尚過江北山僧在菴月餘有慈雲大德接住五岐山千峯精舍度夏至七月十七日遂有江寧李香巖護法天隆之命癸巳六月二十五日金山耆德賁陳蔬亭護法書念先和尚重興祖席恐至荒凉遂勉應之然而住院領始終遵先和尚命以法門為重凝然靜處不輕舉妄動此是山僧十數年實行毫無欺語可謂鈍根極矣這等說話不是好昧心粧點的不是好自誇逞俊的可以鑑諸佛祖質諸鬼神實實透過向上關將前從門頭戶底一串穿來方敢擔荷法門之任嗟乎山僧住金山十餘年來入泥入水厨無隔宿竈絕炊薪土面灰頭隨緣節儉學徒人力去而復來來而又去惟自己站定脚跟受盡千波萬浪為扶竪圜悟勤祖道場以完先師遺命偶因常住缺糧往州托鉢道過邡關華藏菴遇綠林豪士刀斧圍繞山僧高聲云要殺便殺少你還你我是道人可殺不可辱此乃安受苦忍羣盜相視悚然云可謂不怕死的和尚遂散去子仲主人得免此難其金山遇四番兵燹徹夜親炙此乃觀察法忍安然不動從容慰恪守清規施以無畏幸龍天呵護遇難成祥一山得以瓦全又不比綠林豪士之險也戊戌年係山僧五旬初度承本郡笪再新張公選蔣虎臣諸護法以書命山僧開堂又承諸山法兄和尚光降闔山耆德推出人前雖欲不為莫由已也因而瓣香拈出以報先和尚處處不肯放過末後提擊之恩至癸卯十二月二十三日應五峯山紹隆禪寺請雖不多其中卻有實抱道者茲緣首座暉公率兩序弟兄進方丈啟請求說行繇此係山僧最不肖的樣子這段因繇自覺慙惶豈堪舉示因諸弟兄慇勤禮請不容緘默露布一上但切不得學山僧個般行履須是別行一路始得何故擘他人行處我不行始是丈夫有骨性設或有性燥的衲僧將山僧這些葛藤直上岡山頂上獅子崖前撒向長江大海不為分外豈不聞見過於師方堪傳受見與師齊減師半德復竪如意云還見麼又擊香案云還聞麼果然聞見分明又何必打只許多之遶其或仍前向語默裏取次恰是駕與青龍不善騎也且不要問諸人照顧眉毛敢問山僧眉毛還在

麼復舉如意云先和尚一生用不盡的今日總在山僧手裏可謂住阿惟越致逆境順緣安心奉塵剎也久立慈伏惟珍重

金山江天寺鐵舟海和尚塔銘

宋曹

予老矣偶為浪遊憩金山法乳和尚謂予曰別公二十餘年矣先師鐵舟老和尚駐金山三十年鼎建鉅功事同開創公悉聞之有塔銘刻文藉公不朽石已具與公同鄉敢請予遜謝又請予曰皆所以開導有情闡明正覺茲以老和尚之功用莊嚴遷化殊特烏可不標舉大昭示來茲效奉揚於萬一乎師諱行海號鐵舟南澗箬庵老和尚嗣法弟子也俗姓蔣氏為新安巨族父有善行祈嗣于黃山之硃砂庵夢金神從竈上以兒舁之明神宗己酉年十二月小除日師降生三歲失恃父出經商依兄嫂刻刻念父母不置厄羸成疾兄憐之攜往忠靈院祈祐師見像教端嚴欣然忘返兄命其僦食院中師嘗於琉璃佛火之前瞻禮經行儼若老衲主僧訝之八歲疾愈父挈之詣金陵授以帖括業師聰慧絕倫凡經籍無不該覽然而非所願也偶閱釋典及聞梵唄聲猛然心動年十七舊疾復舉幾不測自念本分一著從此厭世妙契本心向上一念如矢赴的未幾父歿扶櫬由牛首夜行冷月淒風途間假寐聞林中神語某禪師入定在此我輩當拱伺左右毋撓之及醒四顧寂寥山籟俱泯營葬畢奮然立志遍叩名藍愈加策勵每日結跏澄坐不知有飢渴寒暑機用彰明業益精進必就諸方尊宿往返扣擊又以宗旨未透晝夜服勞苦參力究十有餘載時博山和尚駐錫天界寺師慕其道眼朗徹懷瓣香特求汲引交融水月言下有省遂投德蕊香和尚薙染就報恩三昧和尚圖具次謁五峯寶華及天童密老和尚皆於最上宗乘參實學放眼虛空都無窒礙一日定中乘巨舟揚帆疾行於煙波浩淼中一山屹立殿閣參差雲樹縹緲聳然天際迨出定知是夢境嗣從潤州渡江覩金山恍如昔夢因緣夙定亦非偶然自是往靈峯特謁箬老和尚客次未及叩問遂參林皋和尚住竹林三年躬詣南澗敦迎箬老和尚所謂靈峯曾一見夾嶺又重逢機緣載語錄中此後大用現前當機不讓是歲老和尚赴金山師隨往解制日命監院事辭不可且與前夢符合黽勉惟命老和尚復歸磬山江心祖席屬師攝之繼授衣拂顧金山當省會之衝緇素雲集曾無祇園布地之術咬定菜根隨緣節儉一切廢墜靡不修舉但祖室板蕩法座虛存師乃披荊棘闢砂礫次第布置宿錯星羅正脈頓興學侶奔赴鐘鼓一震響徹江心自有靈山以來興建稱絕盛矣壬辰應江寧天隆之請癸巳還山常住日窘託鉢邦關寓華藏庵賊至刀斧環集師曰我世外人可殺不可辱賊遯去金山屢遘風鶴之警皆以法忍持之僧眾賴以無恐蓋由其一誠所孚內靜外忘故異患莫得而侵之癸卯春住五峯紹隆明年過維揚設齋僧館遍給雲水復

還曉堂歲丙辰赴河阜三昧之請乘願東行入方丈日萬指環繞頓使海濱斥鹵之鄉盡聞妙諦大振宗風繼又還山前後住山數十年嘗曰佛法自馬祖以後大慧以前大機大用極變化於莫測萬別千差超情離見總不落三乘窠臼者實難其人當正法陵夷邪魔互熾得一人焉特提宗旨壁立萬仞俾依聲附影之徒斂跡卻避其有功佛祖為何如哉若師者智慧淵深風規峻肅機鋒捷出迅疾如神箭鋒相拄間不容髮非樹大法幢施大鉗錘不足以聳動山靈攝伏萬若不能抱逸格之禪無有敢闖其門者師因道臘漸高切念祖庭預以院事付弟子超樂領攝無何膺疾伏枕癸亥四月二十五日呼諸弟子曰法門擔子須要辦取實心護持大道俾心源一滴永遠流通方為當家種草歿後若請諸方封龕又向須彌安鼻孔乎秖移龕至法堂三七日荼毘至五月三日子時命浴趺坐說偈云

七十五年　空花水月
末後全提　虛空迸裂

一喝而逝正襟危坐面色如生三七付火舍利如珠金剛正眼斯為明驗遠近法子扶龕入金山師於此山拓開法窟惠澤獨深堅請靈蛻留山建塔遺命營窣堵于五峯山紹隆寺之西北隅嗚呼師以夙植上根屢徵異夢故于靈山付屬朗朗分明雖操持嚴峻而虛已接人誘掖不倦當代宰官如金相國吳漕督蔣太史虎臣張銓部公選笪侍御在辛杜兵憲子濂諸公莫不景仰皈依互相酬答如玉帶山故事一時傳法高流徧滿南北今上召見之香林淨公師之嫡子也著述有心經說通一卷語錄若干卷并金山志行世宗門統要若干卷未梓銘曰

維師降生　金神顯應
天界上根　胸羅慧鏡
三歲陟屺　誰遣病魔
僦食聽禪　朗誦高哦
秣陵至止　曷勝惆悵
佛我心　乃參無相
帖括何補　遍歷名藍
茫茫宗旨　錘鍊心肝
扶櫬歸來　爰及江滸
神語林中　禪伏虎
鐙傳南澗　化洽金山
天隆揭日　鐵甕迴瀾
大振宗風　法幢高竪
正脈流通　信施駢至

優曇應瑞　來作法槎
大啟城闍　靈轉心葩
偉德豐功　祥臨勝地
徹骨松寒　苦心月霽
敷揚法藏　締搆開天
一念澄徹　如中泠泉
去住不著　龍湫噴薄
當前畢現　豎義嶽嶽
爰闢虛閣　載創飛楹
建立龍拱　丹艧霞蒸
棒駭金剛　喝通天籟
建瓴懸河　辯才無礙
抉佛心髓　金斷石穿
道敵生死　學無中邊
如龍起潭　任蛇燒面
萬指躋蹌　神以夢現
宰執聆法　香花滿空
泊然滅度　大智玲瓏
擇日荼毘　舍利如雨
夜夜晨鐘　潮來日起
永昭靈塔　自在行歌
悠悠千載　曠劫不磨

右金山志略四卷三百二十一葉鐵舟海禪師所撰成於清熙二十年距今二百五十有餘載矣流傳甚少收藏家多未著錄(惟光)初入山時尚有一本存于寺中後遂不复見去年尹石公居士談及南京之國學圖館及北平圖書館各庋一本承柳翼謀館長出國學圖書館藏本印緡帑之餘計闕三十七葉复從北平圖書館鈔補二十三葉猶有十四葉則南北兩本所同闕也正搜討間柳貢禾居士訪得焦山自然庵滌心和尚亦藏有一本慨然惠而前兩本同闕之十四葉居然補得十一葉之多尚有三葉一時無從諮訪乃附白葉編入所闕之次以付景印續有見可補綴也惟書中第一卷四十二葉祖堂法系類載有鐵舟海禪師次于明問石乘禪師之後因思手輯此書之人似無取己之行事嗣入祖住之理細察板刻亦微有不侔此卷載康熙登覽金山集後顯有康熙二十三年十二月八日西堂僧明記錄募刻一條志略既成于康熙二十年有序文可證則此為明續有增入殆無疑焉鐵舟故有語錄行世前載行繇一篇又續修志中有宋曹所撰塔銘一篇均可考見其行誼並附卷後以諗學人

民國二十六年一月霜亭惟光跋于金山江天寺之楞伽丈室鶴園居士書



金山志畧校勘記

卷次	類別	頁次	行次	字次	校正
卷一	祖堂法系	十七	二十	四	下字不明
卷一	祖堂法系	二十二	十五	五	氷字不明
卷二	高僧	十二	十三	十七	當作見
卷二	彙紀	九	八	九	願當作頤
卷二	彙紀	十一	十四	三	上字不明
卷二	僧詩	九	一	二十	缺醺字
卷二	詠江唐句	二	十五	一	柬當作東
卷三	選詩	二	十六	四	聞當作間
卷三	選詩	十	一	五	兩當作雨
卷三	選詩	二十四	四	三	者當作老
卷三	選詩	四十五	八	十八	問字不明
卷四	選詩	二十四	十一	一	大字不明
卷四	選詩	三十三	一	二十	敞字不明
卷二	記異	十三	十一	十四	原缺
卷二	詠江唐句	十四頁當作七頁			

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6